

**令和元年度
市政世論調査結果報告書**

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で50回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居住意向について」「越谷市への愛着度と魅力発信について」「越谷市の伝統的手工芸品について」「市内の公共交通について」「景観（風景）について」「地域医療体制について」「健康保険が行う保健事業について」「人権全般に関する意識について」「男女共同参画について」「生涯学習活動について」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「観光農園について」「自治基本条例について」「成人式について」「広報について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様に心より御礼申し上げます。

令和元年11月

越谷市長 高橋 努

目 次

第 1 章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第 2 章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第 3 章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	17
3. 越谷市の伝統的手工芸品について	17
4. 市内の公共交通について	17
5. 景観（風景）について	17
6. 地域医療体制について	18
7. 健康保険が行う保健事業について	18
8. 人権全般に関する意識について	18
9. 男女共同参画について	19
10. 生涯学習活動について	19
1 1. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	19
1 2. 観光農園について	20
1 3. 自治基本条例について	20
1 4. 成人式について	20
1 5. 広報について	20
1 6. 越谷市の施策について	20

第4章 調査結果の詳細	21
1. 暮らしや居住意向について	23
(1) 暮らしの中で大切にしていること	23
(2) 現在の暮らし向き	25
(3) 居住意向	31
(4) 転居意向の理由	37
(5) 越谷市に住み暮らすことを勧めたいか	43
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	45
(1) 越谷市への愛着	45
(2) 愛着がある理由	47
(3) 越谷市の誇れるもの	49
3. 越谷市の伝統的手工芸品について	51
(1) 越谷市の伝統的手工芸品の認知度	51
(2) 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み	53
4. 市内の公共交通について	55
(1) 公共交通の利用有無	55
(2) 公共交通の満足度	57
5. 景観（風景）について	59
(1) 景観（風景）の満足度	59
(2) 行政に望むこと	61
6. 地域医療体制について	63
(1) 地域医療体制の認知度	63
(2) 医療機関の情報の入手方法	65
(3) 夜間や休日の急病の対応	67
7. 健康保険が行う保健事業について	69
(1) 加入保険	69
(2) 健康診査受診の有無	71
(3) 健康診査を受けない理由	73
(4) 必要と思う医療保険が行う保健事業	75
8. 人権全般に関する意識について	77
(1) 基本的人権の意識	77
(2) 人権意識の変化	79
(3) 関心のある人権問題	81
(4) 人権侵害を感じたこと	83
(5) 人権侵害を感じた内容	85

9. 男女共同参画について	87
(1) 「ことば」や「ことがら」の認知度	87
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否	91
(3) 男女共同参画社会推進のために市が力を入れること	93
(4) 女性の働き方（理想）	95
(5) 女性の働き方（現実）	97
(6) 仕事上での男女別能力差	99
10. 生涯学習について	101
(1) 生涯学習活動の経験	101
(2) 経験した生涯学習活動	103
(3) 生涯学習活動を生かしているか	105
(4) 生涯学習活動を生かしている分野	107
(5) 開催してほしい講座・教室	109
11. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	111
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	111
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	113
(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果	115
(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	117
(5) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）	119
(6) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）	121
(7) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）	123
12. 観光農園について	125
(1) 越谷市内の観光農園の利用の有無	125
(2) 越谷市内の観光農園を紹介したいか	127
(3) 越谷市が特に力を入れている農業特産物、贈りたい農業特産物	129
13. 自治基本条例について	132
(1) 「市民参加と協働のまちづくり」の認知度	132
(2) 「市民参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ	134
(3) 「越谷市自治基本条例」の認知度	136
(4) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	138
(5) 効果的な普及・啓発方法	140
14. 成人式について	142
(1) 成人式開催の是非	142
(2) 成人式開催の是非の理由	144
(3) 成人式の対象年齢についての考え	145
(4) 成人式の対象年齢についての考えの理由	147

1 5. 広報について	148
(1) 市政情報を得ているもの	148
(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの	150
(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想	152
(4) 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点	154
(5) 広報こしがや「季刊版」の感想	155
(6) 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点	157
1 6. 越谷市の施策について	158
(1) よくなってきたと感じるもの	158
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	161
(3) 自由回答	164

第5章 調査票	169
---------	-----

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (6) 調査期間：令和元年6月21日～令和元年7月5日

3. 回収状況

	票数	回収率
配布数	5,000	
回収数	2,457	49.14%
有効回収数	2,457	49.14%

4. 調査項目

調 査 項 目
(1) 基本属性（問1～問7） (2) 暮らしや居住意向について（問8～問11） (3) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問12～問13） (4) 越谷市の伝統的手工芸品について（問14～問15） (5) 市内の公共交通について（問16～問17） (6) 景観（風景）について（問18～問19） (7) 地域医療体制について（問20～問22） (8) 健康保険が行う保健事業について（問23～問26） (9) 人権全般に関する意識について（問27～問30-2） (10) 男女共同参画について（問31～問35） (11) 生涯学習活動について（問36～問37） (12) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問38～問39） (13) 観光農園について（問40～問41） (14) 自治基本条例について（問42～問44） (15) 成人式について（問45～問46） (16) 広報について（問47～問50-2） (17) 越谷市の施策について（問51～問52）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1丁目・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生愛宕町、蒲生南町、蒲生1～4丁目、蒲生西町1～2丁目、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、西方1～2丁目、相模町1～7丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、流通団地1～4丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b : 信頼度 95% の標本誤差
 N : 母集団のサイズ
 n : 有効回収数 (=2,457)
 P : サンプルの回答比率

ただし、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$

上記の式に今回の数値をあてはめると、標本誤差は下表のようになる。

回答比率(P) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±1.0%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.4%	±1.4%
2,457	±0.9%	±1.2%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±2.0%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.8%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.4%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

(小数点以下第2位を四捨五入)

7. 集計結果の有意性について

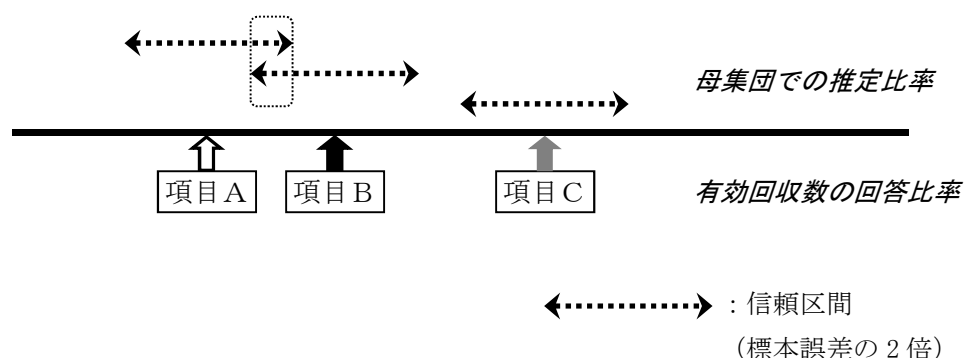
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,457票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は $\pm 2.0\%$ となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差 $\pm 2.0\%$ 分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 2.0\%$ ($= 48.0\% \sim 52.0\%$) という一定の幅を持った値（信頼区間）として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が4.0%（標本誤差の2倍）以上でなければ意味をなさない（有意性を持たない）ものとなる（下図参照）。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票そこそこの回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において $\pm 9.8\%$ となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,457票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間（今回の調査の場合は4.0%程度）未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

＜項目Bは項目Aよりも優位に高いとはいえない場合＞



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 図表中の「－」は該当者なしを表す。
- (7) 割合の表記については、下記のとおり。
例 40%台

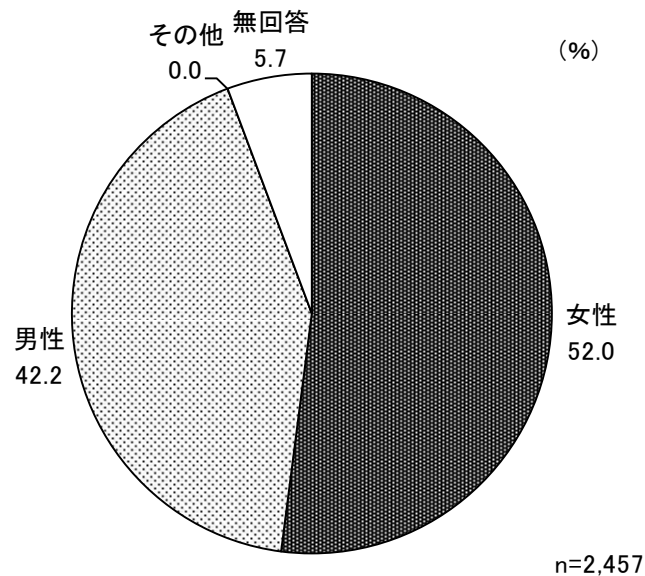
表記	約4割(4割)	4割強	4割半ば	5割弱	約5割(5割)
範囲	39.0～41.9% (40.0%)	42.0～43.9%	44.0～46.9%	47.0～48.9%	49.0～51.9% (50.0%)

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

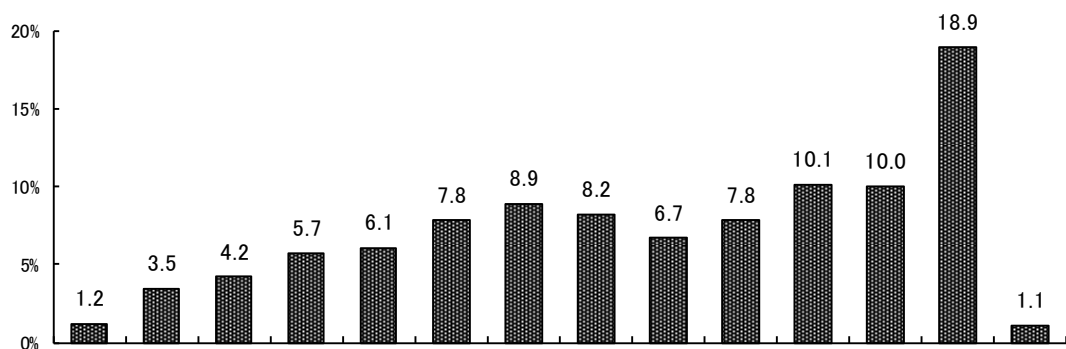
1. 性別

問1. あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)



2. 年代

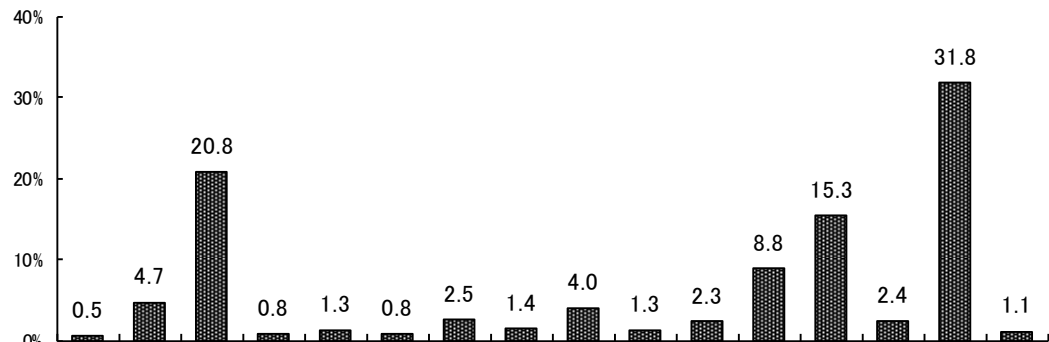
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18歳以下	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳以上	無回答
合計	2,457(人)	29	86	104	139	149	191	219	201	165	191	247	246	464	26
	100(%)	1.2	3.5	4.2	5.7	6.1	7.8	8.9	8.2	6.7	7.8	10.1	10.0	18.9	1.1
女性	1,278(人)	19	33	51	81	90	110	117	114	90	102	133	107	225	6
	100(%)	1.5	2.6	4.0	6.3	7.0	8.6	9.2	8.9	7.0	8.0	10.4	8.4	17.6	0.5
男性	1,038(人)	10	50	49	58	57	78	95	81	69	80	102	125	180	4
	100(%)	1.0	4.8	4.7	5.6	5.5	7.5	9.2	7.8	6.6	7.7	9.8	12.0	17.3	0.4
その他	141(人)	0	3	4	0	2	3	7	6	6	9	12	14	59	16
無回答	100(%)	0.0	2.1	2.8	0.0	1.4	2.1	5.0	4.3	4.3	6.4	8.5	9.9	41.8	11.3

3. 職業

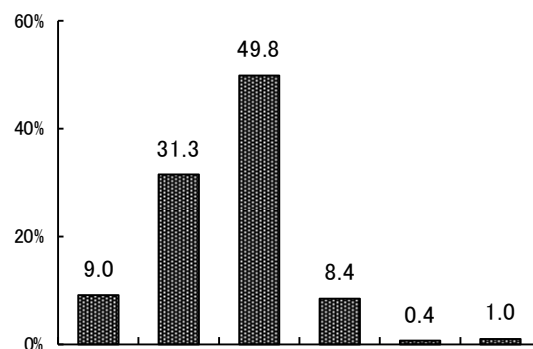
問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	パートタイマー	その他	無職	無回答
合計	2,457(人)	13	115	512	20	32	19	61	35	99	31	57	217	376	60	782	28
	100(%)	0.5	4.7	20.8	0.8	1.3	0.8	2.5	1.4	4.0	1.3	2.3	8.8	15.3	2.4	31.8	1.1

4. 世帯の状況

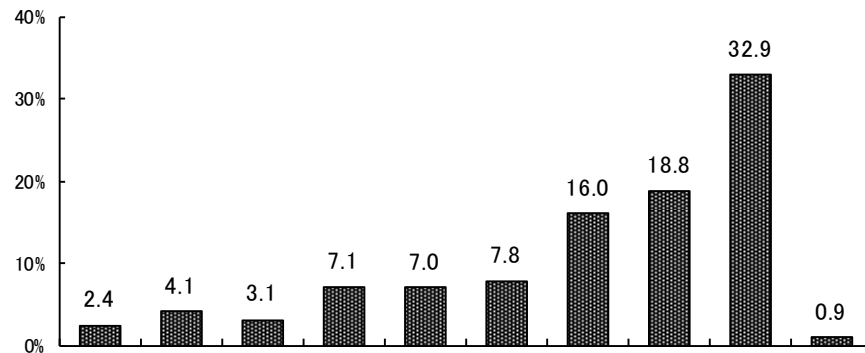
問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	単身世帯 (ひとり暮らし)	一世帯世帯 (夫婦のみ、 兄弟姉妹のみ)	二世帯世帯 (親子など)	三世帯世帯 (親と子と孫など)	その他	無回答
合計	2,457(人)	222	769	1,224	207	10	25
	100(%)	9.0	31.3	49.8	8.4	0.4	1.0

5. 居住年数

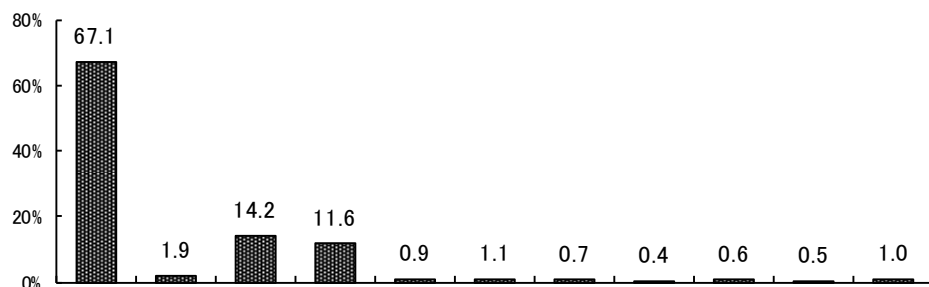
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



	調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40年以上	無回答
合計	2,457(人)	58	100	77	174	172	192	393	461	809	21
	100(%)	2.4	4.1	3.1	7.1	7.0	7.8	16.0	18.8	32.9	0.9

6. 居住形態

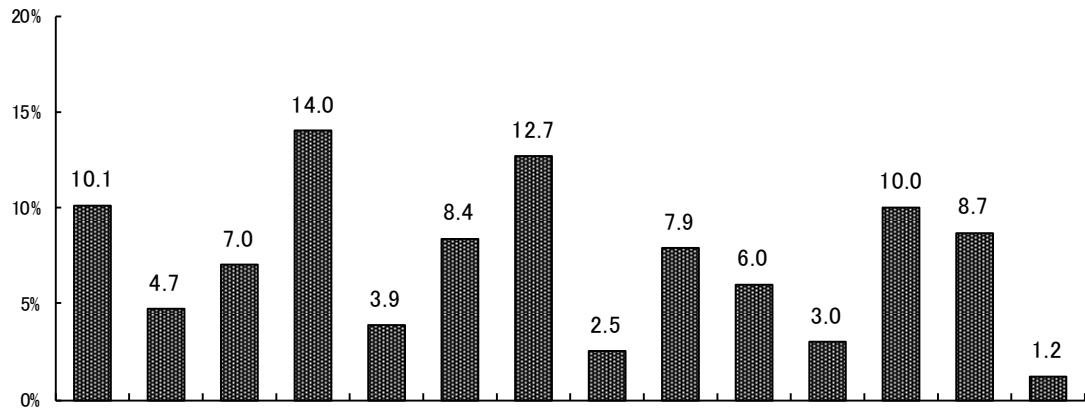
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	民間賃貸マンション・アパート	公団・公社等分譲マンション	公団・公社等賃貸マンション	社宅・官舎	間借り・下宿・寮・寄宿舎	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	2,457(人)	1,649	47	349	286	21	28	16	10	15	12	24
	100(%)	67.1	1.9	14.2	11.6	0.9	1.1	0.7	0.4	0.6	0.5	1.0

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,457(人)	248	116	171	343	95	207	311	61	195	147	73	246	214	30
	100(%)	10.1	4.7	7.0	14.0	3.9	8.4	12.7	2.5	7.9	6.0	3.0	10.0	8.7	1.2

第 3 章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

暮らしの中で大切にしていることについては、「家族とのふれあい」が約7割と最も多く、「レジャーや趣味など余暇の充実」が4割強と続く。

現在の暮らし向きについては、「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』は6割弱となっている。

今後の居住意向については、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は8割弱となっている。

『転居意向』の主な理由は「交通の便が悪いので」が1割半ば、「現在、住んでいる住宅が狭いので」が約1割となっている。

2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」と「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は7割強となっている。

愛着がある理由としては「交通の利便性がよく、都内等に近い」が7割強と最も多く、「ショッピング施設や商店街が豊富」が5割半ばと続く。

越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」が6割半ばと最も多く、「南越谷阿波踊り」が4割強と続く。

3. 越谷市の伝統的手工芸品について

越谷市の伝統的手工芸品について、「買ったことがある」と、「知っているが買ったことはない」を合わせた『知っている』は「越谷だるま」が7割弱と最も多く、「越谷手焼きせんべい」が6割強、「越谷ひな人形」が5割強と続く。また、「買ったことがある」では、「越谷手焼きせんべい」が4割弱と最も多く、「越谷だるま」が1割半ばと続く。

越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組みについては、「技術の継承（後継者の育成）」が3割強と最も多く、「見学・体験などの受入れ」が約3割と続く。

4. 市内の公共交通について

鉄道は「常に利用している」が3割強と最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は8割半ばとなっている。

バスは「全く利用しない」が3割半ばと最も多く、『満足』は5割強となっている。

タクシーは「たまに利用している」と「全く利用しない」がともに約4割で、『満足』は約6割となっている。

5. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）の満足度は、「満足している」と「十分とはいえないが、概ね満足している」を合わせた『満足』は6割半ばとなっている。

良い景観（風景）のまちをつくるために行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が5割弱と最も多く、「目標や基本方針を住民に示す」が約4割と続く。

6. 地域医療体制について

地域医療体制の認知度について、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』は、「越谷市夜間急患診療所」が約8割、「休日当番医制度」が7割半ば、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」が5割となっている。

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が約5割と最も多く、「広報こしがや『お知らせ版』」が約4割と続く。

夜間や休日の急病の対応については、「可能な限り翌日まで我慢する」が5割半ばと最も多く、「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」が3割弱と続く。

7. 健康保険が行う保健事業について

加入保険については、「被用者保険」が約4割と最も多く、「越谷市国民健康保険」が2割半ばと続く。

「越谷市国民健康保険」及び「後期高齢者医療制度」に加入している人の健康診査受診の有無については、「受けた」が約5割、「受けていない」が4割半ばで、健康診査を受けない理由としては「既に医療機関に通院していたため」が約5割と最も多く、「行く時間がないため」が1割強と続く。

必要と思う医療保険が行う保健事業については、「人間ドック検診料の補助」が約7割と最も多く、「脳ドック検診料の補助」が4割半ばと続く。

8. 人権全般に関する意識について

今の日本社会における基本的人権の意識については、「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』は6割半ばとなっている。

10年前と比べた人権意識の変化については、「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』は4割半ばとなっている。

関心のある人権問題については、「子どもの人権問題」が4割強と最も多く、「高齢者の人権問題」が4割弱と続く。

日常生活の中で人権が侵害されたと感じたことがあるかについては、「ある」が約2割となっており、その内容は「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が5割弱と最も多く、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が4割半ばと続く。

9. 男女共同参画について

男女共同参画における「ことば」や「ことがら」で、「内容を知っている」ものは「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が6割強と最も多く、「LGBT（性的指向や性自認による性的少数者）」が5割弱と続く。

「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が2割半ば、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対』が6割弱となっている。

男女共同参画社会推進のために市が力を入れることについては、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」が約5割と最も多く、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること」が4割半ばと続く。

理想とする女性の働き方については、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」が3割弱で最も多いが、現実には「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」が3割弱と最も多くなっている。

仕事をしていく上で、能力に男女差があると思うかについては、「あると思う」が3割弱、「そうは思わない」が6割弱となっている。

10. 生涯学習活動について

生涯学習活動の経験については、「経験した」が4割弱となっており、経験した生涯学習活動では「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が約6割と最も多く、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」が約4割と続く。

生涯学習活動を「経験した」人が生涯学習活動を生かしているかについては、「生かしている」が約4割であり、生かしている分野については、「文化・スポーツ活動」が5割強と最も多く、「地域やまちづくりに関する活動」が2割弱と続く。

今後、開催してほしい講座・教室については、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が4割半ばと最も多く、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」が3割強と続く。

11. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、『週に1回以上』が4割強となっている。

この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由については、「運動不足解消」が6割強と最も多く、「健康、体力維持・増進」が5割強と続く。

スポーツ・レクリエーション活動の効果については、「運動不足が解消した」が5割弱と最も多く、「よく眠れるようになった」と「疲れにくくなった」がともに2割強と続く。

この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由については、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割強と最も多く、「年をとったから」が2割強と続く。

今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動は、比較的軽いスポーツでは「ウォーキング」、野外活動では「ハイキング」、競技的スポーツでは、「テニス」、「バドミントン」、「卓球」が多くなっている。

1 2. 観光農園について

越谷市内の観光農園の利用については、「この1年以内に利用したことがある」と「1年以上前に利用したことがある」を合わせた『利用したことがある』は約2割であり、市外に住む親戚や知人に紹介したいと思うかでは、「紹介したい」が8割強となっている。

越谷市が特に力を入れていると思う農業特産物については、「イチゴ」が約5割と最も多く、「ねぎ」が3割弱と続く。また、市外に住む親戚や知人に贈りたい農業特産物については、「イチゴ」が4割半ばと最も多くなっている。

1 3. 自治基本条例について

「市民参加と協働のまちづくり」については、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は約1割で、知ったきっかけは「広報こしがや」が8割半ばと最も多くなっている。

「越谷市自治基本条例」については、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は約5%で、「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけは「広報こしがや」が8割半ばと最も多くなっている。

「越谷市自治基本条例」の効果的な普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」が5割半ばと最も多く、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」が2割半ばと続く。

1 4. 成人式について

成人式開催の是非については、「開催した方がよい」が約7割となっている。

成人式の対象年齢についての考えについては、「20歳を対象」が4割半ば、「どちらでも良い」と「18歳を対象」がともに2割半ばとなっている。

1 5. 広報について

市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が6割強と最も多くなっている。

市政情報を得るために活用したことがあるものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が7割弱と最も多く、「越谷市公式ホームページ」が3割強と続く。

広報こしがや「お知らせ版」については、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』が7割強、広報こしがや「季刊版」については、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』が約7割となっている。

1 6. 越谷市の施策について

越谷市で進めている施策について、ここ数年のうちに「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が約3割と最も多く、次いで、「防犯対策」と「ごみ・し尿の処理対策」が1割強と続く。

今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「防犯対策」が3割弱と最も多く、「水害や地震などの災害対策」が2割半ばと続く。

第4章 調査結果の詳細

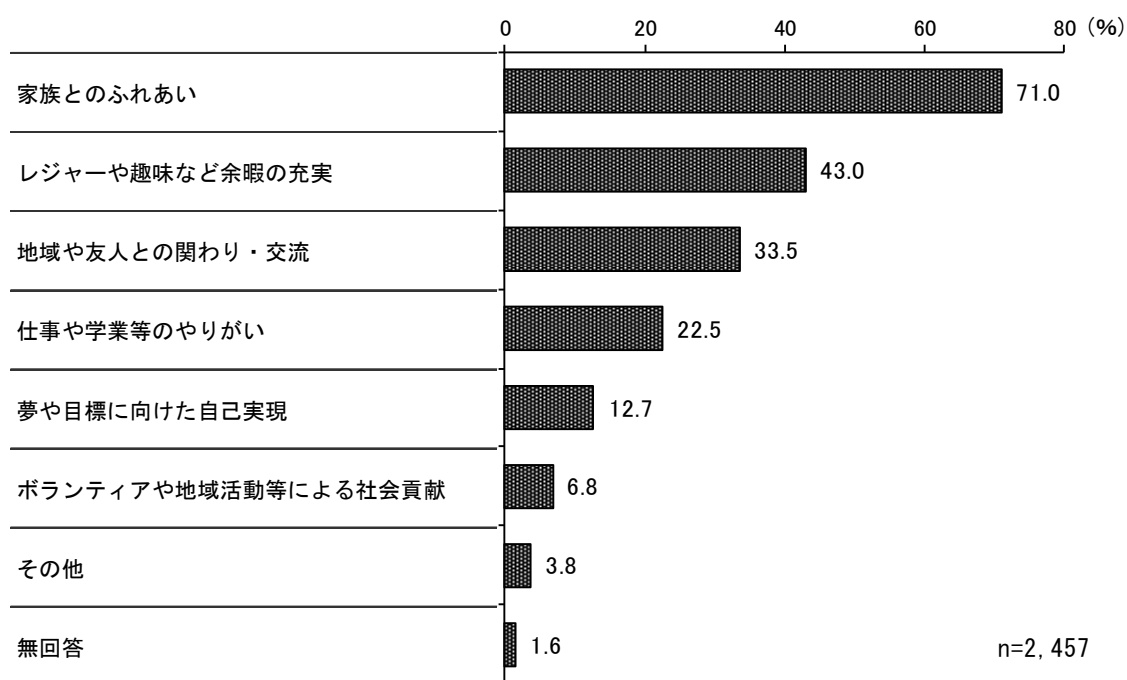
1. 暮らしや居住意向について

(1) 暮らしの中で大切にしていること

◇「家族とのふれあい」が最も多く、約7割

問 8. あなたが暮らしの中で大切にしていることは何ですか。(複数回答可)

図表 1－1－1 暮らしの中で大切にしていること



暮らしの中で大切にしていることについては、「家族とのふれあい」(71.0%)が最も多く、次いで、「レジャーや趣味など余暇の充実」(43.0%)、「地域や友人との関わり・交流」(33.5%)、「仕事や学業等のやりがい」(22.5%)、「夢や目標に向けた自己実現」(12.7%)の順となっている。また、「その他」として「健康」「子育て」「自由な時間」等が挙げられた。

性別でみると、「家族とのふれあい」は女性（77.5%）が男性（66.0%）より 11.5 ポイント、「地域や友人との関わり・交流」は女性（40.1%）が男性（25.4%）より 14.7 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「家族とのふれあい」は女性 40～49 歳（87.7%）、女性 30～39 歳（87.1%）で 9 割弱、女性 50～59 歳（79.4%）で約 8 割と多くなっている。「レジャーや趣味など余暇の充実」は女性 18～29 歳（67.0%）で 7 割弱、男性 18～29 歳（56.0%）で 5 割半ば、男性 40～49 歳（53.8%）で 5 割強と多くなっている。「地域や友人との関わり・交流」は女性 70 歳以上（52.1%）で 5 割強、女性 60～69 歳（43.8%）で 4 割強と多くなっている。「仕事や学業等のやりがい」は男性 30～39 歳（38.3%）、女性 40～49 歳（37.4%）、女性 50～59 歳、男性 50～59 歳（ともに 37.3%）で 4 割弱と多くなっている。

図表 1－1－2 性・年齢別 暮らしの中で大切にしていること

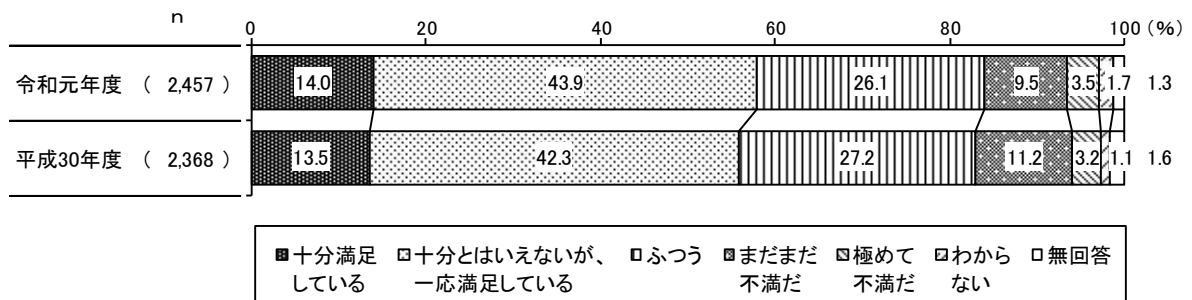
	調査数（人）	家族とのふれあい	仕事や学業等のやりがい	レジャーや趣味など余暇の充実	地域や友人との関わり・交流	ボランティアや地域活動等による社会貢献	夢や目標に向けた自己実現	その他	無回答
全 体	2,457	71.0	22.5	43.0	33.5	6.8	12.7	3.8	1.6
女性全体	1,278	77.5	23.0	42.7	40.1	7.4	12.6	3.1	1.1
18～29歳	103	59.2	25.2	67.0	26.2	1.9	23.3	1.0	—
30～39歳	171	87.1	33.9	50.3	35.7	2.3	16.4	1.2	0.6
40～49歳	227	87.7	37.4	46.3	32.6	8.4	11.5	4.4	0.4
50～59歳	204	79.4	37.3	49.5	35.3	6.9	15.2	1.0	2.0
60～69歳	235	76.2	17.0	40.4	43.8	9.8	14.5	3.8	0.4
70歳以上	332	71.4	2.1	26.2	52.1	9.0	5.4	4.5	2.1
男性全体	1,038	66.0	23.9	45.1	25.4	6.5	13.5	3.9	1.0
18～29歳	109	43.1	29.4	56.0	31.2	4.6	28.4	3.7	0.9
30～39歳	115	71.3	38.3	50.4	16.5	1.7	23.5	2.6	0.9
40～49歳	173	71.1	34.1	53.8	21.4	4.0	10.4	2.3	1.2
50～59歳	150	72.7	37.3	51.3	20.0	5.3	12.0	1.3	—
60～69歳	182	69.2	20.9	41.2	20.9	7.7	11.5	6.6	1.1
70歳以上	305	64.3	6.2	33.8	34.4	10.2	8.2	4.9	1.3

(2) 現在の暮らし向き

◇『満足』が6割弱

問9. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

図表1-2-1 現在の暮らし向き



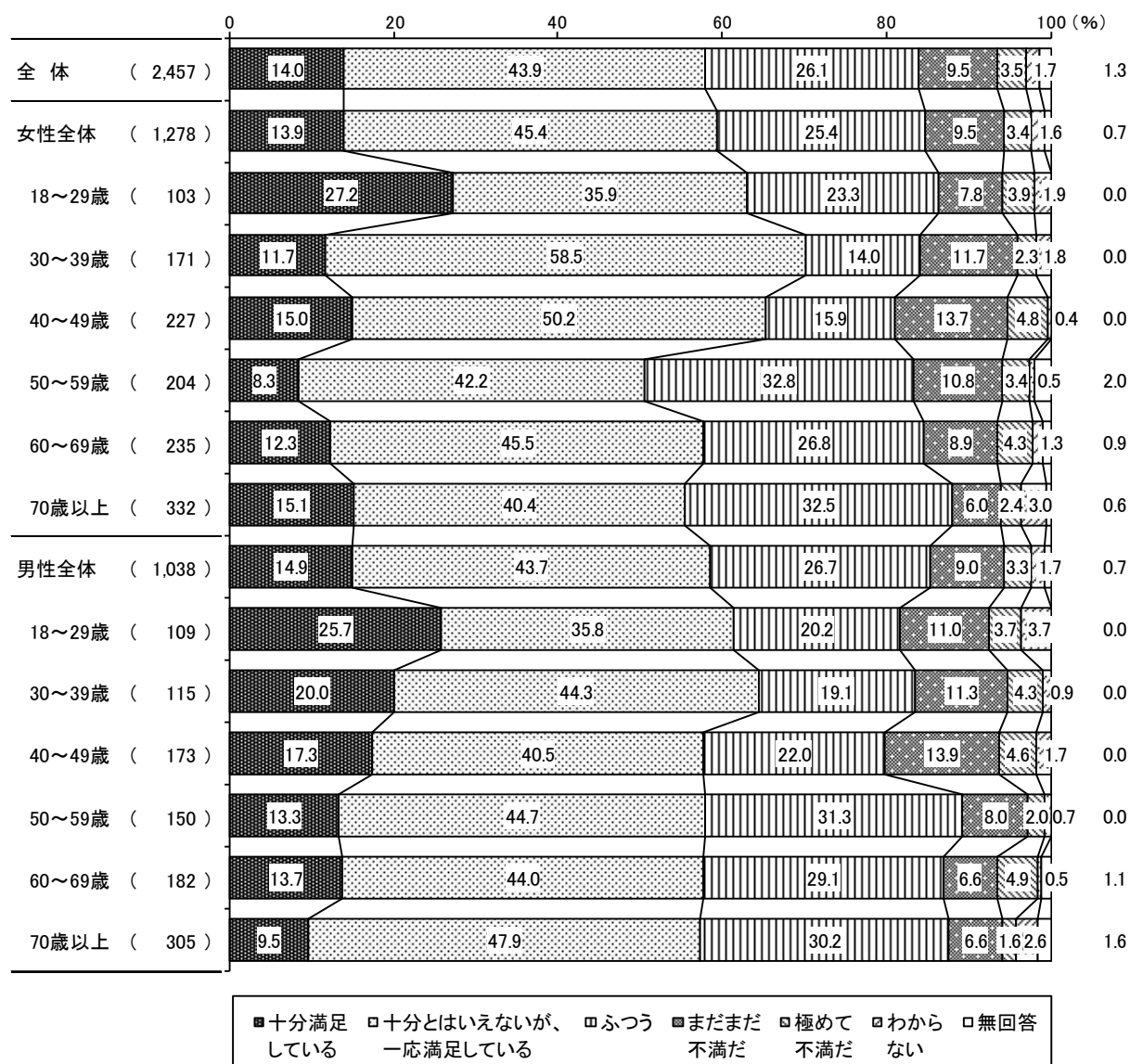
現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(43.9%)が最も多く、次いで、「ふつう」(26.1%)、「十分満足している」(14.0%)、「まだまだ不満だ」(9.5%)、「極めて不満だ」(3.5%)となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(57.9%)は6割弱となっている。

前回の調査と比較すると、『満足』(57.9%)は平成30年調査(55.8%)と比べ2.1ポイント増加している。一方、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(13.0%)は平成30年調査(14.4%)と比べ1.4ポイント減少している。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

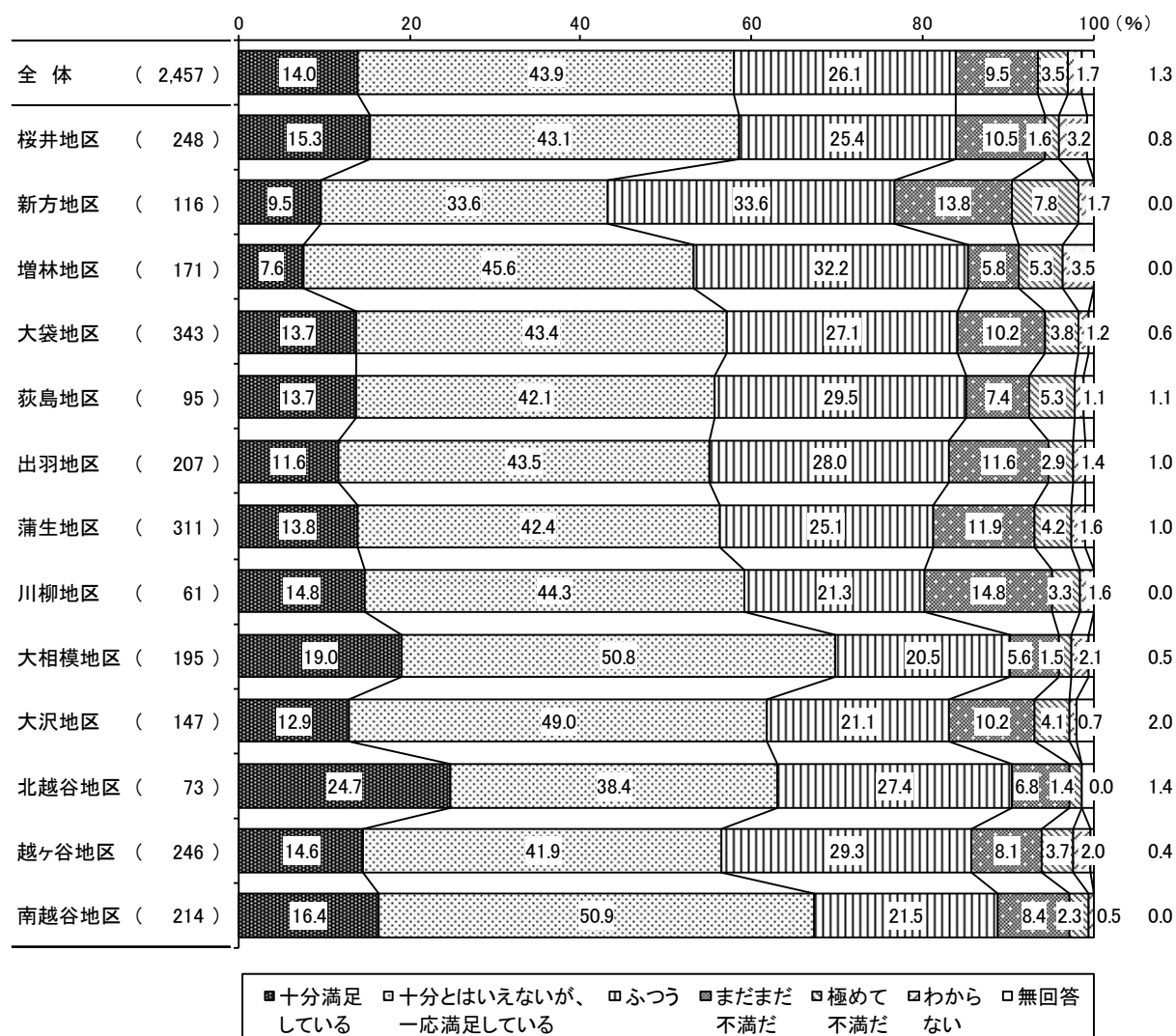
性・年齢別でみると、『満足』は女性30～39歳（70.2%）で約7割、女性40～49歳（65.2%）、男性30～39歳（64.3%）で6割半ばと多くなっている。「十分満足している」は女性18～29歳（27.2%）で3割弱、男性18～29歳（25.7%）で2割半ばと多くなっている。

図表1－2－2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は大相模地区（69.7%）で約7割、南越谷地区（67.3%）で7割弱と多くなっている。一方、『不満』は新方地区（21.6%）で約2割、川柳地区（18.0%）で2割弱と多くなっている。

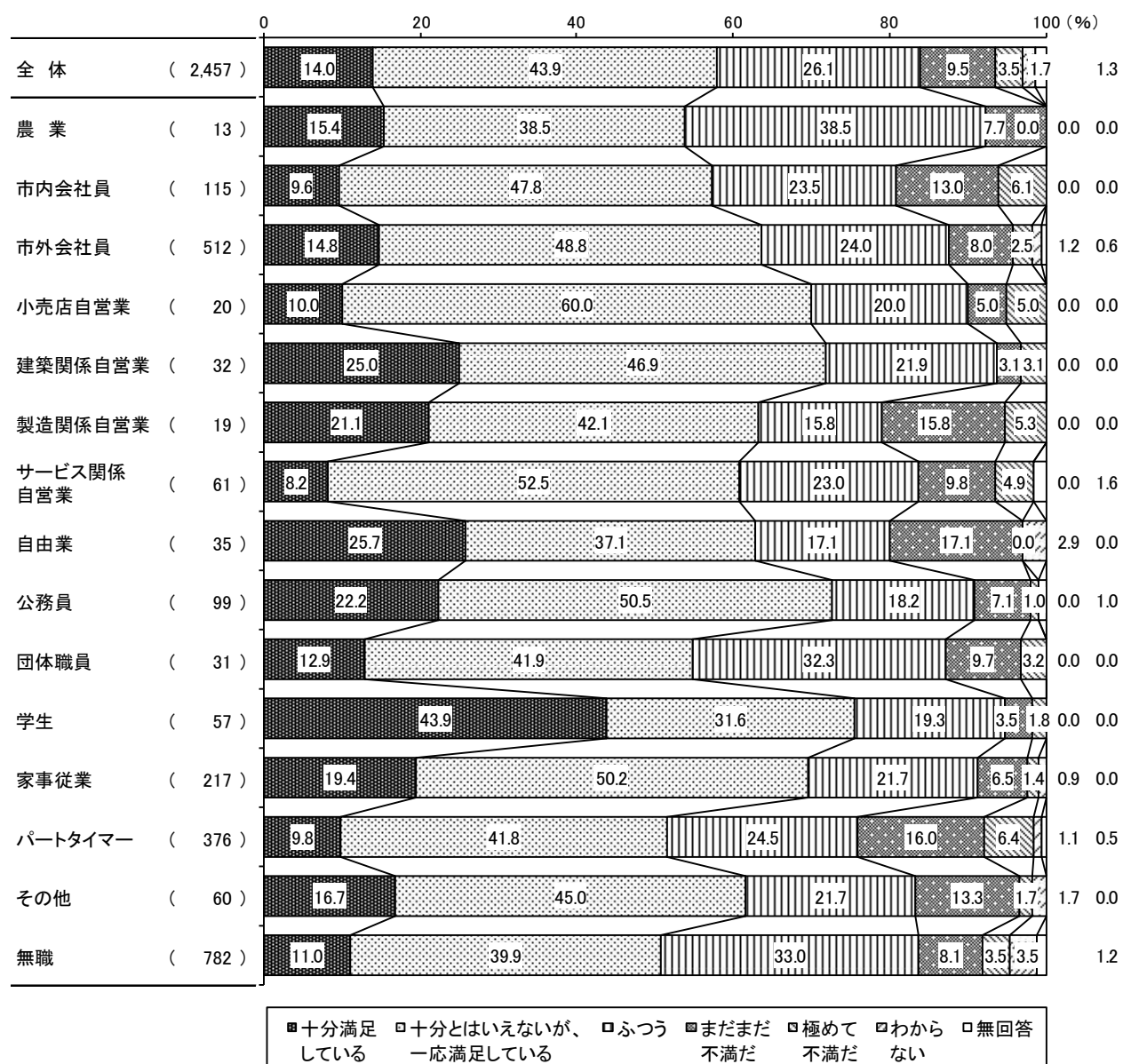
図表1－2－3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別でみると、『満足』は学生（75.4%）で7割半ば、公務員（72.7%）で7割強と多くなっている。
「十分満足している」は学生（43.9%）で4割強と多くなっている。

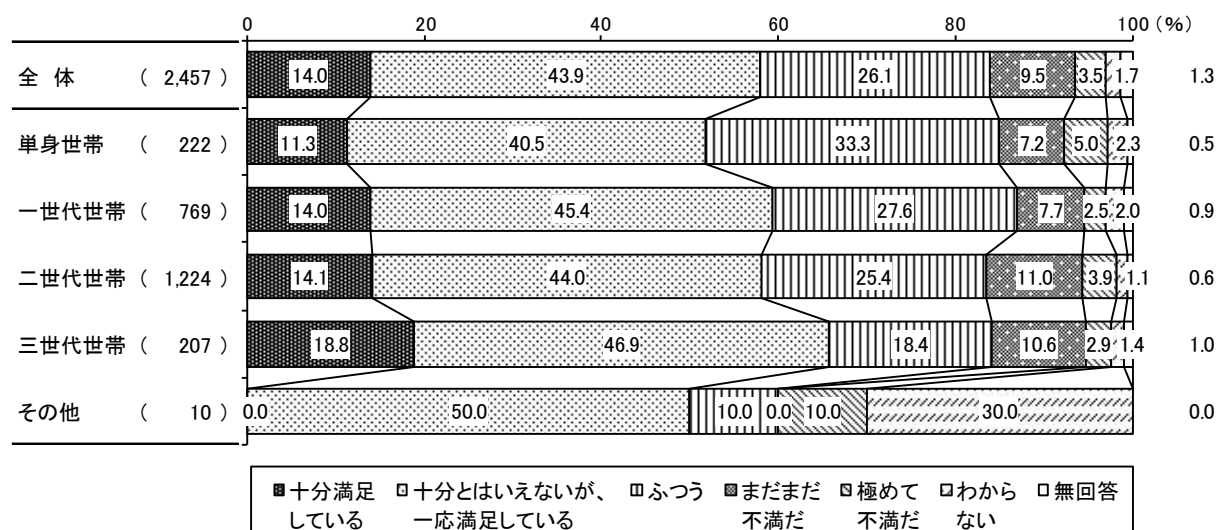
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-2-4 職業別 現在の暮らし向き



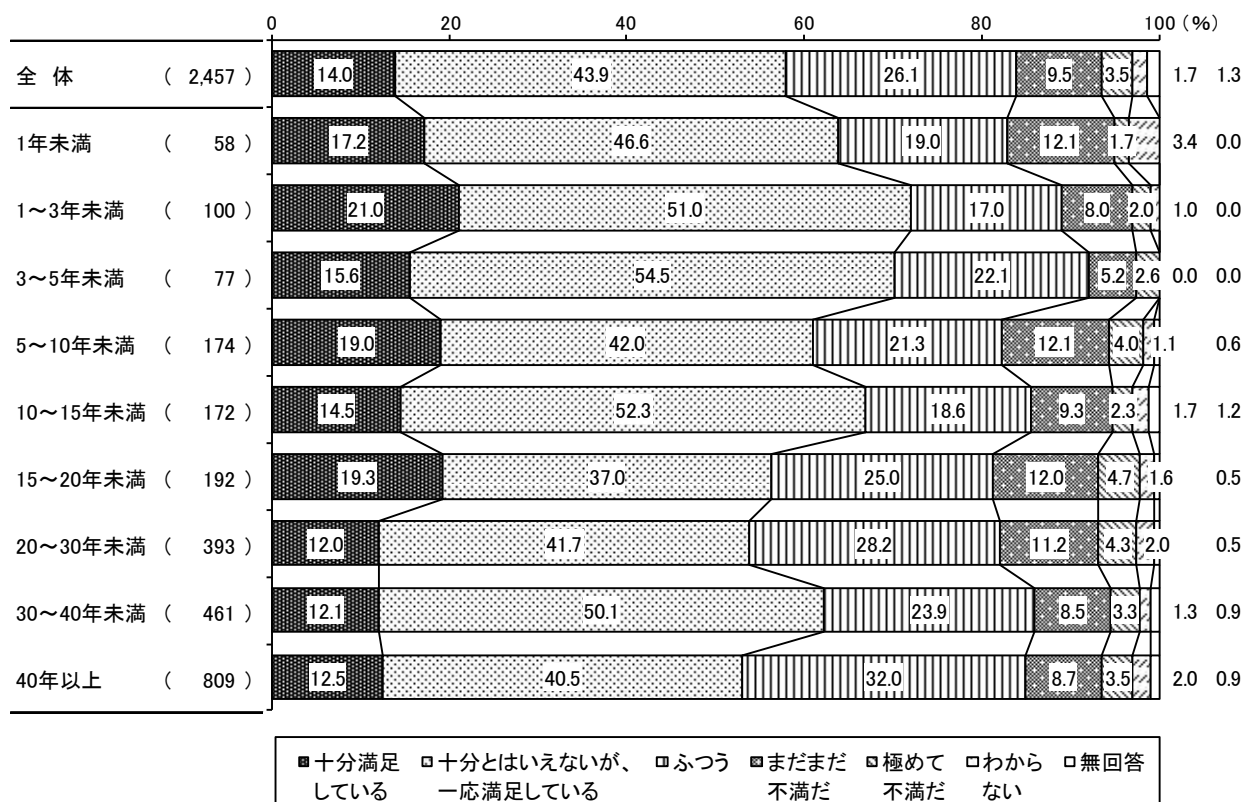
世帯状況別でみると、『満足』は三世帯世帯（親と子と孫など）（65.7%）で6割半ばと多くなっている。一方、『不満』は二世帯世帯（親子など）（15.0%）で1割半ばと多くなっている。

図表1－2－5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は1～3年未満（72.0%）で7割強、3～5年未満（70.1%）で約7割、10～15年未満（66.9%）で6割半ばと多くなっている。

図表1－2－6 居住年数別 現在の暮らし向き

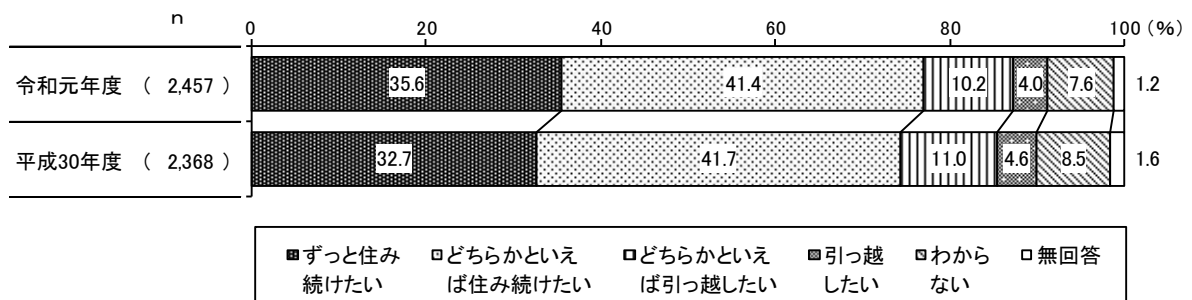


(3) 居住意向

◇『定住意向』が8割弱

問10. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

図表1-3-1 居住意向

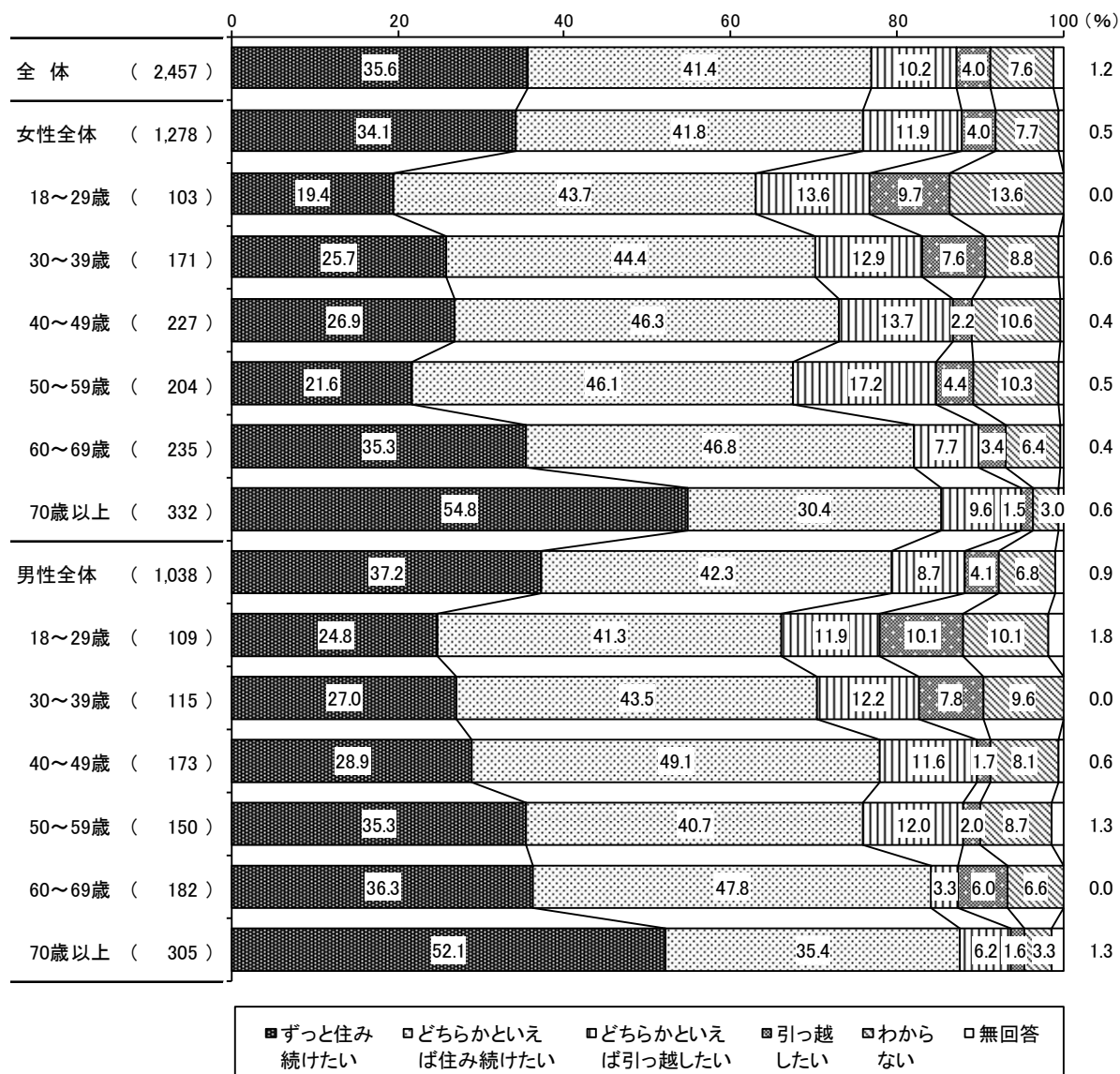


今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(41.4%)が最も多く、次いで、「ずっと住み続けたい」(35.6%)、「どちらかといえば引っ越したい」(10.2%)、「引っ越したい」(4.0%)となっている。「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計を『定住意向』とすると、『定住意向』(77.0%)は8割弱となっている。

前回の調査と比較すると、『定住意向』(77.0%)は平成30年調査(74.4%)と比べ2.6ポイント増加している。一方、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(14.2%)は平成30年調査(15.6%)と比べ1.4ポイント減少している。

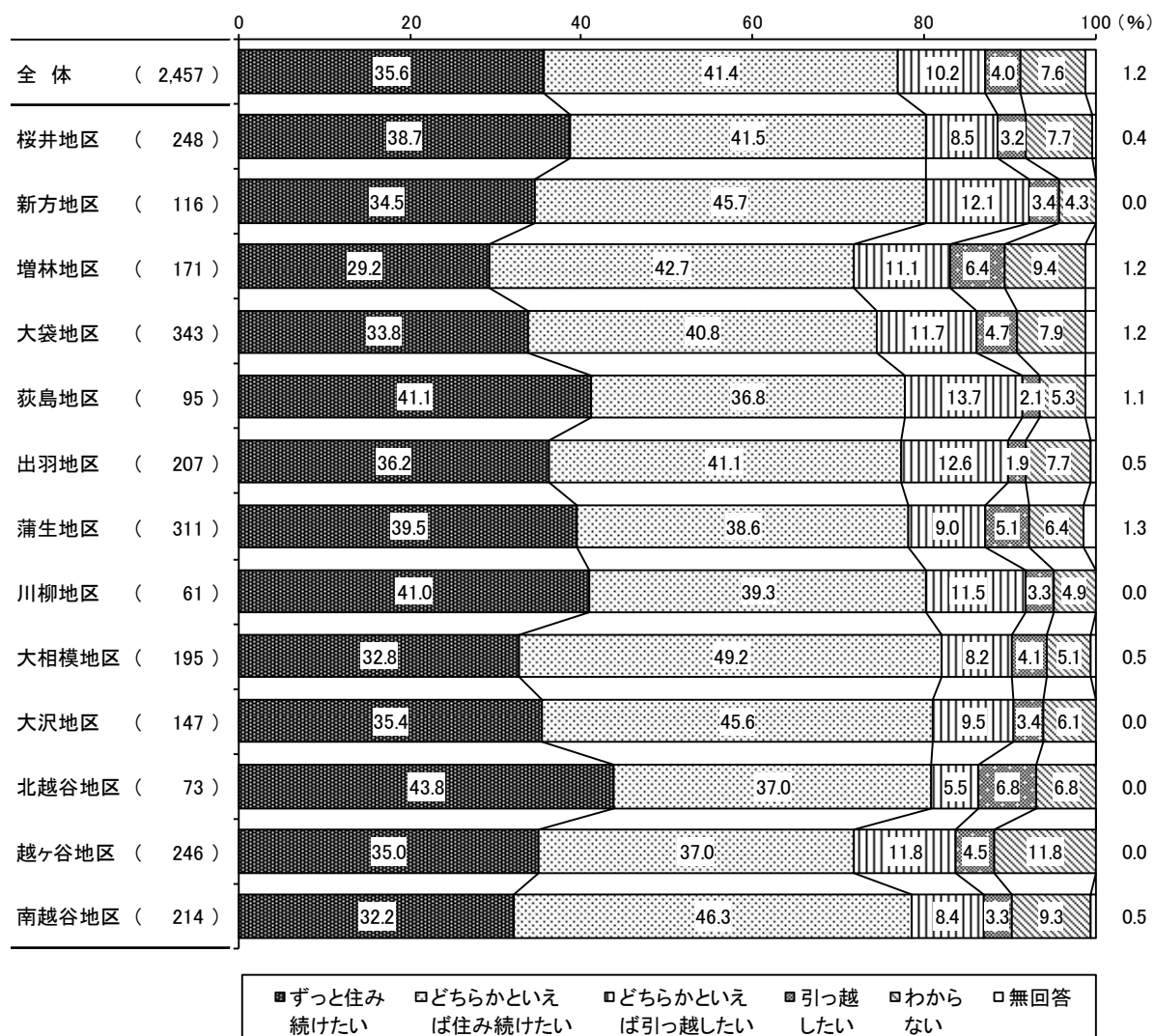
性別でみると、『定住意向』は男性（79.5%）が女性（75.9%）より3.6ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『定住意向』は男性70歳以上（87.5%）で9割弱、女性70歳以上（85.2%）、
 男性60～69歳（84.1%）で8割半ば、女性60～69歳（82.1%）で8割強と多くなっている。

図表1-3-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別でみると、『定住意向』は大相模地区（82.1％）で8割強と多くなっている。「ずっと住み続けたい」は北越谷地区（43.8％）で4割強、荻島地区（41.1％）、川柳地区（41.0％）で約4割と多くなっている。

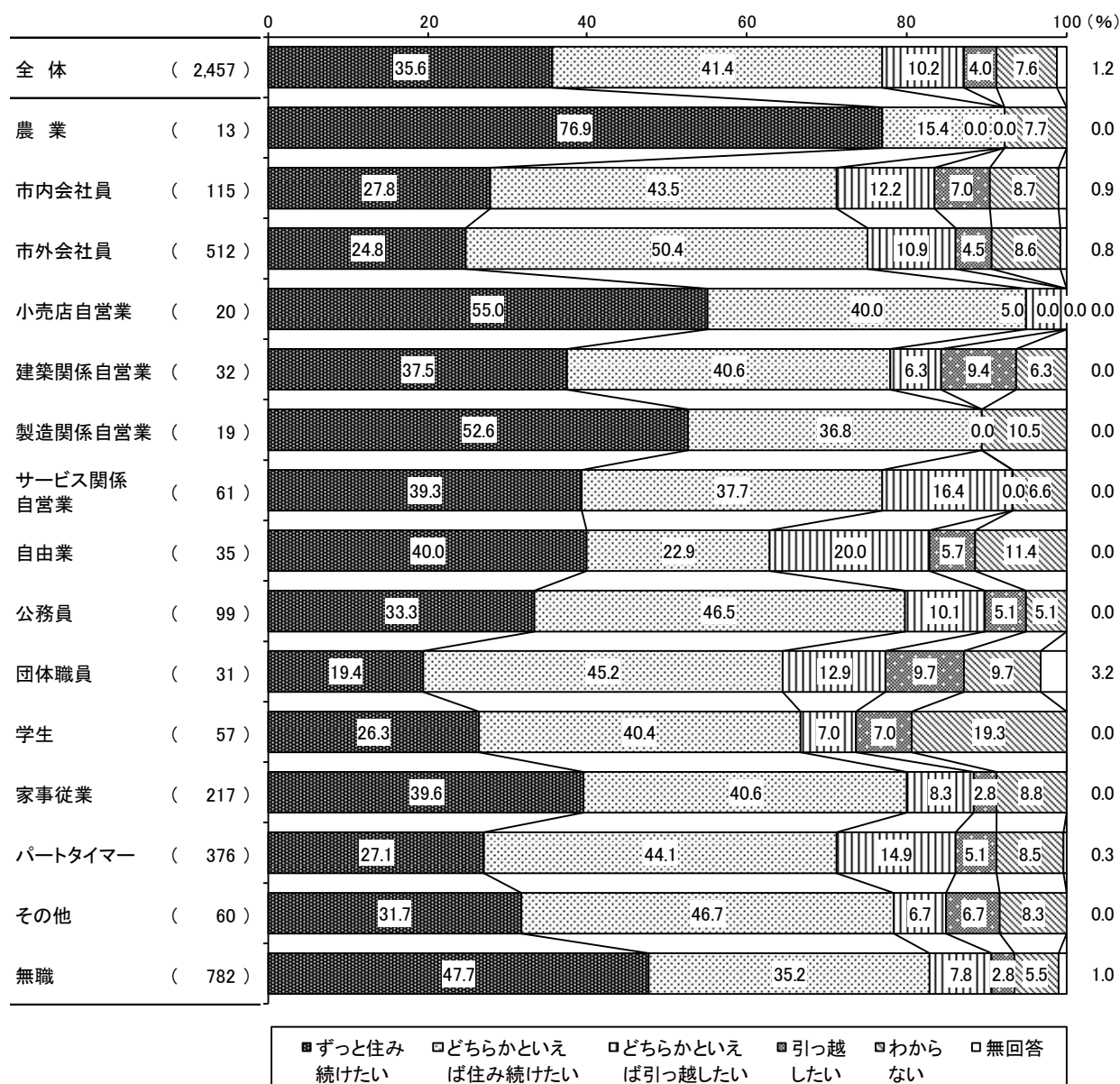
図表1－3－3 居住地区別 居住意向



職業別でみると、『定住意向』は無職（年金生活を含む）（82.9％）で8割強、家事従業（80.2％）で約8割と多くなっている。「ずっと住み続けたい」は無職（年金生活を含む）（47.7％）で5割弱と多くなっている。

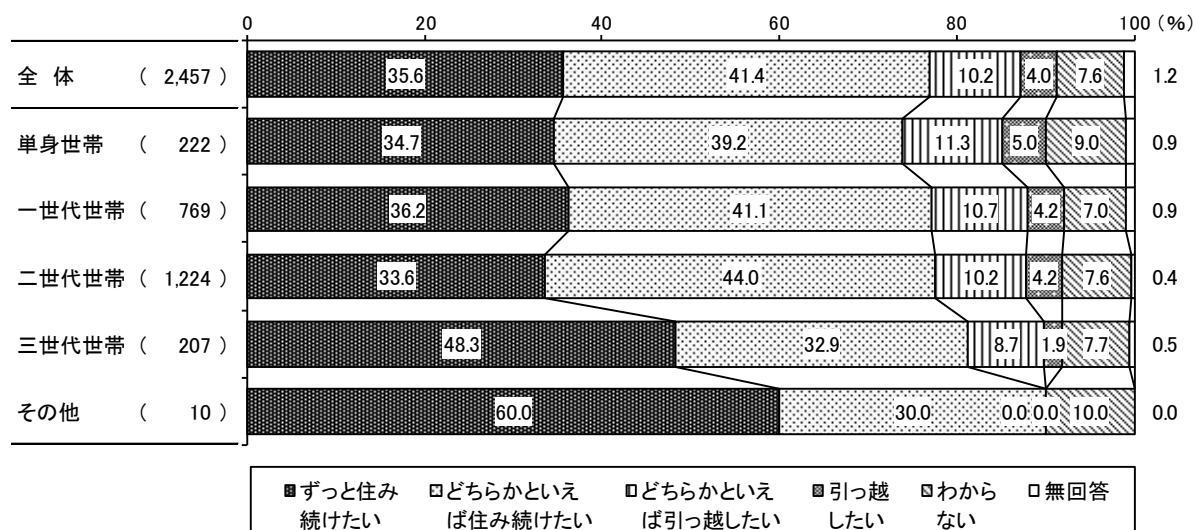
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-3-4 職業別 居住意向



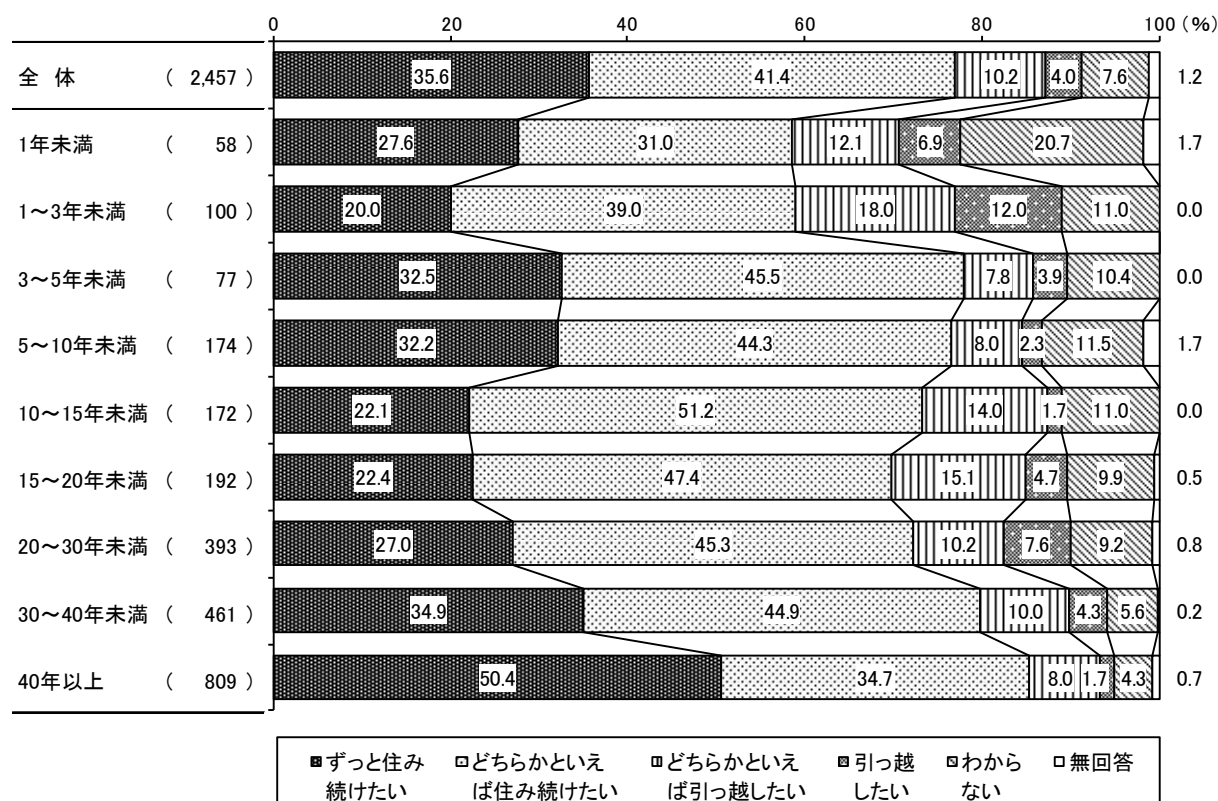
世帯状況別でみると、『定住意向』は三世代世帯（親と子と孫など）（81.2%）で約8割と多くなっている。「ずっと住み続けたい」は三世代世帯（親と子と孫など）（48.3%）で5割弱と多くなっている。

図表1－3－5 世帯状況別 居住意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上（85.2%）で8割半ばと多くなっている。一方、『転居意向』は1～3年未満（30.0%）で3割、15～20年未満（19.8%）、1年未満（19.0%）で約2割と多くなっている。

図表1－3－6 居住年数別 居住意向

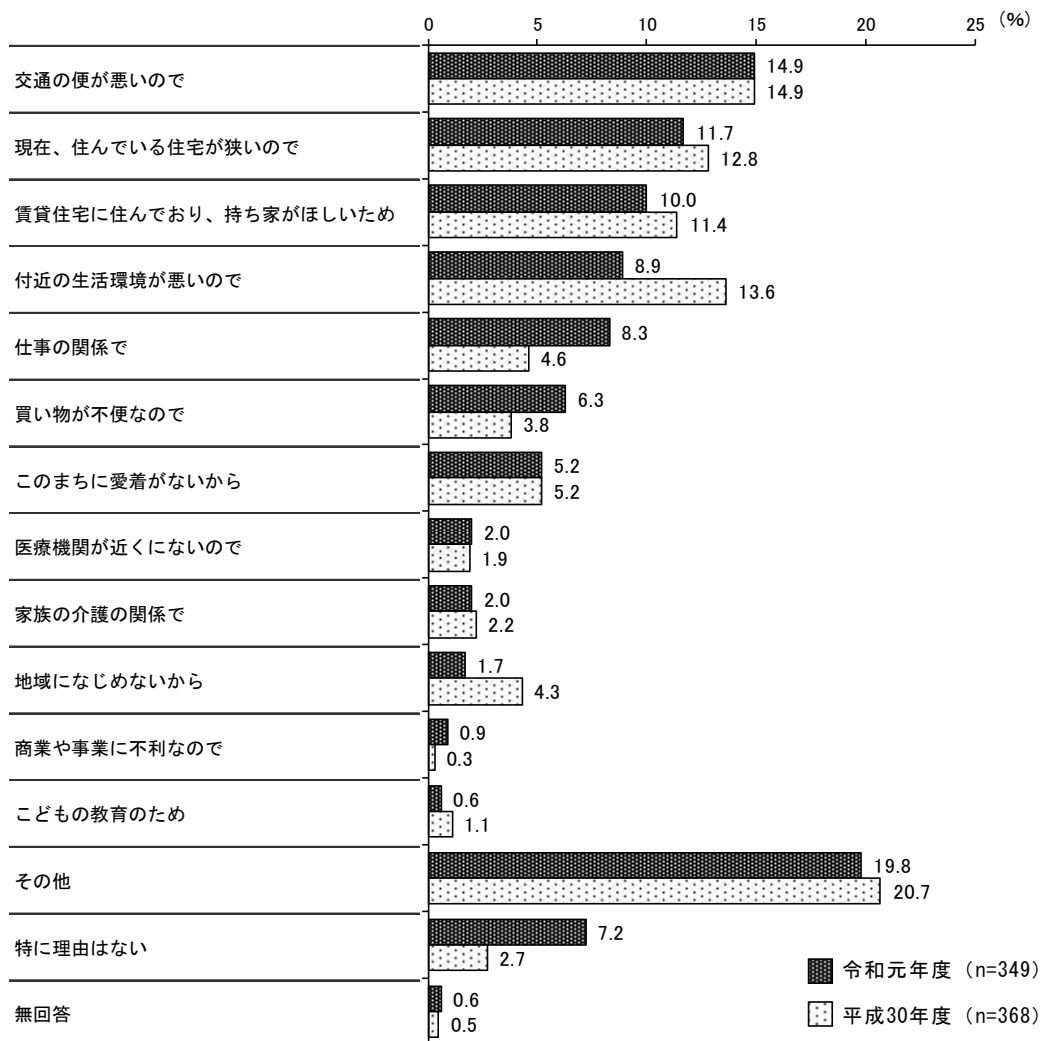


(4) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が最も多く、1割半ば

問10-2. 問10で「3」または「4」と答えた方（引っ越したいと答えた方）に伺います。
 引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。（○は1つ）

図表1-4-1 転居意向の理由



『転居意向』のある 349 人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」（14.9%）が最も多く、次いで、「現在、住んでいる住宅が狭いので」（11.7%）、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」（10.0%）、「付近の生活環境が悪いので」（8.9%）、「仕事の関係で」（8.3%）の順となっている。また、「その他」として「税金が高い」「近隣との関係」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「付近の生活環境が悪いので」（8.9%）は平成 30 年調査（13.6%）と比べ 4.7 ポイント減少している。

性別でみると、「交通の便が悪いので」は女性（16.7%）が男性（12.0%）より 4.7 ポイント高くなっている。一方、「仕事の関係で」は男性（12.8%）が女性（5.9%）より 6.9 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は女性 30～39 歳（22.9%）で 2 割強と多くなっている。「付近の生活環境が悪いので」は女性 70 歳以上（21.6%）で約 2 割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については記述の対象としない。

図表 1－4－2 性・年齢別 転居意向の理由

(%)

	全体	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	349	0.9	14.9	11.7	8.9	8.3	10.0	0.6	6.3	2.0	5.2	1.7	2.0	19.8	7.2	0.6
女性全体	203	-	16.7	12.8	9.4	5.9	10.8	0.5	5.9	1.0	4.4	2.5	2.5	21.7	4.9	1.0
18～29歳	24	-	29.2	16.7	-	16.7	12.5	-	-	-	4.2	4.2	-	16.7	-	-
30～39歳	35	-	14.3	14.3	8.6	11.4	22.9	-	-	2.9	5.7	-	-	14.3	5.7	-
40～49歳	36	-	11.1	16.7	5.6	5.6	16.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	-	22.2	8.3	-
50～59歳	44	-	6.8	18.2	13.6	4.5	4.5	-	9.1	-	2.3	2.3	4.5	27.3	4.5	2.3
60～69歳	26	-	26.9	3.8	-	-	7.7	-	11.5	-	7.7	3.8	3.8	30.8	3.8	-
70歳以上	37	-	21.6	5.4	21.6	-	2.7	-	10.8	-	5.4	2.7	5.4	16.2	5.4	2.7
男性全体	133	1.5	12.0	10.5	8.3	12.8	9.8	0.8	7.5	3.0	6.0	0.8	1.5	16.5	9.0	-
18～29歳	24	-	16.7	4.2	4.2	25.0	16.7	-	-	-	-	-	-	16.7	16.7	-
30～39歳	23	4.3	17.4	8.7	4.3	17.4	13.0	-	13.0	-	8.7	-	-	13.0	-	-
40～49歳	23	4.3	8.7	17.4	4.3	4.3	13.0	4.3	17.4	8.7	-	-	-	13.0	4.3	-
50～59歳	21	-	14.3	4.8	9.5	19.0	4.8	-	-	4.8	9.5	4.8	4.8	14.3	9.5	-
60～69歳	17	-	5.9	17.6	17.6	11.8	-	-	-	-	11.8	-	-	23.5	11.8	-
70歳以上	24	-	8.3	12.5	12.5	-	8.3	-	12.5	4.2	8.3	-	4.2	20.8	8.3	-

居住地区別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は越ヶ谷地区（22.5%）で2割強と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-4-3 居住地区別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	349	0.9	14.9	11.7	8.9	8.3	10.0	0.6	6.3	2.0	5.2	1.7	2.0	19.8	7.2	0.6
桜井地区	29	-	34.5	-	3.4	10.3	13.8	-	10.3	3.4	3.4	-	3.4	13.8	3.4	-
新方地区	18	-	33.3	-	22.2	-	5.6	-	5.6	5.6	5.6	-	-	22.2	-	-
増林地区	30	-	13.3	16.7	3.3	6.7	10.0	-	10.0	-	6.7	-	3.3	23.3	3.3	3.3
大袋地区	56	3.6	16.1	8.9	14.3	3.6	5.4	-	5.4	-	10.7	-	3.6	21.4	7.1	-
荻島地区	15	-	26.7	6.7	13.3	20.0	-	-	20.0	13.3	-	-	-	-	-	-
出羽地区	30	-	13.3	10.0	16.7	13.3	10.0	-	3.3	-	-	3.3	-	20.0	10.0	-
蒲生地区	44	2.3	4.5	11.4	2.3	11.4	11.4	2.3	6.8	-	9.1	4.5	2.3	22.7	9.1	-
川柳地区	9	-	11.1	-	11.1	22.2	-	-	22.2	-	11.1	-	-	22.2	-	-
大相模地区	24	-	16.7	8.3	4.2	-	25.0	4.2	4.2	8.3	-	-	-	25.0	4.2	-
大沢地区	19	-	5.3	31.6	10.5	5.3	10.5	-	5.3	-	5.3	5.3	-	10.5	10.5	-
北越谷地区	9	-	11.1	11.1	-	22.2	22.2	-	-	-	-	11.1	11.1	11.1	-	-
越ヶ谷地区	40	-	15.0	22.5	5.0	12.5	5.0	-	-	2.5	5.0	-	2.5	17.5	12.5	-
南越谷地区	25	-	-	16.0	12.0	-	16.0	-	-	-	-	4.0	-	32.0	16.0	4.0

職業別でみると、「仕事の関係で」は市外会社員（17.7%）で2割弱と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-4-4 職業別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	349	0.9	14.9	11.7	8.9	8.3	10.0	0.6	6.3	2.0	5.2	1.7	2.0	19.8	7.2	0.6
農業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	22	-	4.5	22.7	-	4.5	9.1	-	-	-	9.1	4.5	-	27.3	18.2	-
市外会社員	79	1.3	17.7	12.7	6.3	17.7	11.4	1.3	6.3	-	2.5	-	-	17.7	5.1	-
小売店自営業	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建築関係自営業	5	-	20.0	20.0	-	-	20.0	-	20.0	-	20.0	-	-	-	-	-
製造関係自営業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス関係自営業	10	-	10.0	10.0	10.0	10.0	40.0	-	-	-	-	-	-	20.0	-	-
自由業	9	11.1	22.2	-	-	11.1	11.1	-	-	11.1	-	-	-	11.1	22.2	-
公務員	15	-	33.3	6.7	-	-	6.7	-	6.7	13.3	13.3	-	6.7	13.3	-	-
団体職員	7	-	-	28.6	-	28.6	28.6	-	-	14.3	-	-	-	-	-	-
学生	8	-	12.5	-	-	37.5	-	-	-	-	-	-	-	37.5	12.5	-
家事従業	24	-	4.2	16.7	25.0	4.2	8.3	-	12.5	-	8.3	-	-	16.7	4.2	-
パートタイマー	75	1.3	8.0	17.3	8.0	4.0	12.0	1.3	5.3	2.7	5.3	4.0	1.3	24.0	4.0	1.3
その他	8	-	12.5	-	12.5	12.5	12.5	-	12.5	-	-	-	12.5	12.5	12.5	-
無職	83	-	21.7	3.6	13.3	2.4	2.4	-	8.4	1.2	6.0	2.4	4.8	21.7	10.8	1.2

世帯状況別でみると、大きな差異はみられない。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表 1－4－5 世帯状況別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	349	0.9	14.9	11.7	8.9	8.3	10.0	0.6	6.3	2.0	5.2	1.7	2.0	19.8	7.2	0.6
単身世帯	36	－	8.3	16.7	8.3	11.1	5.6	－	－	－	2.8	－	5.6	13.9	22.2	5.6
一世代世帯	114	－	14.9	5.3	8.8	6.1	14.9	－	9.6	4.4	5.3	1.8	3.5	20.2	5.3	－
二世代世帯	176	1.7	15.3	14.8	8.0	9.1	8.5	1.1	6.3	0.6	5.7	2.3	0.6	20.5	5.7	－
三世代世帯	22	－	18.2	13.6	18.2	9.1	4.5	－	－	4.5	4.5	－	－	22.7	4.5	－
その他	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

居住年数別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は20～30年未満（20.0％）で2割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1－4－6 居住年数別 転居意向の理由

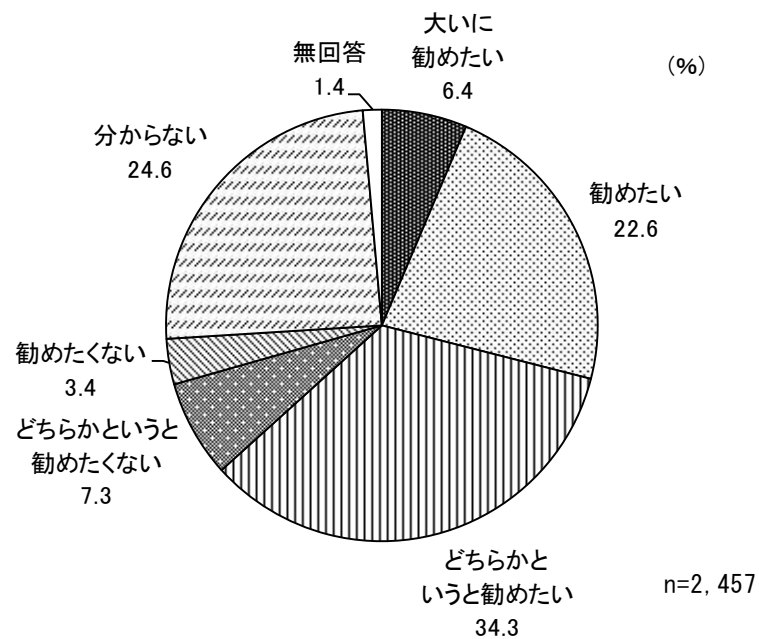
	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	349	0.9	14.9	11.7	8.9	8.3	10.0	0.6	6.3	2.0	5.2	1.7	2.0	19.8	7.2	0.6
1年未満	11	－	18.2	－	9.1	－	36.4	－	－	－	－	9.1	－	27.3	－	－
1～3年未満	30	－	13.3	10.0	－	20.0	13.3	－	10.0	－	10.0	3.3	－	16.7	3.3	－
3～5年未満	9	－	33.3	－	－	22.2	11.1	11.1	－	22.2	－	－	－	－	－	－
5～10年未満	18	－	－	33.3	11.1	－	22.2	－	11.1	－	－	11.1	－	11.1	－	－
10～15年未満	27	3.7	11.1	7.4	7.4	14.8	25.9	－	7.4	3.7	7.4	－	－	7.4	3.7	－
15～20年未満	38	－	18.4	5.3	2.6	13.2	7.9	2.6	5.3	7.9	7.9	2.6	－	21.1	5.3	－
20～30年未満	70	－	12.9	20.0	8.6	7.1	7.1	－	2.9	－	5.7	－	5.7	15.7	14.3	－
30～40年未満	66	3.0	18.2	13.6	12.1	7.6	4.5	－	6.1	－	3.0	1.5	－	24.2	6.1	－
40年以上	79	－	15.2	6.3	13.9	2.5	5.1	－	8.9	1.3	5.1	－	3.8	26.6	8.9	2.5

(5) 越谷市に住み暮らすことを勧めたいか

◇『勧めたい』が6割強

問11. 皆さんに伺います。あなたは越谷市に住み暮らすことを知人等にどのくらい勧めたいですか。(○は1つ)

図表1-5-1 越谷市に住み暮らすことを勧めたいか

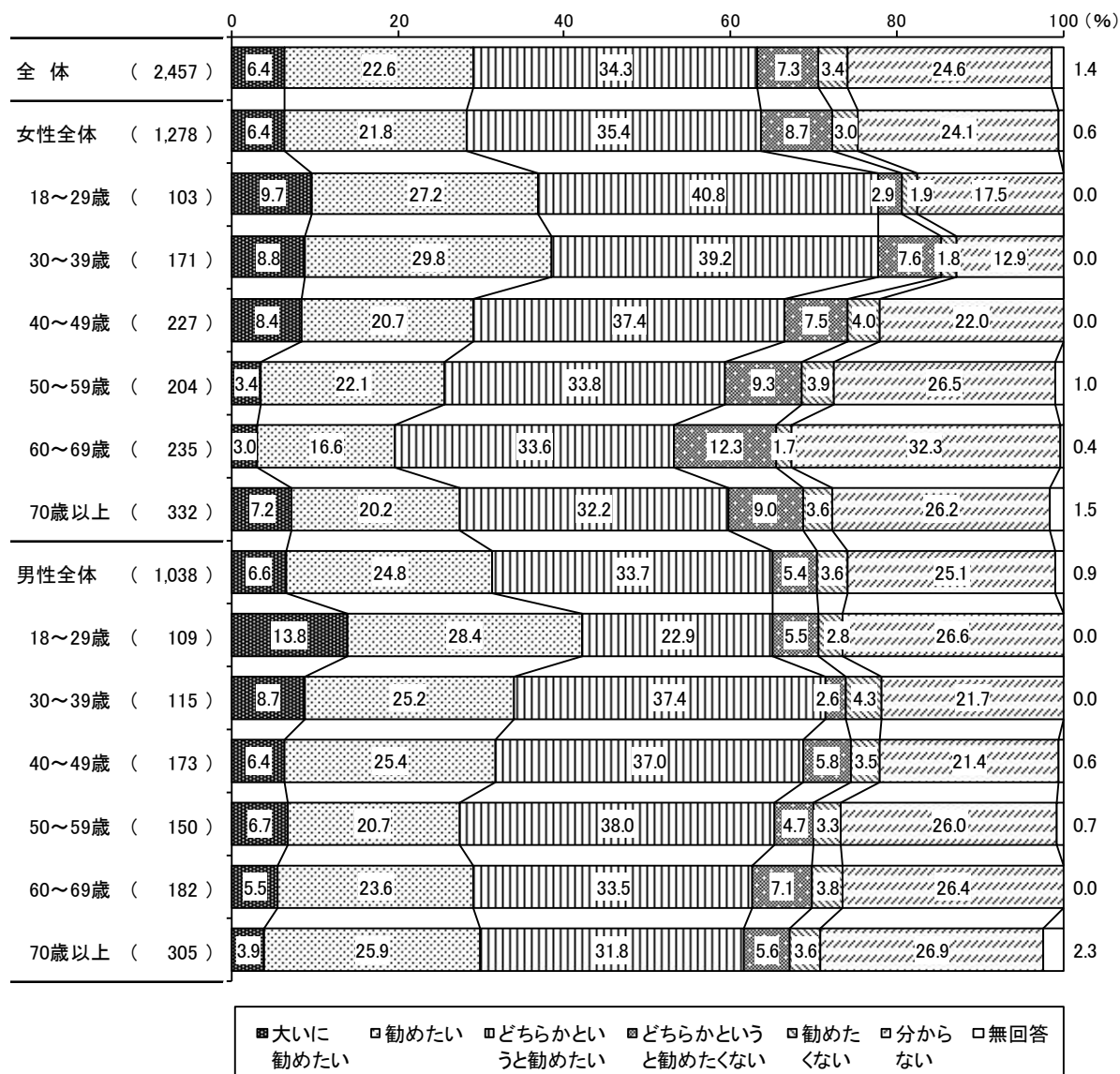


越谷市に住み暮らすことを勧めたいかについては、「どちらかという勧めたい」(34.3%)が最も多く、次いで、「勧めたい」(22.6%)、「どちらかという勧めたくない」(7.3%)、「大いに勧めたい」(6.4%)、「勧めたくない」(3.4%)となっている。「大いに勧めたい」、「勧めたい」、「どちらかという勧めたい」を合わせた『勧めたい』(63.3%)は6割強となっている。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、『勧めたい』は女性 30～39 歳（77.8%）、女性 18～29 歳（77.7%）で 8 割弱、男性 30～39 歳（71.3%）で約 7 割と多くなっている。

図表 1-5-2 性・年齢別 越谷市に住み暮らすことを勧めたいか



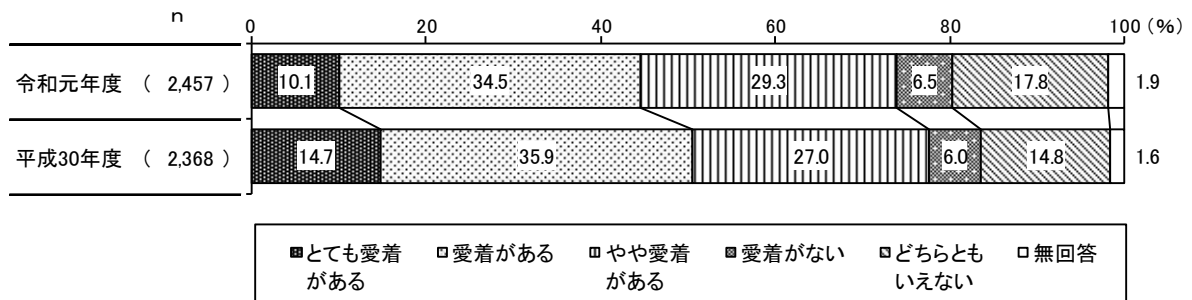
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が7割強

問12. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(〇は1つ)

図表2-1-1 越谷市への愛着



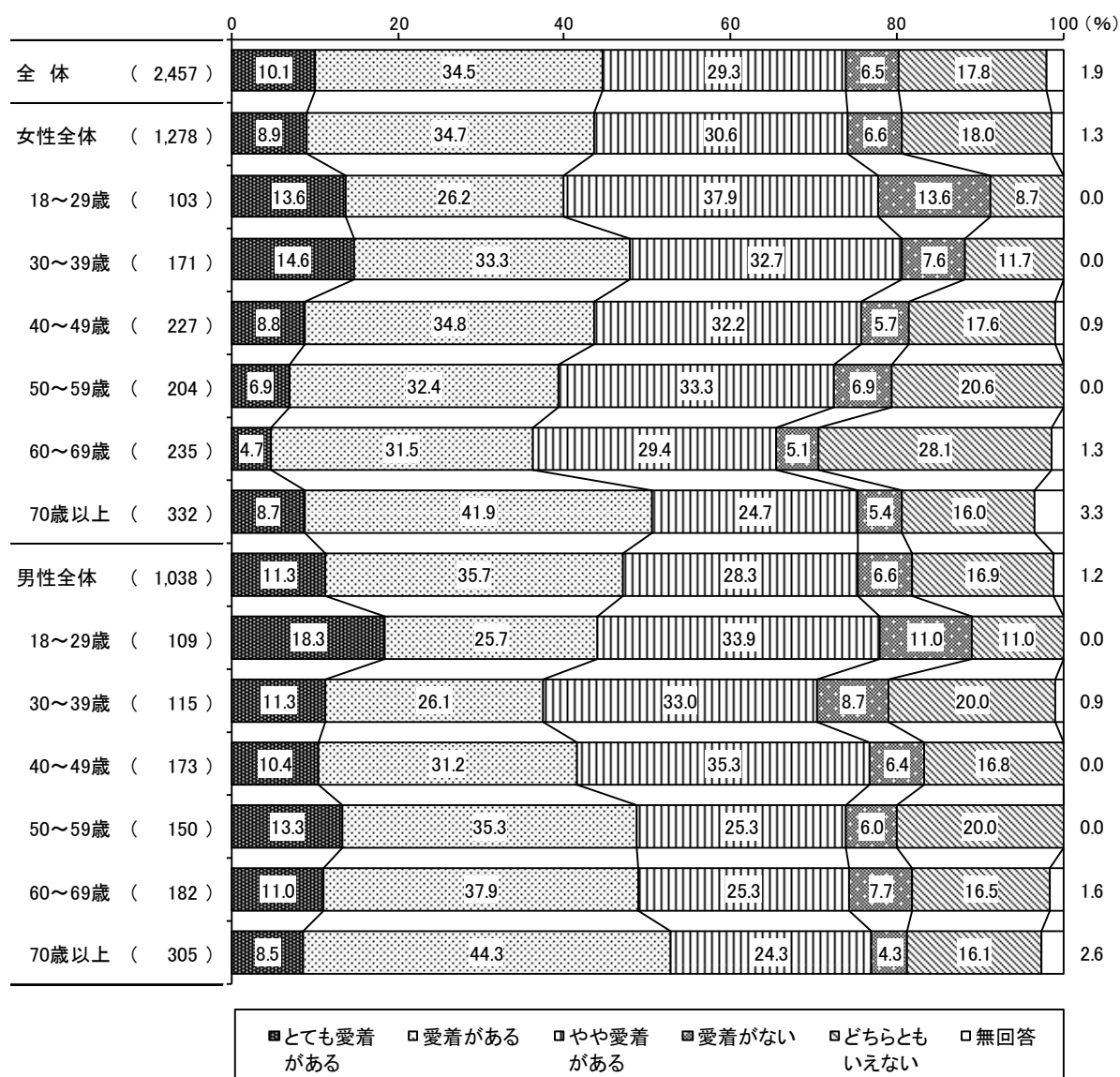
越谷市への愛着については、「愛着がある」(34.5%)が最も多く、次いで、「やや愛着がある」(29.3%)、「どちらともいえない」(17.8%)、「とても愛着がある」(10.1%)、「愛着がない」(6.5%)となっている。「とても愛着がある」、「愛着がある」、「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(73.9%)は7割強となっている。

前回の調査と比較すると、『愛着がある』(73.9%)は平成30年調査(77.6%)と比べ3.7ポイント減少している。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、『愛着がある』は女性 30～39 歳（80.7%）で約 8 割と多くなっている。「とても愛着がある」は男性 18～29 歳（18.3%）で 2 割弱、女性 30～39 歳（14.6%）で 1 割半ばと多くなっている。

図表 2-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着

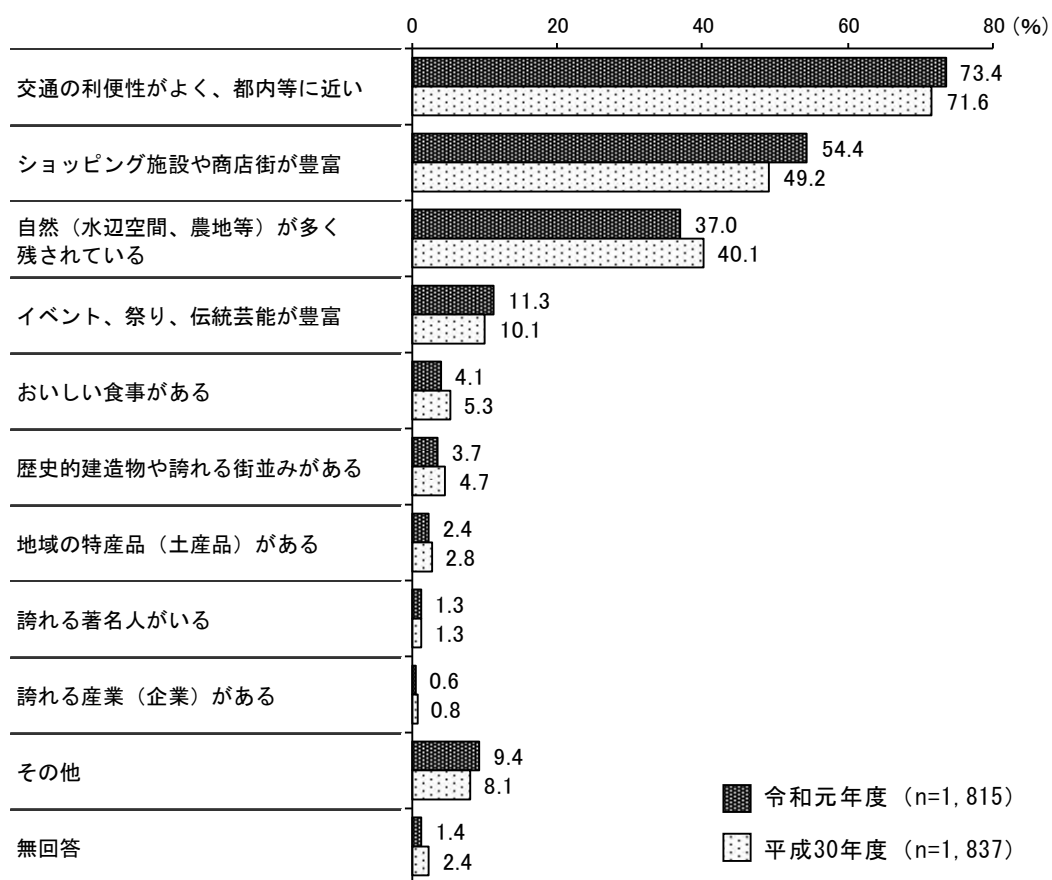


(2) 愛着がある理由

◇「交通の利便性がよく、都内等に近い」が最も多く、7割強

問12-2. 問12で「1」から「3」（愛着がある）と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
（複数回答可）

図表2-2-1 愛着がある理由



越谷市に対して『愛着がある』と回答した1,815人に、愛着がある理由を聞いたところ、「交通の利便性がよく、都内等に近い」(73.4%)が最も多く、次いで、「ショッピング施設や商店街が豊富」(54.4%)、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」(37.0%)、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」(11.3%)、「おいしい食事がある」(4.1%)の順となっている。また、「その他」として「友人・知人が多い」「子育てがしやすい」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「ショッピング施設や商店街が豊富」(54.4%)は平成30年調査(49.2%)と比べ5.2ポイント増加している。一方、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」(37.0%)は平成30年調査(40.1%)と比べ3.1ポイント減少している。

性別でみると、「ショッピング施設や商店街が豊富」は女性（58.0%）が男性（51.4%）より6.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「交通の利便性がよく、都内等に近い」は女性50～59歳（83.1%）で8割強と多くなっている。「ショッピング施設や商店街が豊富」は男性30～39歳（70.4%）、女性30～39歳（69.6%）、女性40～49歳（69.2%）で約7割と多くなっている。「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は男性70歳以上（44.7%）、女性50～59歳（44.6%）、女性70歳以上（44.0%）で4割半ばと多くなっている。

図表2-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

(%)

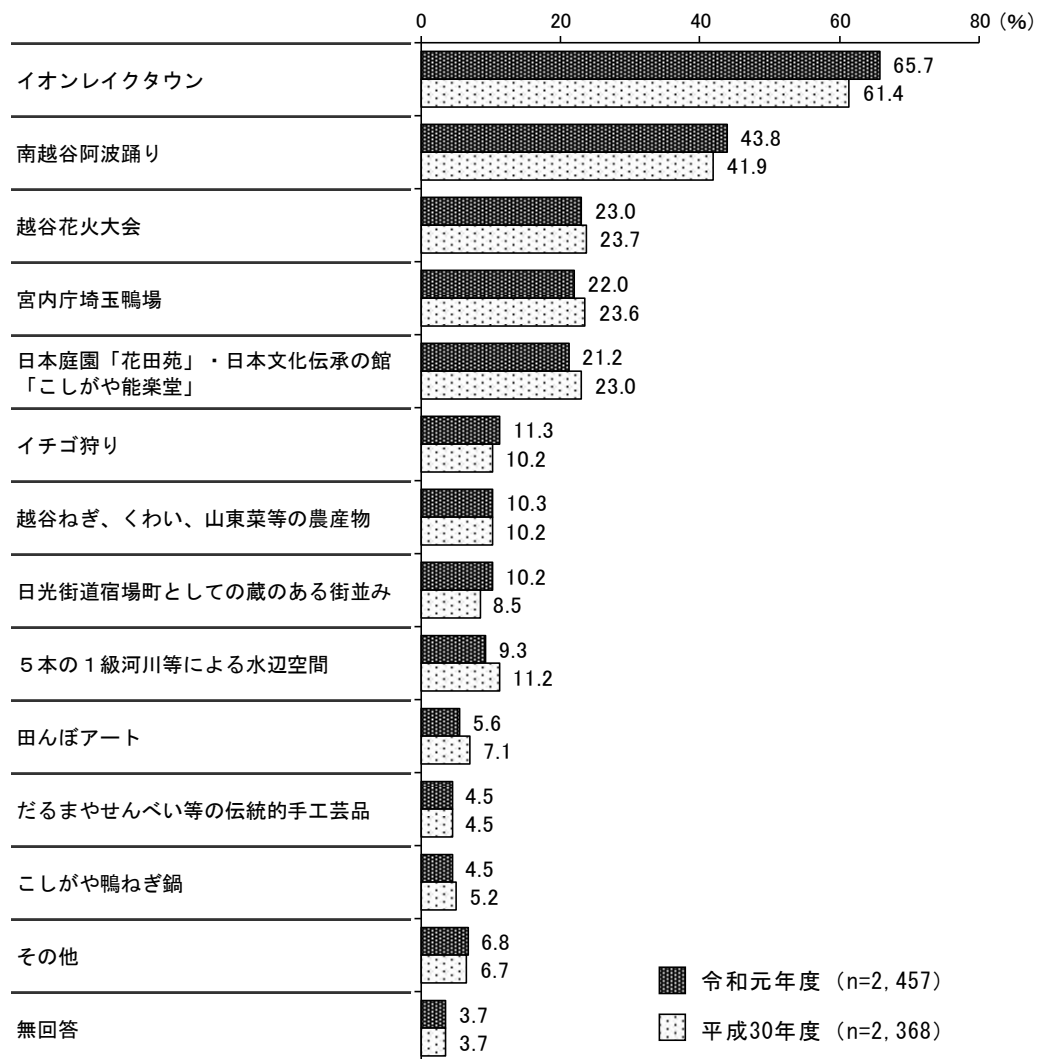
	調査数（人）	交通の利便性がよく、都内等に近い	自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	ショッピング施設や商店街が豊富	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	歴史的建造物や誇れる街並みがある	おいしい食事がある	地域の特産品（土産品）がある	誇れる産業（企業）がある	誇れる著名人がいる	その他	無回答
全 体	1,815	73.4	37.0	54.4	11.3	3.7	4.1	2.4	0.6	1.3	9.4	1.4
女性全体	948	75.8	38.5	58.0	11.7	4.9	3.8	2.2	0.7	1.3	8.6	1.1
18～29歳	80	73.8	20.0	65.0	13.8	1.3	5.0	—	1.3	—	16.3	—
30～39歳	138	68.8	42.0	69.6	18.1	1.4	8.0	1.4	0.7	0.7	14.5	—
40～49歳	172	76.2	27.9	69.2	15.7	3.5	1.7	3.5	—	1.7	10.5	—
50～59歳	148	83.1	44.6	61.5	12.2	4.7	3.4	3.4	0.7	3.4	6.1	—
60～69歳	154	75.3	42.9	53.9	9.1	6.5	3.9	0.6	1.9	0.6	6.5	0.6
70歳以上	250	76.4	44.0	42.8	6.4	8.0	2.8	2.8	0.4	0.8	4.4	3.6
男性全体	782	72.3	36.7	51.4	11.3	2.8	4.6	2.3	0.5	1.3	9.8	1.4
18～29歳	85	69.4	16.5	60.0	11.8	—	7.1	1.2	1.2	4.7	10.6	4.7
30～39歳	81	60.5	35.8	70.4	17.3	7.4	14.8	2.5	—	1.2	13.6	—
40～49歳	133	73.7	32.3	52.6	16.5	3.8	3.8	1.5	0.8	1.5	11.3	1.5
50～59歳	111	70.3	37.8	49.5	8.1	2.7	3.6	2.7	—	—	12.6	0.9
60～69歳	135	74.8	39.3	51.9	7.4	2.2	1.5	3.0	1.5	—	11.1	—
70歳以上	235	75.7	44.7	42.1	9.8	2.1	3.0	2.6	—	1.3	5.5	1.7

(3) 越谷市の誇れるもの

◇「イオンレイクタウン」が最も多く、6割半ば

問13. 皆さんに伺います。越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

図表2-3-1 越谷市の誇れるもの



越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」(65.7%)が最も多く、次いで、「南越谷阿波踊り」(43.8%)、「越谷花火大会」(23.0%)、「宮内庁埼玉鴨場」(22.0%)、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」(21.2%)の順となっている。また、「その他」として「自然」「ガーヤちゃん」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「イオンレイクタウン」(65.7%)は平成30年調査(61.4%)と比べ4.3ポイント増加している。

性別でみると、「イオンレイクタウン」は女性（68.9%）が男性（64.9%）より4.0ポイント、「越谷花火大会」は女性（25.7%）が男性（19.7%）より6.0ポイント、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」は女性（25.8%）が男性（15.6%）より10.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「イオンレイクタウン」は女性18～29歳（89.3%）で約9割、男性18～29歳（88.1%）で9割弱、女性30～39歳（84.2%）で8割半ば、男性30～39歳（80.9%）、女性40～49歳（80.6%）で約8割と多くなっている。「南越谷阿波踊り」は女性30～39歳（50.9%）で約5割と多くなっている。「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」は女性70歳以上（35.8%）で3割半ば、女性60～69歳（32.3%）で3割強と多くなっている。

図表2-3-2 性・年齢別 越谷市の誇れるもの

(%)

	調査数（人）	イオンレイクタウン	田んぼアート	越谷花火大会	南越谷阿波踊り	間5本の1級河川等による水辺空間	イチゴ狩り	農産物	越谷ねぎ、くわい、山東菜等の	伝承の館「こしがや能楽堂」	日本庭園「花田苑」・日本文化	日光街道宿場町としての蔵のある街並み	工芸品	だるまやせんべい等の伝統的手	こしがや鴨ねぎ鍋	宮内庁埼玉鴨場	その他	無回答
全 体	2,457	65.7	5.6	23.0	43.8	9.3	11.3	10.3	21.2	10.2	4.5	4.5	22.0	6.8	3.7			
女性全体	1,278	68.9	7.1	25.7	44.7	7.8	13.1	10.7	25.8	11.8	4.9	5.0	23.6	4.6	3.6			
18～29歳	103	89.3	1.9	25.2	43.7	—	16.5	7.8	10.7	5.8	1.9	7.8	2.9	4.9	1.0			
30～39歳	171	84.2	6.4	29.8	50.9	2.9	26.3	4.7	17.0	3.5	5.3	4.7	12.9	4.7	2.9			
40～49歳	227	80.6	7.0	24.2	44.1	1.8	14.5	11.9	17.6	8.8	4.4	6.2	22.0	4.8	1.8			
50～59歳	204	74.0	6.9	24.5	43.6	4.4	11.8	12.3	26.0	13.2	5.9	7.8	27.0	4.4	4.4			
60～69歳	235	63.4	9.4	27.7	44.3	8.5	10.6	11.5	32.3	14.0	3.8	2.1	29.4	5.5	1.3			
70歳以上	332	47.3	7.5	24.4	43.1	18.4	6.6	12.3	35.8	17.5	5.7	3.9	30.4	3.9	7.2			
男性全体	1,038	64.9	4.0	19.7	42.9	11.0	9.5	10.1	15.6	8.6	4.0	4.1	19.7	9.2	3.4			
18～29歳	109	88.1	3.7	14.7	28.4	1.8	8.3	14.7	5.5	3.7	6.4	6.4	9.2	7.3	2.8			
30～39歳	115	80.9	4.3	21.7	40.9	8.7	20.9	7.8	9.6	8.7	3.5	7.0	12.2	7.8	2.6			
40～49歳	173	69.4	3.5	17.9	43.9	5.8	12.7	10.4	11.6	6.4	4.0	5.8	22.0	7.5	1.7			
50～59歳	150	68.7	2.0	19.3	43.3	7.3	6.7	12.7	9.3	10.7	1.3	0.7	17.3	6.7	4.0			
60～69歳	182	63.7	3.8	20.3	47.8	13.7	12.1	9.3	17.6	7.1	2.7	4.4	26.9	12.1	3.8			
70歳以上	305	47.2	5.6	21.6	45.2	18.4	3.9	8.5	25.9	11.5	5.2	3.0	22.3	10.5	4.3			

3. 越谷市の伝統的手工芸品について

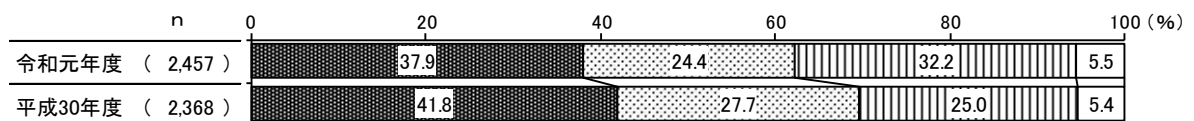
(1) 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

◇認知度は「越谷だるま」が7割弱、購入経験は「越谷手焼きせんべい」が4割弱

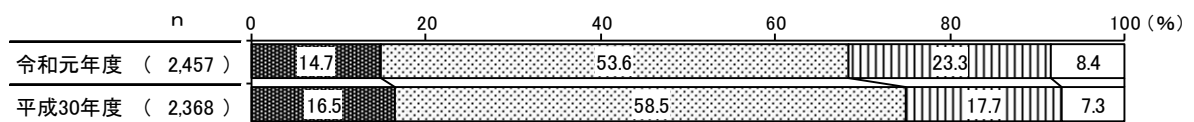
問14. 越谷市には以下のような伝統的手工芸品があることを知っていますか。また、以下の伝統的手工芸品のうち、買ったことがあるものはありますか。(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)

図表3-1-1 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

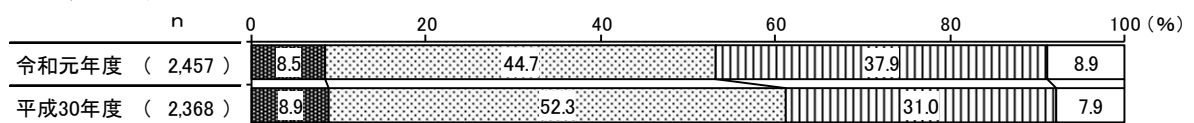
ア 越谷手焼きせんべい



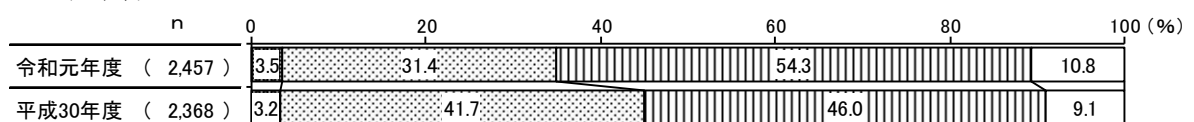
イ 越谷だるま



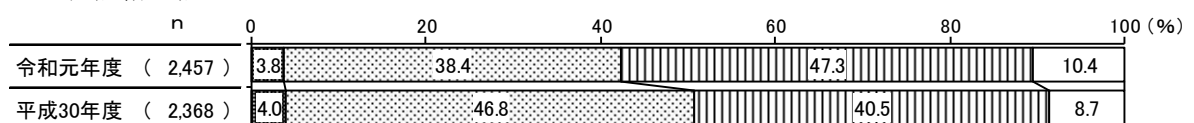
ウ 越谷ひな人形



エ 越谷甲冑



オ 越谷桐箱・桐工芸品



■ 買ったことがある □ 知っているが買ったことはない □ 知らない □ 無回答

越谷市の伝統的手工芸品について、「買ったことがある」と、「知っているが買ったことはない」を合わせた『知っている』では、「イ 越谷だるま」(68.3%)が7割弱と最も多く、次いで、「ア 越谷手焼きせんべい」(62.3%)、「ウ 越谷ひな人形」(53.2%)の順となっている。また、「買ったことがある」では、「ア 越谷手焼きせんべい」(37.9%)が4割弱と最も多く、次いで、「イ 越谷だるま」(14.7%)、「ウ 越谷ひな人形」(8.5%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「買ったことがある」は、「ア 越谷手焼きせんべい」(37.9%)が平成30年調査(41.8%)と比べ3.9ポイント減少している。

性・年齢別でみると、「ア 越谷手焼きせんべい」では「買ったことがある」は女性 70 歳以上 (59.0%) で約 6 割、女性 60～69 歳 (53.6%) で 5 割強、男性 70 歳以上 (51.5%) で約 5 割、男性 60～69 歳 (45.1%) で 4 割半ばと多くなっている。

「イ 越谷だるま」では「買ったことがある」は女性 40～49 歳 (19.4%) で約 2 割と多くなっている。

「ウ 越谷ひな人形」では「買ったことがある」は女性 70 歳以上 (17.8%) で 2 割弱、男性 60～69 歳 (15.4%) で 1 割半ばと多くなっている。

「エ 越谷甲冑」では「買ったことがある」は女性 70 歳以上 (7.8%) で 1 割弱となっている。

「オ 越谷桐箱・桐工芸品」では「買ったことがある」は女性 60～69 歳 (8.5%)、男性 60～69 歳 (7.7%) で 1 割弱となっている。

図表 3-1-2 性・年齢別 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

(%)

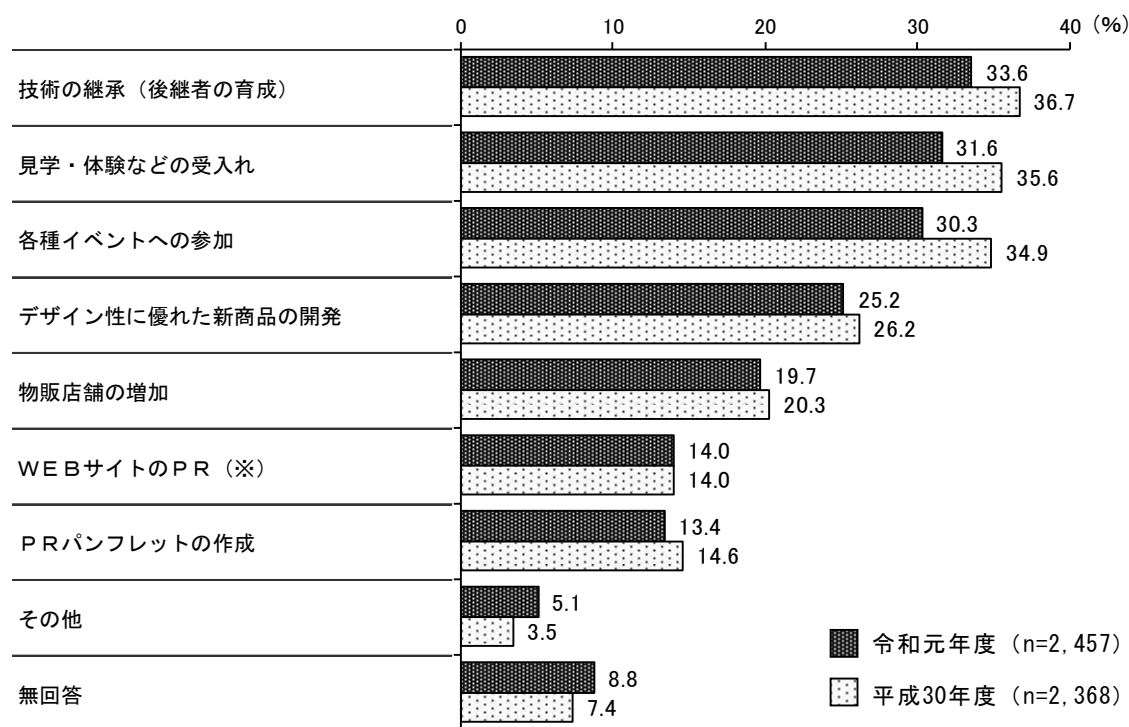
	調査数(人)	ア 越谷手焼きせんべい					イ 越谷だるま					ウ 越谷ひな人形					エ 越谷甲冑					オ 越谷桐箱・桐工芸品				
		買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答		買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答		買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答		買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答		買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	
全 体	2,457	37.9	24.4	32.2	5.5	14.7	53.6	23.3	8.4	8.5	44.7	37.9	8.9	3.5	31.4	54.3	10.8	3.8	38.4	47.3	10.4					
女性全体	1,278	40.4	25.7	30.0	3.8	15.6	55.4	21.5	7.4	8.6	46.6	37.0	7.8	3.5	32.0	55.2	9.3	4.0	38.1	48.5	9.4					
18～29歳	103	13.6	33.0	53.4	-	11.7	53.4	35.0	-	1.0	41.7	57.3	-	-	18.4	81.6	-	-	19.4	80.6	-					
30～39歳	171	17.5	27.5	55.0	-	7.0	47.4	45.6	-	1.8	35.1	63.2	-	-	18.7	80.7	0.6	0.6	21.1	77.8	0.6					
40～49歳	227	31.3	34.4	34.4	-	19.4	56.8	23.8	-	4.4	49.3	44.9	1.3	1.8	32.6	64.3	1.3	2.2	33.5	63.0	1.3					
50～59歳	204	37.7	24.5	36.3	1.5	17.6	61.3	19.1	2.0	3.4	52.9	40.2	3.4	1.5	30.9	64.2	3.4	1.5	34.3	61.3	2.9					
60～69歳	235	53.6	21.7	20.9	3.8	17.4	61.3	15.3	6.0	12.3	53.2	27.7	6.8	5.1	39.6	46.8	8.5	8.5	49.8	33.6	8.1					
70歳以上	332	59.0	20.2	9.6	11.1	16.3	51.2	9.3	23.2	17.8	43.4	16.6	22.3	7.8	38.0	27.7	26.5	6.6	49.7	16.3	27.4					
男性全体	1,038	34.6	23.4	36.4	5.6	13.4	53.2	26.1	7.3	8.0	42.9	40.6	8.6	3.2	31.6	55.0	10.2	3.4	39.6	47.6	9.4					
18～29歳	109	21.1	26.6	52.3	-	9.2	56.0	33.9	0.9	2.8	48.6	47.7	0.9	0.9	28.4	69.7	0.9	0.9	36.7	61.5	0.9					
30～39歳	115	11.3	22.6	66.1	-	5.2	33.9	60.9	-	1.7	29.6	68.7	-	-	18.3	81.7	-	-	20.9	79.1	-					
40～49歳	173	26.6	22.0	49.7	1.7	14.5	61.3	22.5	1.7	2.3	43.4	51.4	2.9	0.6	28.3	68.2	2.9	1.7	35.3	59.5	3.5					
50～59歳	150	24.7	24.7	46.7	4.0	12.0	56.0	28.7	3.3	3.3	43.3	49.3	4.0	2.0	33.3	60.7	4.0	2.7	40.7	53.3	3.3					
60～69歳	182	45.1	27.5	23.6	3.8	15.9	59.3	19.8	4.9	15.4	48.4	30.8	5.5	4.9	41.2	46.7	7.1	7.7	44.5	41.8	6.0					
70歳以上	305	51.5	20.3	14.4	13.8	16.7	49.5	14.8	19.0	13.4	42.0	22.6	22.0	6.2	33.1	34.1	26.6	4.3	46.6	24.6	24.6					

(2) 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み

◇「技術の継承（後継者の育成）」が最も多く、3割強

問15. 今後、越谷市の伝統的手工芸品についてどのような取組みを期待しますか。（複数回答可）

図表3-2-1 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み



※平成28年度調査の選択肢は「WEBサイトの開設」

越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組みについては、「技術の継承（後継者の育成）」（33.6%）が最も多く、次いで、「見学・体験などの受入れ」（31.6%）、「各種イベントへの参加」（30.3%）、「デザイン性に優れた新商品の開発」（25.2%）、「物販店舗の増加」（19.7%）の順となっている。また、「その他」として「オンラインストア」「ふるさと納税の返礼品」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「各種イベントへの参加」（30.3%）は平成30年調査（34.9%）と比べ4.6ポイント、「見学・体験などの受入れ」（31.6%）は平成30年調査（35.6%）と比べ4.0ポイント、「技術の継承（後継者の育成）」（33.6%）は平成30年調査（36.7%）と比べ3.1ポイント、それぞれ減少している。

性別でみると、「見学・体験などの受入れ」は女性（38.2%）が男性（24.8%）より13.4ポイント、「デザイン性に優れた新商品の開発」は女性（29.7%）が男性（20.9%）より8.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「PRパンフレットの作成」は男性（16.3%）が女性（11.6%）より4.7ポイント、「WEBサイトのPR」は男性（16.8%）が女性（12.8%）より4.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「見学・体験などの受入れ」は女性40～49歳（51.1%）で約5割、女性30～39歳（43.3%）で4割強と多くなっている。「デザイン性に優れた新商品の開発」は女性18～29歳（39.8%）、女性30～39歳、女性40～49歳（ともに39.2%）で約4割と多くなっている。

図表3-2-2 性・年齢別 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み

(%)

	調査数（人）	各種イベントへの参加	見学・体験などの受入れ	PRパンフレットの作成	WEBサイトのPR	技術の継承（後継者の育成）	デザイン性に優れた新商品の開発	物販店舗の増加	その他	無回答
全 体	2,457	30.3	31.6	13.4	14.0	33.6	25.2	19.7	5.1	8.8
女性全体	1,278	32.6	38.2	11.6	12.8	32.7	29.7	20.7	4.1	7.7
18～29歳	103	32.0	37.9	7.8	18.4	23.3	39.8	16.5	6.8	1.0
30～39歳	171	38.6	43.3	7.0	18.1	27.5	39.2	21.6	6.4	1.8
40～49歳	227	38.3	51.1	8.8	14.5	36.1	39.2	19.8	2.6	2.2
50～59歳	204	37.7	38.7	14.7	18.6	35.8	28.9	21.1	3.4	4.9
60～69歳	235	29.8	36.2	13.2	10.2	34.9	26.4	20.9	3.4	8.5
70歳以上	332	24.7	28.3	13.9	5.1	32.8	18.1	21.7	4.2	18.1
男性全体	1,038	28.5	24.8	16.3	16.8	35.8	20.9	18.9	6.2	7.4
18～29歳	109	28.4	22.0	10.1	25.7	34.9	28.4	15.6	7.3	1.8
30～39歳	115	35.7	23.5	7.0	18.3	24.3	28.7	19.1	4.3	7.8
40～49歳	173	31.2	30.1	13.9	19.7	39.9	20.2	17.3	5.8	2.9
50～59歳	150	25.3	20.0	16.7	18.0	38.0	18.0	18.7	4.0	10.7
60～69歳	182	30.8	24.7	16.5	16.5	36.3	22.5	22.5	9.3	4.4
70歳以上	305	24.3	25.2	23.3	11.1	36.7	16.1	18.7	5.9	12.1

4. 市内の公共交通について

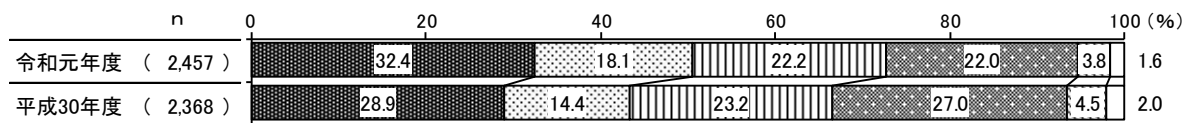
(1) 公共交通の利用有無

◇鉄道は「常に利用」が3割強、バスは「全く利用しない」が3割半ば、タクシーは「全く利用しない」と「たまに利用」が約4割

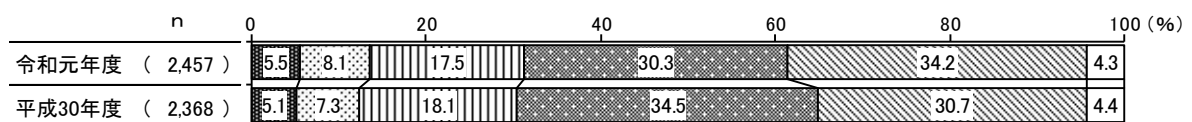
問16. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）を利用していますか。
（それぞれ○は1つずつ）

図表4-1-1 公共交通の利用有無

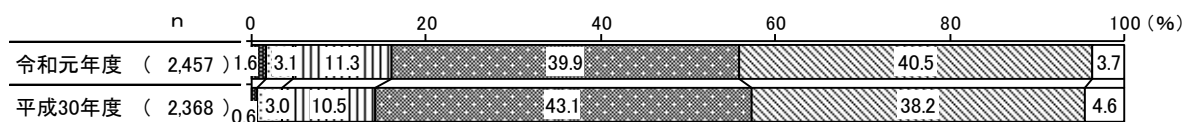
鉄道



バス



タクシー



■常に利用している □よく利用している □ときどき利用している ■たまに利用している ▨全く利用しない □無回答

鉄道の利用については、「常に利用している」(32.4%) が最も多く、次いで、「ときどき利用している」(22.2%)、「たまに利用している」(22.0%)、「よく利用している」(18.1%)、「全く利用しない」(3.8%)の順となっている。

バスの利用については、「全く利用しない」(34.2%) が最も多く、次いで、「たまに利用している」(30.3%)、「ときどき利用している」(17.5%)、「よく利用している」(8.1%)、「常に利用している」(5.5%)の順となっている。

タクシーの利用については、「全く利用しない」(40.5%) が最も多く、次いで、「たまに利用している」(39.9%)、「ときどき利用している」(11.3%)、「よく利用している」(3.1%)、「常に利用している」(1.6%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「常に利用している」は「鉄道」(32.4%) が平成30年調査(28.9%)と比べ3.5ポイント増加している。

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性（40.4%）が女性（26.5%）より13.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は女性18～29歳（62.1%）で6割強、男性18～29歳（59.6%）で約6割、男性50～59歳（57.3%）で6割弱、男性30～39歳（56.5%）で5割半ばと多くなっている。

バスの利用について性別でみると、「全く利用しない」は男性（38.7%）が女性（30.8%）より7.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「全く利用しない」は男性18～29歳（54.1%）で5割半ば、男性40～49歳（45.7%）、男性30～39歳（45.2%）で4割半ばと多くなっている。

タクシーの利用について性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、「たまに利用している」は女性60～69歳（48.5%）、女性30～39歳（47.4%）で5割弱と多くなっている。

図表4-1-2 性・年齢別 公共交通の利用有無

(%)																			
	調査数（人）	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全 体	2,457	32.4	18.1	22.2	22.0	3.8	1.6	5.5	8.1	17.5	30.3	34.2	4.3	1.6	3.1	11.3	39.9	40.5	3.7
女性全体	1,278	26.5	20.0	26.1	22.4	4.0	1.0	5.6	9.3	19.2	31.7	30.8	3.3	1.4	2.7	11.5	41.0	40.3	3.1
18～29歳	103	62.1	13.6	9.7	12.6	1.9	—	10.7	6.8	12.6	33.0	34.0	2.9	1.0	1.9	11.7	35.0	48.5	1.9
30～39歳	171	36.3	10.5	21.1	26.9	5.3	—	4.7	7.0	14.6	36.8	36.8	—	0.6	1.8	5.8	47.4	44.4	—
40～49歳	227	24.7	18.1	31.3	23.3	2.6	—	3.1	7.9	18.5	36.1	32.6	1.8	0.9	1.3	8.4	36.1	50.7	2.6
50～59歳	204	20.6	23.5	27.9	26.5	1.5	—	3.4	7.4	19.6	35.3	31.9	2.5	—	1.5	8.8	37.7	49.0	2.9
60～69歳	235	21.7	23.4	29.8	21.7	2.6	0.9	6.4	9.4	22.1	28.5	30.2	3.4	0.9	0.4	12.8	48.5	34.5	3.0
70歳以上	332	18.1	24.1	26.8	20.2	7.5	3.3	6.9	13.6	22.3	25.6	25.0	6.6	3.6	6.6	17.2	39.8	27.1	5.7
男性全体	1,038	40.4	15.9	17.5	21.7	3.2	1.3	5.4	6.5	15.9	28.8	38.7	4.7	1.5	3.4	10.1	38.6	42.3	4.0
18～29歳	109	59.6	14.7	11.9	11.0	1.8	0.9	2.8	2.8	16.5	17.4	54.1	6.4	—	1.8	3.7	28.4	60.6	5.5
30～39歳	115	56.5	17.4	8.7	16.5	0.9	—	6.1	7.8	19.1	20.9	45.2	0.9	0.9	1.7	7.0	40.0	49.6	0.9
40～49歳	173	48.0	13.3	14.5	19.7	4.6	—	2.9	6.4	12.7	31.2	45.7	1.2	0.6	1.7	9.2	37.6	49.1	1.7
50～59歳	150	57.3	7.3	11.3	22.7	0.7	0.7	6.7	4.0	15.3	33.3	38.0	2.7	—	4.0	10.7	38.0	44.0	3.3
60～69歳	182	34.6	12.6	22.0	25.3	4.4	1.1	6.6	6.6	17.0	28.0	36.3	5.5	0.5	3.3	9.9	45.1	37.4	3.8
70歳以上	305	18.4	23.3	24.9	25.9	4.3	3.3	6.2	8.5	15.7	32.5	28.9	8.2	4.3	5.2	14.1	38.4	31.5	6.6

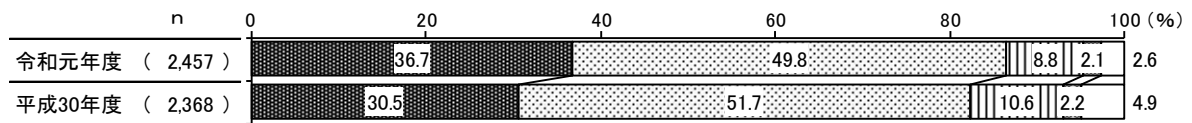
(2) 公共交通の満足度

◇『満足』は鉄道が8割半ば、バスが5割強、タクシーが約6割

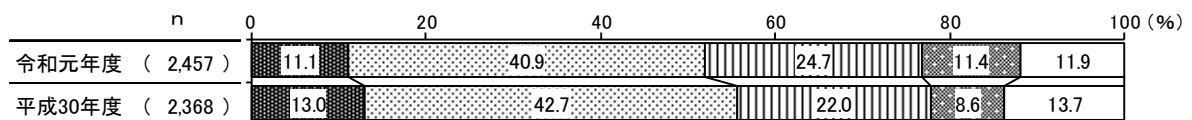
問17. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。
（それぞれ○は1つつつ）

図表4-2-1 公共交通の満足度

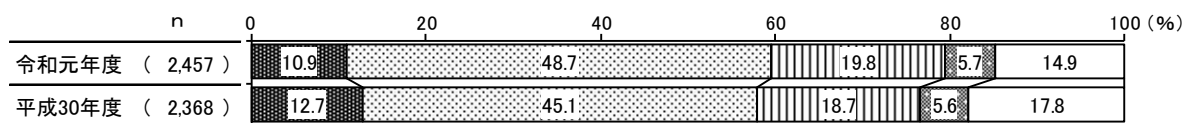
鉄道



バス



タクシー



■とても満足している □やや満足している □やや不満である ■とても不満である □無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(36.7%)と「やや満足している」(49.8%)を合わせた『満足』(86.5%)は8割半ばとなっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(11.1%)と「やや満足している」(40.9%)を合わせた『満足』(52.0%)は5割強となっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(10.9%)と「やや満足している」(48.7%)を合わせた『満足』(59.6%)は約6割となっている。

前回の調査と比較すると、「とても満足している」では「鉄道」(36.7%)が平成30年調査(30.5%)と比べ6.2ポイント増加している。

鉄道の満足度について性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は男性70歳以上（91.1%）、女性60～69歳（91.0%）、女性40～49歳（89.4%）、男性60～69歳（89.0%）で約9割と多くなっている。

バスの満足度について性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は女性18～29歳（60.2%）、男性60～69歳（59.3%）で約6割と多くなっている。

タクシーの満足度について性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は男性40～49歳（65.3%）、女性18～29歳（65.1%）、男性70歳以上（64.6%）、男性18～29歳（64.2%）で6割半ばと多くなっている。

図表4-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

(%)

	調査数（人）	鉄道					バス					タクシー				
		とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全 体	2,457	36.7	49.8	8.8	2.1	2.6	11.1	40.9	24.7	11.4	11.9	10.9	48.7	19.8	5.7	14.9
女性全体	1,278	35.7	51.5	8.8	1.6	2.4	11.3	41.2	25.2	11.7	10.6	10.3	49.5	19.3	5.4	15.4
18～29歳	103	25.2	51.5	20.4	2.9	—	9.7	50.5	19.4	7.8	12.6	10.7	54.4	20.4	3.9	10.7
30～39歳	171	27.5	56.1	12.3	2.9	1.2	5.3	41.5	37.4	11.1	4.7	7.0	55.6	24.0	5.3	8.2
40～49歳	227	33.0	56.4	9.7	0.9	—	11.0	43.2	28.6	10.1	7.0	9.3	50.7	21.6	7.5	11.0
50～59歳	204	36.8	51.5	9.3	2.0	0.5	5.9	45.6	29.4	11.8	7.4	5.9	49.5	23.5	8.8	12.3
60～69歳	235	40.4	50.6	6.8	1.3	0.9	14.9	34.5	22.6	15.7	12.3	8.1	48.9	20.9	4.7	17.4
70歳以上	332	41.0	46.4	3.6	1.2	7.8	15.7	39.2	17.5	11.4	16.3	17.2	44.0	11.4	3.0	24.4
男性全体	1,038	38.3	48.3	9.0	2.5	1.9	10.9	41.8	24.4	11.0	11.9	10.7	49.0	20.3	6.0	14.0
18～29歳	109	31.2	53.2	11.9	2.8	0.9	19.3	32.1	25.7	10.1	12.8	12.8	51.4	17.4	5.5	12.8
30～39歳	115	29.6	50.4	11.3	8.7	—	9.6	42.6	27.0	13.9	7.0	13.0	40.0	26.1	9.6	11.3
40～49歳	173	31.8	53.2	12.1	2.3	0.6	8.1	45.7	26.6	11.0	8.7	8.7	56.6	20.2	6.4	8.1
50～59歳	150	40.7	42.7	13.3	2.0	1.3	6.7	41.3	26.0	13.3	12.7	7.3	42.7	26.0	8.0	16.0
60～69歳	182	43.4	45.6	7.1	1.1	2.7	11.5	47.8	21.4	9.3	9.9	9.3	47.3	25.3	6.6	11.5
70歳以上	305	43.9	47.2	3.9	1.3	3.6	11.8	39.3	22.6	9.8	16.4	12.8	51.8	13.1	3.0	19.3

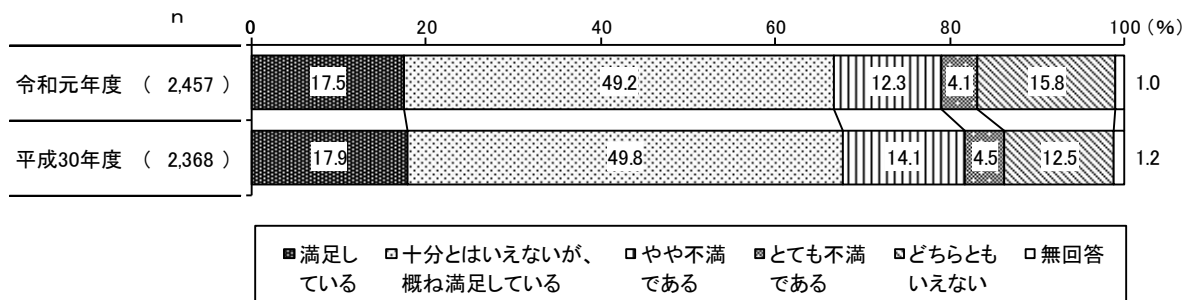
5. 景観（風景）について

（1）景観（風景）の満足度

◇『満足』が6割半ば

問18. あなたは、お住まいの地区の景観（風景）に満足していますか。（○は1つ）

図表5－1－1 景観（風景）の満足度



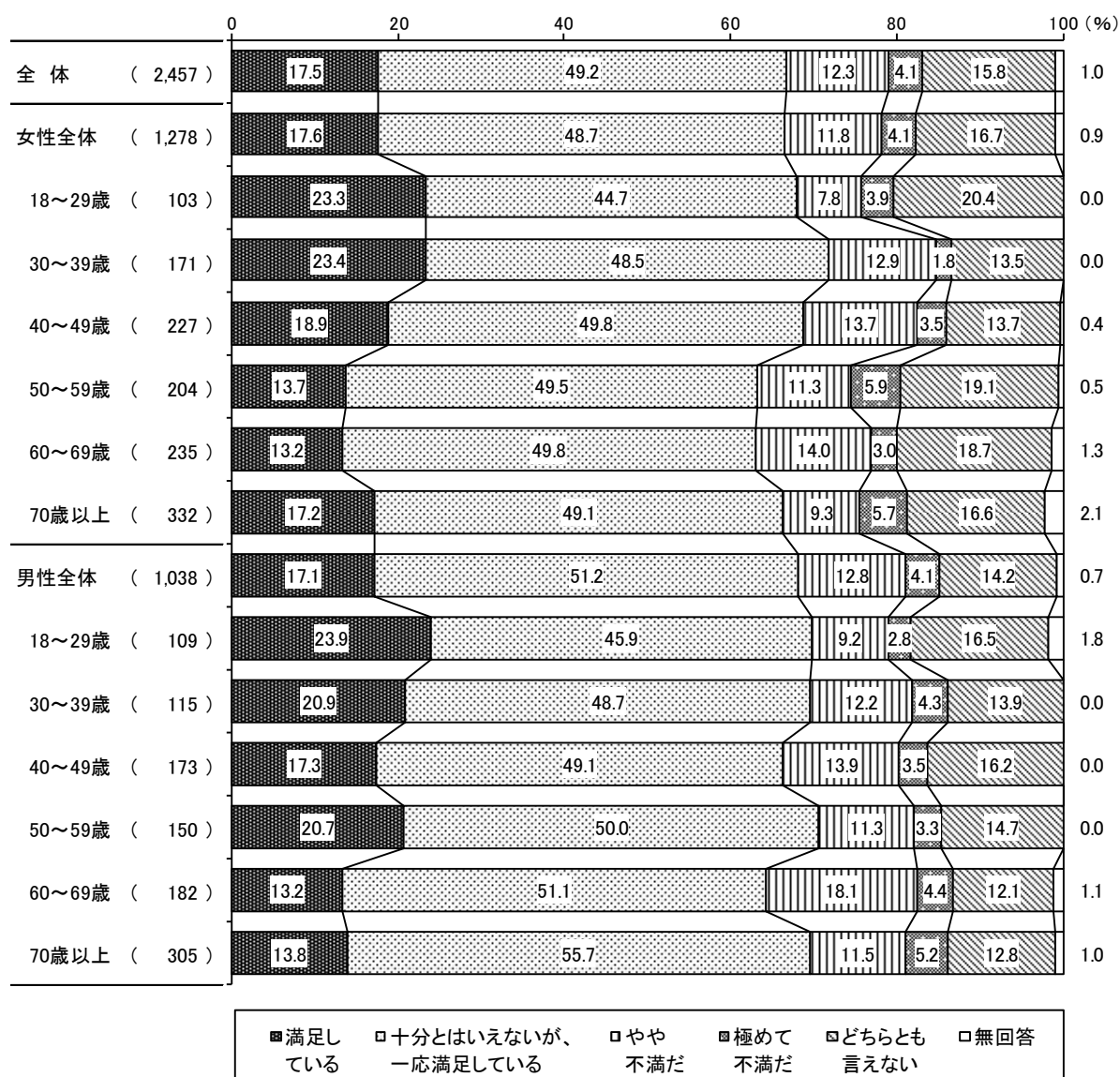
住まいの地区の景観（風景）の満足度については、「満足している」（17.5%）と「十分とはいえないが、概ね満足している」（49.2%）を合わせた『満足』（66.7%）は6割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、大きな差異はみられない。

図表5-1-2 性・年齢別 景観（風景）の満足度



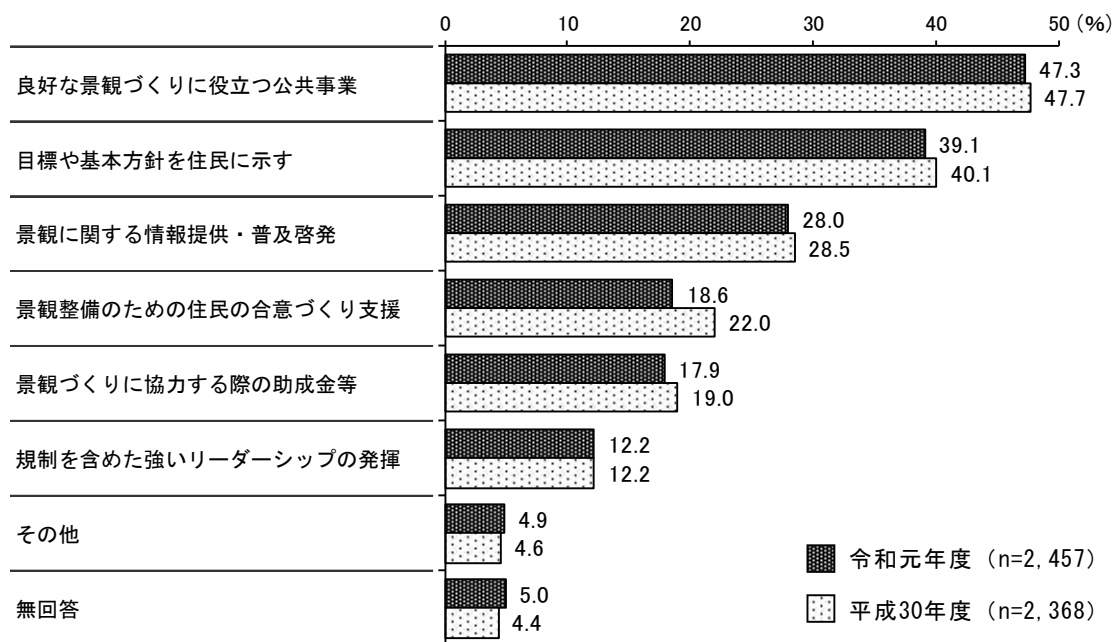
(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、5割弱

問19. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。

(○は3つまで)

図表5-2-1 行政に望むこと



良い景観（風景）のまちをつくるため、行政に望むことについては、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（47.3%）が最も多く、次いで、「目標や基本方針を住民に示す」（39.1%）、「景観に関する情報提供・普及啓発」（28.0%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」（18.6%）、「景観づくりに協力する際の助成金等」（17.9%）の順となっている。また、「その他」として「電線、道路整備」「空き家対策」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「景観整備のための住民の合意づくり支援」（18.6%）は平成30年調査（22.0%）と比べ3.4ポイント減少している。

性別でみると、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性（17.3%）が女性（8.5%）より8.8ポイント、「景観整備のための住民の合意づくり支援」は男性（20.6%）が女性（16.9%）より3.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は男性18～29歳（62.4%）で6割強、女性30～39歳（56.1%）で5割半ばと多くなっている。

図表5-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

(%)

	調査数（人）	目標や基本方針を住民に示す	良好な景観づくりに役立つ公共事業	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	景観に関する情報提供・普及啓発	景観づくりに協力する際の助成金等	景観整備のための住民の合意づくり支援	その他	無回答
全 体	2,457	39.1	47.3	12.2	28.0	17.9	18.6	4.9	5.0
女性全体	1,278	39.6	46.9	8.5	28.6	18.2	16.9	4.5	5.5
18～29歳	103	40.8	48.5	3.9	19.4	14.6	12.6	5.8	1.9
30～39歳	171	38.0	56.1	8.8	29.2	22.2	16.4	2.3	1.8
40～49歳	227	37.0	53.3	7.9	28.6	21.1	12.8	5.3	1.8
50～59歳	204	40.7	45.6	9.8	34.3	20.1	17.2	3.9	3.9
60～69歳	235	43.8	47.7	8.1	34.0	20.4	17.9	4.3	3.8
70歳以上	332	38.0	37.3	9.6	24.1	12.7	20.8	5.1	13.3
男性全体	1,038	38.7	49.1	17.3	27.4	17.6	20.6	5.5	3.2
18～29歳	109	36.7	62.4	11.9	17.4	25.7	13.8	10.1	2.8
30～39歳	115	38.3	46.1	15.7	22.6	24.3	15.7	6.1	6.1
40～49歳	173	40.5	50.9	23.1	27.2	13.3	22.0	6.4	1.2
50～59歳	150	36.7	45.3	19.3	29.3	20.0	15.3	2.0	2.0
60～69歳	182	41.2	50.0	16.5	30.8	22.5	26.4	6.0	1.6
70歳以上	305	38.4	46.2	16.4	29.8	10.5	23.3	4.6	4.9

6. 地域医療体制について

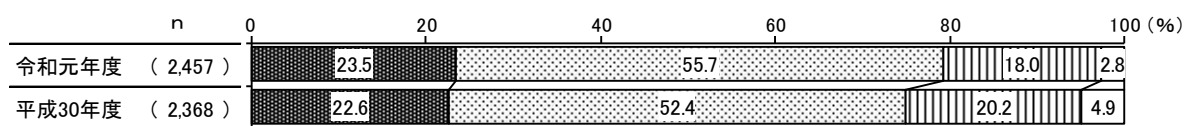
(1) 地域医療体制の認知度

◇認知度は「越谷市夜間急患診療所」が約8割

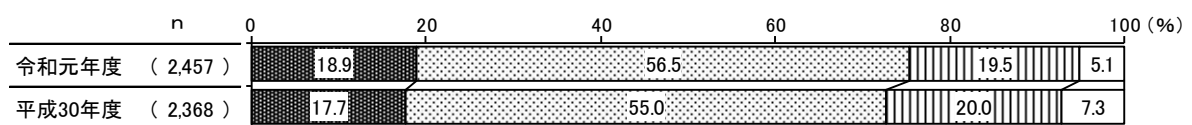
問20. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度・埼玉県救急電話相談（＃７１１９）」を知っていますか。（ア～ウ それぞれ横に○は１つずつ）

図表 6－１－１ 地域医療体制の認知度

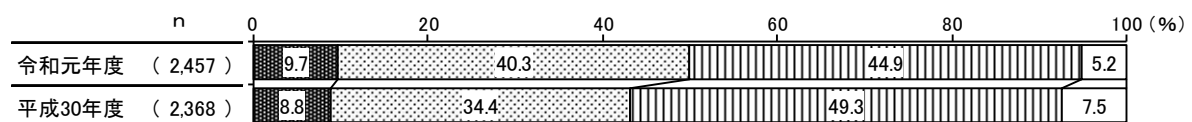
ア 越谷市夜間急患診療所



イ 休日当番医制度



ウ 埼玉県救急電話相談（＃７１１９）



■ 利用したことがある □ 利用したことはないが知っている □ 知らない □ 無回答

地域医療体制の認知度については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「ア 越谷市夜間急患診療所」(79.2%)が約8割と最も多く、次いで、「イ 休日当番医制度」(75.4%)、「ウ 埼玉県救急電話相談（＃７１１９）」(50.0%)となっている。また、「利用したことがある」では、「ア 越谷市夜間急患診療所」(23.5%)が2割強、「イ 休日当番医制度」(18.9%)が2割弱、「ウ 埼玉県救急電話相談（＃７１１９）」(9.7%)が約1割となっている。

前回の調査と比較すると、『知っている』は「ウ 埼玉県救急電話相談（＃７１１９）」(50.0%)が平成30年調査(43.2%)と比べ6.8ポイント、「ア 越谷市夜間急患診療所」(79.2%)が平成30年調査(75.0%)と比べ4.2ポイント、「イ 休日当番医制度」(75.4%)が平成30年調査(72.7%)と比べ2.7ポイント、それぞれ増加している。

「ア 越谷市夜間急患診療所」について性別でみると、『知っている』は女性（84.4％）が男性（73.4％）より 11.0 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性 40～49 歳（92.5％）で 9 割強、女性 50～59 歳（90.7％）、女性 60～69 歳（90.6％）で約 9 割と多くなっている。

「イ 休日当番医制度」について性別でみると、『知っている』は女性（81.2％）が男性（69.7％）より 11.5 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性 50～59 歳（91.2％）、女性 40～49 歳（90.8％）、女性 60～69 歳（89.7％）で約 9 割と多くなっている。

「ウ 埼玉県救急電話相談（＃7119）」について性別でみると、『知っている』は女性（53.6％）が男性（45.6％）より 8.0 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性 40～49 歳（66.1％）で 6 割半ば、女性 30～39 歳（63.1％）で 6 割強と多くなっている。

図表 6－1－2 性・年齢別 地域医療体制の認知度

(％)

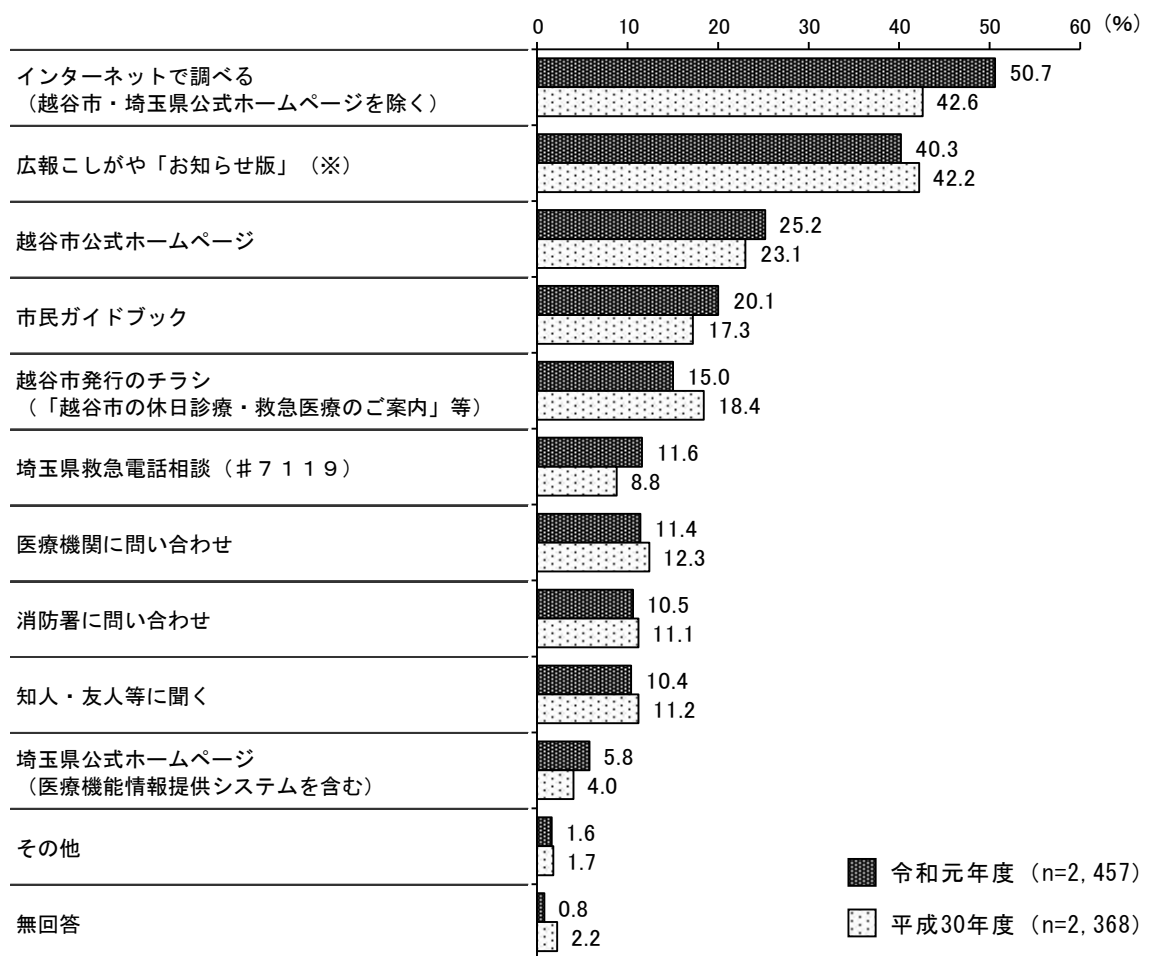
	調査数（人）	ア 越谷市夜間急患診療所				イ 休日当番医制度				ウ 埼玉県救急電話相談（＃7119）			
		利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答
全 体	2,457	23.5	55.7	18.0	2.8	18.9	56.5	19.5	5.1	9.7	40.3	44.9	5.2
女性全体	1,278	25.9	58.5	13.3	2.3	21.7	59.5	14.7	4.1	11.7	41.9	42.0	4.3
18～29歳	103	18.4	40.8	40.8	—	18.4	26.2	55.3	—	8.7	27.2	64.1	—
30～39歳	171	31.0	49.7	19.3	—	25.1	49.1	25.7	—	30.4	32.7	36.3	0.6
40～49歳	227	44.9	47.6	7.5	—	35.7	55.1	9.3	—	22.5	43.6	33.5	0.4
50～59歳	204	28.4	62.3	9.3	—	30.9	60.3	8.8	—	8.3	41.7	49.5	0.5
60～69歳	235	20.4	70.2	8.1	1.3	17.4	72.3	7.7	2.6	3.8	49.4	44.7	2.1
70歳以上	332	14.5	66.3	11.4	7.8	8.4	69.3	8.4	13.9	3.6	44.9	37.3	14.2
男性全体	1,038	21.0	52.4	24.5	2.1	16.0	53.7	26.0	4.3	7.1	38.5	49.7	4.6
18～29歳	109	15.6	25.7	58.7	—	6.4	28.4	65.1	—	7.3	25.7	67.0	—
30～39歳	115	22.6	39.1	38.3	—	13.0	39.1	47.8	—	16.5	25.2	58.3	—
40～49歳	173	32.9	43.9	22.5	0.6	25.4	45.7	27.7	1.2	9.8	38.7	50.3	1.2
50～59歳	150	28.7	47.3	22.7	1.3	24.7	51.3	21.3	2.7	8.0	39.3	50.7	2.0
60～69歳	182	17.0	65.4	16.5	1.1	16.5	67.0	12.6	3.8	4.9	47.3	44.5	3.3
70歳以上	305	14.4	66.2	13.8	5.6	10.8	65.6	13.1	10.5	3.0	43.0	42.0	12.1

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が最も多く、約5割

問21. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。（複数回答可）

図表6-2-1 医療機関の情報の入手方法



※平成30年度調査の選択肢は「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」(50.7%) が最も多く、次いで、「広報こしがや『お知らせ版』」(40.3%)、「越谷市公式ホームページ」(25.2%)、「市民ガイドブック」(20.1%)、「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」(15.0%) の順となっている。また、「その他」として「家族」「新聞」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」(50.7%) は平成30年調査(42.6%) と比べ8.1ポイント増加している。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』」は女性（44.1%）が男性（36.3%）より7.8ポイント、「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」は女性（17.4%）が男性（12.4%）より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は女性18～29歳（87.4%）で9割弱、男性30～39歳（84.3%）で8割半ば、男性18～29歳（81.7%）で約8割と多くなっている。「広報こしがや『お知らせ版』」は女性70歳以上（61.7%）で約6割、女性60～69歳（53.2%）で5割強、女性50～59歳（51.5%）、男性70歳以上（50.5%）で約5割と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は女性40～49歳（45.8%）で4割半ば、男性40～49歳（39.9%）、女性50～59歳（39.2%）で約4割と多くなっている。

図表6-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

（%）

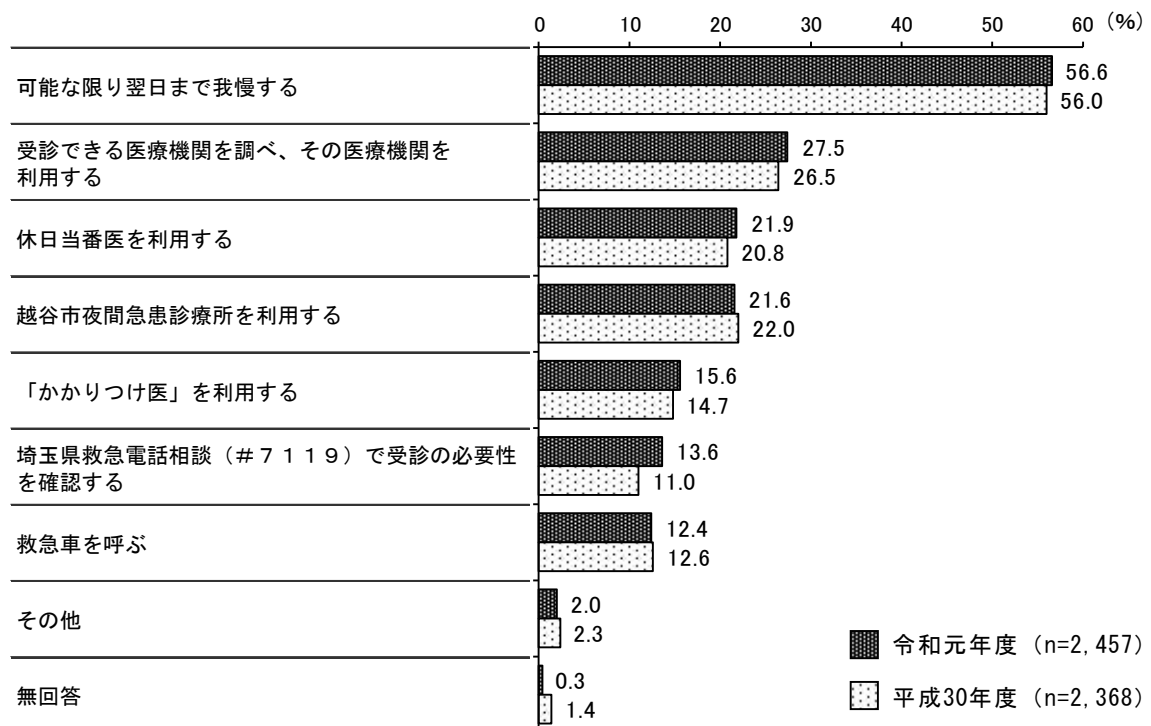
	調査数（人）	広報こしがや「お知らせ版」	市民ガイドブック	越谷市公式ホームページ	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	埼玉県公式ホームページ（医療機関提供システムを含む）	インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）	埼玉県救急電話相談（#7119）	消防署に問い合わせ	医療機関に問い合わせ	知人・友人等に聞く	その他	無回答
全 体	2,457	40.3	20.1	25.2	15.0	5.8	50.7	11.6	10.5	11.4	10.4	1.6	0.8
女性全体	1,278	44.1	18.5	26.6	17.4	6.4	50.6	11.9	8.9	10.4	10.9	1.3	0.5
18～29歳	103	11.7	3.9	27.2	3.9	8.7	87.4	7.8	4.9	8.7	11.7	1.0	—
30～39歳	171	22.2	11.7	36.3	14.0	12.9	78.4	15.8	2.3	7.6	10.5	0.6	—
40～49歳	227	32.6	9.3	45.8	12.8	9.7	69.6	10.1	3.5	5.7	7.5	2.2	—
50～59歳	204	51.5	15.2	39.2	12.3	6.4	63.2	10.3	6.9	14.7	7.8	0.5	—
60～69歳	235	53.2	25.5	19.6	20.9	3.8	37.4	11.1	12.8	12.3	10.2	—	0.4
70歳以上	332	61.7	30.4	5.7	27.1	2.1	13.9	14.2	16.0	11.7	15.7	2.4	1.5
男性全体	1,038	36.3	21.9	25.3	12.4	5.3	52.8	10.9	11.7	12.3	9.7	1.6	0.7
18～29歳	109	13.8	4.6	18.3	4.6	4.6	81.7	5.5	5.5	9.2	13.8	1.8	0.9
30～39歳	115	15.7	5.2	31.3	5.2	9.6	84.3	9.6	7.0	9.6	9.6	0.9	1.7
40～49歳	173	30.6	18.5	39.9	9.2	5.2	67.6	10.4	8.1	10.4	9.2	1.2	—
50～59歳	150	34.0	20.0	30.0	8.0	6.7	70.0	10.0	8.7	13.3	4.7	1.3	—
60～69歳	182	46.2	25.8	25.8	13.7	5.5	42.9	12.1	14.3	13.7	8.8	2.7	1.1
70歳以上	305	50.5	34.1	15.1	21.0	3.3	20.0	13.4	17.4	14.4	11.5	1.6	0.7

(3) 夜間や休日の急病の対応

◇「可能な限り翌日まで我慢する」が最も多く、5割半ば

問22. あなたは、夜間や休日に発熱や腹痛等、比較的軽度と思われる症状になったとき、どのように対応しますか。(複数回答可)

図表6-3-1 夜間や休日の急病の対応



夜間や休日の急病の対応については、「可能な限り翌日まで我慢する」(56.6%) が最も多く、次いで、「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」(27.5%)、「休日当番医を利用する」(21.9%)、「越谷市夜間急患診療所を利用する」(21.6%)、「『かかりつけ医』を利用する」(15.6%) の順となっている。また、「その他」として「市販の薬を飲む」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「可能な限り翌日まで我慢する」は女性（60.7%）が男性（53.5%）より7.2ポイント高くなっている。「『かかりつけ医』を利用する」は男性（17.8%）が女性（13.3%）より4.5ポイント、「救急車を呼ぶ」は男性（13.9%）が女性（9.5%）より4.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「可能な限り翌日まで我慢する」は女性40～49歳（74.4%）で7割半ば、女性18～29歳（71.8%）、男性18～29歳（71.6%）で約7割と多くなっている。「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」は女性30～39歳（38.6%）で4割弱、男性50～59歳（34.7%）で3割半ばと多くなっている。「休日当番医を利用する」は女性50～59歳（32.4%）で3割強と多くなっている。

図表6-3-2 性・年齢別 夜間や休日の急病の対応

	調査数（人）	「かかりつけ医」を利用する	休日当番医を利用する	越谷市夜間急患診療所を利用する	埼玉県救急電話相談（#7119）で受診の必要性を確認する	受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する	可能な限り翌日まで我慢する	救急車を呼ぶ	その他	無回答
全 体	2,457	15.6	21.9	21.6	13.6	27.5	56.6	12.4	2.0	0.3
女性全体	1,278	13.3	23.7	22.8	15.2	28.6	60.7	9.5	1.5	0.1
18～29歳	103	12.6	9.7	11.7	8.7	33.0	71.8	6.8	4.9	—
30～39歳	171	13.5	21.1	21.1	21.1	38.6	67.3	4.1	1.2	—
40～49歳	227	9.7	19.4	20.7	10.1	28.2	74.4	3.1	0.9	—
50～59歳	204	6.9	32.4	20.6	11.8	32.4	68.6	5.4	1.5	—
60～69歳	235	12.8	28.5	28.1	17.4	29.4	51.1	12.8	1.3	—
70歳以上	332	20.2	23.2	25.9	18.4	19.9	46.7	17.8	1.2	0.3
男性全体	1,038	17.8	20.5	20.5	11.0	26.2	53.5	13.9	2.8	0.6
18～29歳	109	19.3	7.3	10.1	6.4	18.3	71.6	10.1	3.7	—
30～39歳	115	17.4	13.9	14.8	13.0	27.0	61.7	6.1	4.3	1.7
40～49歳	173	12.7	19.7	23.1	6.4	32.4	63.6	6.9	0.6	—
50～59歳	150	10.7	26.0	19.3	10.0	34.7	55.3	11.3	2.7	—
60～69歳	182	17.0	27.5	21.4	11.5	28.0	45.1	15.9	3.3	0.5
70歳以上	305	24.3	21.6	25.2	14.8	19.7	42.0	22.3	3.0	1.0

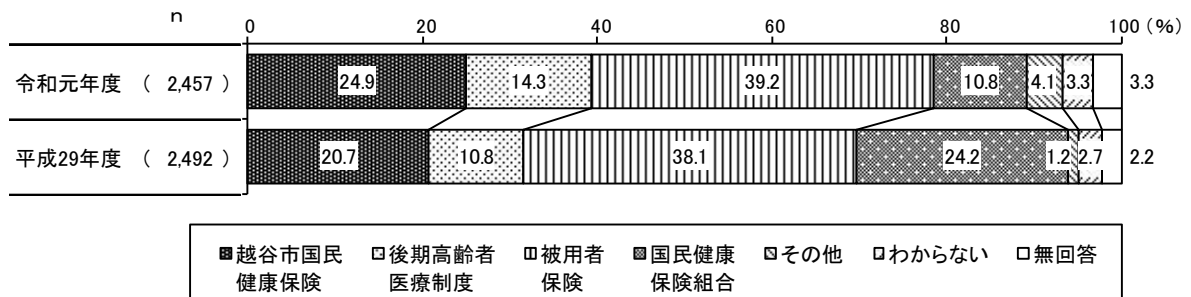
7. 健康保険が行う保健事業について

(1) 加入保険

◇「被用者保険」が最も多く、約4割

問23. あなたご自身の加入保険を教えてください。(○は1つ)

図表7-1-1 加入保険



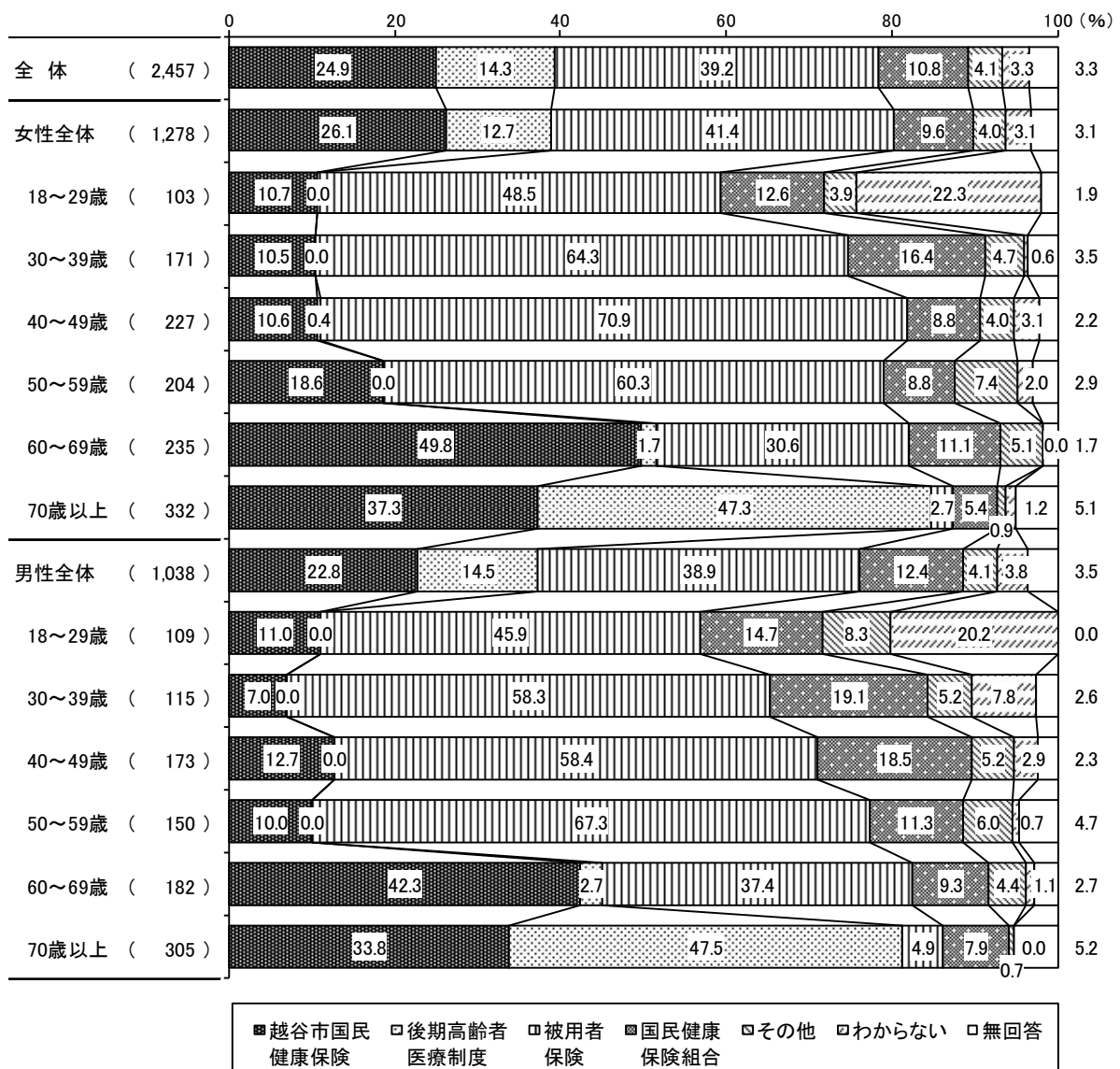
加入保険については、「被用者保険」(39.2%)が最も多く、次いで、「越谷市国民健康保険」(24.9%)、「後期高齢者医療制度」(14.3%)、「国民健康保険組合」(10.8%)の順となっている。また、「その他」として「加入していない(生活保護受給中)」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「越谷市国民健康保険」(24.9%)は平成29年調査(20.7%)と比べ4.2ポイント、「後期高齢者医療制度」(14.3%)は平成30年調査(10.8%)と比べ3.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「国民健康保険組合」(10.8%)は平成30年調査(24.2%)と比べ13.4ポイント減少している。

性別でみると、「被用者保険」は女性（41.4%）が男性（38.9%）より2.5ポイント、「越谷市国民健康保険」は女性（26.1%）が男性（22.8%）より3.3ポイント、「国民健康保険組合」は男性（12.4%）が女性（9.6%）より2.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「被用者保険」は女性40～49歳（70.9%）で約7割、男性50～59歳（67.3%）で7割弱、女性30～39歳（64.3%）で6割半ば、女性50～59歳（60.3%）で約6割と多くなっている。「越谷市国民健康保険」は女性60～69歳（49.8%）で約5割、男性60～69歳（42.3%）で4割強と多くなっている。

図表7-1-2 性・年齢別 加入保険

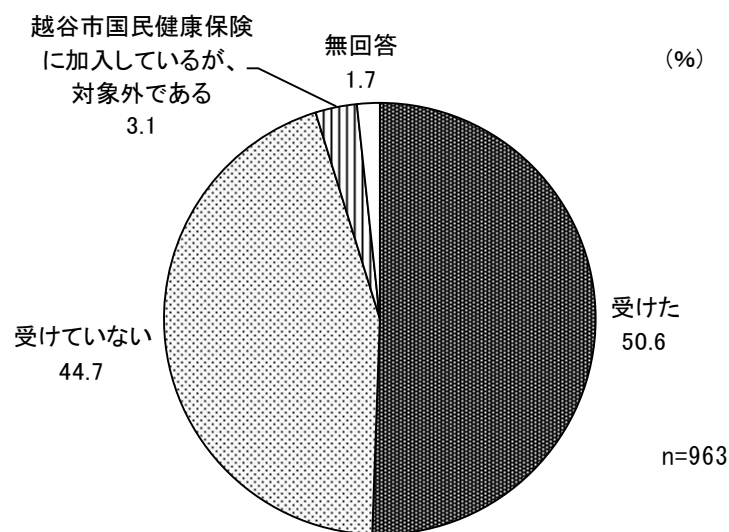


(2) 健康診査受診の有無

◇「受けた」が約5割、「受けていない」が4割半ば

問24. 問23で「1. 越谷市国民健康保険」「2. 後期高齢者医療制度」と答えた方に伺います。越谷市では、年度年齢40歳以上の越谷市国民健康保険加入者及び後期高齢者医療制度加入者を対象に、健康の保持増進を図ることを目的として、無料の健康診査を実施しています。あなたは、平成30年度の健康診査を受けましたか。(○は1つ)

図表7-2-1 健康診査受診の有無

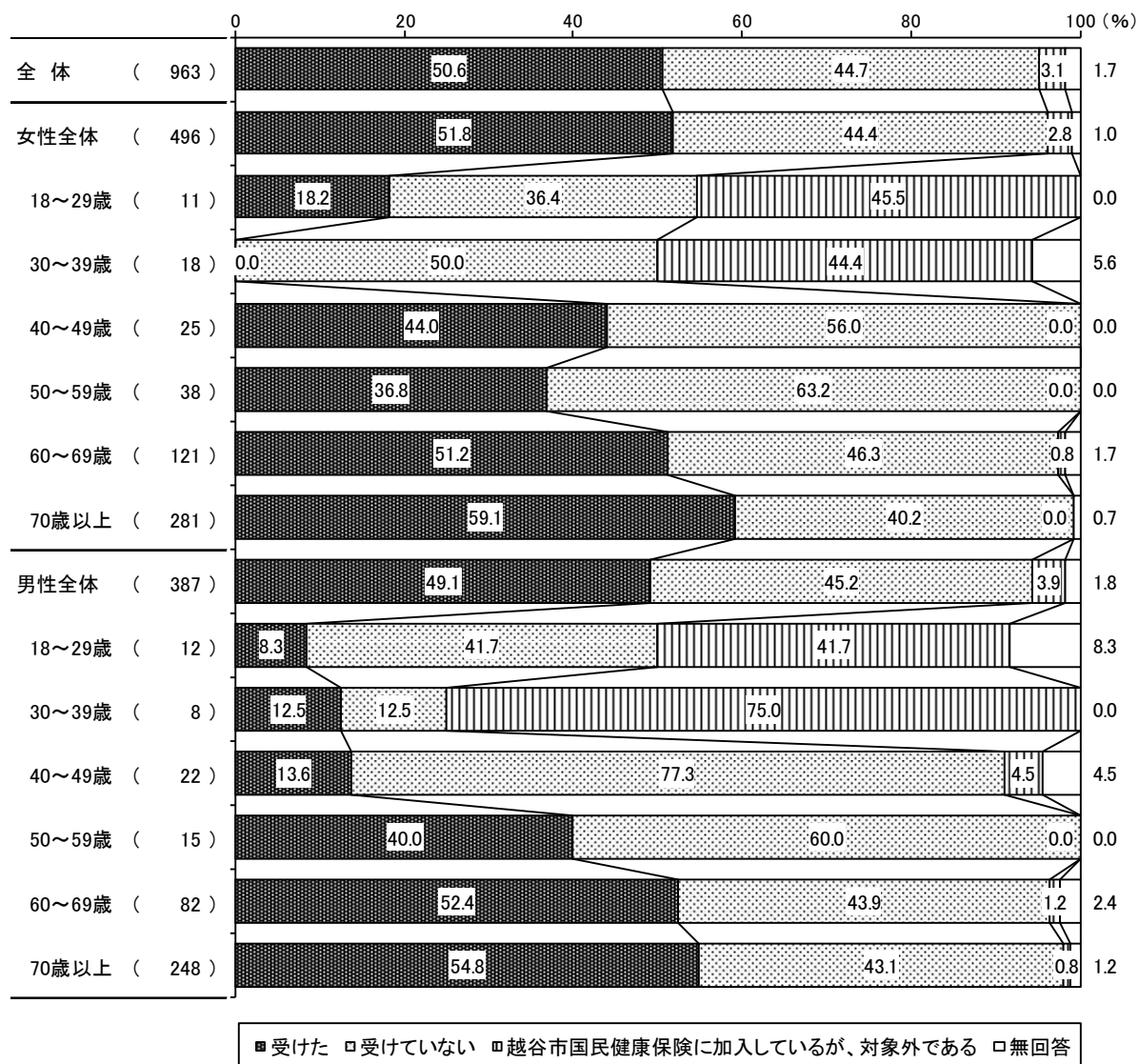


「越谷市国民健康保険」及び「後期高齢者医療制度」に加入していると回答した963人に、健康診査受診の有無を聞いたところ、「受けた」(50.6%)が約5割、「受けていない」(44.7%)が4割半ばとなっている。

性別でみると、「受けた」は女性（51.8%）が男性（49.1%）より2.7ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、「受けた」は女性70歳以上（59.1%）で約6割と多くなっている。一方、「受けていない」は女性50～59歳（63.2%）で6割強と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表7-2-2 性・年齢別 健康診査受診の有無



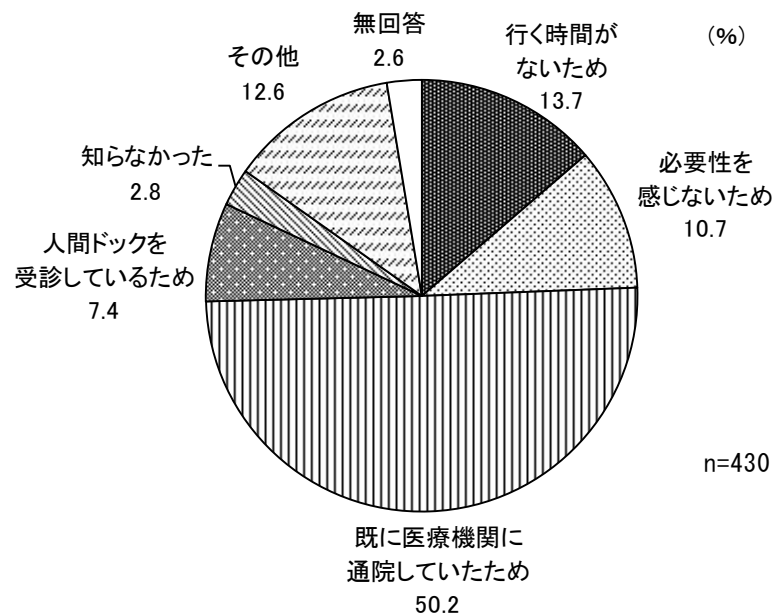
(3) 健康診査を受けない理由

◇「既に医療機関に通院していたため」が最も多く、約5割

問25. 問24で「2. 受けていない」と答えた方に伺います。

あなたが、健康診査を受けない理由は何ですか。(○は1つ)

図表7-3-1 健康診査を受けない理由



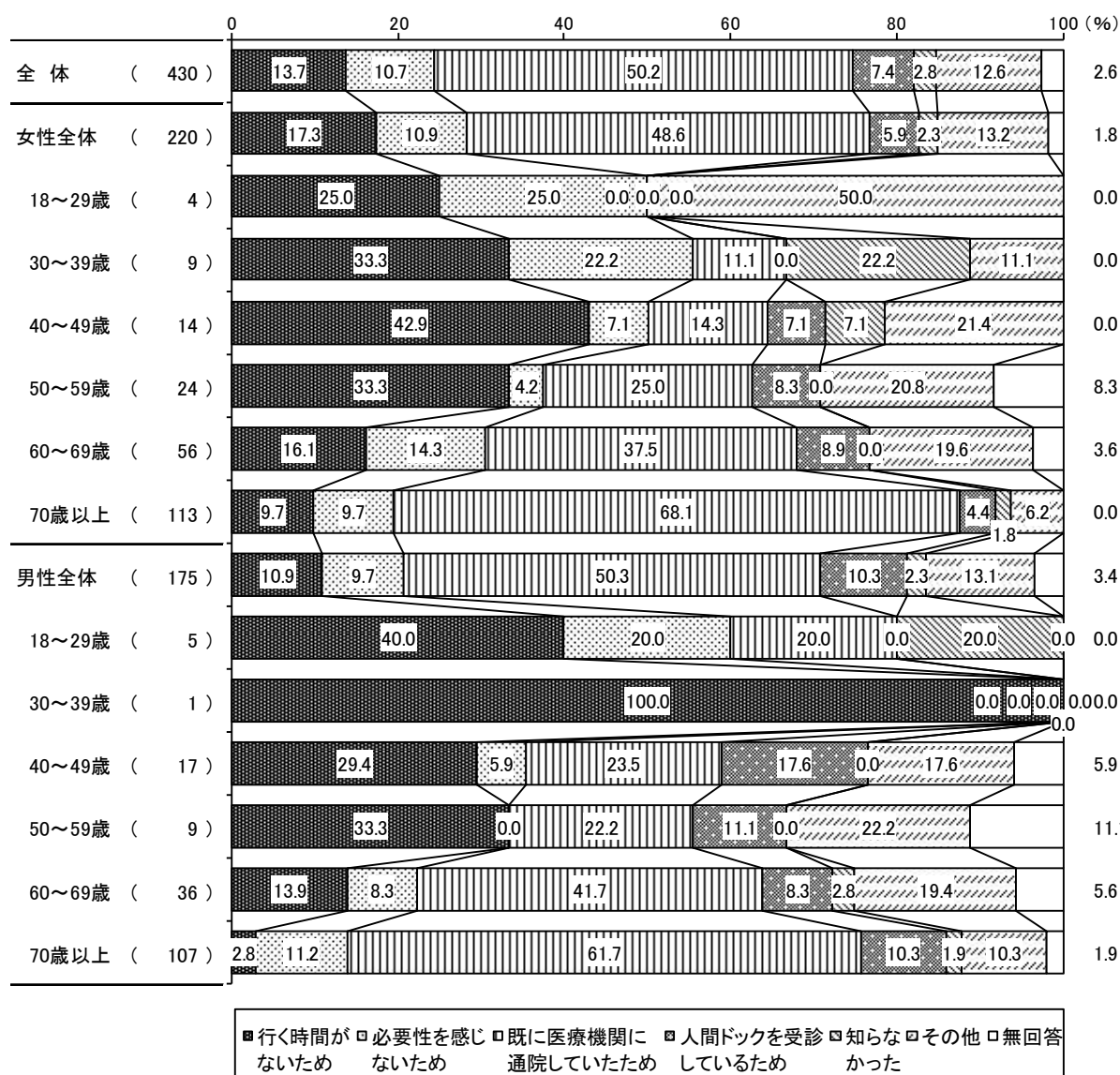
健康診査を受けていないと回答した430人に、健康診査を受けない理由を聞いたところ、「既に医療機関に通院していたため」(50.2%)が最も多く、次いで、「行く時間がないため」(13.7%)、「必要性を感じないため」(10.7%)、「人間ドックを受診しているため」(7.4%)、「知らなかった」(2.8%)の順となっている。また、「その他」として「職場で受けている」「気がついたら期間が終了していた」等が挙げられた。

性別でみると、「行く時間がないため」は女性（17.3%）が男性（10.9%）より6.4ポイント、「人間ドックを受診しているため」は男性（10.3%）が女性（5.9%）より4.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「既に医療機関に通院していたため」は女性70歳以上（68.1%）で7割弱、男性70歳以上（61.7%）で約6割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表7-3-2 性・年齢別 健康診査を受けない理由

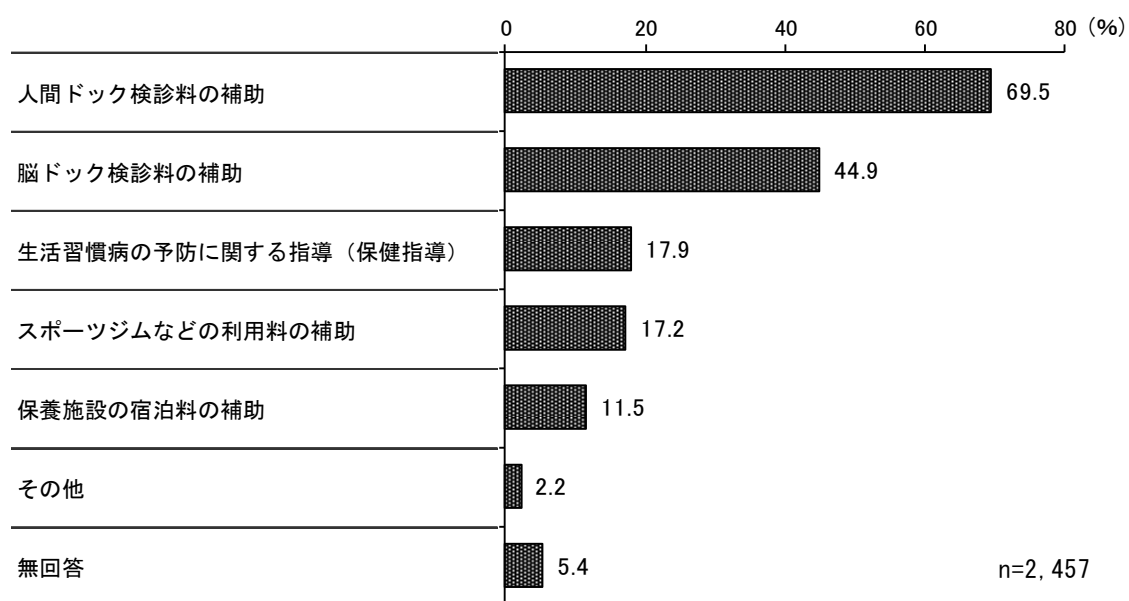


(4) 必要と思う医療保険が行う保健事業

◇「人間ドック検診料の補助」が最も多く、約7割

問26. 皆さんに伺います。医療保険が行う保健事業で、あなたが必要と思われるものを選んでください。(〇は2つまで)

図表7-4-1 必要と思う医療保険が行う保健事業



必要と思う医療保険が行う保健事業について、「人間ドック検診料の補助」(69.5%)が最も多く、次いで、「脳ドック検診料の補助」(44.9%)、「生活習慣病の予防に関する指導（保健指導）」(17.9%)、「スポーツジムなどの利用料の補助」(17.2%)、「保養施設の宿泊料の補助」(11.5%)の順となっている。また、「その他」として「医療相談」等が挙げられた。

性別でみると「脳ドック検診料の補助」は女性（49.7%）が男性（40.0%）より9.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「人間ドック検診料の補助」は女性30～39歳（83.6%）で8割強、女性40～49歳（81.9%）、女性18～29歳（79.6%）、男性40～49歳（79.2%）、男性30～39歳（79.1%）で約8割と多くなっている。「脳ドック検診料の補助」は女性50～59歳（57.8%）で6割弱、女性30～39歳（56.1%）で5割半ばと多くなっている。

図表7-4-2 性・年齢別 必要と思う医療保険が行う保健事業

	調査数（人）	人間ドック検診料の補助	脳ドック検診料の補助	生活習慣病の予防に関する指導（保健指導）	保養施設の宿泊料の補助	スポーツジムなどの利用料の補助	その他	（%） 無回答
全 体	2,457	69.5	44.9	17.9	11.5	17.2	2.2	5.4
女性全体	1,278	70.5	49.7	17.4	10.9	16.7	1.5	5.4
18～29歳	103	79.6	34.0	11.7	10.7	33.0	1.0	3.9
30～39歳	171	83.6	56.1	11.1	12.9	22.8	0.6	2.9
40～49歳	227	81.9	52.0	12.8	9.3	19.4	0.9	4.4
50～59歳	204	77.9	57.8	14.2	9.3	18.1	1.0	3.9
60～69歳	235	70.6	53.2	18.7	11.9	12.8	1.7	2.6
70歳以上	332	48.5	41.9	26.5	11.1	8.4	2.7	10.8
男性全体	1,038	70.9	40.0	17.7	12.2	18.6	2.7	4.5
18～29歳	109	70.6	30.3	13.8	12.8	36.7	1.8	2.8
30～39歳	115	79.1	45.2	12.2	13.0	26.1	3.5	1.7
40～49歳	173	79.2	45.7	12.7	13.9	22.5	1.7	1.7
50～59歳	150	75.3	47.3	16.7	10.0	18.0	2.7	6.0
60～69歳	182	72.0	45.6	19.2	8.8	15.9	2.7	3.8
70歳以上	305	60.3	31.5	23.9	14.1	9.2	3.3	7.2

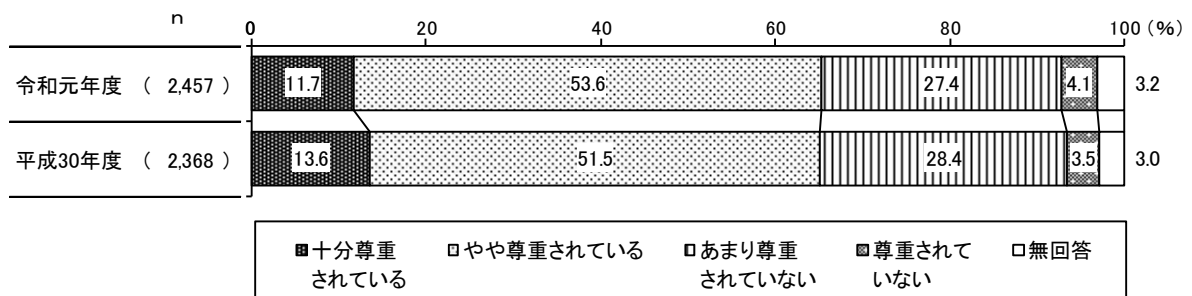
8. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が6割半ば

問27. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(〇は1つ)

図表8-1-1 基本的人権の意識



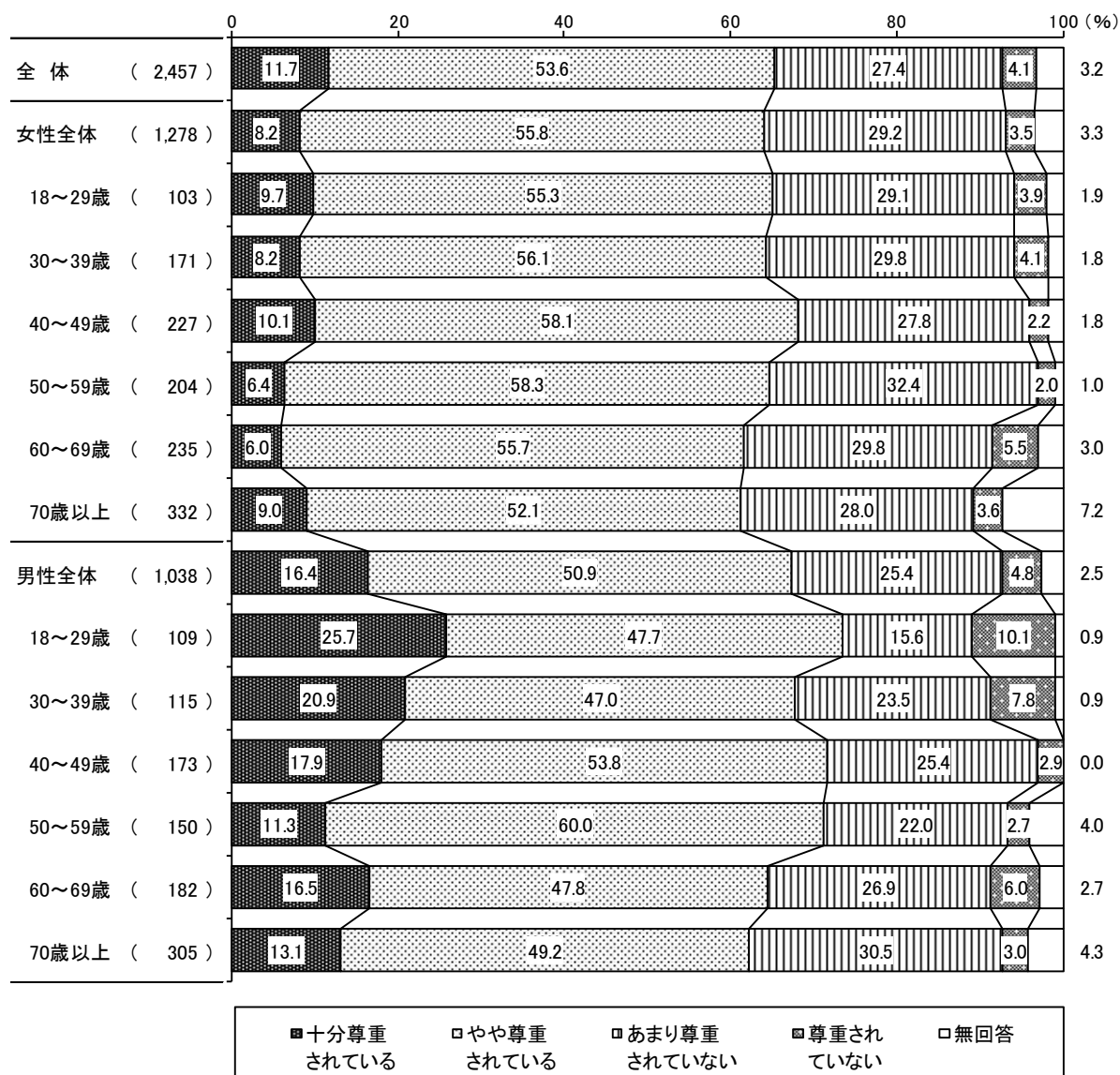
今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(53.6%)が最も多く、「十分尊重されている」(11.7%)を合わせた『尊重されている』(65.3%)は6割半ばとなっている。一方、「あまり尊重されていない」(27.4%)と「尊重されていない」(4.1%)を合わせた『尊重されていない』(31.5%)は約3割となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、『尊重されている』は男性（67.3%）が女性（64.0%）より3.3ポイント高くなっている。一方、『尊重されていない』は女性（32.7%）が男性（30.2%）より2.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『尊重されている』は男性18～29歳（73.4%）で7割強と多くなっている。一方、『尊重されていない』は女性60～69歳（35.3%）、女性50～59歳（34.4%）で3割半ばと多くなっている。

図表8－1－2 性・年齢別 基本的人権の意識

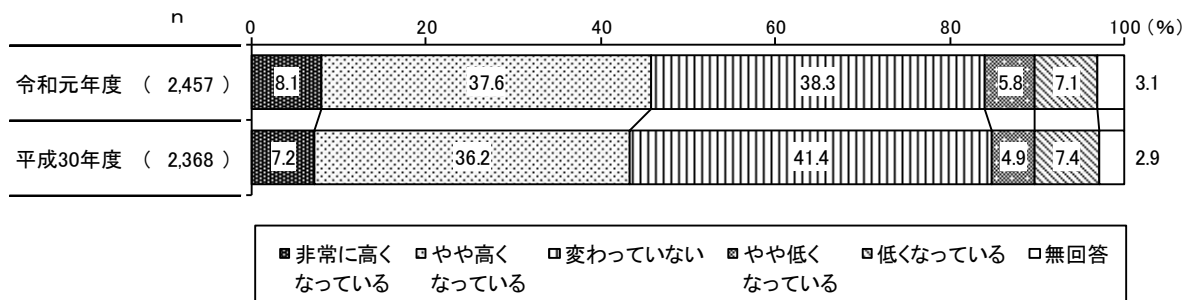


(2) 人権意識の変化

◇『高くなっている』が4割半ば

問28. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

図表8-2-1 人権意識の変化



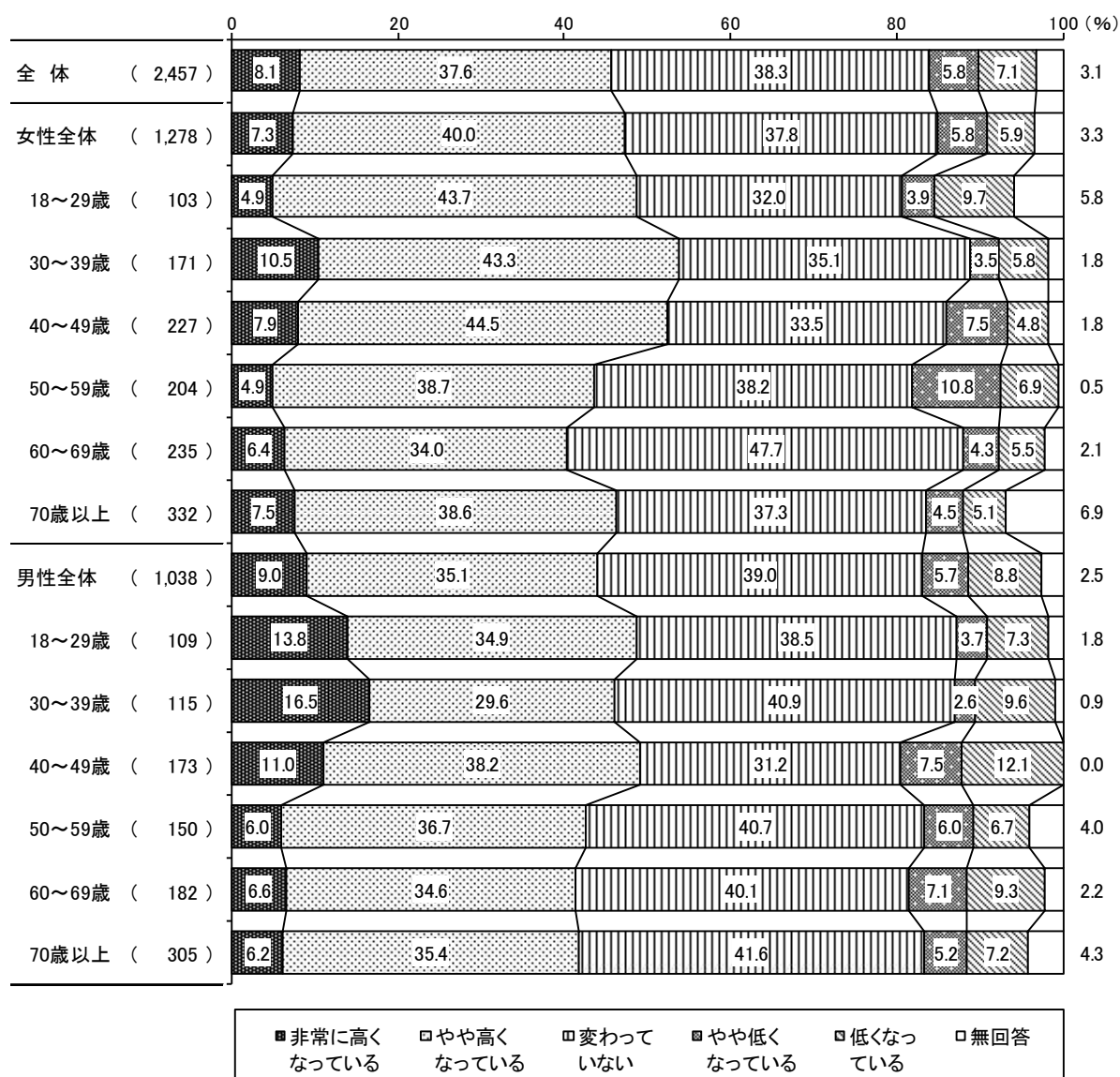
10年前と比べた人権意識の変化については、「変わっていない」(38.3%)が最も多く、次いで、「やや高くなっている」(37.6%)、「非常に高くなっている」(8.1%)、「低くなっている」(7.1%)、「やや低くなっている」(5.8%)となっている。「非常に高くなっている」(8.1%)と「やや高くなっている」(37.6%)を合わせた『高くなっている』(45.7%)は4割半ばとなっている。一方、「やや低くなっている」(5.8%)と「低くなっている」(7.1%)を合わせた『低くなっている』(12.9%)は1割強となっている。

前回の調査と比較すると、『高くなっている』(45.7%)は平成30年調査(43.4%)と比べ2.3ポイント増加している。

性別でみると、『高くなっている』は女性（47.3%）が男性（44.1%）より3.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『高くなっている』は女性30～39歳（53.8%）、女性40～49歳（52.4%）で5割強と多くなっている。

図表8-2-2 性・年齢別 人権意識の変化

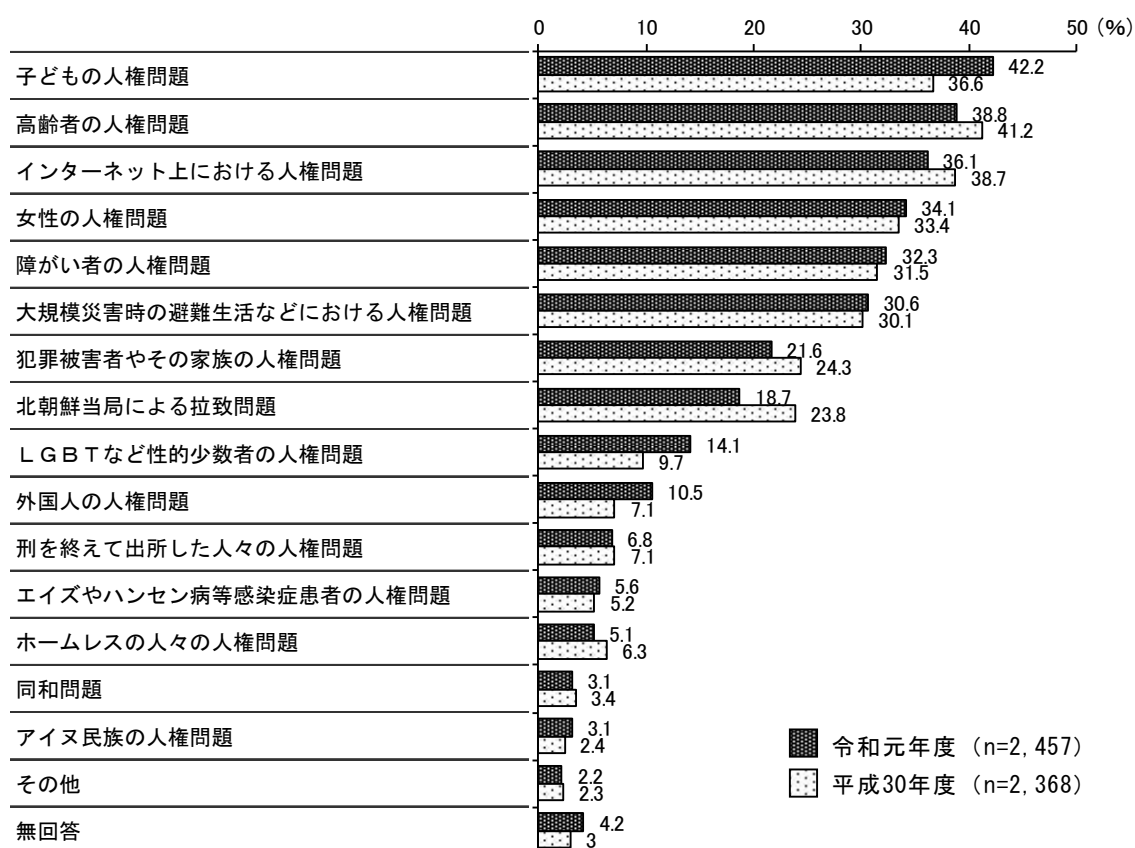


(3) 関心のある人権問題

◇「子どもの人権問題」が最も多く、4割強

問29. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(複数回答可)

図表 8-3-1 関心のある人権問題



関心のある人権問題については、「子どもの人権問題」(42.2%)が最も多く、次いで、「高齢者の人権問題」(38.8%)、「インターネット上における人権問題」(36.1%)、「女性の人権問題」(34.1%)、「障がい者の人権問題」(32.3%)の順となっている。また、「その他」として「職場でのパワハラ」「貧困」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「子どもの人権問題」(42.2%)は平成30年調査(36.6%)と比べ5.6ポイント、「LGBTなど性的少数者の人権問題」(14.1%)は平成30年調査(9.7%)と比べ4.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「北朝鮮当局による拉致問題」(18.7%)は平成30年調査(23.8%)と比べ5.1ポイント減少している。

性別でみると、「女性の人権問題」は女性（44.8%）が男性（22.0%）より22.8ポイント高くなっている。「子どもの人権問題」は女性（46.4%）が男性（38.1%）より8.3ポイント、「高齢者の人権問題」は女性（41.6%）が男性（32.9%）より8.7ポイント、「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」は女性（33.3%）が男性（26.9%）より6.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「子どもの人権問題」は女性30～39歳（58.5%）で6割強、女性50～59歳（53.4%）、女性40～49歳（52.0%）で5割強と多くなっている。「高齢者の人権問題」は女性70歳以上（59.0%）で約6割、女性60～69歳（54.9%）、男性70歳以上（54.1%）で5割半ばと多くなっている。「インターネット上における人権問題」は女性40～49歳（54.2%）で5割半ば、女性30～39歳（52.6%）で5割強、女性18～29歳（50.5%）で約5割と多くなっている。「女性の人権問題」は女性18～29歳（70.9%）で約7割、女性30～39歳（63.2%）で6割強、女性50～59歳（52.9%）で5割強と多くなっている。

図表8-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

(%)

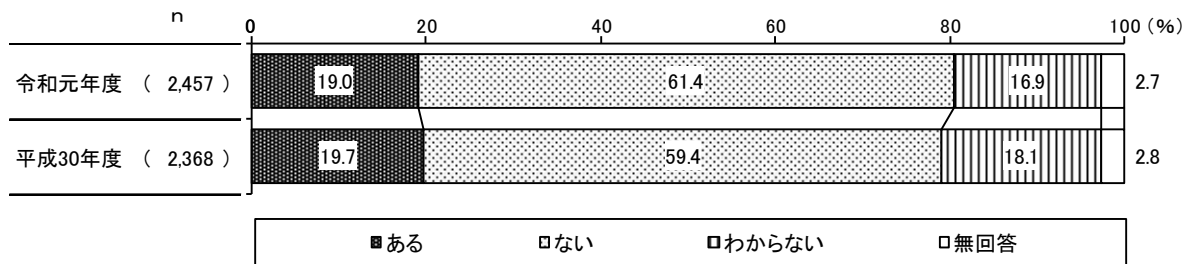
	調査数（人）	女性の人権問題	子どもの人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	同和問題	アイヌ民族の人権問題	外国人の人権問題	エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	インターネット上における人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	ホームレスの人々の人権問題	LGBTなど性的少数者の人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	その他	無回答
全 体	2,457	34.1	42.2	38.8	32.3	3.1	3.1	10.5	5.6	6.8	21.6	36.1	18.7	5.1	14.1	30.6	2.2	4.2
女性全体	1,278	44.8	46.4	41.6	34.0	2.7	2.9	8.8	6.7	6.1	20.6	37.1	19.5	5.1	16.0	33.3	1.3	3.6
18～29歳	103	70.9	46.6	19.4	34.0	1.0	5.8	13.6	9.7	8.7	28.2	50.5	10.7	6.8	41.7	20.4	-	3.9
30～39歳	171	63.2	58.5	24.0	30.4	2.3	2.3	13.5	4.7	7.0	22.8	52.6	7.6	5.8	25.1	31.0	2.9	1.2
40～49歳	227	49.3	52.0	26.4	37.9	1.3	2.2	15.4	7.0	4.8	26.4	54.2	10.6	2.2	20.3	28.6	1.8	3.5
50～59歳	204	52.9	53.4	40.7	42.2	3.9	3.4	6.9	6.9	4.4	25.5	47.5	20.6	4.4	17.6	41.2	1.0	1.0
60～69歳	235	37.9	45.5	54.9	33.6	3.8	2.1	7.2	7.7	7.2	16.6	28.5	23.8	5.1	7.7	33.2	0.4	3.4
70歳以上	332	24.7	32.8	59.0	28.6	2.4	3.0	3.0	5.7	6.0	13.0	13.0	31.0	6.0	5.7	37.3	1.2	6.6
男性全体	1,038	22.0	38.1	32.9	30.5	3.7	3.6	12.6	4.2	7.5	23.1	36.7	17.6	4.9	12.2	26.9	3.3	4.5
18～29歳	109	24.8	39.4	17.4	26.6	3.7	2.8	14.7	3.7	15.6	22.0	41.3	6.4	6.4	25.7	20.2	4.6	2.8
30～39歳	115	27.8	45.2	16.5	29.6	2.6	2.6	13.0	7.0	14.8	32.2	45.2	13.0	9.6	25.2	20.0	7.0	1.7
40～49歳	173	20.2	41.6	15.6	35.3	2.9	2.3	15.0	2.3	7.5	26.0	46.8	12.7	3.5	15.0	29.5	5.2	1.7
50～59歳	150	21.3	36.0	27.3	26.7	5.3	7.3	14.7	5.3	5.3	25.3	46.0	17.3	6.0	14.0	25.3	2.7	6.7
60～69歳	182	24.7	39.0	38.5	31.3	3.3	4.9	9.9	5.5	6.0	21.4	38.5	22.0	2.7	7.1	26.9	1.6	3.8
70歳以上	305	18.0	33.1	54.1	31.5	3.9	2.3	10.8	3.0	3.6	18.4	20.7	23.9	4.3	3.0	31.5	1.3	7.2

(4) 人権侵害を感じたこと

◇「ある」が約2割

問30. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表8-4-1 人権侵害を感じたこと



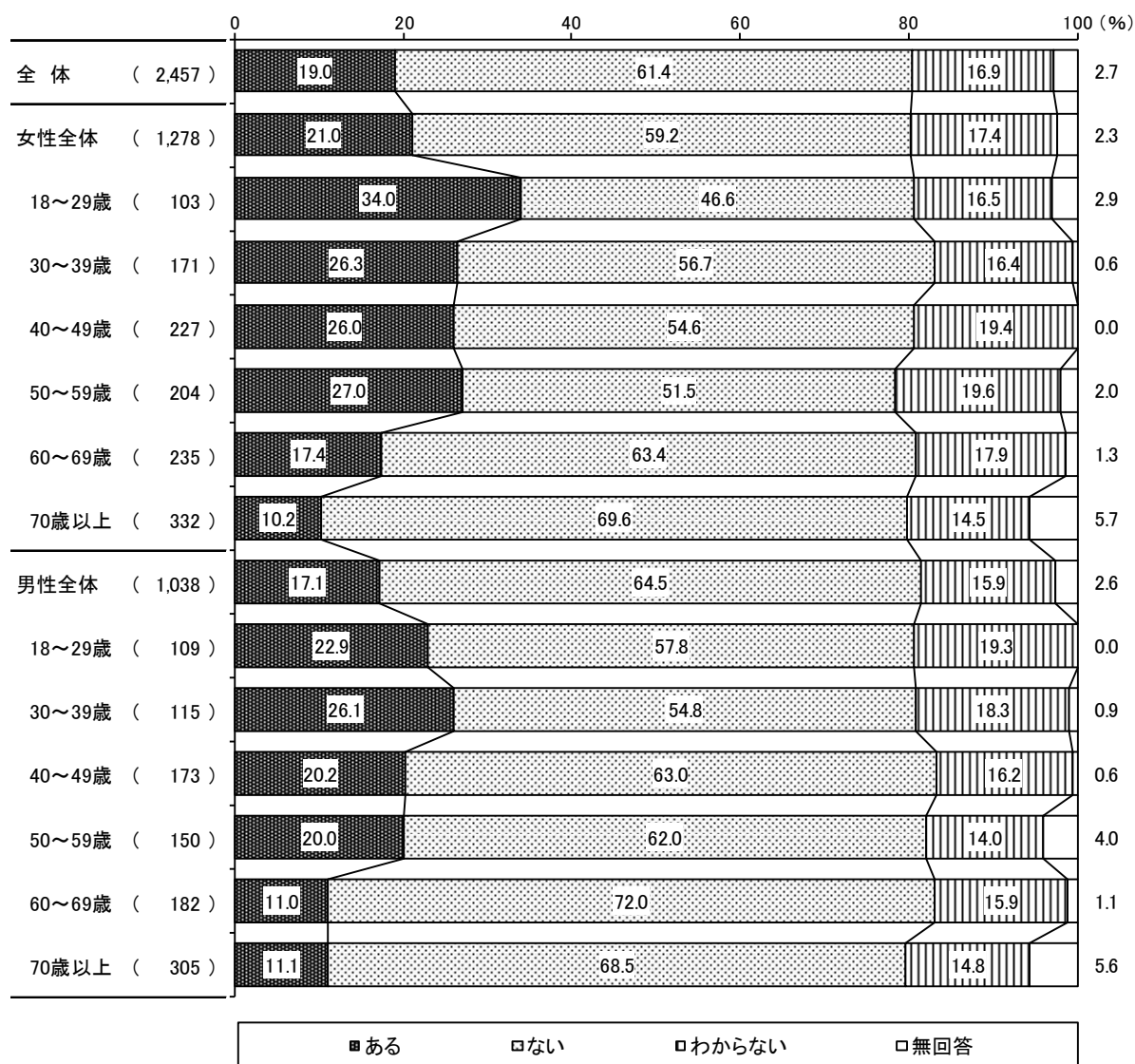
日常生活の中で人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(19.0%)が約2割、「ない」(61.4%)が約6割となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「ある」は女性（21.0%）が男性（17.1%）より3.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「ある」は女性18～29歳（34.0%）で3割半ばと多くなっている。一方、「ない」は男性60～69歳（72.0%）で7割強、女性70歳以上（69.6%）で約7割、男性70歳以上（68.5%）で7割弱と多くなっている。

図表8-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと



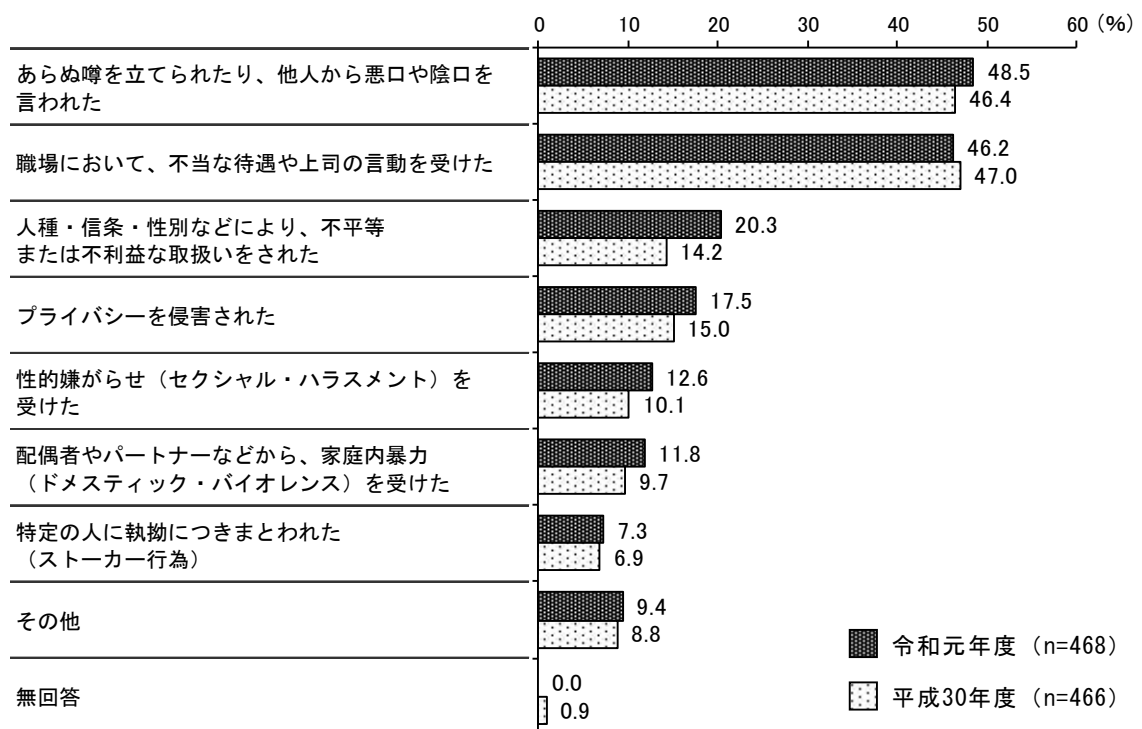
(5) 人権侵害を感じた内容

◇「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が最も多く、5割弱

問30-2. 問30で「1. ある」と答えた方に伺います。

人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(複数回答可)

図表 8-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した人 468 人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」（48.5%）が最も多く、次いで、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」（46.2%）、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」（20.3%）、「プライバシーを侵害された」（17.5%）、「性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）を受けた」（12.6%）の順となっている。また、「その他」として「マタニティハラスメント」「近隣トラブル」等が挙げられた。

前回調査と比較すると、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」（20.3%）は平成30年調査（14.2%）と比べ6.1ポイント増加している。

性別でみると、「性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）を受けた」は女性（18.2%）が男性（4.5%）より13.7ポイント、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」は女性（16.0%）が男性（5.1%）より10.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は女性70歳以上（70.6%）で約7割と多くなっている。「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性30～39歳（70.0%）で7割と多くなっている。「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」は女性40～49歳（33.9%）で3割強と多くなっている。「プライバシーを侵害された」は男性30～39歳（36.7%）で3割半ばと多くなっている。「性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）を受けた」は女性18～29歳（34.3%）で3割半ばと多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表8-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

(%)

	調査数（人）	あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた	人種・信条・性別などにより、不利益な取扱いをされた	職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた	プライバシーを侵害された	性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）を受けた	（特定の個人に執拗につきまとわれた（ストーーカー行為））	配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	その他	無回答
全 体	468	48.5	20.3	46.2	17.5	12.6	7.3	11.8	9.4	-
女性全体	269	48.0	21.9	46.1	17.1	18.2	9.3	16.0	9.3	-
18～29歳	35	40.0	25.7	54.3	17.1	34.3	14.3	8.6	-	-
30～39歳	45	40.0	24.4	60.0	15.6	22.2	15.6	15.6	11.1	-
40～49歳	59	49.2	33.9	54.2	15.3	27.1	15.3	16.9	8.5	-
50～59歳	55	41.8	12.7	45.5	23.6	14.5	5.5	16.4	10.9	-
60～69歳	41	51.2	17.1	39.0	9.8	4.9	-	29.3	2.4	-
70歳以上	34	70.6	14.7	14.7	20.6	2.9	2.9	5.9	23.5	-
男性全体	177	46.3	16.9	48.6	16.9	4.5	4.0	5.1	9.6	-
18～29歳	25	80.0	28.0	40.0	12.0	12.0	4.0	12.0	-	-
30～39歳	30	46.7	23.3	70.0	36.7	3.3	6.7	3.3	6.7	-
40～49歳	35	42.9	17.1	42.9	8.6	-	2.9	5.7	8.6	-
50～59歳	30	43.3	23.3	56.7	10.0	13.3	-	3.3	6.7	-
60～69歳	20	15.0	5.0	75.0	20.0	-	5.0	-	15.0	-
70歳以上	34	47.1	5.9	20.6	17.6	-	5.9	2.9	20.6	-

9. 男女共同参画について

(1) 「ことば」や「ことがら」の認知度

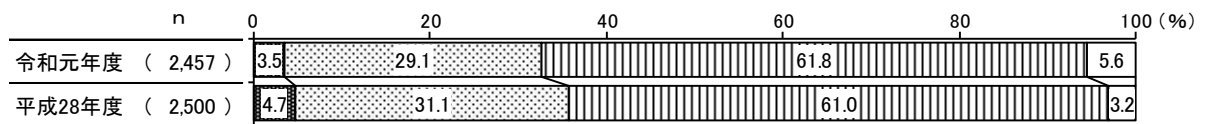
◇「内容を知っている」は「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が6割強、「LGBT（性的指向や性自認による性的少数者）」が5割弱

問31. 次に掲げる「ことば」や「ことがら」を知っていますか。

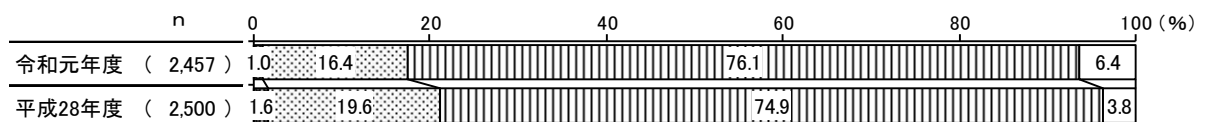
(ア～ケ それぞれ横に〇は1つつ)

図表9-1-1 「ことば」や「ことがら」の認知度

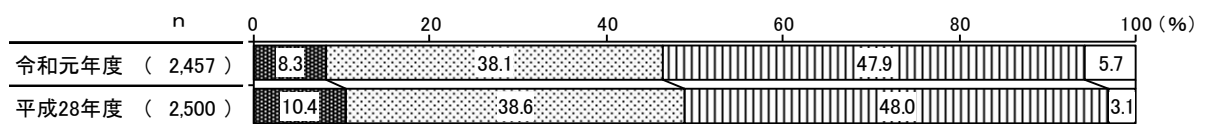
ア 越谷市男女共同参画推進条例



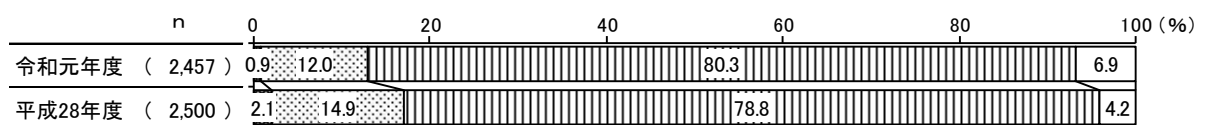
イ 第3次越谷市男女共同参画計画



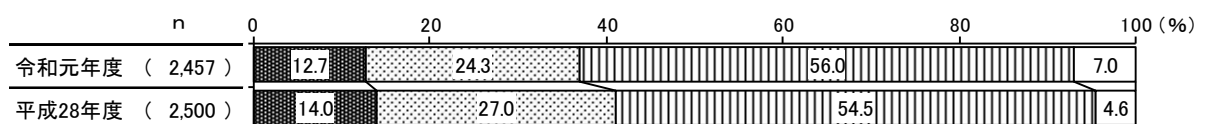
ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」



エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員

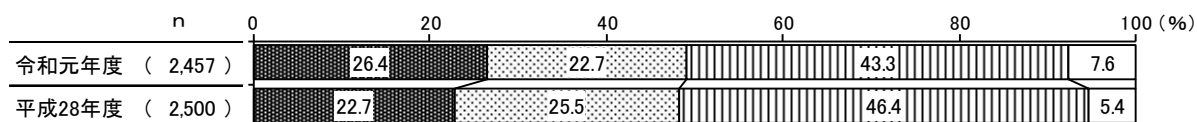


オ 男女共同参画社会

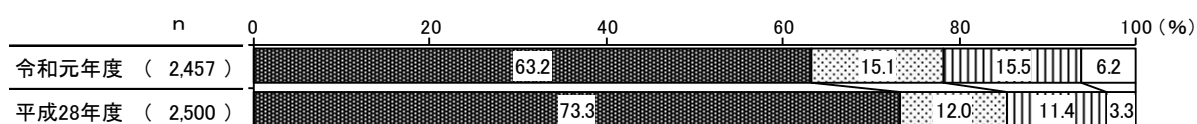


■ 内容を知っている □ 聞いたことはあるが、内容は知らない □ 知らない □ 無回答

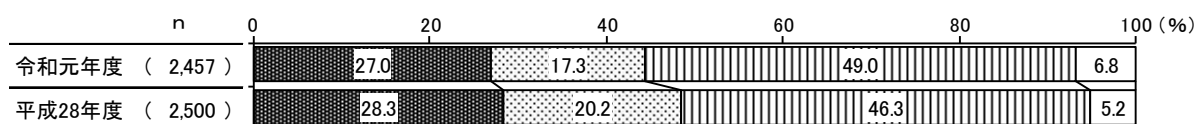
カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



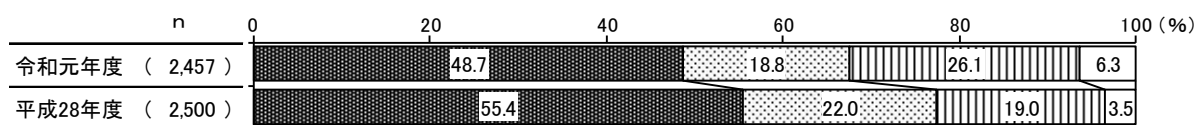
キ DV（ドメスティック・バイオレンス）



ク デートDV



ケ LGBT（性的指向や性自認による性的少数者）



■ 内容を知っている □ 聞いたことはあるが、内容は知らない ▨ 知らない □ 無回答

男女共同参画における「ことば」や「ことがら」の認知度については、「内容を知っている」で「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」（63.2%）が6割強と最も多く、次いで、「ケ LGBT（性的指向や性自認による性的少数者）」（48.7%）、「ク デートDV」（27.0%）、「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（26.4%）、「オ 男女共同参画社会」（12.7%）の順となっている。一方、「知らない」は「エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員」（80.3%）が最も多く、次いで、「イ 第3次越谷市男女共同参画計画」（76.1%）、「ア 越谷市男女共同参画推進条例」（61.8%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、「内容を知っている」は「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（26.4%）が平成28年調査（22.7%）と比べ3.7ポイント増加しているが、その他の項目はすべて「内容を知っている」が減少している。

性別でみると、「内容を知っている」は「ウ 越谷市男女共同参画支援センター『ほっと越谷』」で女性（10.4%）が男性（5.9%）より4.5ポイント、「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」で女性（66.7%）が男性（61.8%）より4.9ポイント、「ク デートDV」で「女性（30.8%）が男性（24.0%）より6.8ポイント」、「ケ LGBT（性的指向や性自認による性的少数者）」で女性（51.6%）が男性（47.4%）より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「オ 男女共同参画社会」で男性（15.1%）が女性（11.3%）より3.8ポイント高く、「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で男性（30.2%）が女性（24.4%）より5.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「内容を知っている」は「ア 越谷市男女共同参画推進条例」で男性70歳以上（5.6%）、「イ 第3次越谷市男女共同参画計画」で女性70歳以上（2.1%）、「ウ 越谷市男女共同参画支援センター『ほっと越谷』」で女性40～49歳（11.9%）、「エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員」で女性70歳以上（1.8%）が最も多くなっている。また、「オ 男女共同参画社会」は女性18～29歳（40.8%）で約4割、男性18～29歳（33.9%）で3割強、「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」は男性30～39歳（54.8%）で5割半ば、女性18～29歳（50.5%）で約5割、「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」は女性30～39歳（89.5%）で約9割、男性30～39歳（88.7%）で9割弱、「ク デートDV」は女性18～29歳（48.5%）で5割弱、女性40～49歳（46.3%）で4割半ば、「ケ LGBT（性的指向や性自認による性的少数者）」は女性30～39歳（74.9%）で7割半ば、女性40～49歳（72.7%）で7割強と、それぞれ多くなっている。

図表9-1-2 性・年齢別 「ことば」や「ことがら」の認知

(%)

	調査数(人)	ア 越谷市男女共同参画推進条例				イ 第3次越谷市男女共同参画計画				ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」				エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員				オ 男女共同参画社会			
		内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答	内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答	内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答	内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答	内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答
全 体	2,457	3.5	29.1	61.8	5.6	1.0	16.4	76.1	6.4	8.3	38.1	47.9	5.7	0.9	12.0	80.3	6.9	12.7	24.3	56.0	7.0
女性全体	1,278	3.3	32.2	59.7	4.9	1.0	15.6	77.6	5.7	10.4	44.3	40.1	5.2	0.9	11.5	81.3	6.3	11.3	23.6	58.8	6.3
18～29歳	103	3.9	8.7	84.5	2.9	1.0	7.8	88.3	2.9	8.7	16.5	71.8	2.9	1.0	2.9	93.2	2.9	40.8	18.4	37.9	2.9
30～39歳	171	2.3	28.1	69.0	0.6	0.6	10.5	88.3	0.6	10.5	36.3	52.6	0.6	1.2	8.8	89.5	0.6	13.5	21.6	64.3	0.6
40～49歳	227	3.1	38.3	58.1	0.4	0.4	15.9	82.8	0.9	11.9	52.4	35.2	0.4	0.0	12.3	86.3	1.3	12.3	26.4	59.5	1.8
50～59歳	204	1.5	35.3	62.7	0.5	0.0	14.2	84.3	1.5	10.8	52.5	36.8	0.0	0.0	10.3	87.7	2.0	7.8	26.5	63.7	2.0
60～69歳	235	3.0	33.2	61.3	2.6	1.3	16.2	80.4	2.1	8.1	48.9	41.3	1.7	1.3	12.3	83.8	2.6	7.7	23.4	66.4	2.6
70歳以上	332	5.1	35.2	44.6	15.1	2.1	21.4	58.7	17.8	11.1	43.7	28.0	17.2	1.8	15.4	63.9	19.0	4.8	23.2	53.0	19.0
男性全体	1,038	3.9	25.2	65.6	5.2	1.0	16.8	76.8	5.5	5.9	30.6	58.6	4.9	0.7	11.8	81.5	6.0	15.1	25.1	53.4	6.4
18～29歳	109	3.7	23.9	72.5	0.0	0.9	15.6	83.5	0.0	7.3	32.1	60.6	0.0	0.0	11.0	88.1	0.9	33.9	24.8	41.3	0.0
30～39歳	115	1.7	14.8	81.7	1.7	0.9	10.4	87.0	1.7	5.2	17.4	75.7	1.7	0.0	10.4	87.8	1.7	24.3	22.6	51.3	1.7
40～49歳	173	1.7	25.4	72.8	0.0	0.0	13.3	86.7	0.0	3.5	31.8	64.7	0.0	0.6	9.8	89.6	0.0	16.2	29.5	53.8	0.6
50～59歳	150	3.3	21.3	70.0	5.3	1.3	16.7	77.3	4.7	4.0	31.3	60.0	4.7	1.3	10.7	83.3	4.7	17.3	25.3	52.0	5.3
60～69歳	182	5.5	31.9	60.4	2.2	0.5	21.4	75.8	2.2	8.2	33.5	55.5	2.7	1.1	14.8	81.3	2.7	9.3	25.3	61.5	3.8
70歳以上	305	5.6	27.9	53.4	13.1	1.6	19.0	64.9	14.4	6.6	32.1	49.2	12.1	0.7	12.8	71.1	15.4	6.6	23.9	53.8	15.7

(%)

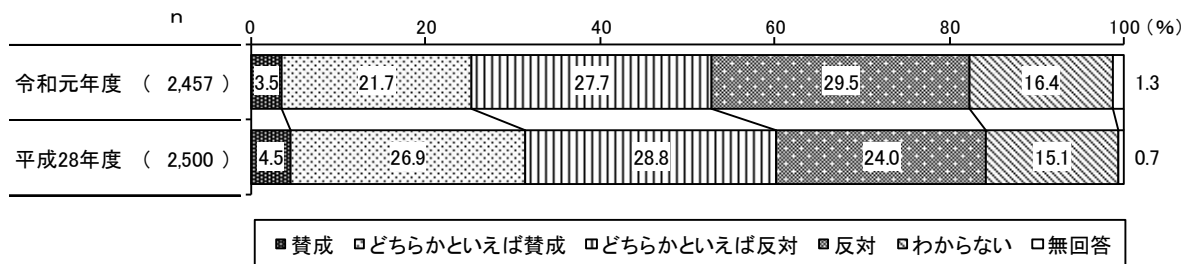
	調査数(人)	カ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)				キ DV (ドメスティック・バイオレンス)				ク デートDV				ケ LGBT (性的指向や性自認による性的少数者)			
		内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答	内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答	内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答	内容を 知っている	聞いたことは あるが、 内容は知らない	知らない	無回答
全 体	2,500	26.4	22.7	43.3	7.6	63.2	15.1	15.5	6.2	27.0	17.3	49.0	6.8	48.7	18.8	26.1	6.3
女性全体	1,309	24.4	23.7	45.0	6.9	66.7	15.4	12.5	5.3	30.8	18.0	44.8	6.5	51.6	17.7	25.0	5.7
18～29歳	118	50.5	22.3	21.4	5.8	84.5	8.7	3.9	2.9	48.5	20.4	28.2	2.9	71.8	11.7	13.6	2.9
30～39歳	204	40.4	22.8	35.1	1.8	89.5	7.0	2.3	1.2	40.9	15.2	42.7	1.2	74.9	12.3	12.3	0.6
40～49歳	224	35.2	28.2	35.2	1.3	84.1	11.0	4.4	0.4	46.3	22.9	29.5	1.3	72.7	15.4	11.5	0.4
50～59歳	190	26.5	26.0	47.1	0.5	77.5	16.2	5.4	1.0	39.7	19.1	40.7	0.5	58.8	19.6	20.6	1.0
60～69歳	268	11.1	25.5	59.1	4.3	58.3	21.7	17.9	2.1	21.3	17.0	58.7	3.0	43.4	22.6	31.5	2.6
70歳以上	302	9.0	19.3	52.1	19.6	37.7	19.9	25.9	16.6	11.1	15.4	53.3	20.2	21.1	19.3	41.6	18.1
男性全体	1,025	30.2	22.0	41.2	6.6	61.8	15.1	17.2	5.8	24.0	17.0	53.6	5.5	47.4	20.8	26.5	5.3
18～29歳	97	47.7	21.1	30.3	0.9	85.3	9.2	4.6	0.9	41.3	21.1	37.6	0.0	69.7	17.4	12.8	0.0
30～39歳	120	54.8	20.0	23.5	1.7	88.7	5.2	5.2	0.9	35.7	15.7	47.0	1.7	66.1	19.1	13.9	0.9
40～49歳	206	43.9	22.5	32.9	0.6	82.1	11.0	6.9	0.0	33.5	17.9	48.6	0.0	64.2	20.2	15.6	0.0
50～59歳	142	34.7	22.0	38.0	5.3	72.0	12.0	11.3	4.7	28.7	19.3	47.3	4.7	62.0	14.7	18.7	4.7
60～69歳	207	23.1	24.7	47.3	4.9	54.4	19.2	22.5	3.8	19.2	20.9	57.7	2.2	39.6	28.0	30.2	2.2
70歳以上	245	8.9	21.0	54.4	15.7	31.5	22.6	31.5	14.4	8.9	11.8	64.9	14.4	20.3	22.0	43.6	14.1

(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否

◇『賛成』が2割半ば、『反対』が6割弱

問32. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

図表9-2-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否



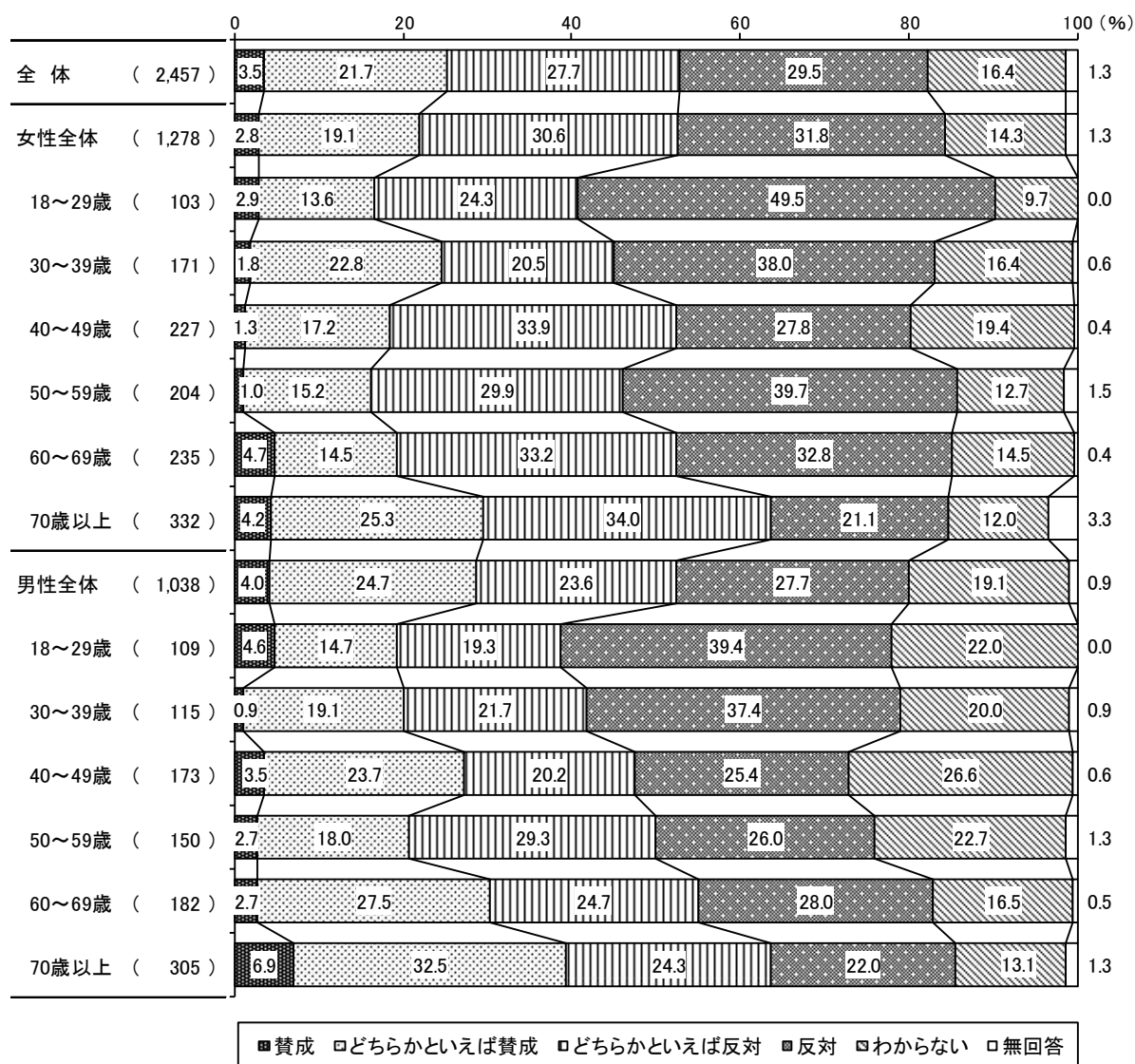
「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否については、「反対」(29.5%)が最も多く、次いで、「どちらかといえば反対」(27.7%)、「どちらかといえば賛成」(21.7%)、「賛成」(3.5%)の順となっている。「賛成」(3.5%)と「どちらかといえば賛成」(21.7%)を合わせた『賛成』(25.2%)と、「どちらかといえば反対」(27.7%)と「反対」(29.5%)を合わせた『反対』(57.2%)では、『反対』が上回る結果となっている。

前回の調査と比較すると、『賛成』(25.2%)は平成28年調査(31.4%)と比べ6.2ポイント減少している。一方、『反対』(57.2%)は平成28年調査(52.8%)と比べ4.4ポイント増加している。

性別でみると、『賛成』は男性（28.7%）が女性（21.9%）より6.8ポイント高くなっている。一方、『反対』は女性（62.4%）が男性（51.3%）より11.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『賛成』は男性70歳以上（39.4%）で約4割と多くなっている。一方、『反対』は女性18～29歳（73.8%）で7割強、女性50～59歳（69.6%）で約7割と多くなっている。

図表9－2－2 性・年齢別 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否

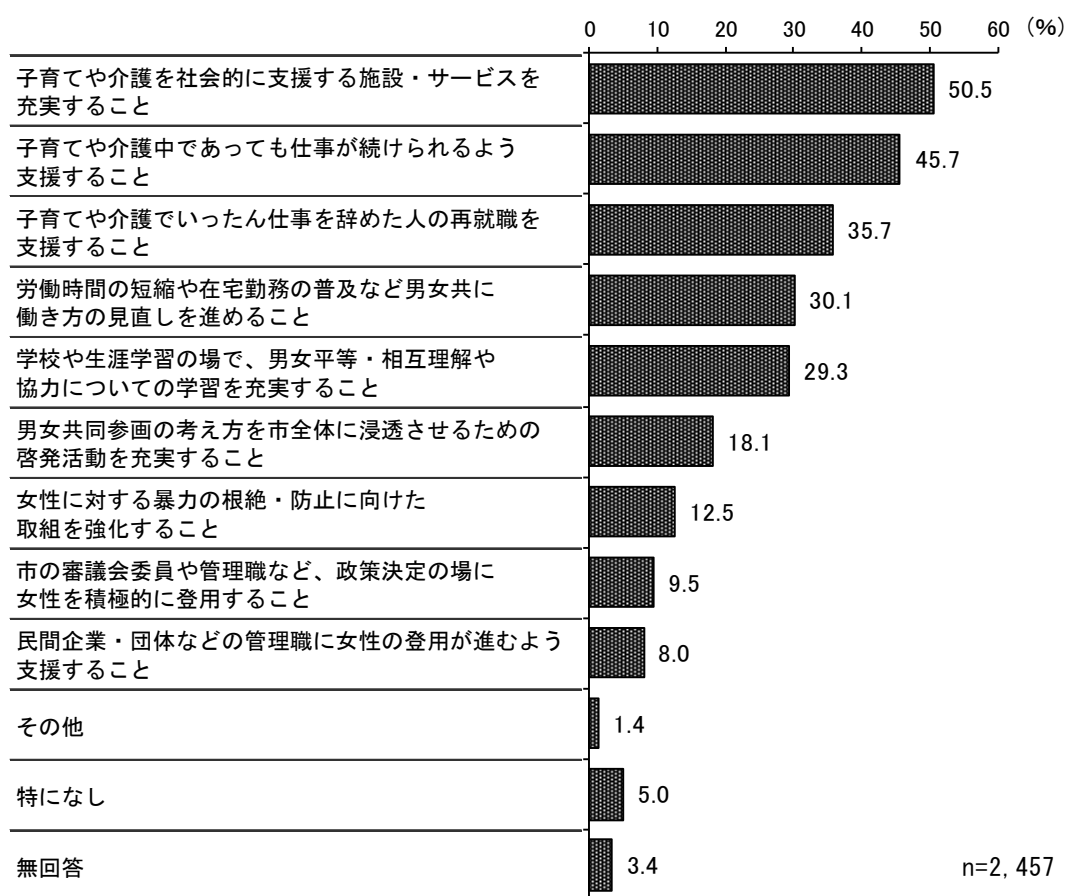


(3) 男女共同参画社会推進のために市が力を入れること

◇「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」が最も多く、約5割

問33. 男女共同参画社会を推進していくために、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図表9-3-1 男女共同参画社会推進のために市が力を入れること



男女共同参画社会推進のために市が力を入れることについては、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」(50.5%)が最も多く、次いで、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること」(45.7%)、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること」(35.7%)、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めること」(30.1%)、「学校や生涯学習の場で、男女平等・相互理解や協力についての学習を充実すること」(29.3%)の順となっている。また、「その他」として「男性の意識を変える」「経営側の理解」等が挙げられた。

性別でみると、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」は女性（54.1%）が男性（47.0%）より 7.1 ポイント、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること」は女性（38.4%）が男性（33.2%）より 5.2 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「男女共同参画の考え方を市全体に浸透させるための啓発活動を充実すること」は男性（21.5%）が女性（15.6%）より 5.9 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」は女性 60～69 歳（58.7%）、女性 30～39 歳（58.5%）で 6 割弱と多くなっている。「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること」は女性 30～39 歳（61.4%）、女性 40～49 歳（60.8%）で約 6 割と多くなっている。「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めること」は女性 30～39 歳（53.2%）で 5 割強と多くなっている。

図表 9－3－2 性・年齢別 男女共同参画社会推進のために市が力を入れること

(%)

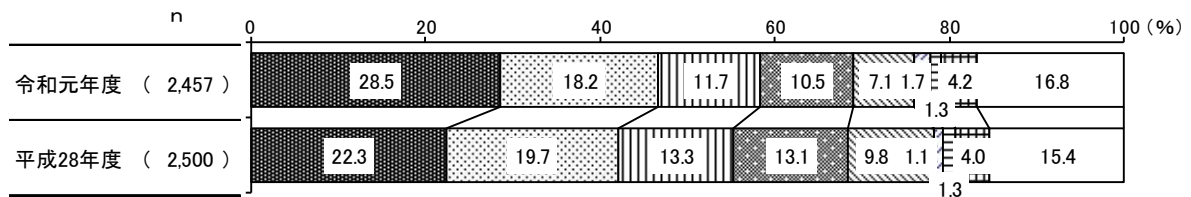
	調査数（人）	男女共同参画の啓発活動を市全体に浸透させること	学校や生涯学習の場で、男女平等・相互理解を促進すること	子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること	辞めた人の再就職を支援すること	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めること	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援すること	市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用すること	女性に対する暴力の根絶・防止に向けた取組を強化すること	その他	特になし	無回答
全 体	2,457	18.1	29.3	50.5	45.7	35.7	30.1	8.0	9.5	12.5	1.4	5.0	3.4
女性全体	1,278	15.6	31.2	54.1	47.6	38.4	30.8	8.6	9.9	13.1	1.2	3.8	3.1
18～29歳	103	12.6	36.9	54.4	49.5	39.8	44.7	8.7	9.7	9.7	1.9	1.9	1.0
30～39歳	171	10.5	30.4	58.5	61.4	44.4	53.2	7.6	6.4	12.9	1.8	2.3	0.6
40～49歳	227	12.8	31.7	52.0	60.8	41.9	33.5	9.7	7.9	9.3	2.2	2.2	0.9
50～59歳	204	15.2	33.3	54.4	53.9	38.2	31.4	6.4	7.8	14.2	1.0	2.9	1.0
60～69歳	235	21.3	31.1	58.7	38.7	34.0	23.8	9.8	11.9	16.6	0.4	4.3	3.0
70歳以上	332	17.5	28.6	49.4	32.8	35.5	18.4	8.7	13.3	13.9	0.6	6.6	8.1
男性全体	1,038	21.5	28.0	47.0	44.9	33.2	30.1	7.0	9.0	10.9	1.9	6.1	2.9
18～29歳	109	15.6	38.5	38.5	44.0	37.6	45.0	5.5	4.6	8.3	4.6	6.4	0.9
30～39歳	115	13.9	23.5	57.4	55.7	37.4	39.1	6.1	5.2	4.3	0.9	6.1	0.9
40～49歳	173	16.2	32.9	44.5	51.4	34.7	38.7	6.4	4.6	9.8	3.5	7.5	0.6
50～59歳	150	16.0	22.0	46.0	50.7	28.0	32.0	10.7	10.7	12.7	2.7	6.7	2.7
60～69歳	182	26.4	30.8	48.4	39.0	35.2	25.3	7.7	8.8	13.2	—	5.5	2.2
70歳以上	305	29.5	24.9	47.5	38.4	30.8	18.0	6.2	13.8	12.8	1.3	4.9	6.2

(4) 女性の働き方（理想）

◇理想の働き方は「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」が最も多く、3割弱

問34. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実（あなた自身やあなたの家庭の状況）」について、次の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

図表9-4-1 女性の働き方（理想）



- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する(している・していた)
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)
- 仕事はもたない(もっていない)
- その他
- わからない
- 無回答

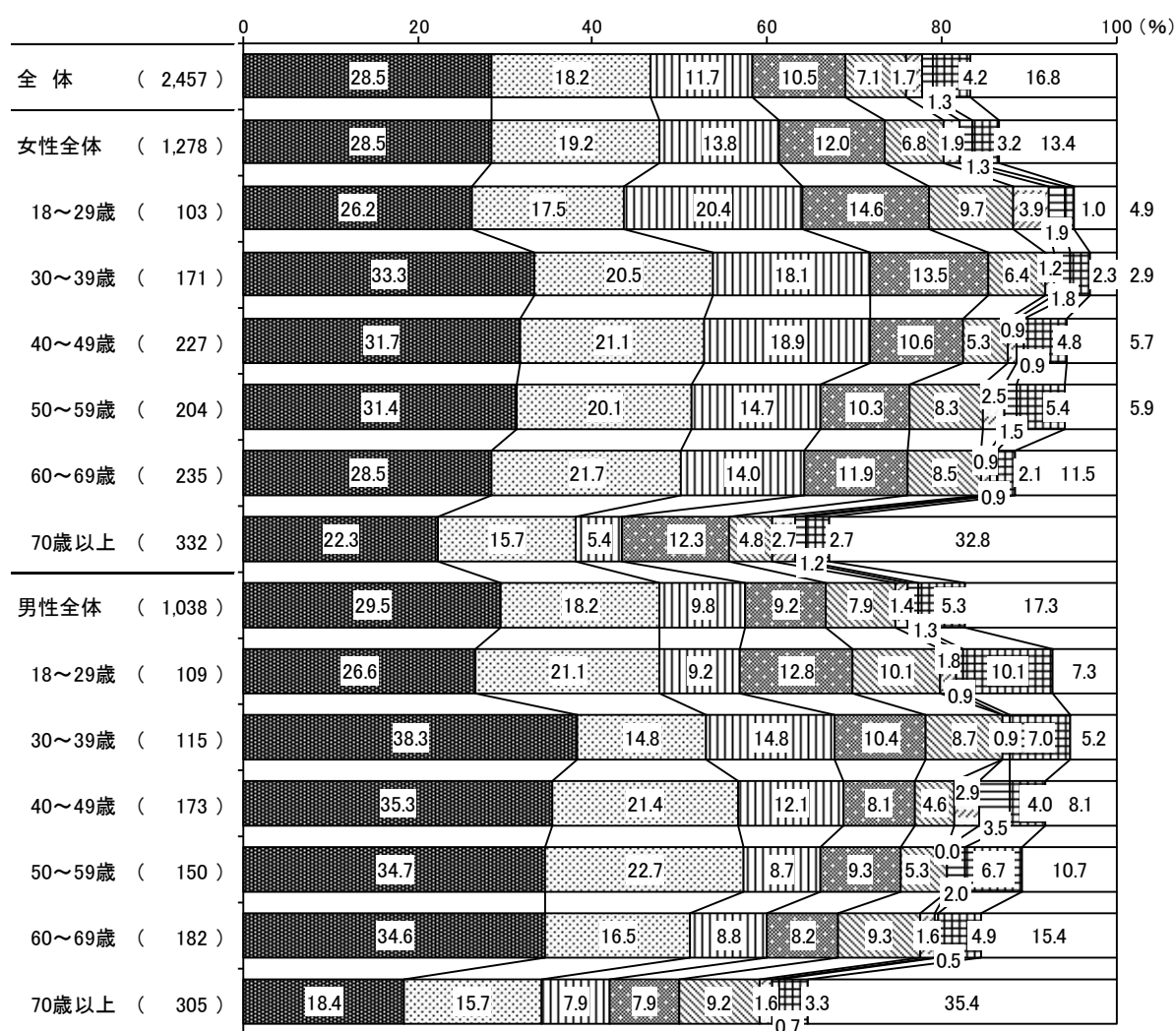
理想とする女性の働き方については、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」（28.5%）が最も多く、次いで、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」（18.2%）、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」（11.7%）、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する（している・していた）」（10.5%）、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している・していた）」（7.1%）、「仕事はもたない（もっていない）」（1.7%）の順となっている。また、「その他」として「女性自身の意志を尊重する働き方」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」（28.5%）は平成28年調査（22.3%）と比べ6.2ポイント増加している。

性別でみると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)」は女性(13.8%)が男性(9.8%)より4.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)」は男性30～39歳(38.3%)で4割弱、男性40～49歳(35.3%)、男性50～59歳(34.7%)、男性60～69歳(34.6%)で3割半ばと多くなっている。「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)」は女性18～29歳(20.4%)で約2割と多くなっている。

図表9-4-2 性・年齢別 女性の働き方(理想)



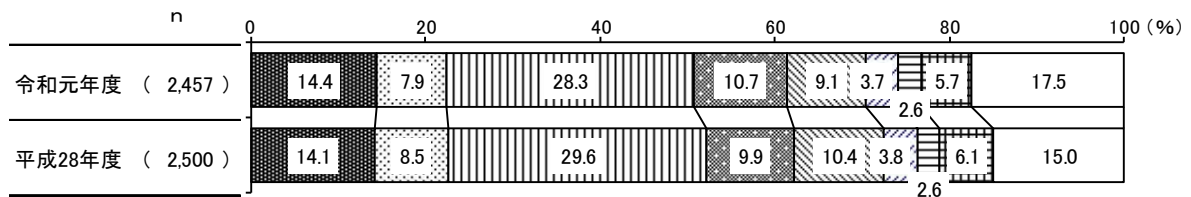
- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらず家事や子育てに専念する(している・していた)
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)
- 仕事はもたない(もっていない)
- その他
- わからない
- 無回答

(5) 女性の働き方（現実）

◇現実の働き方は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」が最も多く、3割弱

問34. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実（あなた自身やあなたの家庭の状況）」について、次の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

図表9-5-1 女性の働き方（現実）



- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する(している・していた)
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)
- 仕事はもたない(もっていない)
- その他
- わからない
- 無回答

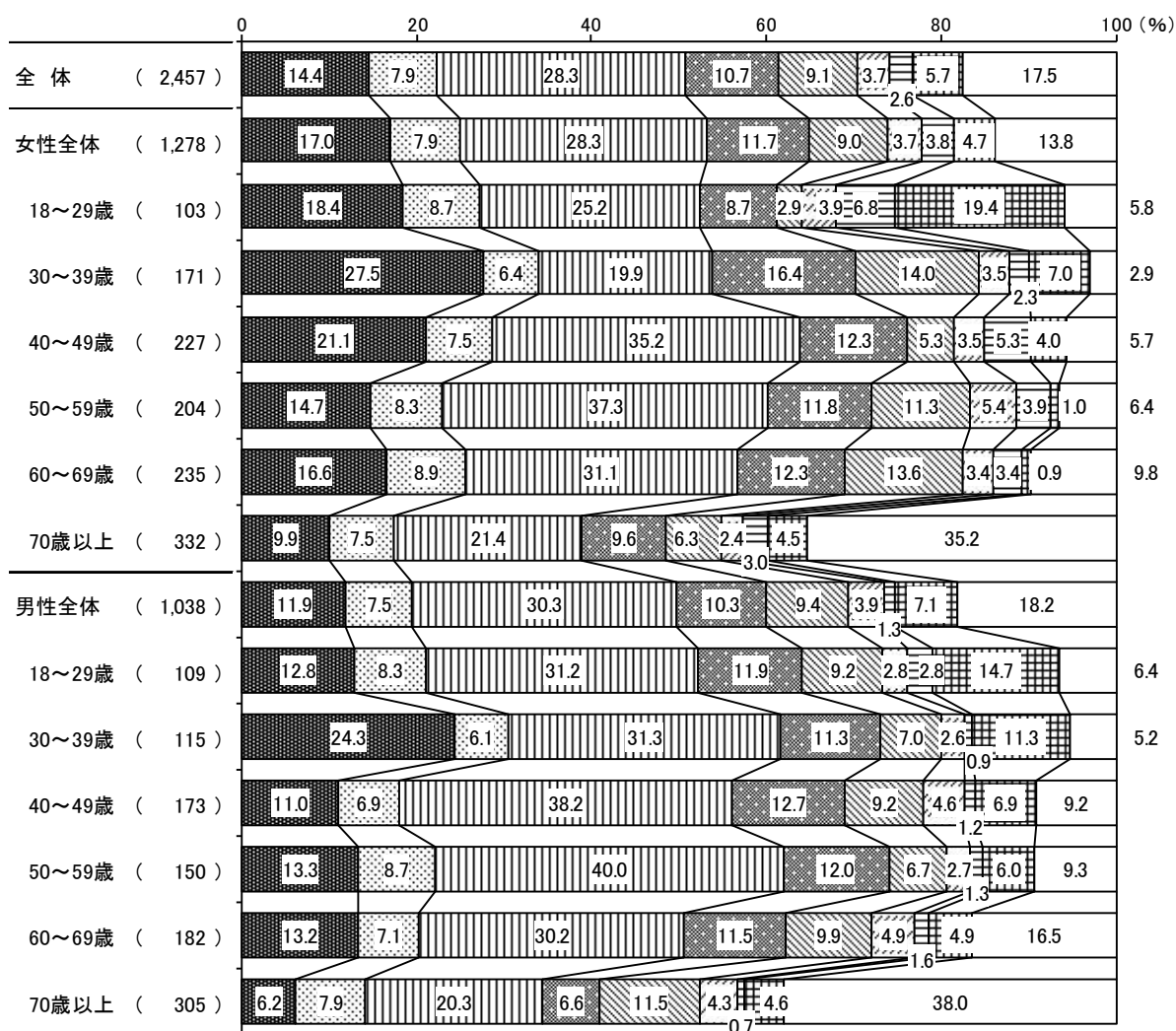
現実の女性の働き方については、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」(28.3%) が最も多く、次いで、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」(14.4%)、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する（している・していた）」(10.7%)、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している・していた）」(9.1%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」(7.9%)、「仕事はもたない（もっていない）」(3.7%) の順となっている。また、「その他」として「子を預けておける場所、人がなく働きたいのに働けない」「結婚、出産をしていない」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」は女性（17.0%）が男性（11.9%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」は男性50～59歳（40.0%）で4割、男性40～49歳（38.2%）、女性50～59歳（37.3%）で4割弱と多くなっている。「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」は女性30～39歳（27.5%）で3割弱、男性30～39歳（24.3%）で2割半ばと多くなっている。

図表9-5-2 性・年齢別 女性の働き方（現実）



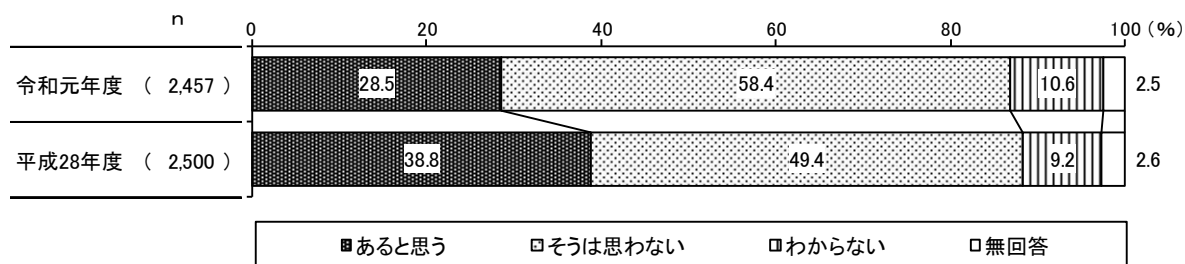
- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらか家事や子育てに専念する(している・していた)
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)
- 仕事はもたない(もっていない)
- その他
- わからない
- 無回答

(6) 仕事上での男女別能力差

◇「そうは思わない」が6割弱

問35. 仕事をしていく上で、能力に男女差があると思いますか（身体的な差を除く）。（○は1つ）

図表9－6－1 仕事上での男女別能力差



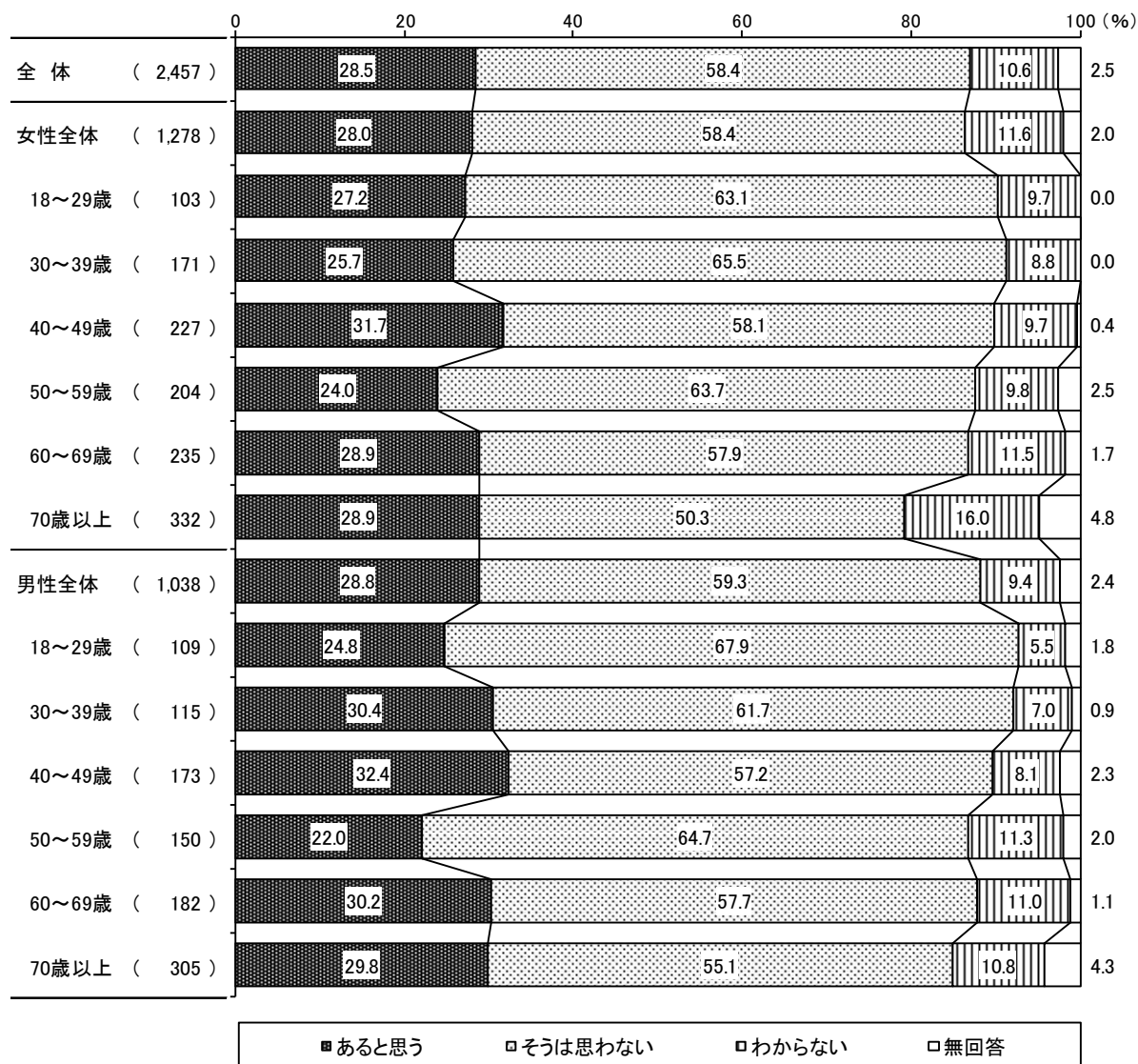
仕事をしていく上で、能力に男女差があると思うかについては、「あると思う」（28.5％）が3割弱、「そうは思わない」（58.4％）が6割弱となっている。

前回の調査と比較すると、「あると思う」（28.5％）は平成28年調査（38.8％）と比べ10.3ポイント減少している。一方、「そうは思わない」（58.4％）は平成28年調査（49.4％）と比べ9.0ポイント増加している。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、「そうは思わない」は男性 18～29 歳（67.9%）で 7 割弱、女性 30～39 歳（65.5%）で 6 割半ばと多くなっている。

図表 9－6－2 性・年齢別 仕事上での男女別能力差



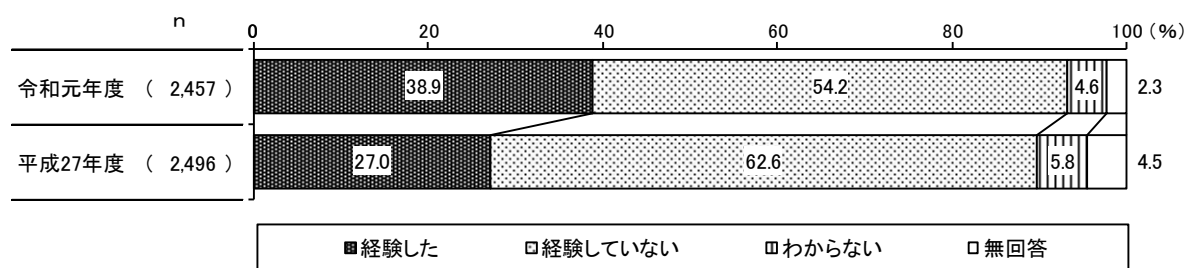
10. 生涯学習活動について

(1) 生涯学習活動の経験

◇「経験した」が4割弱

問36. 生涯学習とは、自分の意思で自分に合った方法により生涯にわたり行う、スポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などを言います。あなたは、この1年くらいの間に、問36-2に例示するような生涯学習活動を経験しましたか。
(○は1つ)

図表 10-1-1 生涯学習活動の経験

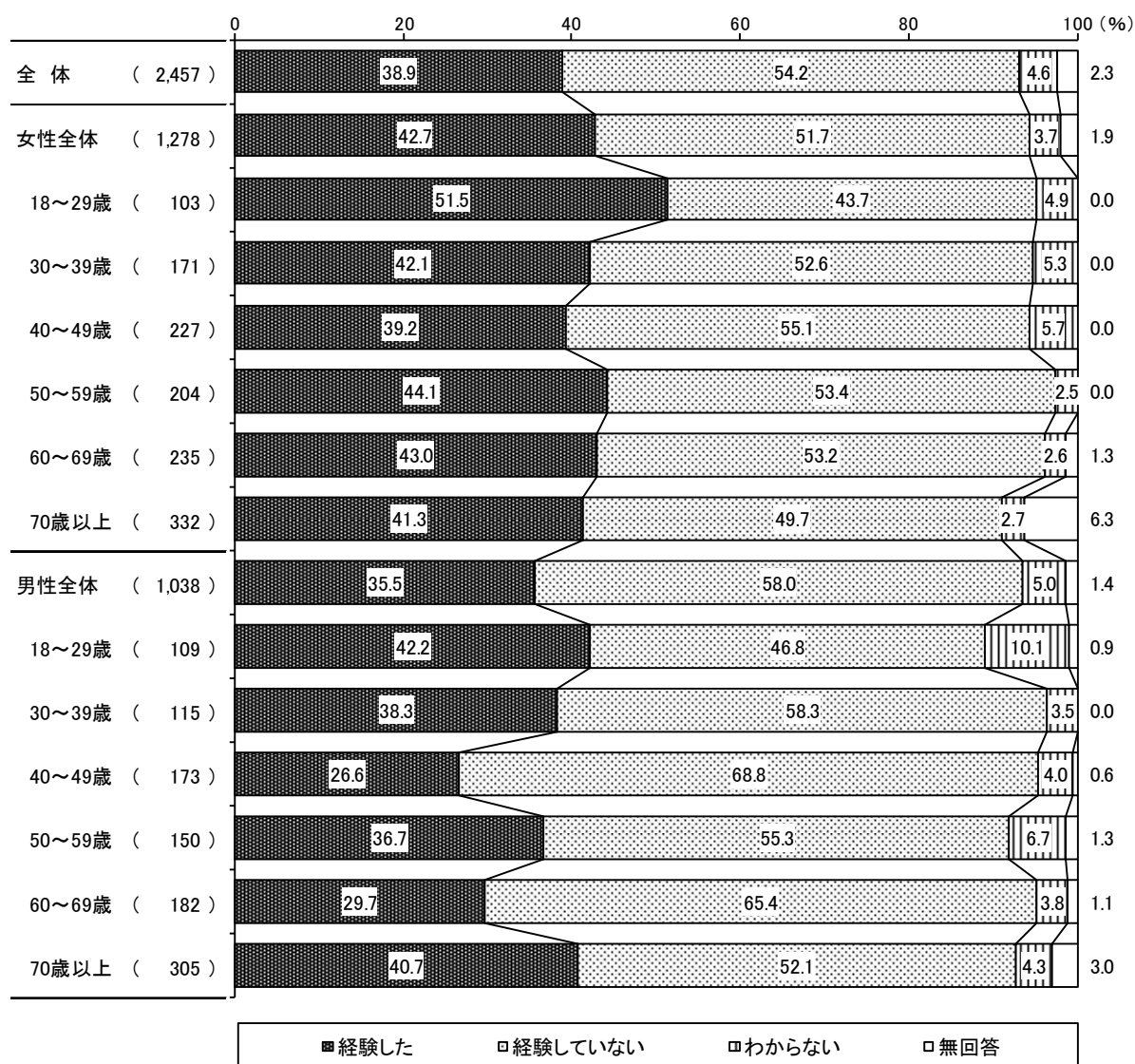


この1年くらいの間に生涯学習活動を経験したかについては、「経験した」(38.9%)が4割弱、「経験していない」(54.2%)が5割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、「経験した」(38.9%)は平成27年調査(27.0%)と比べ11.9ポイント増加している。

性別でみると、「経験した」は女性（42.7%）が男性（35.5%）より7.2ポイント高くなっている。
性・年齢別でみると、「経験した」は女性18～29歳（51.5%）で約5割と多くなっている。

図表 10－1－2 性・年齢別 生涯学習活動の経験



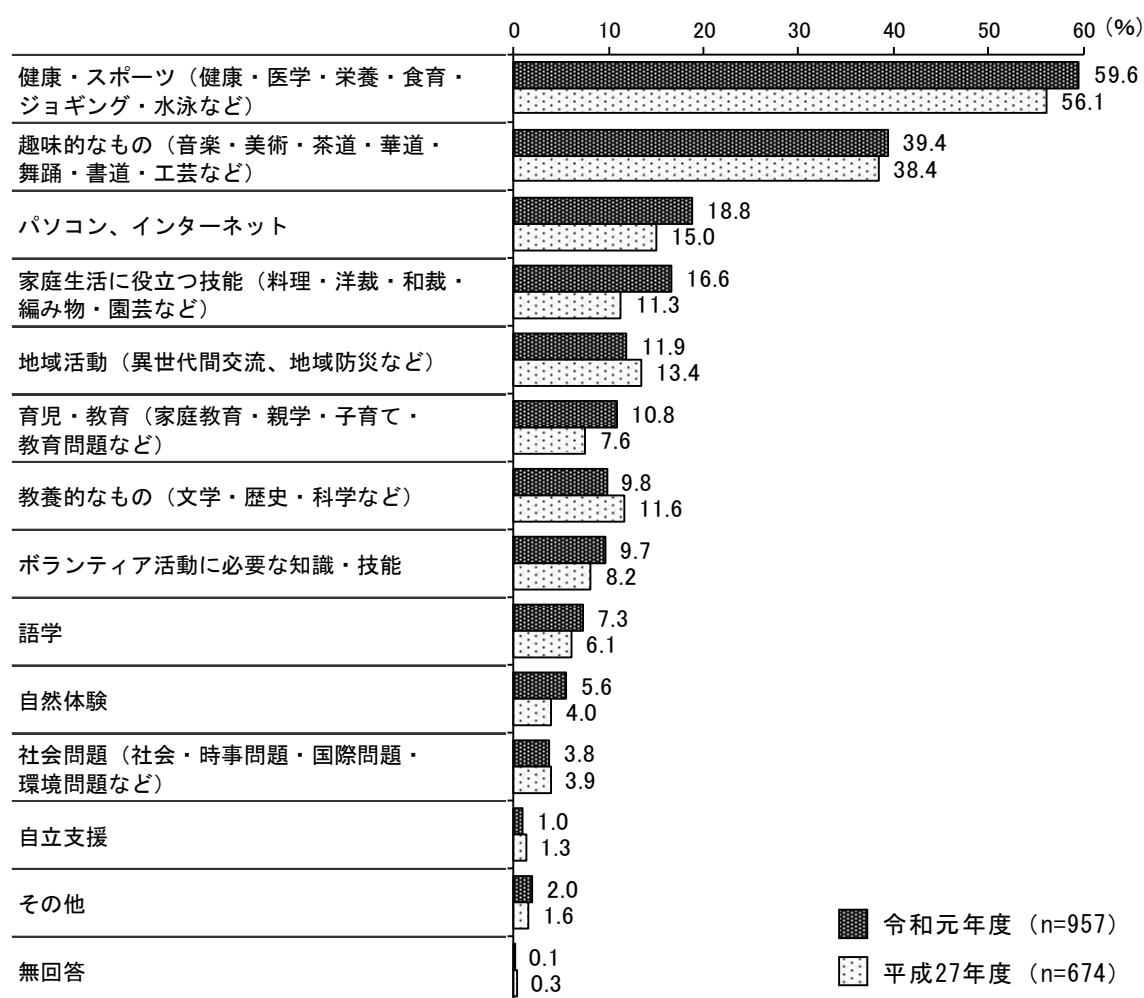
(2) 経験した生涯学習活動

◇「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が最も多く、約6割

問36-2. 問36で「1. 経験した」と答えた方に伺います。

あなたが経験した生涯学習活動は、次のうちどれですか。(複数回答可)

図表 10-2-1 経験した生涯学習活動



生涯学習活動を「経験した」と回答した 957 人に、経験した生涯学習活動について聞いたところ、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」(59.6%) が最も多く、次いで、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」(39.4%)、「パソコン、インターネット」(18.8%)、「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」(16.6%)、「地域活動（異世代間交流、地域防災など）」(11.9%) の順となっている。また、「その他」として「手品（マジック）」「ソーシャルダンス、フォークダンス」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」(59.6%) は平成 27 年調査 (56.1%) と比べ 3.5 ポイント増加している。

性別でみると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」は男性（67.2%）が女性（54.4%）より12.8ポイント、「パソコン、インターネット」は男性（24.4%）が女性（15.9%）より8.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は女性（44.7%）が男性（31.2%）より13.5ポイント、「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」は女性（20.7%）が男性（10.8%）より9.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」は男性30～39歳（77.3%）で8割弱、男性40～49歳（73.9%）で7割強と多くなっている。「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は女性18～29歳（69.8%）で約7割と多くなっている。

図表10-2-2 性・年齢別 経験した生涯学習活動

(%)

	調査数（人）	華道・舞踊・書道・工芸など	趣味的なもの（音楽・美術・茶道・	健康・スポーツ（健康・医学・栄	洋裁・和裁・編み物・園芸など	家庭生活に役立つ技能（料理・	パソコン、インターネット	教養的なもの（文学・歴史・科学など）	語学	ボランティア活動に必要な知識・	子育て・教育（家庭教育・親学・	育児・教育（家庭問題など）	問題・環境問題など	社会問題（社会・時事問題・国際	地域活動（異世代間交流、地域	防災など	自然体験	自立支援	その他	無回答
全 体	957	39.4	59.6	16.6	18.8	9.8	7.3	9.7	10.8	3.8	11.9	5.6	1.0	2.0	0.1					
女性全体	546	44.7	54.4	20.7	15.9	7.9	7.3	9.9	13.9	2.4	10.4	5.1	0.9	1.8	0.2					
18～29歳	53	69.8	56.6	22.6	28.3	15.1	9.4	1.9	7.5	3.8	-	9.4	1.9	-	-					
30～39歳	72	33.3	45.8	31.9	19.4	1.4	12.5	8.3	37.5	-	11.1	9.7	1.4	1.4	-					
40～49歳	89	44.9	49.4	15.7	14.6	6.7	5.6	11.2	25.8	1.1	12.4	7.9	-	2.2	-					
50～59歳	90	37.8	55.6	21.1	18.9	7.8	5.6	8.9	11.1	4.4	10.0	1.1	-	2.2	-					
60～69歳	101	42.6	58.4	16.8	16.8	11.9	8.9	11.9	5.9	4.0	11.9	2.0	1.0	1.0	-					
70歳以上	137	48.2	56.9	19.7	8.0	6.6	5.1	12.4	3.6	1.5	11.7	4.4	1.5	2.9	0.7					
男性全体	369	31.2	67.2	10.8	24.4	13.0	7.9	8.9	6.8	6.0	13.6	6.0	1.1	2.2	-					
18～29歳	46	32.6	58.7	6.5	32.6	8.7	8.7	8.7	4.3	4.3	-	-	2.2	6.5	-					
30～39歳	44	34.1	77.3	22.7	43.2	18.2	9.1	6.8	25.0	4.5	4.5	13.6	-	-	-					
40～49歳	46	32.6	73.9	8.7	23.9	8.7	8.7	6.5	4.3	2.2	13.0	13.0	2.2	-	-					
50～59歳	55	25.5	69.1	9.1	23.6	16.4	12.7	3.6	7.3	10.9	9.1	3.6	-	1.8	-					
60～69歳	54	29.6	70.4	11.1	16.7	11.1	1.9	9.3	7.4	9.3	22.2	3.7	-	-	-					
70歳以上	124	32.3	62.1	9.7	18.5	13.7	7.3	12.9	1.6	4.8	20.2	4.8	1.6	3.2	-					

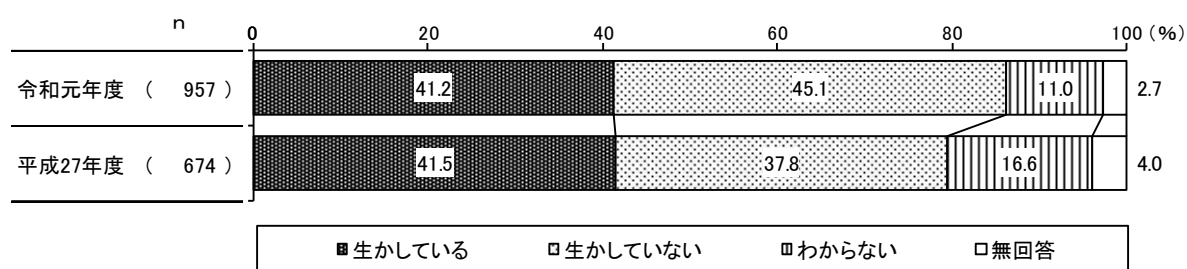
(3) 生涯学習活動を生かしているか

◇「生かしている」が約4割

問36-3. 同じく問36で「1. 経験した」と答えた方に伺います。

あなたは、学んだ知識、経験、技能を、下記の間36-4に例示するような活動に生かしていますか。(〇は1つ)

図表 10-3-1 生涯学習活動を生かしているか



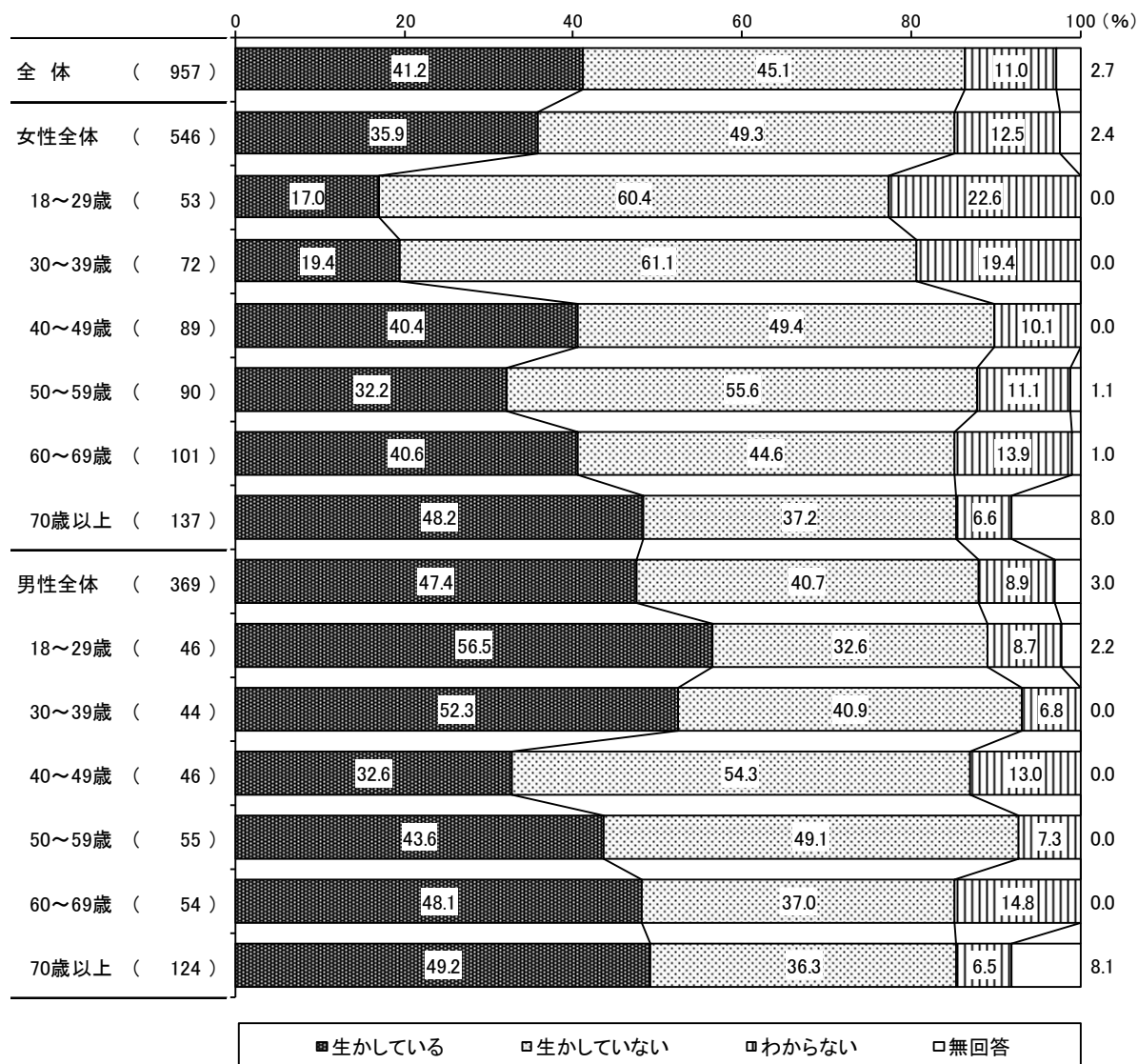
生涯学習活動を「経験した」と回答した 957 人に、生涯学習活動を生かしているか聞いたところ、「生かしている」(41.2%) が約 4 割、「生かしていない」(45.1%) が 4 割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、「生かしている」については大きな変化はみられない。

性別でみると、「生かしている」は男性（47.4%）が女性（35.9%）より11.5ポイント高くなっている。一方、「生かしていない」は女性（49.3%）が男性（40.7%）より8.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「生かしている」は男性18～29歳（56.5%）で5割半ば、男性30～39歳（52.3%）で5割強と多くなっている。一方、「生かしていない」は女性30～39歳（61.1%）、女性18～29歳（60.4%）で約6割と多くなっている。

図表 10－3－2 性・年齢別 生涯学習活動を生かしているか

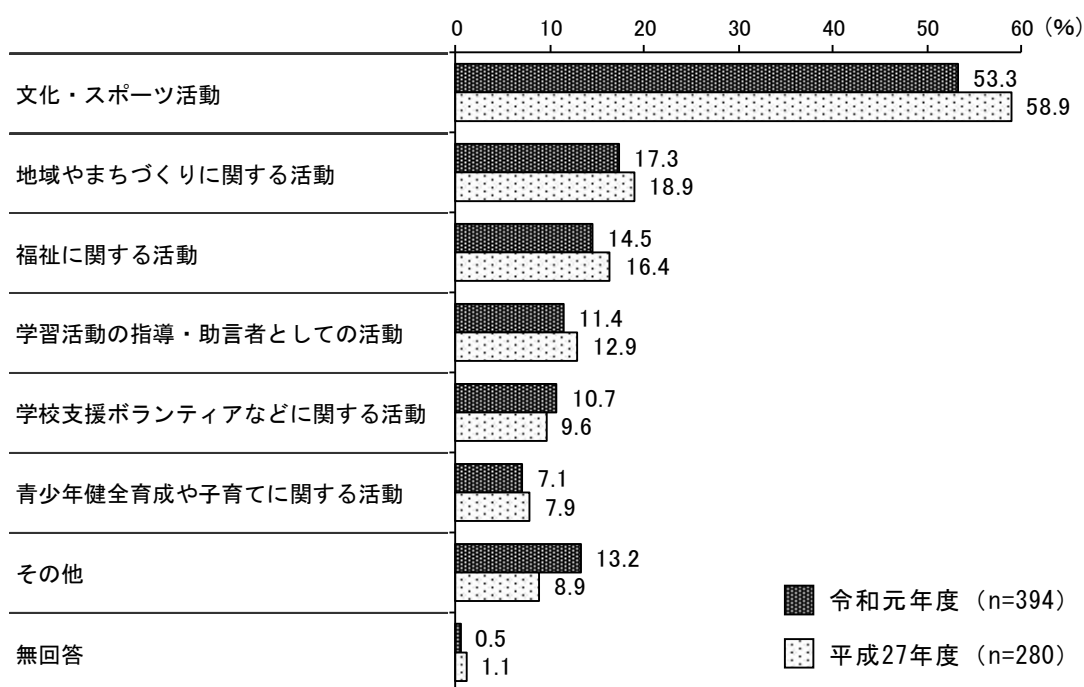


(4) 生涯学習活動を生かしている分野

◇「文化・スポーツ活動」が最も多く、5割強

問36-4. 問36-3で「1. 生かしている」と答えた方に伺います。あなたが学んだ知識などについて、どのような分野で生かしていますか（生かしましたか）。(複数回答可)

図表 10-4-1 生涯学習活動を生かしている分野



生涯学習活動を「生かしている」と回答した 394 人に、生涯学習活動を生かしている分野について聞いたところ、「文化・スポーツ活動」(53.3%) が最も多く、次いで、「地域やまちづくりに関する活動」(17.3%)、「福祉に関する活動」(14.5%)、「学習活動の指導・助言者としての活動」(11.4%)、「学校支援ボランティアなどに関する活動」(10.7%) の順となっている。また、「その他」として「仕事」「家庭生活」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「文化・スポーツ活動」(53.3%) は平成 27 年調査 (58.9%) と比べ 5.6 ポイント減少している。

性別でみると、「文化・スポーツ活動」は男性（62.9%）が女性（44.4%）より18.5ポイント高くなっている。「学校支援ボランティアなどに関する活動」は女性（14.3%）が男性（6.3%）より8.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、大きな差異はみられない。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表 10-4-2 性・年齢別 生涯学習活動を生かしている分野

	調査数（人）	文化・スポーツ活動	地域やまちづくりに関する活動	学習活動の指導・助言者としての活動	福祉に関する活動	青少年健全育成や子育てに関する活動	学校支援ボランティアなどに関する活動	その他	無回答
全 体	394	53.3	17.3	11.4	14.5	7.1	10.7	13.2	0.5
女性全体	196	44.4	14.8	13.3	16.8	7.1	14.3	16.3	0.5
18～29歳	9	77.8	－	－	11.1	11.1	－	－	－
30～39歳	14	21.4	14.3	7.1	－	21.4	28.6	28.6	7.1
40～49歳	36	27.8	11.1	16.7	19.4	8.3	13.9	27.8	－
50～59歳	29	34.5	20.7	20.7	13.8	13.8	20.7	13.8	－
60～69歳	41	56.1	14.6	14.6	17.1	2.4	17.1	9.8	－
70歳以上	66	50.0	16.7	10.6	21.2	3.0	9.1	15.2	－
男性全体	175	62.9	20.0	10.3	12.6	8.0	6.3	9.1	－
18～29歳	26	80.8	11.5	3.8	7.7	3.8	－	－	－
30～39歳	23	56.5	13.0	30.4	8.7	13.0	8.7	13.0	－
40～49歳	15	60.0	26.7	13.3	20.0	6.7	6.7	6.7	－
50～59歳	24	75.0	20.8	12.5	8.3	12.5	－	8.3	－
60～69歳	26	69.2	19.2	11.5	7.7	7.7	3.8	15.4	－
70歳以上	61	50.8	24.6	3.3	18.0	6.6	11.5	9.8	－

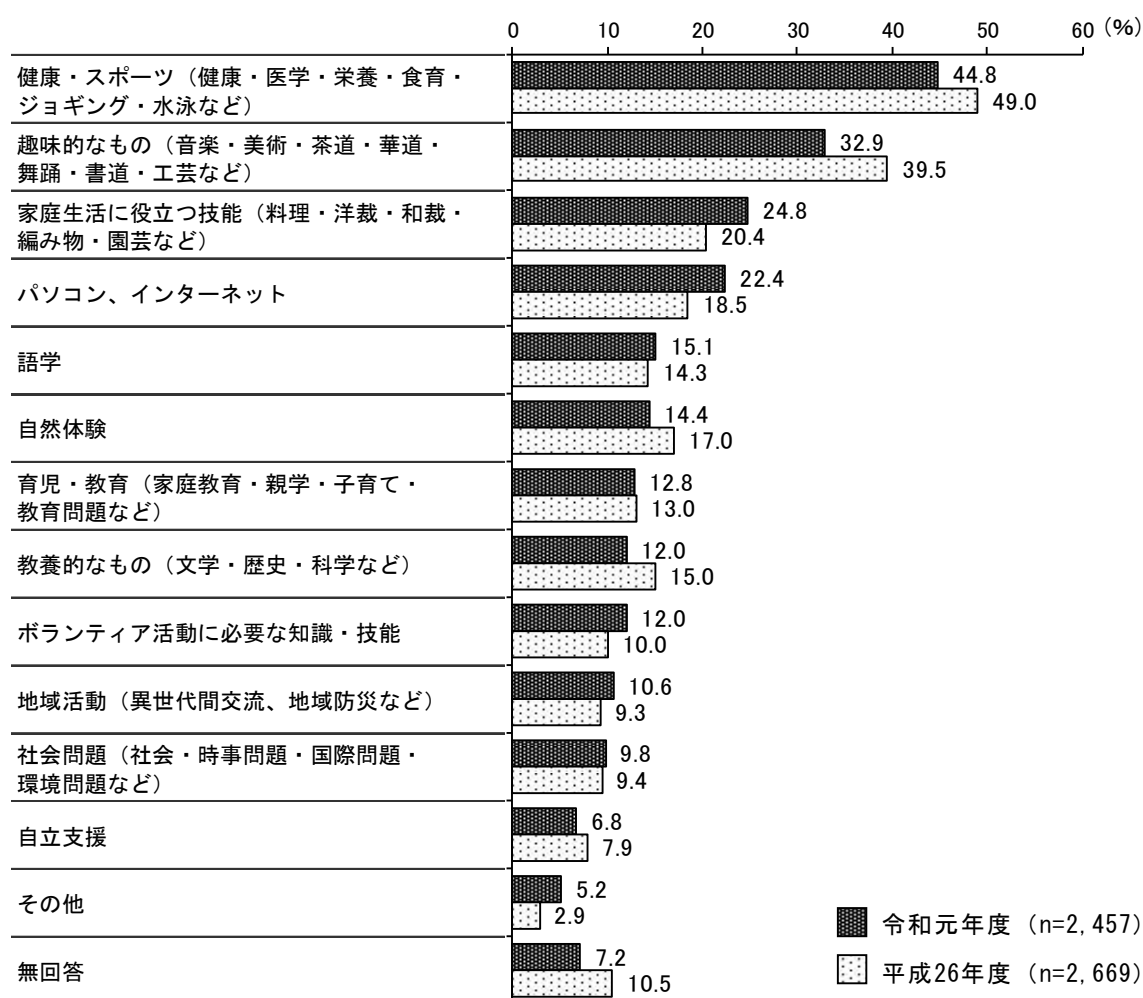
(5) 開催してほしい講座・教室

◇「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が最も多く、4割半ば

問37. 皆さんに伺います。今後、どのような講座・教室を開催してもらいたいですか。

(複数回答可)

図表 10-4-1 開催してほしい講座・教室



今後、開催してほしい講座・教室については、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」(44.8%) が最も多く、次いで、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」(32.9%)、「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」(24.8%)、「パソコン、インターネット」(22.4%)、「語学」(15.1%) の順となっている。また、「その他」として「終活」「介護」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」(44.8%) は平成26年調査(49.0%) と比べ4.2ポイント減少している。

性別でみると、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は女性（38.6%）が男性（27.2%）より 11.4 ポイント、「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」は女性（32.8%）が男性（15.9%）より 16.9 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」は女性 50～59 歳（52.9%）で 5 割強、男性 40～49 歳（51.4%）、男性 30～39 歳（50.4%）で約 5 割と多くなっている。「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は女性 50～59 歳（47.1%）で 5 割弱、女性 30～39 歳（45.6%）、女性 40～49 歳（45.4%）で 4 割半ばと多くなっている。「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」は女性 30～39 歳（42.7%）で 4 割強、女性 18～29 歳（39.8%）で約 4 割と多くなっている。

図表 10-4-2 性・年齢別 開催してほしい講座・教室

(%)

	調査数（人）	華道・舞踊・書道・工芸など	趣味的なもの（音楽・美術・茶道・健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）	家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）	パソコン、インターネット	教養的なもの（文学・歴史・科学など）	語学	技能	ボランティア活動に必要な知識・子育て・教育（家庭教育・親学・育児・教育問題など）	社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など）	防災など	地域活動（異世代間交流、地域	自然体験	自立支援	その他	無回答
全 体	2,457	32.9	44.8	24.8	22.4	12.0	15.1	12.0	12.8	9.8	10.6	14.4	6.8	5.2	7.2	
女性全体	1,278	38.6	44.6	32.8	23.3	11.0	18.0	12.4	16.4	7.7	9.9	15.1	7.1	4.3	6.6	
18～29歳	103	40.8	45.6	39.8	24.3	12.6	27.2	8.7	32.0	8.7	5.8	12.6	3.9	2.9	1.0	
30～39歳	171	45.6	45.0	42.7	18.1	12.9	28.1	8.8	39.2	8.8	7.0	29.8	6.4	5.3	1.2	
40～49歳	227	45.4	48.0	30.4	23.3	10.1	22.0	14.1	20.3	4.4	8.4	19.8	8.8	4.4	4.8	
50～59歳	204	47.1	52.9	37.7	38.2	10.3	22.5	17.2	14.7	5.4	10.3	11.8	8.3	3.4	2.0	
60～69歳	235	38.7	47.7	30.6	25.5	14.0	17.4	14.0	9.8	11.9	11.5	10.2	8.5	5.1	4.3	
70歳以上	332	24.4	34.6	25.6	14.5	8.4	4.2	10.2	3.0	7.8	12.3	10.8	5.7	4.2	16.6	
男性全体	1,038	27.2	45.9	15.9	22.6	14.2	12.8	11.8	9.2	12.5	11.7	14.5	6.6	6.4	6.4	
18～29歳	109	33.0	43.1	12.8	18.3	13.8	19.3	10.1	13.8	15.6	11.9	17.4	3.7	5.5	1.8	
30～39歳	115	32.2	50.4	20.9	22.6	10.4	17.4	7.8	21.7	11.3	7.0	22.6	6.1	9.6	4.3	
40～49歳	173	28.3	51.4	16.8	21.4	12.1	21.4	11.6	15.6	8.7	12.7	20.2	6.9	4.6	2.3	
50～59歳	150	26.0	48.7	17.3	21.3	16.0	12.0	14.0	6.7	11.3	9.3	12.0	4.0	5.3	10.0	
60～69歳	182	34.1	46.2	19.8	19.2	14.8	8.8	12.6	3.3	12.1	9.9	11.0	8.2	9.9	3.3	
70歳以上	305	19.0	40.3	11.8	27.9	15.4	6.9	12.8	3.9	15.1	15.1	10.5	7.5	4.9	11.1	

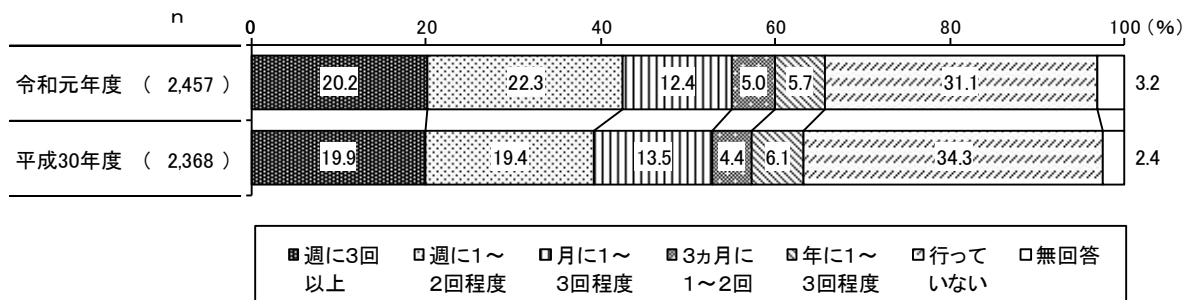
11. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』が4割強

問38. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか（ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます）。（○は1つ）

図表 11-1-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

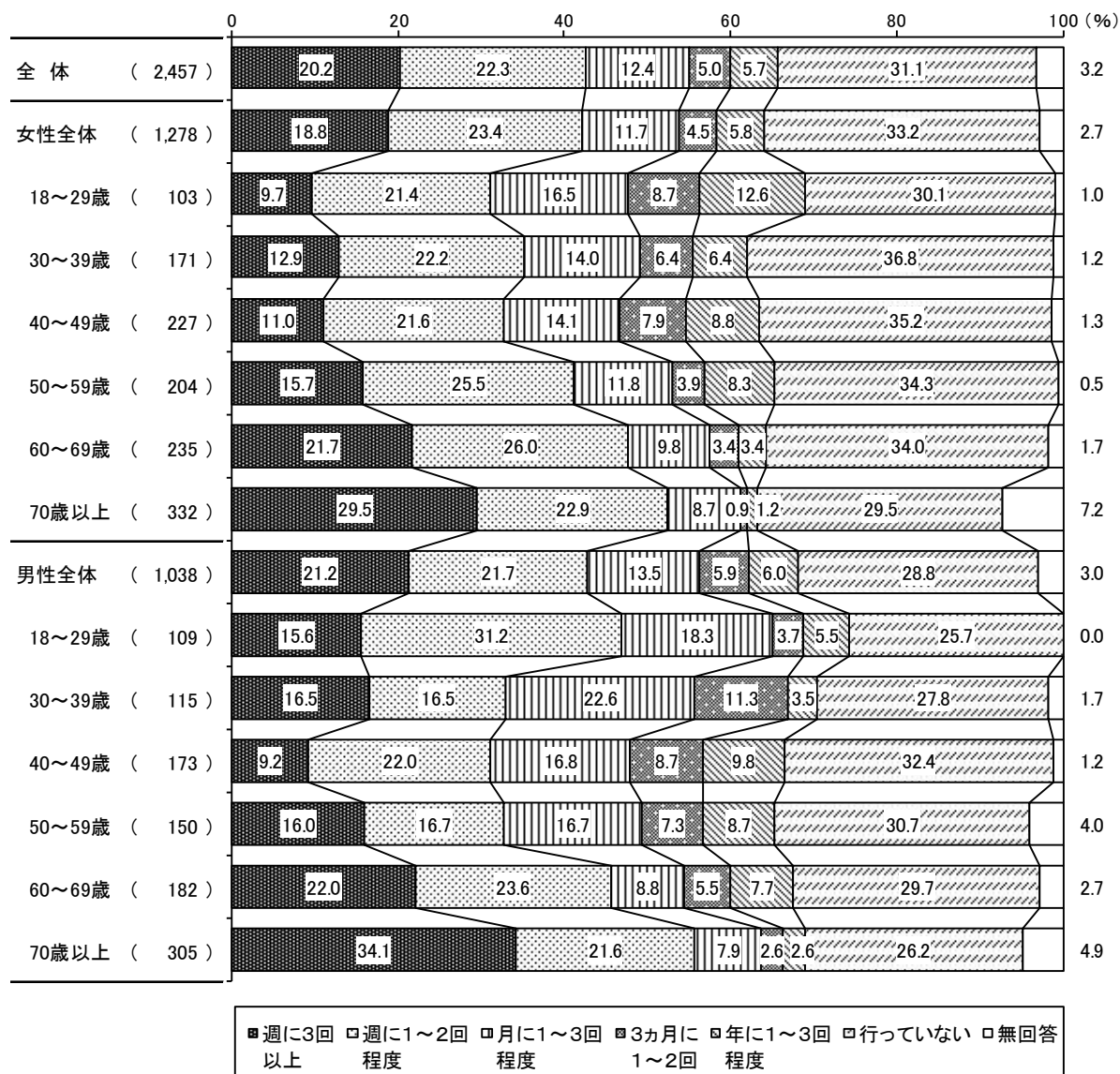


この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」（20.2%）と「週に1～2回程度」（22.3%）を合わせた『週に1回以上』（42.5%）は4割強となっている。一方、「行っていない」（31.1%）は約3割となっている。

前回の調査と比較すると、『週に1回以上』（42.5%）は平成30年調査（39.3%）と比べ3.2ポイント増加している。

性別でみると、「行っていない」は女性（33.2%）が男性（28.8%）より4.4ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『週に1回以上』は男性70歳以上（55.7%）で5割半ば、女性70歳以上（52.4%）
 で5割強と多くなっている。

図表 11-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

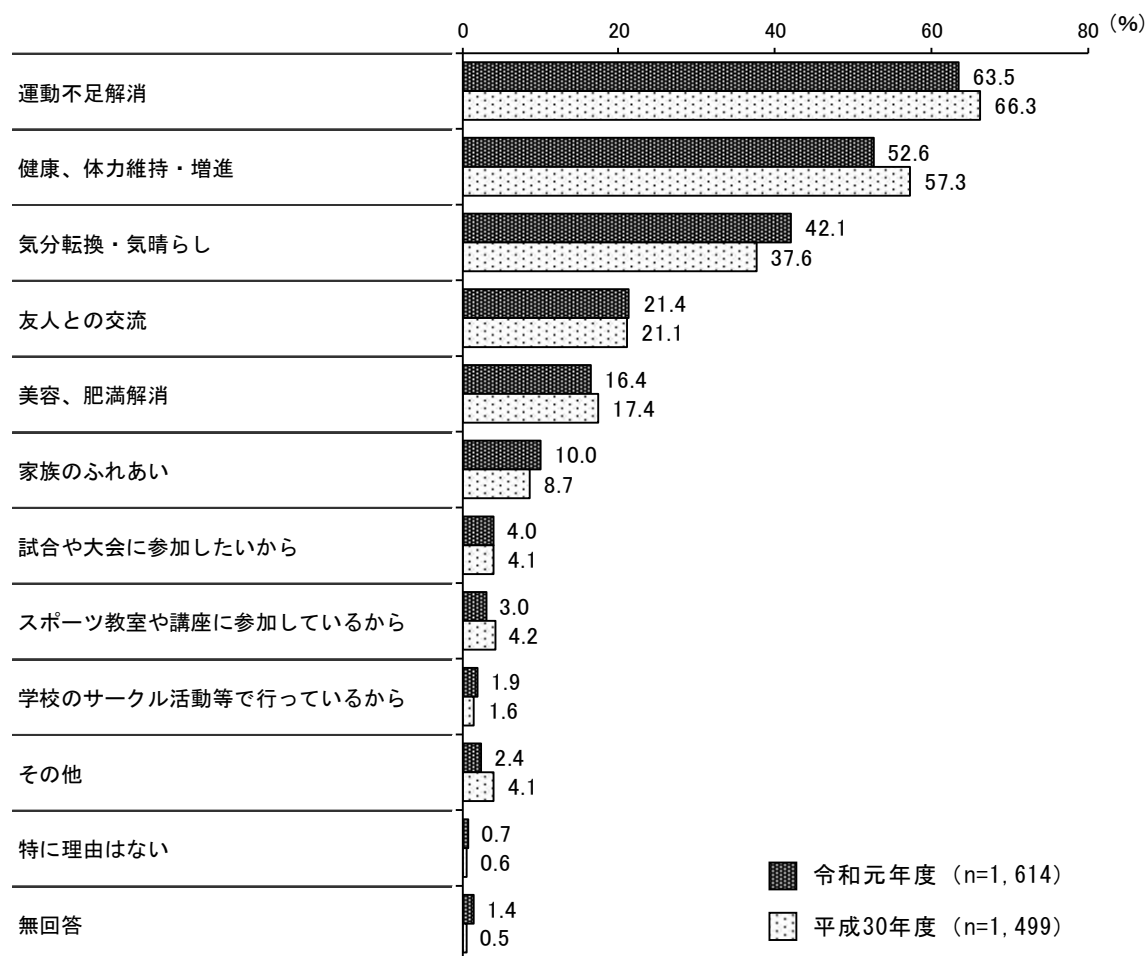


(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

◇「運動不足解消」が最も多く、6割強

問38-2. 問38で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 11-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,614人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(63.5%)が最も多く、次いで、「健康、体力維持・増進」(52.6%)、「気分転換・気晴らし」(42.1%)、「友人との交流」(21.4%)、「美容、肥満解消」(16.4%)の順となっている。また、「その他」として「趣味」「犬の散歩」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「気分転換・気晴らし」(42.1%)は平成30年調査(37.6%)と比べ4.5ポイント増加している。一方、「健康、体力維持・増進」(52.6%)は平成30年調査(57.3%)と比べ4.7ポイント減少している。

性別でみると、「運動不足解消」は女性（66.1%）が男性（61.0%）より5.1ポイント、「美容、肥満解消」は女性（23.0%）が男性（10.0%）より13.0ポイント、「家族のふれあい」は女性（12.6%）が男性（7.9%）より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「運動不足解消」は女性50～59歳（74.4%）で7割半ば、女性70歳以上（71.9%）で約7割と多くなっている。「健康、体力維持・増進」は男性70歳以上（71.9%）で約7割と多くなっている。「気分転換・気晴らし」は女性30～39歳（53.8%）で5割強と多くなっている。「友人との交流」は女性70歳以上（34.3%）で3割半ばと多くなっている。「美容、肥満解消」は女性30～39歳（37.7%）で4割弱と多くなっている。「家族のふれあい」は女性30～39歳（29.2%）で約3割と多くなっている。

図表 11-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

(%)

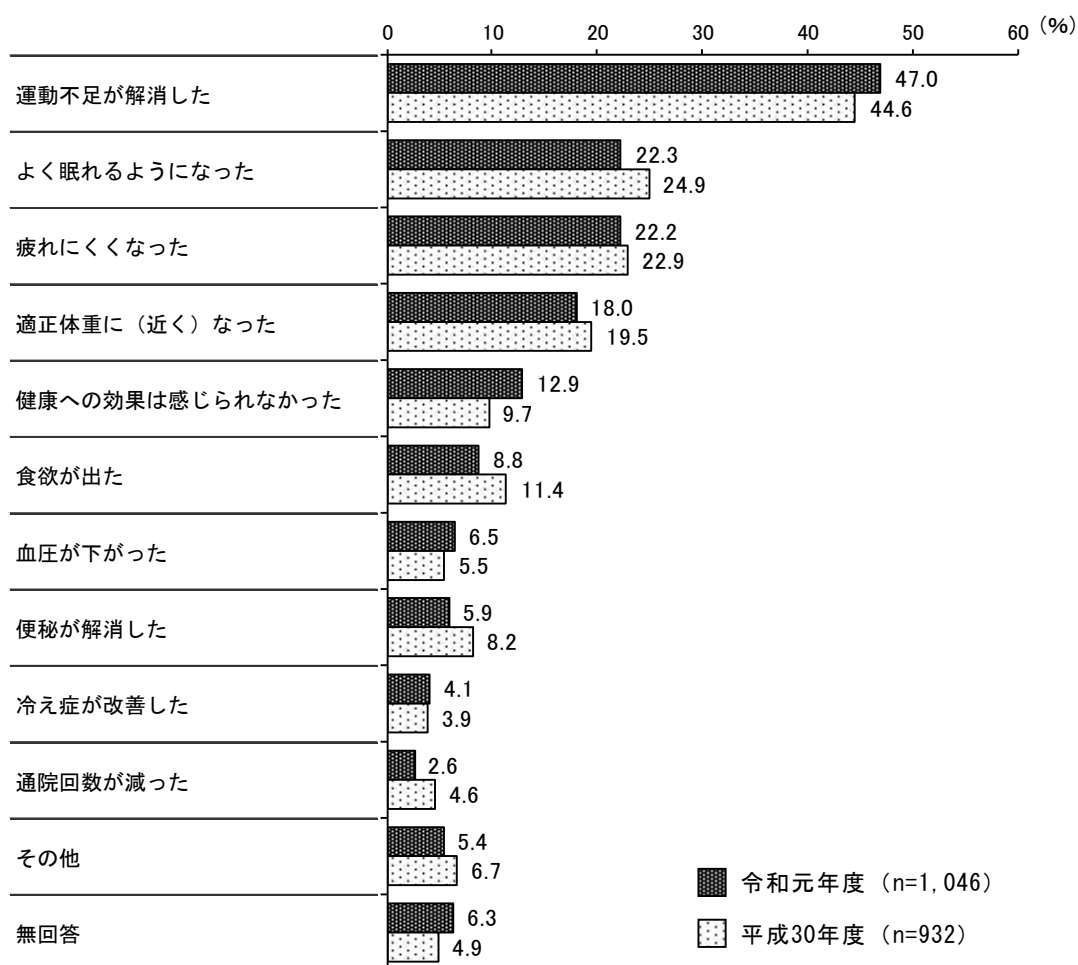
	調査数（人）	気分転換・気晴らし	運動不足解消	美容、肥満解消	家族のふれあい	友人との交流	健康、体力維持・増進	試合や大会に参加したいから	学校のサークル活動等で行っているから	スポーツ教室や講座に参加しているから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	1,614	42.1	63.5	16.4	10.0	21.4	52.6	4.0	1.9	3.0	2.4	0.7	1.4
女性全体	819	41.1	66.1	23.0	12.6	20.3	52.6	2.2	1.0	4.6	2.2	0.5	1.5
18～29歳	71	46.5	56.3	33.8	12.7	12.7	31.0	—	7.0	5.6	1.4	2.8	2.8
30～39歳	106	53.8	58.5	37.7	29.2	9.4	31.1	1.9	—	1.9	5.7	—	0.9
40～49歳	144	44.4	57.6	27.8	22.2	18.1	38.9	3.5	1.4	2.8	2.8	0.7	—
50～59歳	133	51.1	74.4	29.3	10.5	9.8	54.1	1.5	0.8	3.8	1.5	—	—
60～69歳	151	38.4	68.9	17.9	7.9	23.2	67.5	2.6	—	7.9	0.7	—	2.6
70歳以上	210	26.2	71.9	8.1	2.4	34.3	68.1	1.9	—	4.8	1.9	0.5	2.4
男性全体	708	43.1	61.0	10.0	7.9	21.5	53.4	6.1	3.0	1.0	2.7	1.0	1.6
18～29歳	81	49.4	45.7	11.1	3.7	17.3	33.3	12.3	14.8	—	4.9	—	3.7
30～39歳	81	50.6	63.0	18.5	13.6	17.3	44.4	6.2	6.2	—	6.2	3.7	1.2
40～49歳	115	51.3	65.2	9.6	13.0	21.7	40.9	1.7	2.6	1.7	0.9	0.9	1.7
50～59歳	98	45.9	54.1	17.3	7.1	19.4	48.0	9.2	—	—	3.1	2.0	2.0
60～69歳	123	42.3	61.8	9.8	8.9	19.5	56.9	7.3	0.8	—	1.6	—	1.6
70歳以上	210	32.4	66.7	3.3	4.3	26.7	71.9	3.8	—	2.4	1.9	0.5	0.5

(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果

◇「運動不足が解消した」が最も多く、5割弱

問38-3. 問38で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

図表 11-3-1 スポーツ・レクリエーション活動の効果



週に1回以上、スポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,046人に、スポーツ・レクリエーション活動の効果を聞いたところ、「運動不足が解消した」(47.0%)が最も多く、次いで、「よく眠れるようになった」(22.3%)、「疲れにくくなった」(22.2%)、「適正体重に(近く)なった」(18.0%)、「健康への効果は感じられなかった」(12.9%)の順となっている。また、「その他」として「気分転換」「現状維持」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「健康への効果は感じられなかった」(12.9%)は平成30年調査(9.7%)と比べ3.2ポイント増加している。

性別でみると、「適正体重に（近く）なった」は男性（24.3%）が女性（13.9%）より10.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「よく眠れるようになった」は女性50～59歳（31.0%）、女性70歳以上（29.9%）で約3割と多くなっている。「疲れにくくなった」は女性70歳以上（29.9%）で約3割と多くなっている。「適正体重に（近く）なった」は男性60～69歳（30.1%）で約3割と多くなっている。

図表 11－3－2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の効果

(%)

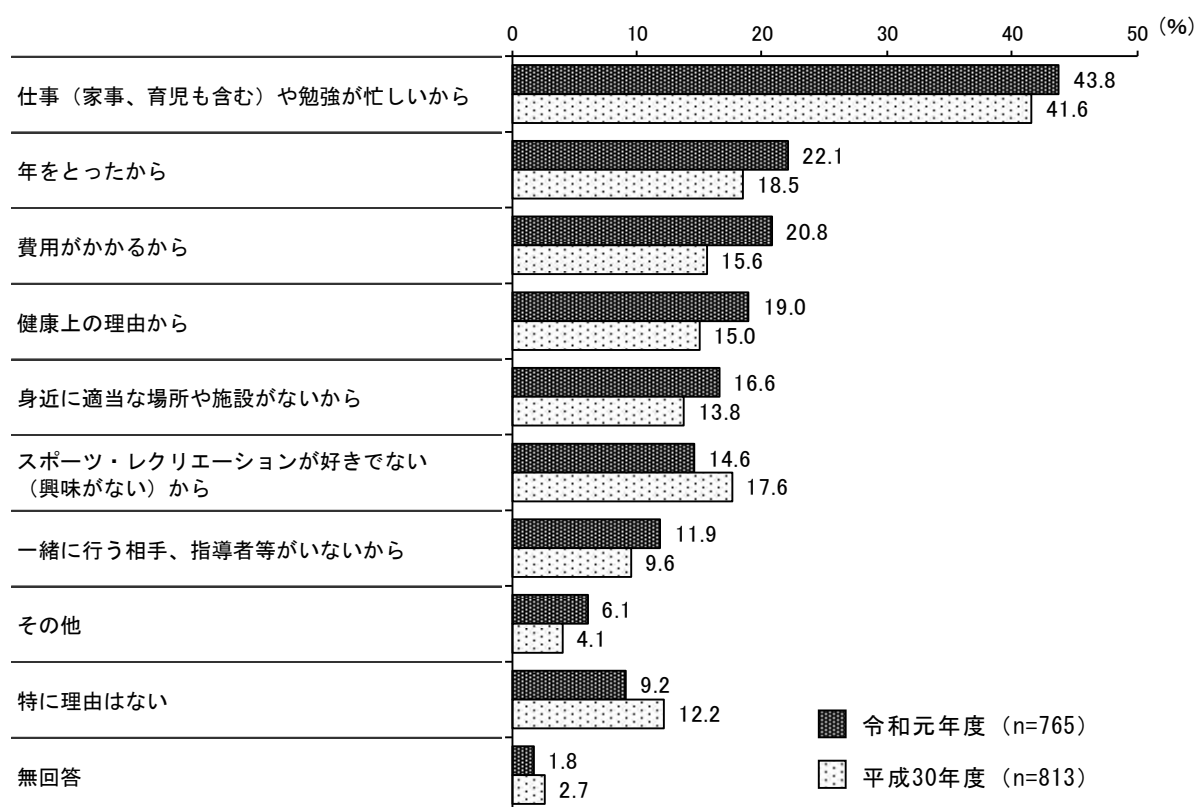
	調査数（人）	疲れにくくなった	冷え症が改善した	よく眠れるようになった	運動不足が解消した	通院回数が減った	適正体重に（近く）なった	血圧が下がった	食欲が出た	便秘が解消した	健康への効果は感じられなかった	その他	無回答
全 体	1,046	22.2	4.1	22.3	47.0	2.6	18.0	6.5	8.8	5.9	12.9	5.4	6.3
女性全体	539	23.6	6.1	25.6	44.2	2.8	13.9	4.3	5.9	7.6	13.0	5.9	6.7
18～29歳	32	12.5	9.4	18.8	40.6	－	15.6	－	12.5	6.3	21.9	－	12.5
30～39歳	60	15.0	5.0	21.7	43.3	－	18.3	－	10.0	8.3	26.7	5.0	5.0
40～49歳	74	21.6	8.1	16.2	51.4	2.7	9.5	－	－	5.4	13.5	9.5	6.8
50～59歳	84	20.2	7.1	31.0	36.9	1.2	15.5	3.6	3.6	8.3	15.5	7.1	8.3
60～69歳	112	25.9	8.0	25.0	43.8	1.8	14.3	7.1	4.5	8.9	8.9	5.4	7.1
70歳以上	174	29.9	2.9	29.9	46.0	5.7	12.6	6.9	8.0	7.5	8.0	5.7	5.2
男性全体	445	18.4	1.1	18.9	51.0	2.0	24.3	7.6	11.9	3.8	12.6	4.9	5.4
18～29歳	51	15.7	－	11.8	51.0	－	13.7	－	3.9	－	13.7	5.9	9.8
30～39歳	38	26.3	2.6	18.4	50.0	2.6	26.3	－	15.8	10.5	18.4	5.3	2.6
40～49歳	54	11.1	－	7.4	46.3	－	25.9	11.1	5.6	－	13.0	9.3	3.7
50～59歳	49	24.5	6.1	24.5	53.1	－	26.5	6.1	6.1	6.1	10.2	2.0	6.1
60～69歳	83	13.3	－	14.5	53.0	1.2	30.1	12.0	12.0	3.6	20.5	2.4	4.8
70歳以上	170	20.6	0.6	25.3	51.2	4.1	22.9	8.8	17.1	4.1	7.6	5.3	5.3

(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、4割強

問38-4. 問38で「6」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 11-4-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した765人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」（43.8%）が最も多く、次いで、「年をとったから」（22.1%）、「費用がかかるから」（20.8%）、「健康上の理由から」（19.0%）、「身近に適切な場所や施設がないから」（16.6%）の順となっている。また、「その他」として「興味がない」「妊娠中だから」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「費用がかかるから」（20.8%）は平成30年調査（15.6%）と比べ5.2ポイント、「健康上の理由から」（19.0%）は平成30年調査（15.0%）と比べ4.0ポイント、それぞれ増加している。

性別でみると、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は女性（47.4%）が男性（41.1%）より6.3ポイント、「費用がかかるから」は女性（24.3%）が男性（17.7%）より、それぞれ6.6ポイント高くなっている。一方、「年をとったから」は男性（25.1%）が女性（18.4%）より6.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は女性30～39歳（74.6%）で7割半ば、女性40～49歳（70.0%）で7割と多くなっている。「年をとったから」は女性70歳以上（56.1%）で5割半ば、男性70歳以上（53.8%）で5割強と多くなっている。「費用がかかるから」は女性40～49歳（37.5%）で4割弱と多くなっている。「健康上の理由から」は女性70歳以上（37.8%）で4割弱と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

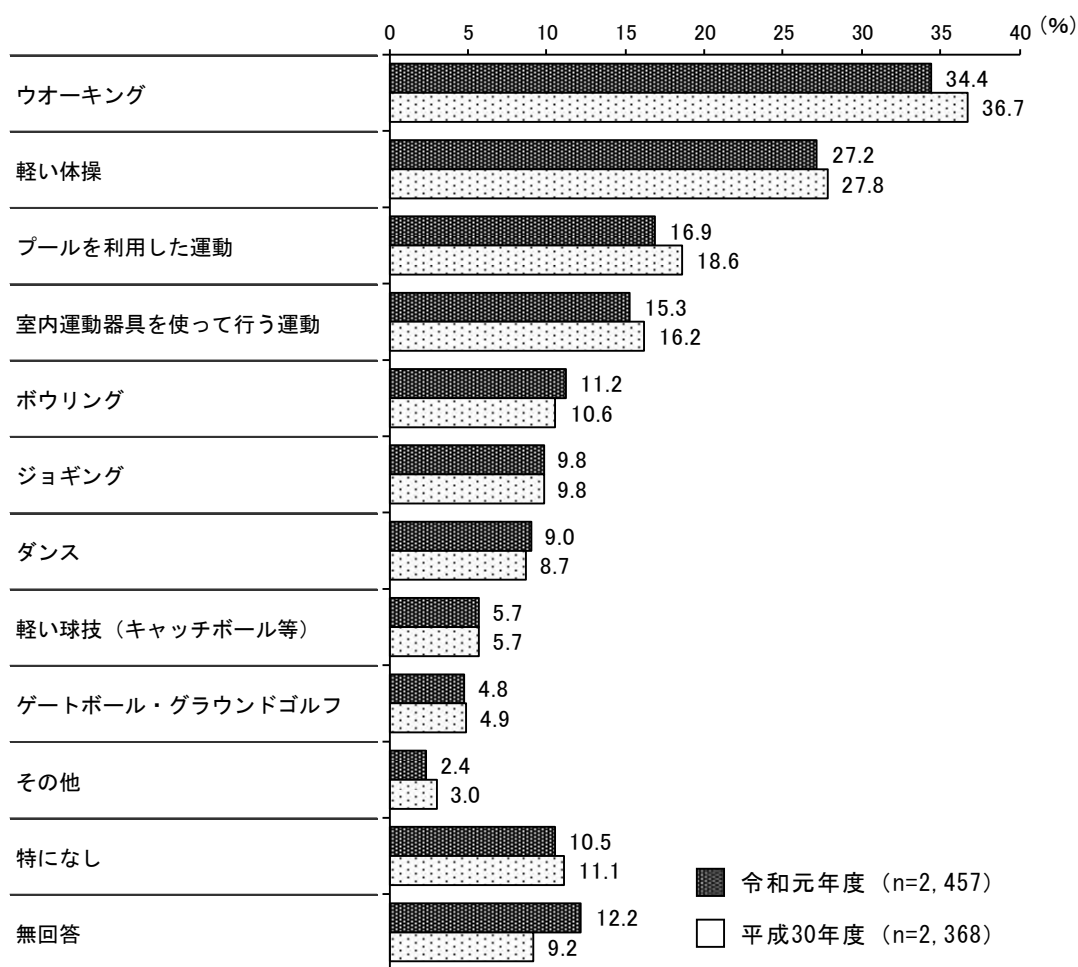
図表 11-4-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

	調査数（人）	仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから	費用がかかるから	身近に適切な場所や施設がないから	健康上の理由から	一緒にいる相手、指導者等がないから	年をとったから	スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から	その他	特に理由はない	無回答
全体	765	43.8	20.8	16.6	19.0	11.9	22.1	14.6	6.1	9.2	1.8
女性全体	424	47.4	24.3	19.6	19.3	9.9	18.4	18.2	6.4	6.4	1.9
18～29歳	31	58.1	32.3	22.6	6.5	12.9	—	22.6	—	16.1	—
30～39歳	63	74.6	27.0	15.9	3.2	7.9	3.2	22.2	7.9	1.6	4.8
40～49歳	80	70.0	37.5	21.3	3.8	8.8	1.3	18.8	3.8	7.5	1.3
50～59歳	70	51.4	35.7	24.3	20.0	17.1	8.6	18.6	—	10.0	—
60～69歳	80	38.8	18.8	22.5	30.0	8.8	16.3	23.8	8.8	6.3	1.3
70歳以上	98	12.2	6.1	13.3	37.8	7.1	56.1	8.2	12.2	3.1	3.1
男性全体	299	41.1	17.7	13.7	16.4	15.1	25.1	9.7	6.0	13.4	1.3
18～29歳	28	50.0	39.3	14.3	3.6	14.3	—	17.9	7.1	14.3	—
30～39歳	32	62.5	9.4	18.8	6.3	21.9	6.3	21.9	6.3	9.4	3.1
40～49歳	56	67.9	30.4	14.3	3.6	21.4	14.3	1.8	3.6	10.7	—
50～59歳	46	54.3	13.0	8.7	15.2	13.0	13.0	13.0	6.5	17.4	—
60～69歳	54	25.9	16.7	14.8	24.1	11.1	29.6	9.3	7.4	13.0	1.9
70歳以上	80	12.5	8.8	12.5	30.0	11.3	53.8	6.3	6.3	15.0	2.5

(5) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）

◇「ウオーキング」が最も多く、3割半ば

問39. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

図表 11-5-1 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—

今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）については、「ウオーキング」（34.4%）が最も多く、次いで、「軽い体操」（27.2%）、「プールを利用した運動」（16.9%）、「室内運動器具を使って行う運動」（15.3%）、「ボウリング」（11.2%）の順となっている。また、「その他」として「ヨガ」「ストレッチ」「太極拳」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「軽い体操」は女性（34.0%）が男性（17.8%）より16.2ポイント、「ダンス」は女性（14.2%）が男性（3.2%）より11.0ポイント高くなっている。一方、「ジョギング」は男性（14.8%）が女性（6.3%）より8.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「ウォーキング」は女性60～69歳（43.4%）で4割強、男性60～69歳（40.1%）で約4割と多くなっている。「軽い体操」は女性70歳以上（44.0%）で4割半ば、女性60～69歳（39.6%）で約4割と多くなっている。「プールを利用した運動」は女性30～39歳（29.2%）で約3割、女性18～29歳（28.2%）で3割弱と多くなっている。

図表 11-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
ー比較的軽いスポーツー

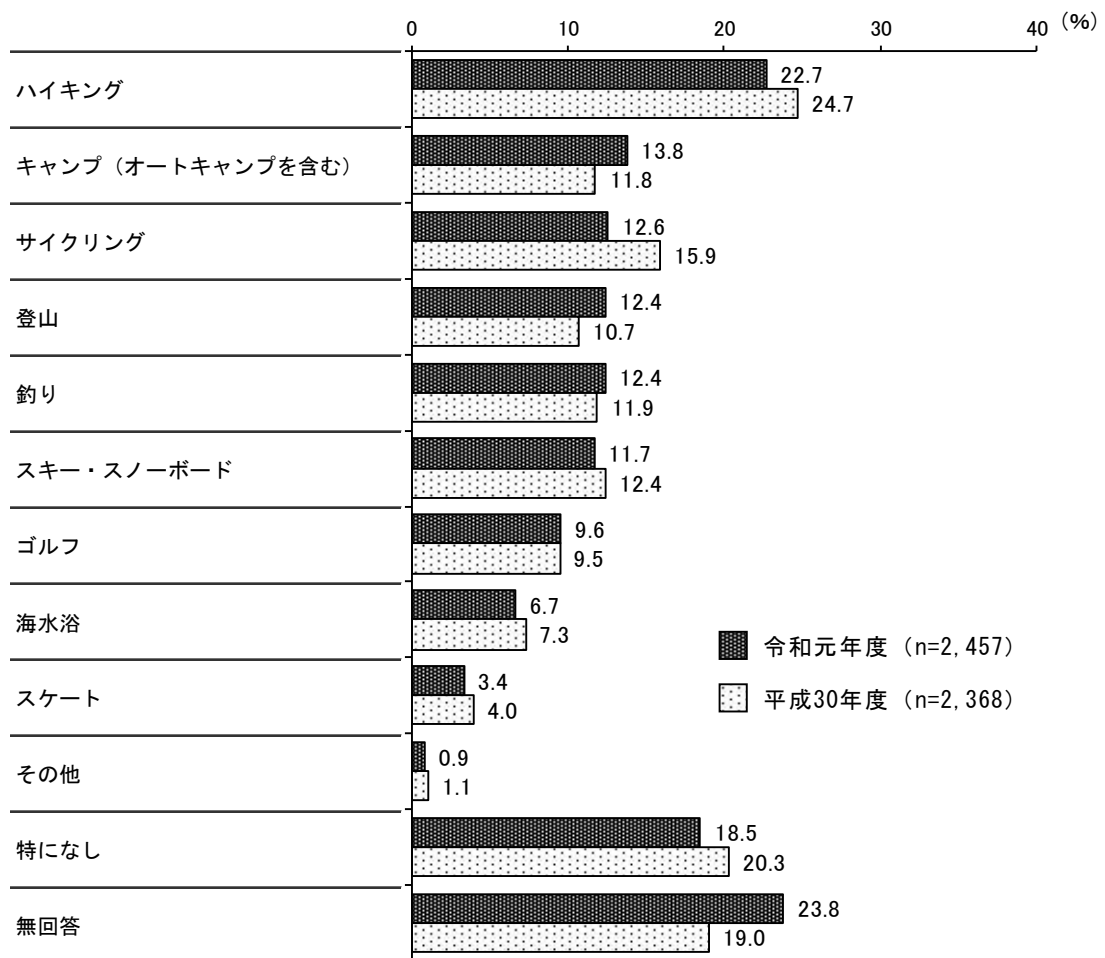
	調査数（人）	軽い体操	軽い球技（キャッチボール等）	ウォーキング	ジョギング	ゲートボール・グラウンドゴルフ	ボウリング	プールを利用した運動	ダンス	室内運動器具を使って行う運動	その他	特になし	無回答
全 体	2,457	27.2	5.7	34.4	9.8	4.8	11.2	16.9	9.0	15.3	2.4	10.5	12.2
女性全体	1,278	34.0	4.5	36.8	6.3	3.3	10.4	19.2	14.2	16.3	3.4	9.2	9.6
18～29歳	103	15.5	13.6	27.2	14.6	1.0	14.6	28.2	29.1	16.5	2.9	6.8	17.5
30～39歳	171	24.0	8.8	33.9	9.9	—	17.0	29.2	22.8	18.7	5.3	5.3	11.7
40～49歳	227	31.3	8.8	38.3	10.1	1.3	8.4	18.5	15.0	17.6	3.1	5.3	9.3
50～59歳	204	32.8	2.5	36.8	6.4	2.0	9.3	20.1	19.1	18.6	5.4	10.3	4.4
60～69歳	235	39.6	0.4	43.4	3.8	3.8	11.1	23.0	8.1	18.7	5.5	11.1	6.0
70歳以上	332	44.0	0.9	35.5	1.2	7.5	7.2	9.0	5.7	10.8	0.3	13.0	12.0
男性全体	1,038	17.8	7.3	32.2	14.8	6.1	12.9	14.8	3.2	14.1	1.3	11.9	15.0
18～29歳	109	8.3	11.9	13.8	18.3	6.4	21.1	16.5	5.5	15.6	0.9	13.8	23.9
30～39歳	115	11.3	17.4	17.4	25.2	2.6	14.8	21.7	6.1	19.1	2.6	8.7	20.0
40～49歳	173	12.7	12.1	31.2	19.7	2.3	17.3	19.7	4.0	16.8	—	9.2	16.8
50～59歳	150	11.3	6.7	36.7	14.0	5.3	13.3	17.3	2.7	12.7	0.7	6.7	21.3
60～69歳	182	19.2	3.8	40.1	10.4	7.1	13.2	14.8	2.2	13.2	2.7	12.1	9.3
70歳以上	305	29.2	1.6	38.4	10.2	9.2	6.2	7.5	1.6	11.5	1.0	16.4	9.2

(6) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）

◇「ハイキング」が最も多く、2割強

問39. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表 11-6-1 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
ー野外活動ー



今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）については、「ハイキング」(22.7%)が最も多く、次いで、「キャンプ（オートキャンプを含む）」(13.8%)、「サイクリング」(12.6%)、「登山」、「釣り」（ともに12.4%）の順となっている。また、「その他」として「ダイビング」「サーフィン」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「ハイキング」は女性（26.2%）が男性（19.2%）より7.0ポイント高くなっている。一方、「釣り」は男性（18.8%）が女性（7.3%）より11.5ポイント、「ゴルフ」は男性（15.3%）が女性（5.2%）より10.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「ハイキング」は女性60～69歳（35.3%）で3割半ば、女性50～59歳（31.4%）で約3割と多くなっている。「キャンプ（オートキャンプを含む）」は女性30～39歳（35.1%）で3割半ば、男性30～39歳（32.2%）で3割強と多くなっている。「スキー・スノーボード」は男性18～29歳（34.9%）で3割半ば、女性18～29歳（30.1%）で約3割と多くなっている。

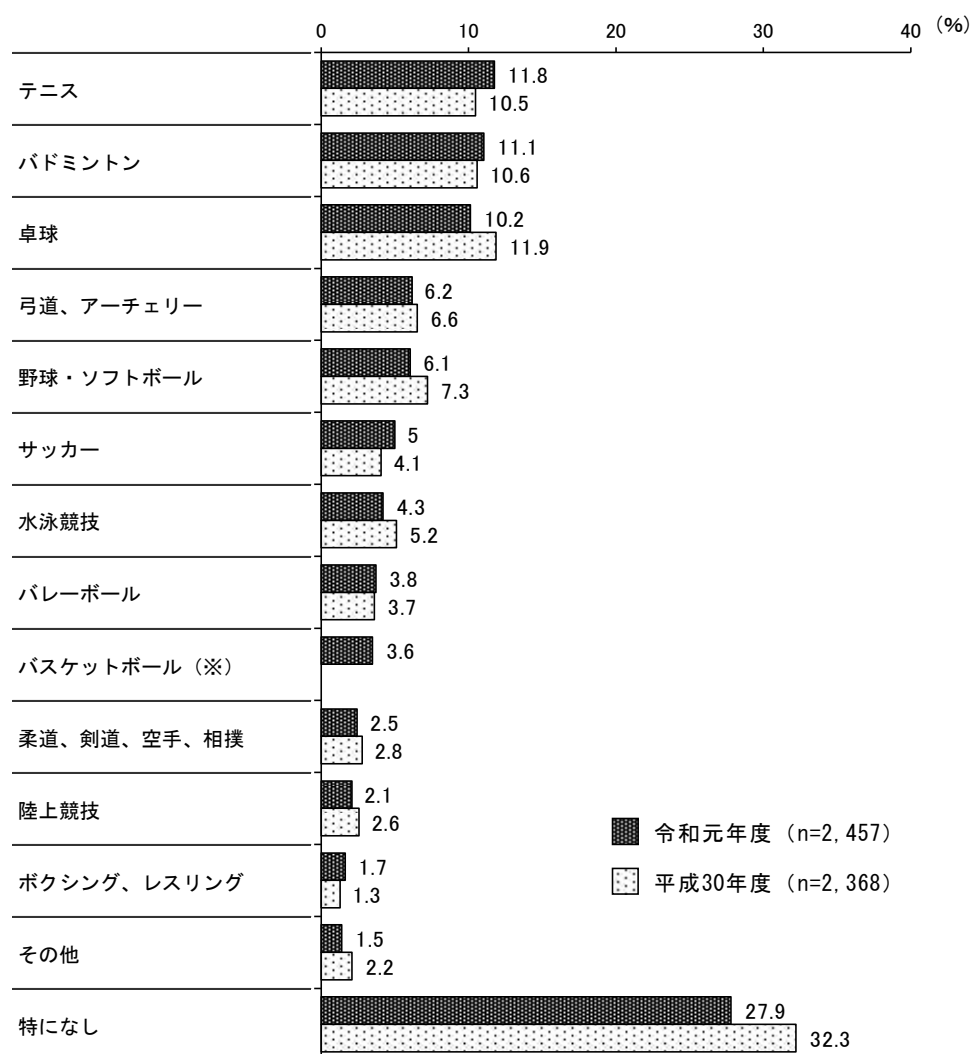
図表 11-6-2 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
ー野外活動ー

	調査数（人）	スキー・スノーボード	海水浴	スケート	登山	キャンプ（オートキャンプを含む）	ハイキング	サイクリング	ゴルフ	釣り	その他	特になし	無回答
全 体	2,457	11.7	6.7	3.4	12.4	13.8	22.7	12.6	9.6	12.4	0.9	18.5	23.8
女性全体	1,278	11.3	5.9	4.4	11.7	12.5	26.2	10.6	5.2	7.3	0.8	20.5	26.8
18～29歳	103	30.1	14.6	22.3	22.3	19.4	15.5	16.5	7.8	15.5	1.0	10.7	19.4
30～39歳	171	23.4	17.5	11.1	21.1	35.1	27.5	14.6	9.4	12.3	0.6	10.5	14.0
40～49歳	227	18.9	9.3	4.4	19.8	21.1	25.6	15.4	4.0	11.0	0.4	17.2	19.4
50～59歳	204	10.3	3.9	1.0	13.2	10.3	31.4	14.7	7.8	7.8	1.5	18.6	17.6
60～69歳	235	2.6	0.4	0.9	6.4	3.0	35.3	7.7	5.1	4.7	1.3	24.3	26.8
70歳以上	332	0.6	0.3	－	0.9	0.9	19.3	3.3	1.2	1.2	0.3	29.5	46.7
男性全体	1,038	12.9	8.4	2.6	13.8	16.2	19.2	15.9	15.3	18.8	0.8	15.8	18.0
18～29歳	109	34.9	17.4	11.0	22.9	22.0	10.1	21.1	17.4	19.3	－	9.2	18.3
30～39歳	115	26.1	18.3	6.1	20.9	32.2	13.9	20.9	13.0	26.1	1.7	10.4	17.4
40～49歳	173	20.8	9.8	2.3	18.5	26.6	17.9	17.9	12.7	23.1	－	9.2	11.6
50～59歳	150	12.0	8.7	2.7	12.0	14.0	19.3	20.0	15.3	16.0	－	12.7	18.7
60～69歳	182	4.4	2.7	－	13.7	13.7	26.9	14.8	19.2	21.4	1.1	17.0	15.4
70歳以上	305	1.3	3.9	－	6.2	4.9	20.7	9.5	14.8	13.4	1.3	24.3	23.0

(7) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）

◇「テニス」「バドミントン」「卓球」が約1割

問39. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

図表 11-7-1 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—

※平成30年度調査は選択肢なし

今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）については、「テニス」(11.8%)が最も多く、次いで、「バドミントン」(11.1%)、「卓球」(10.2%)、「弓道、アーチェリー」(6.2%)、「野球・ソフトボール」(6.1%)の順となっている。また、「その他」として「フットサル」「ハンドボール」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「バドミントン」は女性（14.7%）が男性（7.3%）より7.4ポイント高くなっている。一方、「野球・ソフトボール」は男性（11.4%）が女性（1.7%）より9.7ポイント、「サッカー」は男性（8.9%）が女性（2.3%）より6.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「バドミントン」は女性30～39歳（34.5%）で3割半ば、女性18～29歳（32.0%）で3割強と多くなっている。「サッカー」は男性30～39歳（23.5%）で2割強、男性18～29歳（21.1%）で約2割と多くなっている。

図表 11-7-2 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
－競技的スポーツ－

	調査数（人）	陸上競技	水泳競技	野球・ソフトボール	サッカー	バレーボール	バスケットボール	バドミントン	テニス	卓球	柔道、剣道、空手、相撲	ボクシング、レスリング	弓道、アーチェリー	その他	特になし	無回答
全 体	2,457	2.1	4.3	6.1	5.0	3.8	3.6	11.1	11.8	10.2	2.5	1.7	6.2	1.5	27.9	29.8
女性全体	1,278	2.2	4.7	1.7	2.3	4.3	3.3	14.7	12.4	10.6	1.9	1.3	7.5	0.8	27.5	32.3
18～29歳	103	8.7	11.7	4.9	8.7	9.7	9.7	32.0	19.4	15.5	2.9	4.9	14.6	2.9	10.7	18.4
30～39歳	171	2.3	7.6	2.3	5.3	8.8	8.8	34.5	18.7	12.9	3.5	3.5	11.1	0.6	13.5	21.6
40～49歳	227	4.0	7.0	3.5	3.1	4.4	4.0	19.8	18.1	8.8	3.1	1.3	7.5	－	24.2	22.0
50～59歳	204	1.5	2.0	－	1.0	2.5	1.5	14.7	19.1	11.3	0.5	－	13.2	1.0	29.9	25.5
60～69歳	235	0.9	4.7	0.4	0.9	3.8	1.7	5.5	8.1	12.3	1.7	0.9	5.1	0.9	34.5	37.0
70歳以上	332	0.3	1.2	1.2	－	1.8	0.3	2.4	2.1	7.8	0.3	－	1.5	0.3	35.8	49.7
男性全体	1,038	2.3	3.9	11.4	8.9	3.4	4.4	7.3	12.1	10.4	3.5	2.5	4.9	2.3	28.2	25.3
18～29歳	109	2.8	9.2	14.7	21.1	6.4	9.2	16.5	21.1	11.9	8.3	7.3	9.2	3.7	11.9	11.0
30～39歳	115	3.5	4.3	20.9	23.5	7.0	14.8	12.2	19.1	10.4	8.7	10.4	6.1	4.3	15.7	18.3
40～49歳	173	3.5	7.5	16.2	17.3	6.4	5.2	7.5	17.9	13.3	3.5	2.3	7.5	1.2	17.3	19.1
50～59歳	150	4.0	1.3	12.7	5.3	4.0	3.3	8.7	12.7	7.3	1.3	0.7	4.7	0.7	26.7	27.3
60～69歳	182	1.1	1.6	9.3	0.5	－	1.6	4.4	11.0	8.2	2.2	0.5	3.8	2.7	35.2	26.4
70歳以上	305	1.0	2.3	4.6	1.0	1.0	0.7	3.3	3.6	11.1	1.6	－	2.3	2.0	41.3	35.1

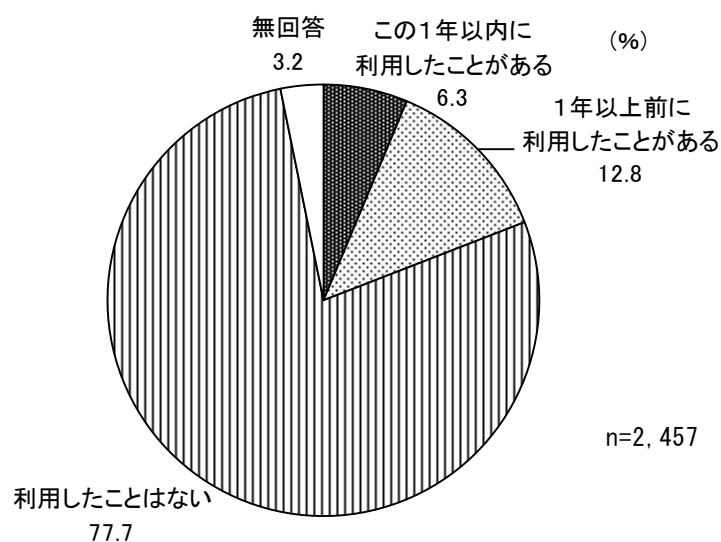
12. 観光農園について

(1) 越谷市内の観光農園の利用の有無

◇『利用したことがある』が約2割

問40. 越谷市内の観光農園（イチゴ狩り・ブドウ狩り）を利用したことがありますか。(○は1つ)

図表 12-1-1 越谷市内の観光農園の利用の有無

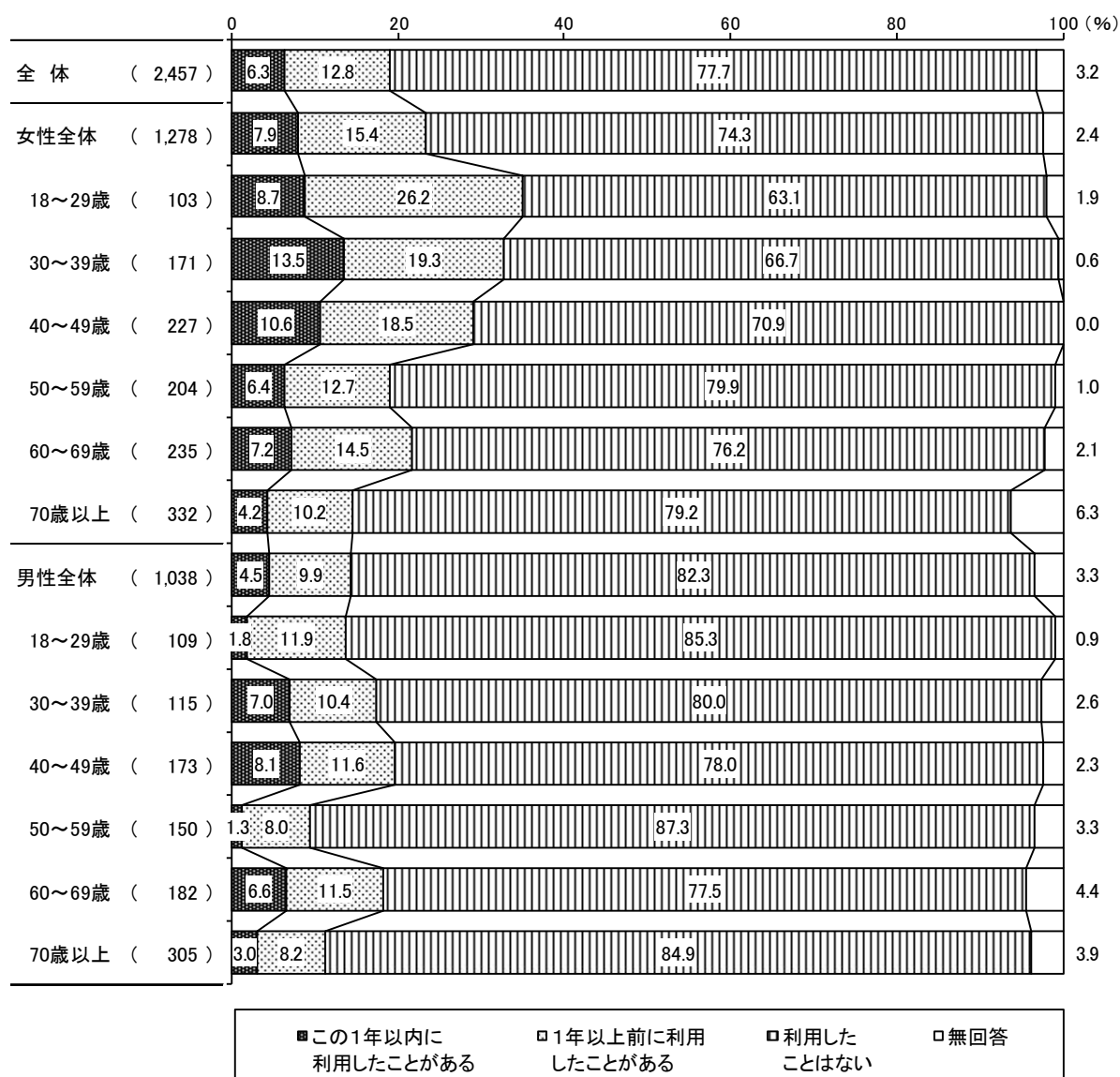


越谷市内の観光農園の利用の有無については、「この1年以内に利用したことがある」(6.3%)と「1年以上前に利用したことがある」(12.8%)を合わせた『利用したことがある』(19.1%)は約2割となっている。

性別でみると、『利用したことがある』は女性（23.3%）が男性（14.4%）より8.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『利用したことがある』は女性18～29歳（34.9%）で3割半ば、女性30～39歳（32.8%）で3割強、女性40～49歳（29.1%）で約3割と多くなっている。

図表 12-1-2 性・年齢別 越谷市内の観光農園の利用の有無



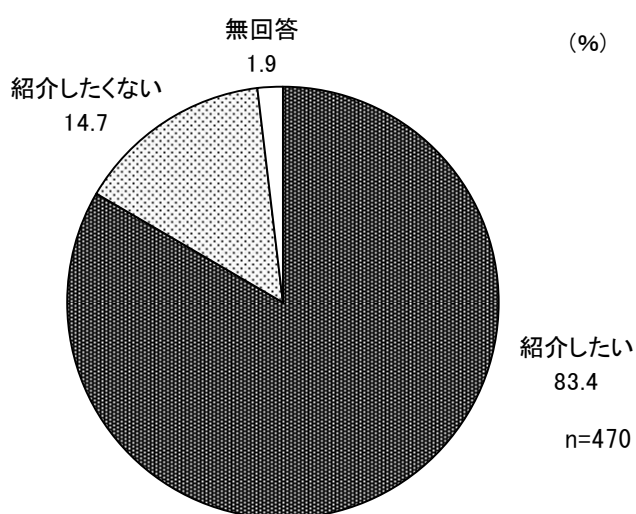
(2) 越谷市内の観光農園を紹介したいか

◇「紹介したい」が8割強

問40-2. 問40で「1. この1年以内に利用したことがある」「2. 1年以上前に利用したことがある」と答えた方に伺います。

越谷市内の観光農園を市外に住む親戚や知人に紹介したいと思いますか。(○は1つ)

図表 12-2-1 越谷市内の観光農園を紹介したいか

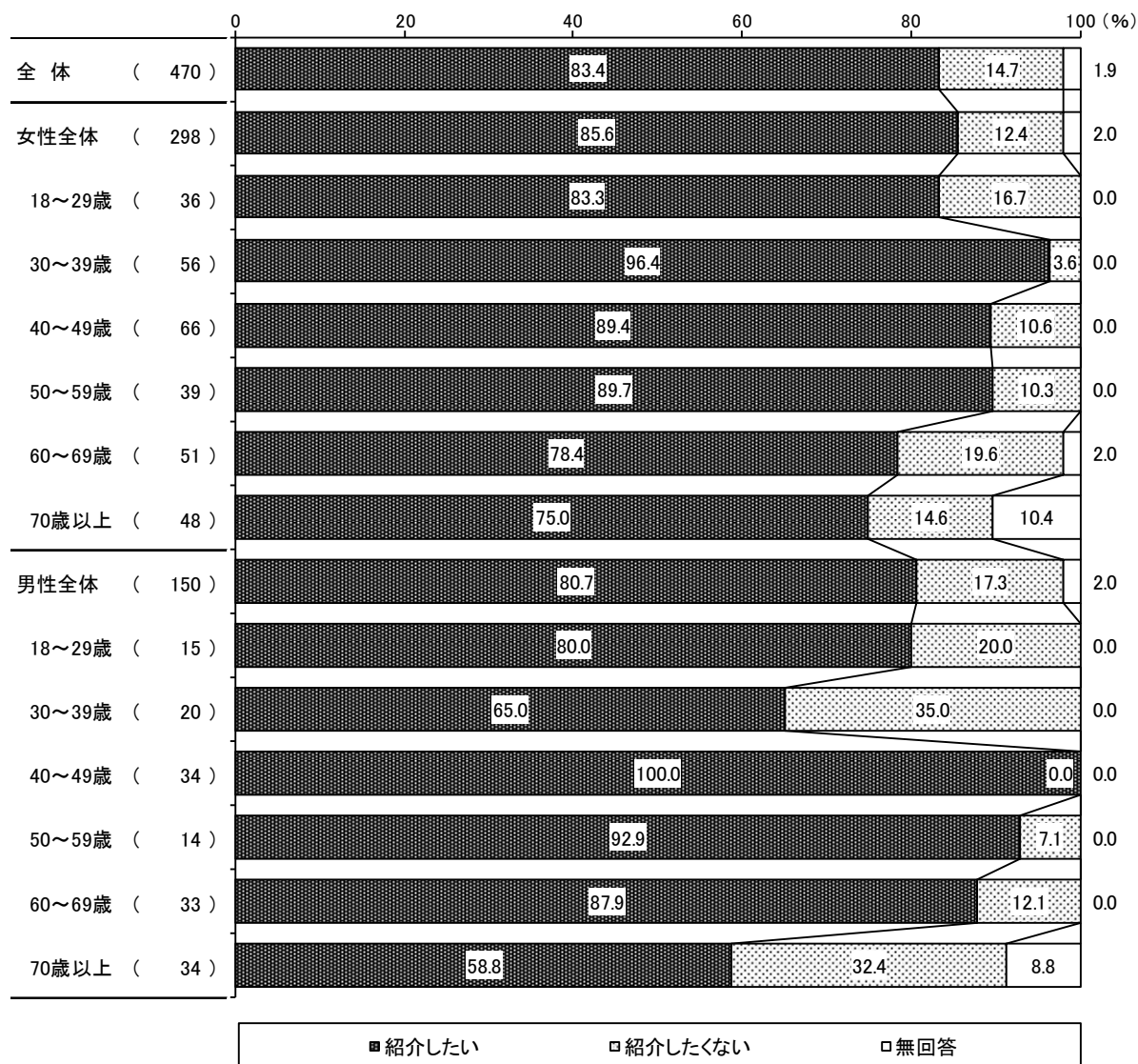


越谷市内の観光農園を『利用したことがある』と回答した470人に、市外に住む親戚や知人に紹介したいと思うか聞いたところ、「紹介したい」(83.4%)が8割強、「紹介したくない」(14.7%)が1割半ばとなっている。

性別でみると、「紹介したい」は女性（85.6%）が男性（80.7%）より4.9ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、「紹介したい」は男性40～49歳（100.0%）で10割、女性30～39歳（96.4%）で9割半ばと多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表 12-2-2 性・年齢別 越谷市内の観光農園を紹介したいか



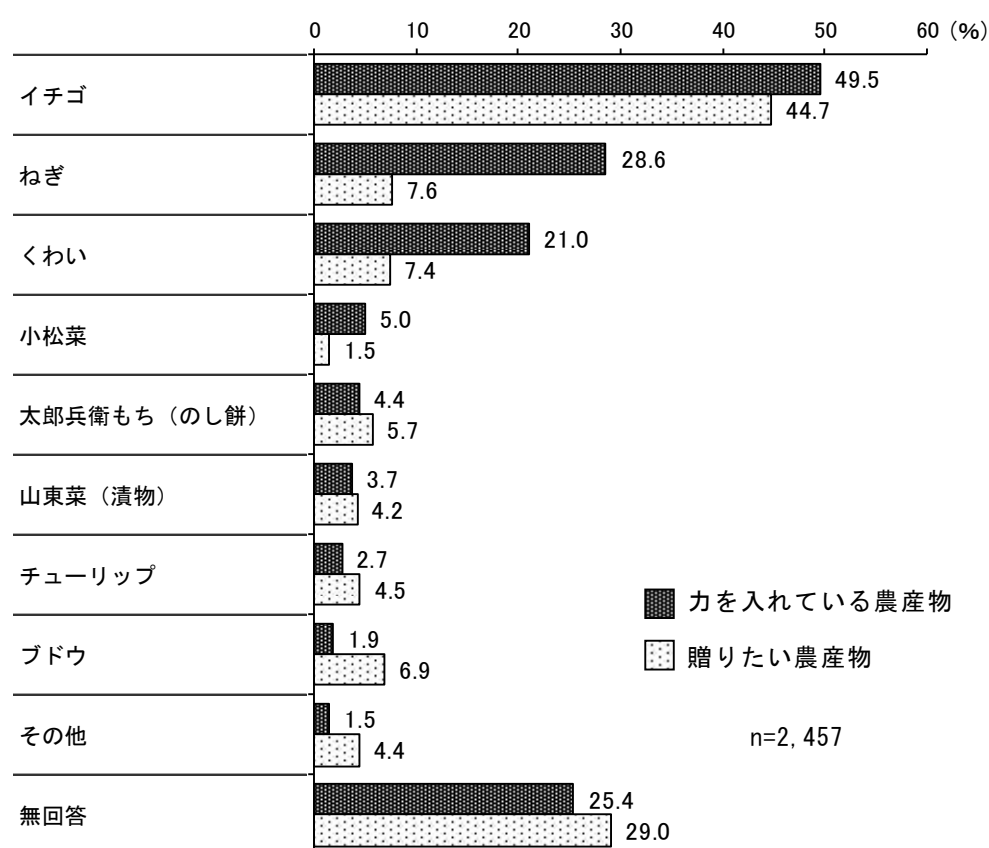
(3) 越谷市が特に力を入れている農業特産物、贈りたい農業特産物

◇特に力を入れていると思う農業特産物は「イチゴ」が最も多く、約5割

贈りたい農業特産物は「イチゴ」が最も多く、4割半ば

問41. 皆さんに伺います。越谷市が特に力を入れていると思う農業特産物を教えてください。
また、市外に住む親戚や知人に贈り物を贈る場合、贈りたい農業特産物を教えてください。
(それぞれ複数回答可)

図表 12-3-1 越谷市が特に力を入れている農業特産物、贈りたい農業特産物



越谷市が特に力を入れていると思う農業特産物については、「イチゴ」(49.5%)が最も多く、次いで、「ねぎ」(28.6%)、「くわい」(21.0%)、「小松菜」(5.0%)、「太郎兵衛もち(のし餅)」(4.4%)の順となっている。また、「その他」として「メロン」「枝豆」等が挙げられた。

市外に住む親戚や知人に贈りたい農業特産物については、「イチゴ」(44.7%)が最も多く、次いで、「ねぎ」(7.6%)、「くわい」(7.4%)、「ブドウ」(6.9%)、「太郎兵衛もち(のし餅)」(5.7%)の順となっている。また、「その他」として「トマト」「メロン」等が挙げられた。

性別でみると、「イチゴ」は女性（53.7%）が男性（47.3%）より6.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「イチゴ」は女性50～59歳（65.7%）、女性30～39歳（65.5%）で6割半ば、女性40～49歳（61.7%）、男性40～49歳（60.1%）で約6割と多くなっている。「ねぎ」は男性40～49歳（38.7%）で4割弱、女性18～29歳（35.0%）、女性40～49歳（34.4%）で3割半ばと多くなっている。「くわい」は男性18～29歳（33.0%）で3割強、女性50～59歳（29.4%）、女性18～29歳（29.1%）で約3割と多くなっている。

図表 12－3－2 性・年齢別 越谷市が特に力を入れている農業特産物

	調査数（人）	太郎兵衛もち（のし餅）	くわい	ねぎ	山東菜（漬物）	イチゴ	ブドウ	チューリップ	小松菜	その他	無回答
全 体	2,457	4.4	21.0	28.6	3.7	49.5	1.9	2.7	5.0	1.5	25.4
女性全体	1,278	4.7	23.2	29.5	4.0	53.7	2.0	3.8	6.8	1.3	21.4
18～29歳	103	1.9	29.1	35.0	－	53.4	1.9	5.8	4.9	1.0	11.7
30～39歳	171	3.5	17.5	29.2	2.9	65.5	1.8	3.5	6.4	2.3	8.8
40～49歳	227	6.6	26.9	34.4	3.5	61.7	1.8	4.8	7.5	－	11.5
50～59歳	204	3.9	29.4	29.9	4.9	65.7	1.0	3.4	5.9	1.0	11.8
60～69歳	235	4.7	23.0	31.1	5.1	58.7	3.0	3.8	9.4	2.6	17.9
70歳以上	332	5.1	18.4	23.8	4.8	31.0	2.4	3.0	6.0	0.9	46.1
男性全体	1,038	3.9	19.8	29.1	3.8	47.3	1.9	1.4	3.1	2.0	25.9
18～29歳	109	4.6	33.0	28.4	2.8	32.1	1.8	4.6	4.6	3.7	18.3
30～39歳	115	1.7	14.8	33.0	－	49.6	1.7	1.7	1.7	3.5	19.1
40～49歳	173	2.9	19.1	38.7	0.6	60.1	1.7	3.5	4.0	0.6	15.6
50～59歳	150	4.0	22.7	24.7	3.3	56.0	0.7	－	3.3	1.3	18.0
60～69歳	182	4.9	20.9	29.7	5.5	56.6	3.8	－	2.7	1.6	23.1
70歳以上	305	4.6	15.4	24.6	6.6	34.8	1.6	0.7	2.6	2.3	42.6

性別でみると、「イチゴ」は女性（47.3%）が男性（44.0%）より3.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「イチゴ」は女性30～39歳（62.6%）で6割強、男性40～49歳（58.4%）、男性30～39歳（57.4%）で6割弱、女性40～49歳（55.9%）で5割半ばと多くなっている。

図表 12-3-3 性・年齢別 贈りたい農業特産物

(%)

	調査数 (人)	太郎兵衛もち (のし餅)	くわい	ねぎ	山東菜 (漬物)	イチゴ	ブドウ	チューリップ	小松菜	その他	無回答
全 体	2,457	5.7	7.4	7.6	4.2	44.7	6.9	4.5	1.5	4.4	29.0
女性全体	1,278	7.0	7.9	7.4	4.1	47.3	7.8	6.2	1.5	4.3	24.4
18～29歳	103	5.8	10.7	13.6	1.9	50.5	6.8	15.5	3.9	1.0	15.5
30～39歳	171	8.2	7.6	9.4	4.7	62.6	4.1	4.1	1.2	4.7	9.4
40～49歳	227	10.6	7.9	8.4	2.2	55.9	7.0	7.9	2.2	3.5	13.7
50～59歳	204	5.4	7.8	8.8	3.4	52.9	7.4	6.4	0.5	5.4	18.1
60～69歳	235	7.2	6.4	5.1	4.7	46.4	8.1	5.5	1.7	7.7	24.7
70歳以上	332	4.5	8.4	4.8	5.7	30.1	10.8	3.6	0.9	2.7	45.5
男性全体	1,038	4.4	7.6	8.4	4.4	44.0	6.5	2.4	1.4	4.5	31.0
18～29歳	109	1.8	10.1	13.8	3.7	45.0	11.9	5.5	4.6	9.2	19.3
30～39歳	115	2.6	2.6	9.6	1.7	57.4	5.2	2.6	—	7.8	20.9
40～49歳	173	7.5	7.5	7.5	—	58.4	2.9	2.9	1.2	2.9	19.7
50～59歳	150	5.3	10.0	7.3	4.7	52.7	3.3	2.0	—	2.7	20.7
60～69歳	182	4.4	8.2	9.3	6.6	41.2	11.0	2.7	0.5	4.4	32.4
70歳以上	305	3.9	6.9	6.6	6.9	28.2	5.9	1.0	2.0	3.6	49.8

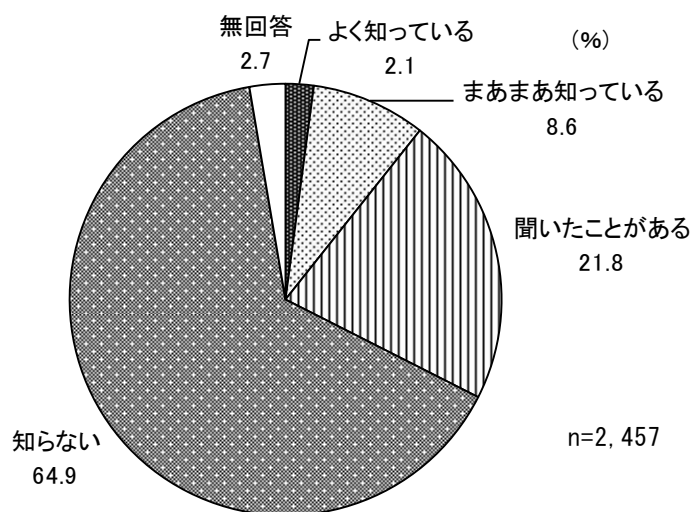
1 3. 自治基本条例について

(1) 「市民参加と協働のまちづくり」の認知度

◇『知っている』が約1割

問42. あなたは越谷市が「市民参加と協働のまちづくり」をすすめていることを知っていますか。
(○は1つ)

図表 13-3-1 「市民参加と協働のまちづくり」の認知度

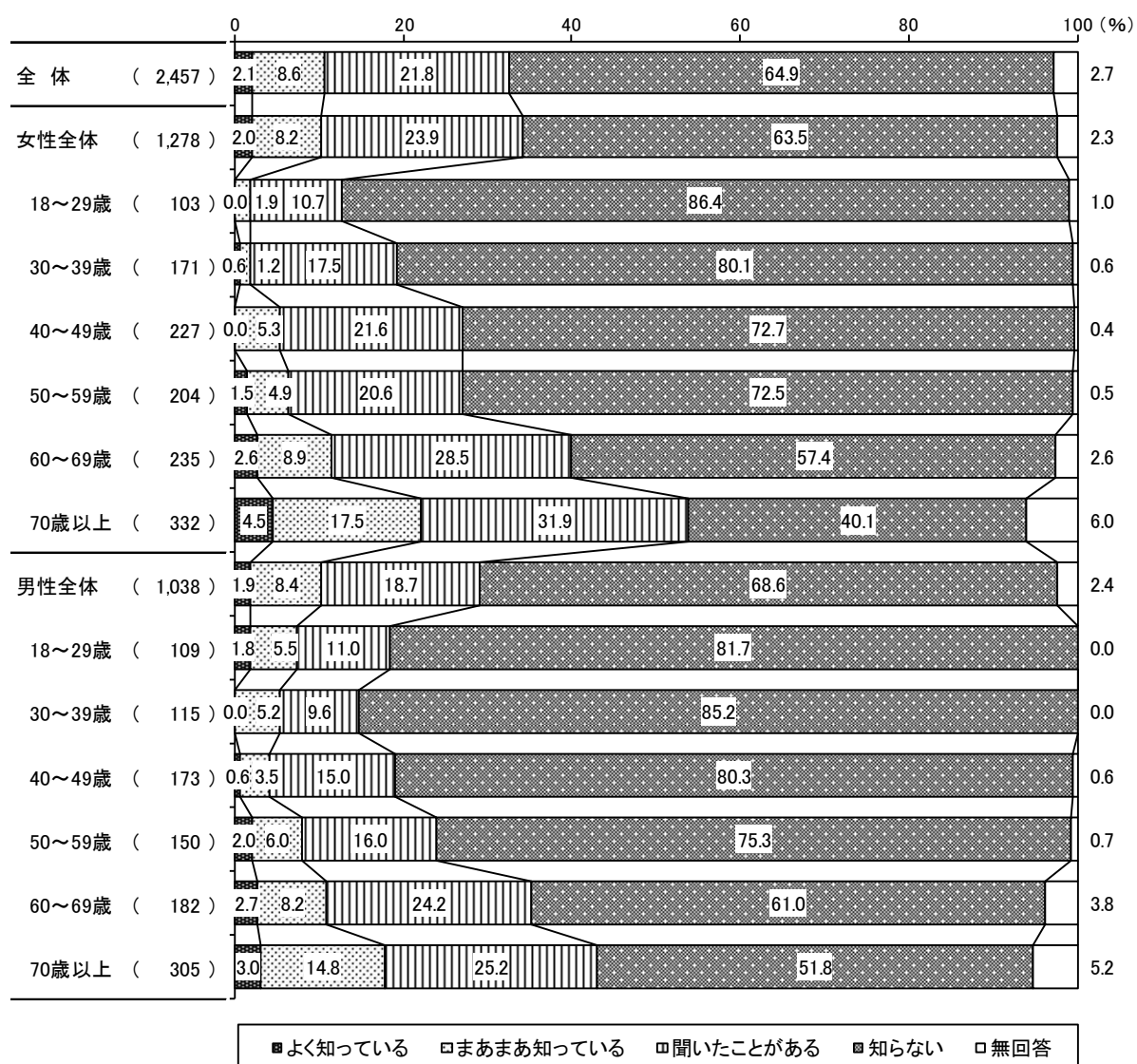


「市民参加と協働のまちづくり」については、「よく知っている」(2.1%)と「まあまあ知っている」(8.6%)を合わせた『知っている』(10.7%)は約1割となっている。一方、「知らない」(64.9%)は6割半ばとなっている。

性別でみると、「聞いたことがある」は女性（23.9%）が男性（18.7%）より5.2ポイント高くなっている。一方、「知らない」は男性（68.6%）が女性（63.5%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性70歳以上（22.0%）で2割強、男性70歳以上（17.8%）で2割弱と多くなっている。「聞いたことがある」は女性70歳以上（31.9%）で約3割、女性60～69歳（28.5%）で3割弱と多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（86.4%）、男性30～39歳（85.2%）で8割半ば、男性18～29歳（81.7%）、男性40～49歳（80.3%）、女性30～39歳（80.1%）で約8割と多くなっている。

図表 13-3-2 性・年齢別 「市民参加と協働のまちづくり」の認知度

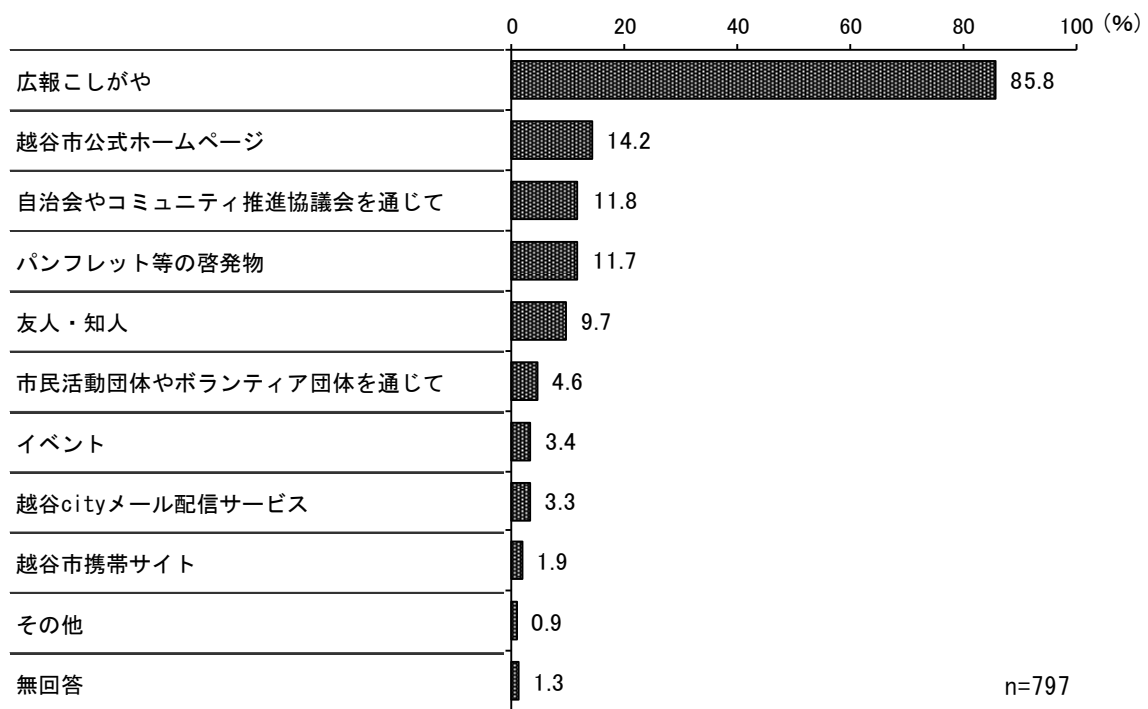


(2) 「市民参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、8割半ば

問42-2. 問42で「1」から「3」（知っている、聞いたことがある）と答えた方に伺います。
越谷市が「市民参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り（聞き）ましたか。（複数回答可）

図表 13-2-1 「市民参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ



「市民参加と協働のまちづくり」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 797 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」（85.8%）が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」（14.2%）、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」（11.8%）、「パンフレット等の啓発物」（11.7%）、「友人・知人」（9.7%）の順となっている。また、「その他」として「市民まつり」「いきいき越谷」等が挙げられた。

性別でみると、「越谷市公式ホームページ」は男性（20.3%）が女性（10.3%）より10.0ポイント、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」は男性（15.3%）が女性（9.9%）より5.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「越谷市公式ホームページ」は男性60～69歳（29.7%）で約3割と多くなっている。「パンフレット等の啓発物」は男性50～59歳（19.4%）で約2割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表 13-2-2 性・年齢別 「市民参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

(%)

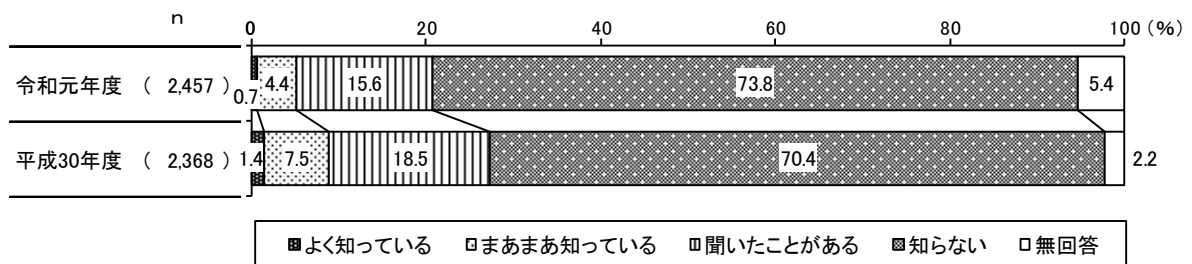
	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	パンフレット等の啓発物	友人・知人	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	市民活動団体やボランティアを通じて	イベント	その他	無回答
全 体	797	85.8	14.2	1.9	3.3	11.7	9.7	11.8	4.6	3.4	0.9	1.3
女性全体	436	86.0	10.3	1.6	3.0	10.8	10.3	9.9	5.7	3.9	0.2	1.4
18～29歳	13	46.2	23.1	—	—	15.4	15.4	—	—	—	—	7.7
30～39歳	33	84.8	15.2	6.1	6.1	9.1	3.0	—	9.1	3.0	—	—
40～49歳	61	86.9	16.4	1.6	8.2	6.6	4.9	4.9	4.9	—	—	—
50～59歳	55	83.6	18.2	3.6	9.1	7.3	3.6	10.9	7.3	1.8	—	—
60～69歳	94	89.4	9.6	1.1	1.1	9.6	11.7	8.5	4.3	7.4	—	1.1
70歳以上	179	88.3	4.5	0.6	—	14.0	14.5	14.0	6.1	4.5	0.6	2.2
男性全体	301	84.7	20.3	2.3	4.3	14.0	8.0	15.3	3.0	2.7	1.7	1.0
18～29歳	20	50.0	35.0	10.0	10.0	25.0	5.0	—	10.0	—	5.0	—
30～39歳	17	76.5	29.4	5.9	5.9	17.6	11.8	—	—	—	—	—
40～49歳	33	93.9	18.2	3.0	6.1	12.1	—	9.1	3.0	—	—	—
50～59歳	36	83.3	16.7	5.6	2.8	19.4	2.8	8.3	—	2.8	—	—
60～69歳	64	90.6	29.7	1.6	1.6	15.6	4.7	15.6	1.6	6.3	3.1	—
70歳以上	131	86.3	13.7	—	4.6	9.9	13.0	22.9	3.8	2.3	1.5	2.3

(3) 「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』が約5%

問43. 皆さんに伺います。あなたは市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(○は1つ)

図表 13-3-1 「越谷市自治基本条例」の認知度



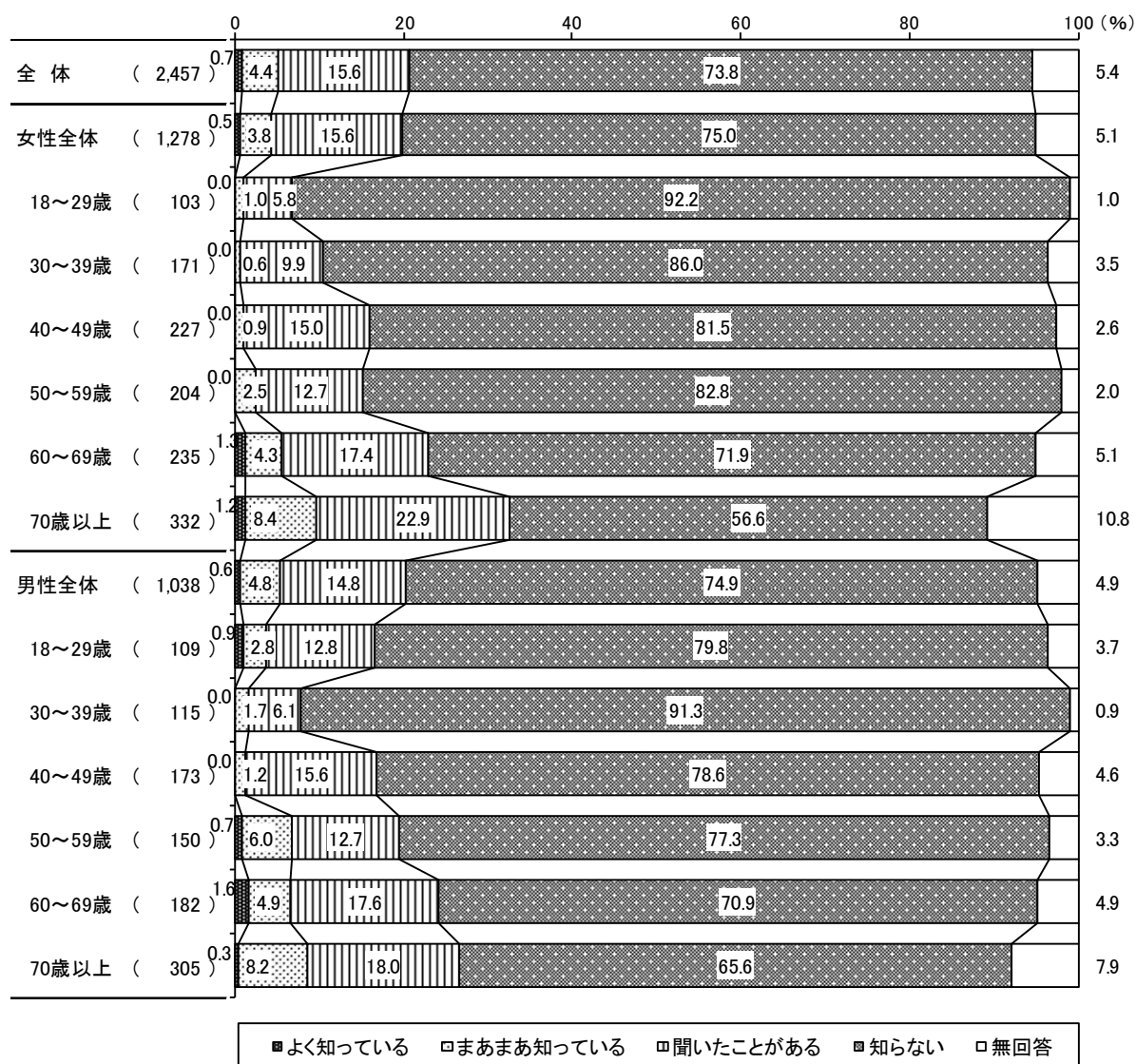
「越谷市自治基本条例」については、「よく知っている」(0.7%)と「まあまあ知っている」(4.4%)を合わせた『知っている』(5.1%)は1割未満となっている。一方、「知らない」(73.8%)は7割強となっている。

前回の調査と比較すると、『知っている』(5.1%)は平成30年調査(8.9%)と比べ3.8ポイント減少している。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性70歳以上（9.6%）で約1割、男性70歳以上（8.5%）で1割弱と多くなっている。「聞いたことがある」は女性70歳以上（22.9%）で2割強と多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（92.2%）で9割強、男性30～39歳（91.3%）で約9割、女性30～39歳（86.0%）で8割半ばと多くなっている。

図表 13-3-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度

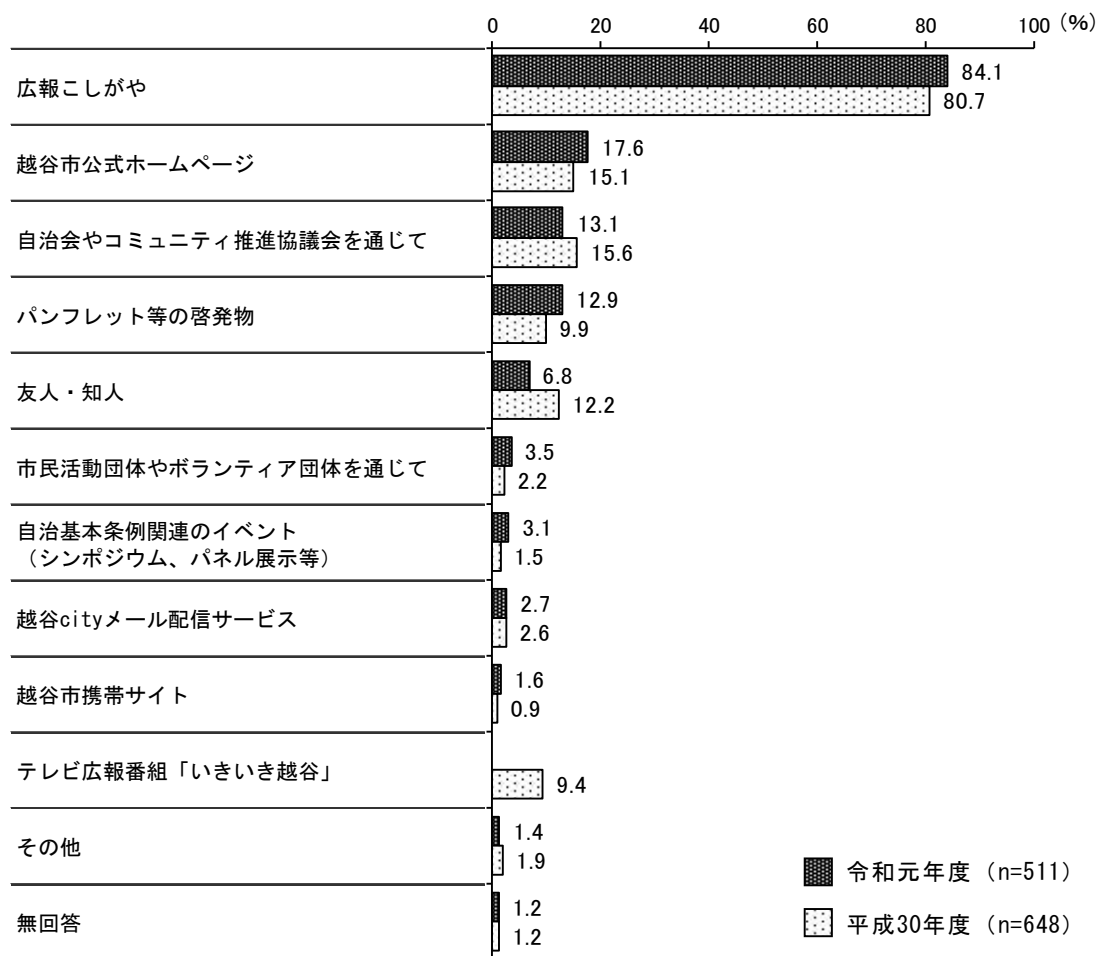


(4) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、8割半ば

問43-2. 問43で「1」から「3」（知っている、聞いたことがある）と答えた方と答えた方に伺います。「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り（聞き）ましたか。
（複数回答可）

図表 13-4-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 511 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(84.1%) が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(17.6%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(13.1%)、「パンフレット等の啓発物」(12.9%)、「友人・知人」(6.8%) の順となっている。また、「その他」として「条例策定過程を通じて」「覚えていない」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「広報こしがや」(84.1%) は平成 30 年調査 (80.7%) と比べ 3.4 ポイント増加している。一方、「友人・知人」(6.8%) は平成 30 年調査 (12.2%) と比べ 5.4 ポイント減少している。

性別でみると、「越谷市公式ホームページ」は男性（26.7%）が女性（11.4%）より15.3ポイント、「パンフレット等の啓発物」は男性（17.1%）が女性（10.6%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「越谷市公式ホームページ」は男性60～69歳（31.8%）で約3割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表 13-4-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

(%)

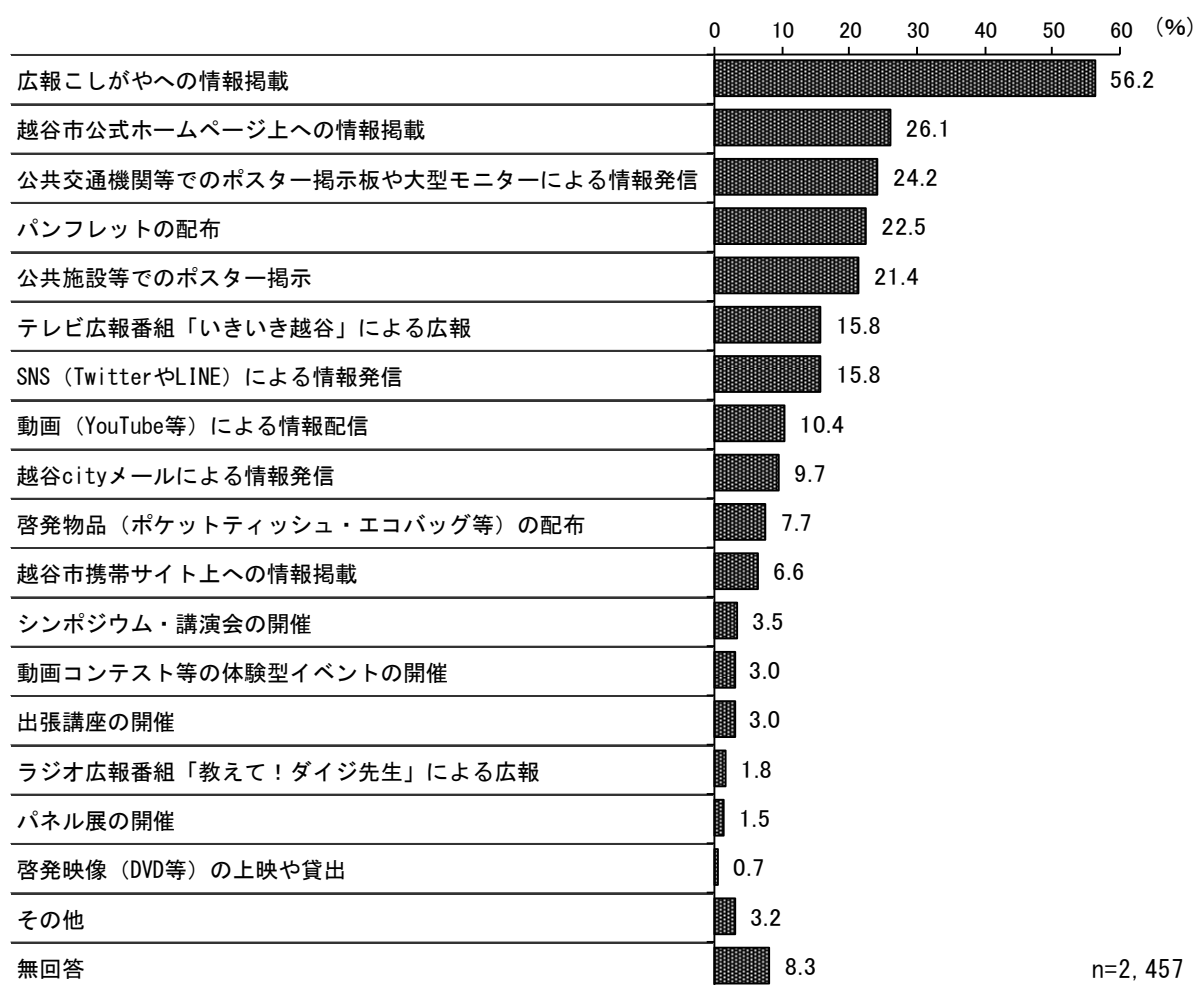
	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	パンフレット等の啓発物	友人・知人	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	市民活動団体やボランティア団体を通じて	自治基本条例関連のイベント（シンポジウム、パネル展示等）	その他	無回答
全 体	511	84.1	17.6	1.6	2.7	12.9	6.8	13.1	3.5	3.1	1.4	1.2
女性全体	255	84.7	11.4	0.8	3.5	10.6	7.8	11.4	4.3	2.4	1.2	0.4
18～29歳	7	57.1	28.6	—	—	14.3	—	—	—	—	14.3	—
30～39歳	18	83.3	22.2	5.6	11.1	5.6	5.6	—	—	—	—	—
40～49歳	36	86.1	19.4	—	2.8	8.3	5.6	5.6	5.6	—	—	—
50～59歳	31	80.6	22.6	3.2	16.1	6.5	—	6.5	3.2	6.5	—	—
60～69歳	54	83.3	9.3	—	1.9	9.3	5.6	9.3	7.4	3.7	—	1.9
70歳以上	108	88.9	3.7	—	—	13.9	13.0	17.6	3.7	1.9	1.9	—
男性全体	210	84.3	26.7	2.4	2.4	17.1	5.2	15.2	2.4	3.3	1.4	1.0
18～29歳	18	61.1	38.9	5.6	5.6	16.7	—	5.6	—	—	—	5.6
30～39歳	9	88.9	22.2	—	11.1	11.1	—	—	—	—	11.1	—
40～49歳	29	89.7	34.5	3.4	3.4	6.9	10.3	6.9	3.4	—	—	3.4
50～59歳	29	82.8	27.6	—	3.4	20.7	6.9	6.9	3.4	3.4	—	—
60～69歳	44	86.4	31.8	4.5	—	22.7	2.3	22.7	2.3	4.5	2.3	—
70歳以上	81	86.4	18.5	1.2	1.2	17.3	6.2	21.0	2.5	4.9	1.2	—

(5) 効果的な普及・啓発方法

◇「広報こしがやへの情報掲載」(56.2%)が最も多く、5割半ば

問44. 皆さんに伺います。「市民参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っていますが、普及・啓発方法としてどのような方法が効果的だと思いますか。(複数回答可)

図表 13-5-1 効果的な普及・啓発方法



「越谷市自治基本条例」の効果的な普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」(56.2%)が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」(26.1%)、「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」(24.2%)、「パンフレットの配布」(22.5%)、「公共施設等でのポスター掲示」(21.4%)の順となっている。また、「その他」として「町会」「学校の授業」等が挙げられた。

性別でみると、「広報こしがやへの情報掲載」は女性（60.6%）が男性（51.6%）より9.0ポイント高く、「越谷 city メールによる情報発信」は女性（12.3%）が男性（7.3%）より5.0ポイント高くなっている。一方、「動画（YouTube等）による情報配信」は男性（14.0%）が女性（8.1%）より5.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがやへの情報掲載」は女性60～69歳（70.6%）、女性70歳以上（70.5%）で約7割、男性70歳以上（68.5%）で7割弱と多くなっている。「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」は女性40～49歳（41.0%）で約4割、女性50～59歳（35.3%）、女性30～39歳（35.1%）で3割半ばと多くなっている。「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」は女性30～39歳（40.9%）で約4割、男性30～39歳（34.8%）、女性18～29歳（34.0%）で3割半ばと多くなっている。

図表 13-5-2 性・年齢別 効果的な普及・啓発方法

	調査数（人）	広報こしがやへの情報掲載	テレビ広報番組「いきいき越谷」による広報	ラジオ広報番組「教えて！ダイジ先生」による広報	越谷市公式ホームページ上への情報掲載	越谷市携帯サイト上への情報掲載	越谷 city メールによる情報発信	SNS（TwitterやLINE）による情報発信	動画（YouTube等）による情報配信	啓発映像（DVD等）の上映や貸出	公共施設等でのポスター掲示	公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信	パンフレットの配布	啓発物品（ポケットティッシュ・エコバッグ等）の配布	シンポジウム・講演会の開催	パネル展の開催	動画コンテンツ等の体験型イベントの開催	出張講座の開催	その他	無回答
全 体	2,457	56.2	15.8	1.8	26.1	6.6	9.7	15.8	10.4	0.7	21.4	24.2	22.5	7.7	3.5	1.5	3.0	3.0	3.2	8.3
女性全体	1,278	60.6	16.0	1.3	26.6	7.4	12.3	16.0	8.1	0.6	23.5	25.7	21.3	8.6	3.8	1.9	3.4	3.1	2.6	7.1
18～29歳	103	25.2	6.8	1.9	22.3	7.8	8.7	60.2	29.1	-	31.1	34.0	17.5	8.7	1.9	1.9	9.7	1.0	1.0	1.9
30～39歳	171	51.5	7.6	1.2	35.1	12.9	21.6	33.3	17.0	1.2	32.2	40.9	21.1	12.9	0.6	2.3	5.3	1.2	3.5	5.3
40～49歳	227	54.2	12.3	0.4	41.0	8.8	28.2	17.6	5.7	0.9	23.8	29.5	15.9	10.1	2.2	1.3	4.4	2.6	3.5	3.1
50～59歳	204	65.2	17.2	1.5	35.3	10.8	14.2	12.7	6.9	0.5	27.0	33.3	22.5	10.3	3.4	1.5	2.0	2.9	2.9	2.5
60～69歳	235	70.6	18.7	2.1	23.0	4.7	3.8	5.5	4.7	0.4	19.1	24.7	23.4	10.2	6.8	2.1	3.0	5.5	1.7	4.7
70歳以上	332	70.5	23.2	1.2	10.8	3.6	2.4	1.8	1.8	0.6	17.5	9.0	24.1	3.3	5.1	2.1	1.2	3.3	2.4	16.9
男性全体	1,038	51.6	15.2	2.5	26.6	6.0	7.3	17.1	14.0	0.7	19.6	23.1	24.9	6.8	3.7	1.0	2.7	3.2	3.9	7.9
18～29歳	109	28.4	10.1	3.7	22.9	4.6	8.3	45.0	29.4	0.9	22.9	28.4	13.8	11.0	2.8	-	4.6	0.9	5.5	4.6
30～39歳	115	28.7	3.5	0.9	32.2	11.3	9.6	39.1	35.7	0.9	22.6	34.8	23.5	7.8	0.9	-	5.2	0.9	2.6	4.3
40～49歳	173	45.7	13.9	2.9	32.9	9.2	14.5	24.3	16.2	-	28.3	30.6	21.4	10.4	2.3	1.2	2.9	1.7	4.6	3.5
50～59歳	150	41.3	15.3	3.3	30.7	8.0	7.3	16.0	15.3	0.7	17.3	28.0	21.3	2.7	2.7	-	1.3	2.7	4.7	10.7
60～69歳	182	65.4	18.1	3.3	31.9	4.4	5.5	6.0	6.6	0.5	15.4	18.1	29.1	7.1	6.6	2.7	1.6	5.5	3.3	8.2
70歳以上	305	68.5	20.7	1.6	17.0	2.6	3.0	2.0	3.0	1.0	15.7	13.1	30.8	4.9	4.6	0.7	2.3	4.6	3.3	11.5

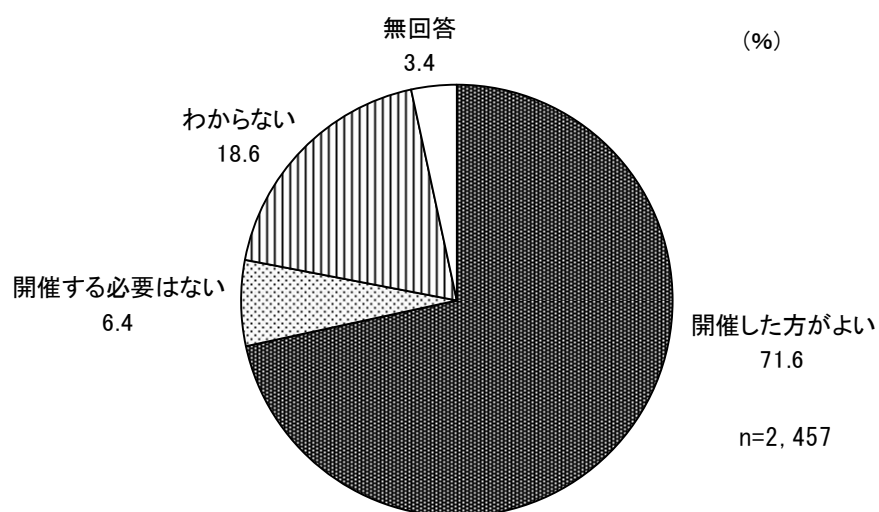
14. 成人式について

(1) 成人式開催の是非

◇「開催した方がよい」が約7割

問45. 越谷市では、地域の皆様のご協力を得て成人式を実施しています。成人式の開催について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

図表 14-1-1 成人式開催の是非

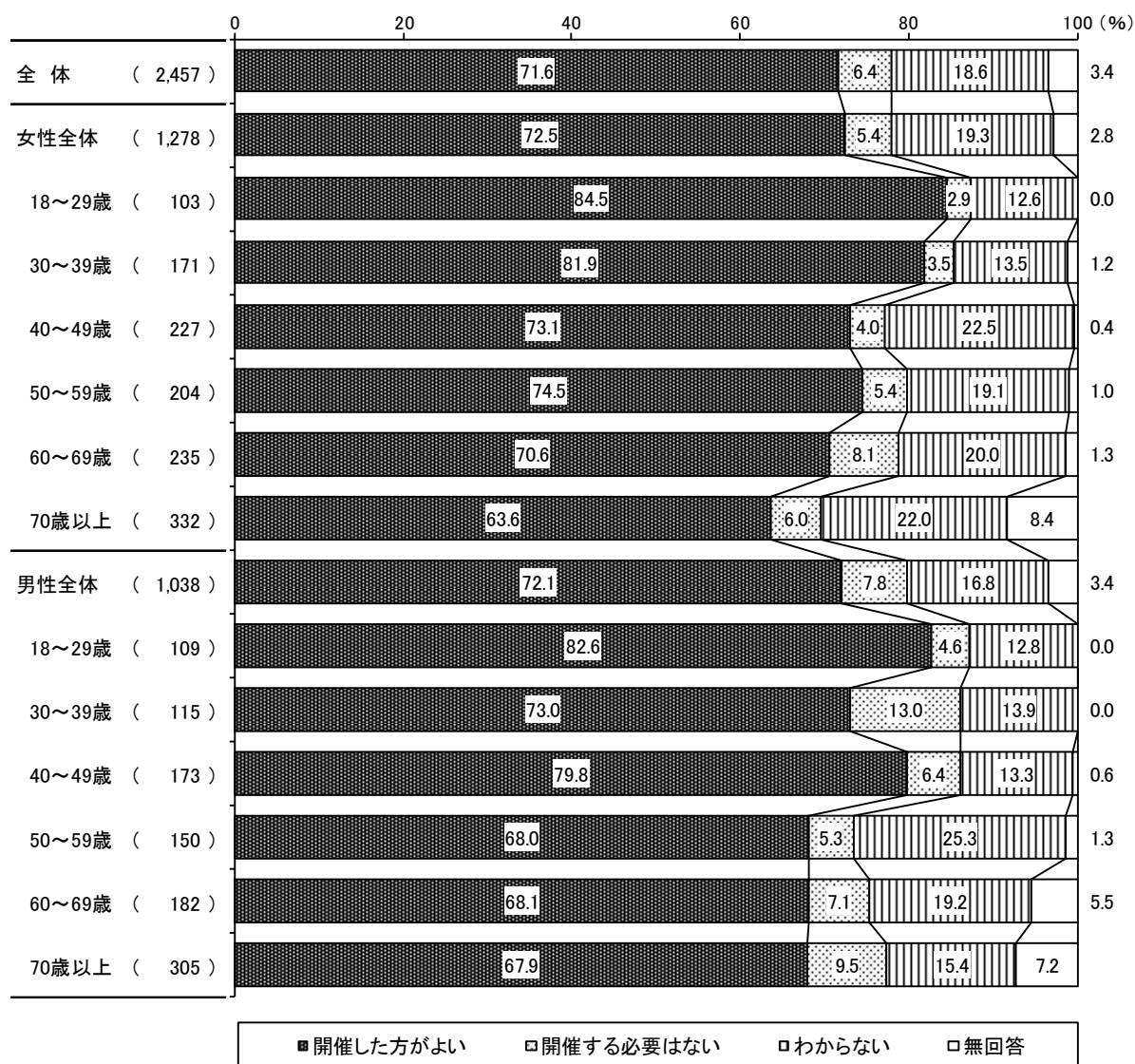


成人式開催の是非については、「開催した方がよい」(71.6%)が約7割、「開催する必要はない」(6.4%)が1割未満となっている。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、「開催した方がよい」は女性 18～29 歳（84.5%）で8割半ば、男性 18～29 歳（82.6%）で8割強、女性 30～39 歳（81.9%）で約8割と多くなっている。一方、「開催する必要はない」は男性 30～39 歳（13.0%）で1割強と多くなっている。

図表 14－1－2 性・年齢別 成人式開催の是非



(2) 成人式開催の是非の理由

◇開催したほうがよい理由は「人生の節目（区切り、けじめ）だから」が最も多く、
開催する必要はない理由は「税金や時間の無駄だと思うから」が最も多い

問45-2. 問45の回答を選択した理由を教えてください。

図表 14-2-1 成人式開催の是非の理由

●成人式は「開催した方がよい」

内 容	件数
人生の節目（区切り、けじめ）だから	239
友だちとの再会の場、同窓会だから	200
大人としての自覚、認識、責任感を持たせる機会だから	198
思い出になるから	114
一生に一度のことだから	89
地元への愛着を意識する、故郷へ帰るよい機会だから	71
記念になるから	61
お祝いをしてあげたいから	58
自分が参加してよかったと思うから	51
昔からの伝統だから、日本の文化だから	43

●成人式は「開催する必要はない」

内 容	件数
税金や時間の無駄だと思うから	23
形式的なものとなっているから	16
開催する意味や必要性を感じないから	14
自治体主催ではなく個人や家庭で祝えばよいと思うから	14
参加態度がよくない人がいるから、式が荒れるから	9

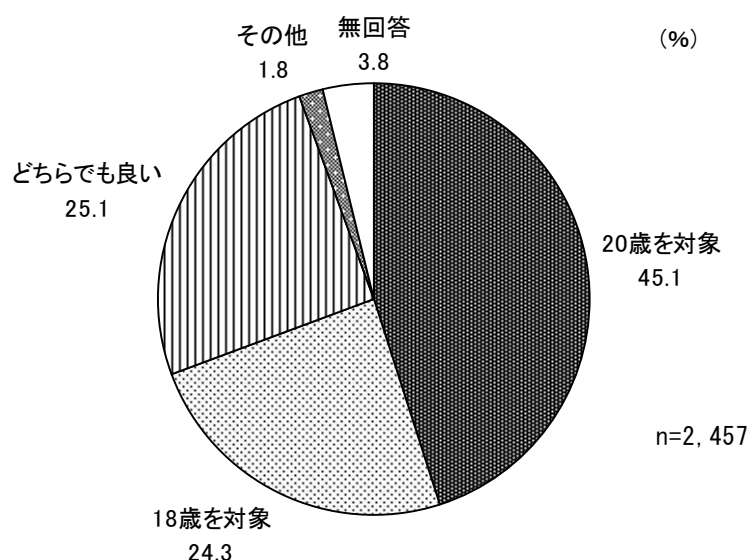
成人式開催の是非について、「開催した方がよい」と回答した1,759人の理由は、「人生の節目（区切り、けじめ）だから」「友だちとの再会の場、同窓会だから」「大人としての自覚、認識、責任感を持たせる機会だから」「思い出になるから」「一生に一度のことだから」等が挙げられた。一方、「開催する必要はない」と回答した157人の理由は、「税金や時間の無駄だと思うから」「形式的なものとなっているから」「開催する意味や必要性を感じないから」「自治体主催ではなく個人や家庭で祝えばよいと思うから」「参加態度がよくない人がいるから、式が荒れるから」等が挙げられた。

(3) 成人式の対象年齢についての考え

◇「20歳を対象」が4割半ば、「18歳を対象」が2割半ば

問46. 民法の改正により、2022年から成年年齢が20歳から18歳に変わりますが、成人式の対象年齢について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

図表 14-3-1 成人式の対象年齢についての考え

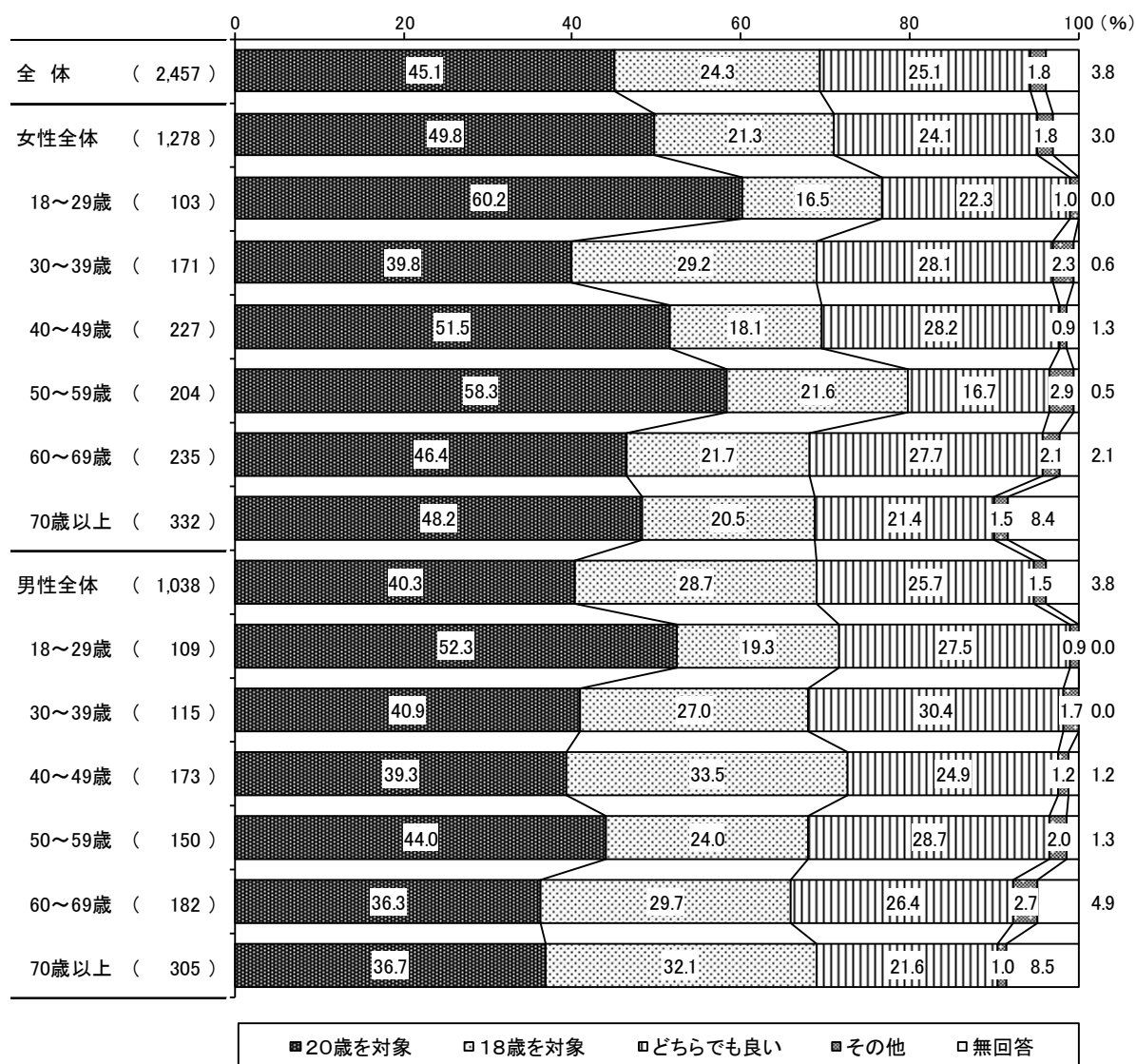


成人式の対象年齢についての考えについては、「20歳を対象」(45.1%)が4割半ばと最も多く、「どちらでも良い」(25.1%)、「18歳を対象」(24.3%)がともに2割半ばとなっている。また、「その他」として「25歳」「必要なし」等が挙げられた。

性別でみると、「20歳を対象」は女性（49.8%）が男性（40.3%）より9.5ポイント高くなっている。一方、「18歳を対象」は男性（28.7%）が女性（21.3%）より7.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「20歳を対象」は女性18～29歳（60.2%）で約6割、女性50～59歳（58.3%）で6割弱と多くなっている。「18歳を対象」は男性40～49歳（33.5%）、男性70歳以上（32.1%）で3割強と多くなっている。

図表 14-3-2 性・年齢別 成人式の対象年齢についての考え



(4) 成人式の対象年齢についての考えの理由

◇20歳を対象としたほうがよい理由は「18歳はまだ子ども（幼い、未熟）だから」が最も多く
18歳を対象としたほうがよい理由は「法律（民法改正）に従えばよいと思うから」が最も多い

問46-2. 問46の回答を選択した理由を教えてください。

図表 14－4－1 成人式の対象年齢についての考えの理由

●20歳を対象

内 容	件数
18歳はまだ子ども（幼い、未熟）だから	144
今まで通りでよい、変更する必要はないと思うから	125
18歳は受験で忙しい時期だから	116
飲酒や喫煙は20歳からだから	83
18歳はまだ高校生だから	62
成人は20歳からだと思うから	40
成人式は20歳という考えが定着しているから	34

●18歳を対象

内 容	件数
法律（民法改正）に従えばよいと思うから	219
早く成人を自覚させたり、自立させたほうがよいと思うから	132
18歳は十分大人だと思うから	37
法律に合わせたほうがわかりやすいから	21
既に社会人になっている人もいるから	20
今の若者は成長が早いから	19
選挙権が18歳だから	16

成人式対象年齢について、「20歳を対象」と回答した1,109人の理由は、「18歳はまだ子ども（幼い、未熟）だから」「今まで通りでよい、変更する必要はないと思うから」「18歳は受験で忙しい時期だから」「飲酒や喫煙は20歳からだから」「18歳はまだ高校生だから」等が挙げられた。一方、「18歳を対象」と回答した596人の理由は、「法律（民法改正）に従えばよいと思うから」「早く成人を自覚させたり、自立させたほうがよいと思うから」「18歳は十分大人だと思うから」「法律に合わせたほうがわかりやすいから」「既に社会人になっている人もいるから」等が挙げられた。

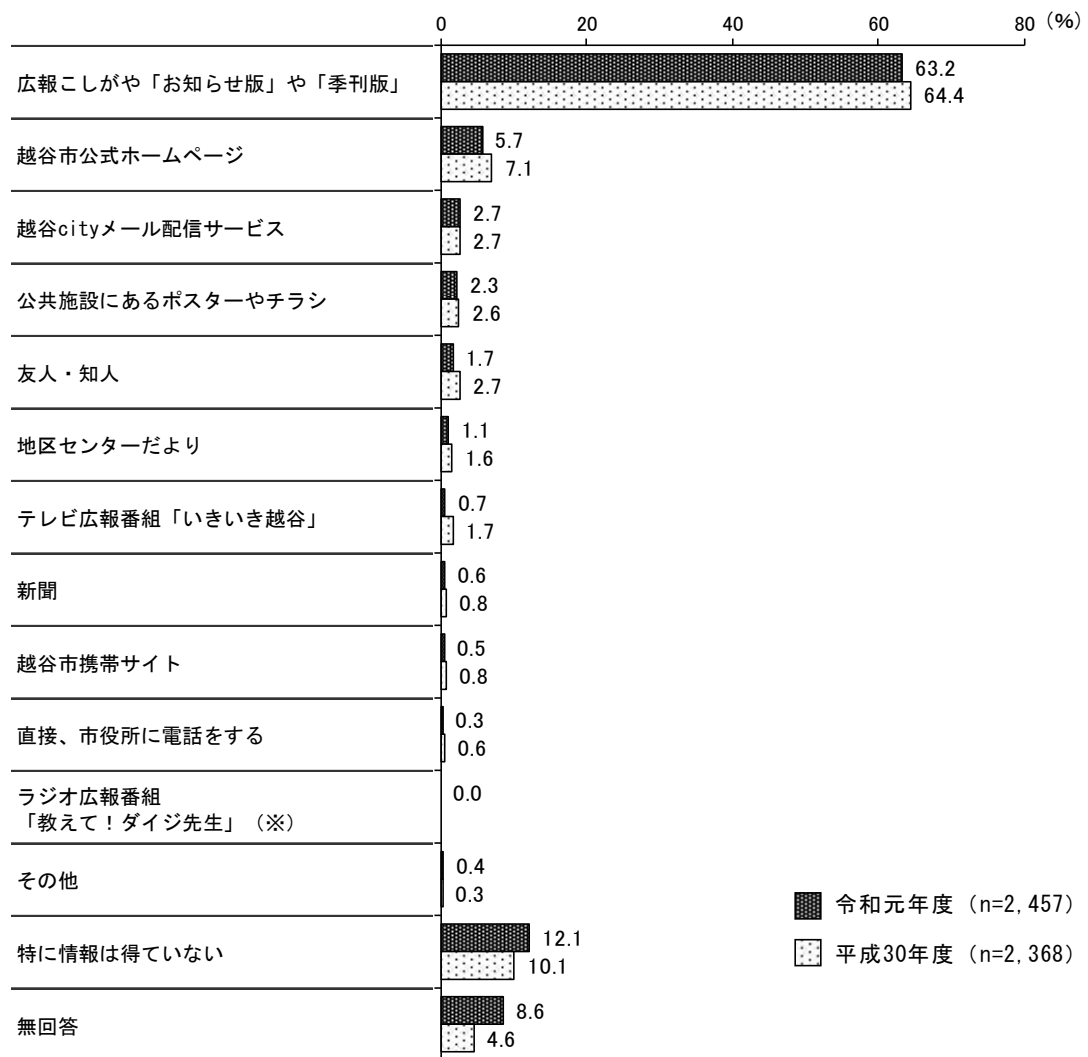
15. 広報について

(1) 市政情報を得ているもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が最も多く、6割強

問47. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(○は1つ)

図表 15-1-1 市政情報を得ているもの



※平成30年度調査は選択肢なし

市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(63.2%)が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(5.7%)、「越谷cityメール配信サービス」(2.7%)、「公共施設にあるポスターやチラシ」(2.3%)、「友人・知人」(1.7%)の順となっている。また、「その他」として「親」「サークル」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（68.0%）が男性（58.7%）より9.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性70歳以上（79.2%）で約8割、女性60～69歳（78.3%）で8割弱、女性50～59歳（75.5%）で7割半ば、男性70歳以上（72.1%）で7割強と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は男性30～39歳（14.8%）で1割半ば、男性40～49歳（11.0%）、男性50～59歳（10.7%）、女性18～29歳（9.7%）で約1割と多くなっている。一方、「特に情報は得ていない」は男性18～29歳（45.9%）で4割半ば、女性18～29歳（40.8%）で約4割と多くなっている。

図表 15-1-2 性・年齢別 市政情報を得ているもの

(%)

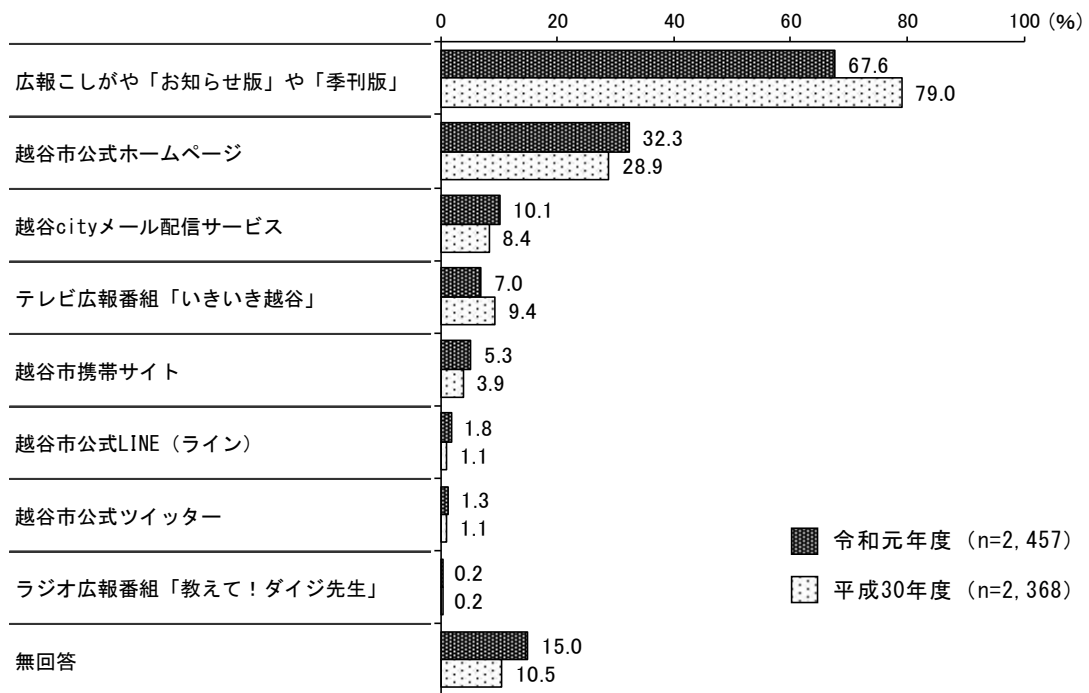
	調査数（人）	「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	ラジオ広報番組「教えて！ダイジ先生」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	地区センターだより	公共施設にあるポスターやチラシ	直接、市役所に電話をする	友人・知人	新聞	その他	特に情報は得ていない	無回答
全 体	2,457	63.2	0.7	-	5.7	0.5	2.7	1.1	2.3	0.3	1.7	0.6	0.4	12.1	8.6
女性全体	1,278	68.0	0.2	-	4.7	0.5	3.6	1.3	2.9	0.1	1.5	0.2	0.5	9.5	7.2
18～29歳	103	32.0	1.0	-	9.7	1.9	2.9	1.0	4.9	-	3.9	1.0	-	40.8	1.0
30～39歳	171	55.6	-	-	8.8	0.6	8.2	0.6	7.6	-	1.8	-	0.6	14.6	1.8
40～49歳	227	59.9	-	-	7.9	0.9	8.8	0.9	3.5	-	2.6	-	0.4	11.0	4.0
50～59歳	204	75.5	-	-	5.4	0.5	3.4	0.5	2.9	-	1.0	-	-	6.9	3.9
60～69歳	235	78.3	-	-	2.6	-	0.4	1.3	0.9	0.4	0.9	-	0.4	3.8	11.1
70歳以上	332	79.2	0.3	-	-	-	0.3	2.4	0.6	-	0.6	0.3	0.9	1.8	13.6
男性全体	1,038	58.7	1.3	0.1	7.2	0.7	1.8	1.0	1.8	0.1	2.0	1.2	0.3	15.3	8.6
18～29歳	109	29.4	0.9	0.9	7.3	0.9	0.9	-	4.6	-	4.6	0.9	0.9	45.9	2.8
30～39歳	115	39.1	0.9	-	14.8	0.9	4.3	0.9	1.7	-	2.6	1.7	0.9	27.0	5.2
40～49歳	173	60.1	2.3	-	11.0	-	5.2	0.6	1.2	-	2.3	1.2	-	12.7	3.5
50～59歳	150	54.7	1.3	-	10.7	2.0	2.0	1.3	2.0	-	2.0	1.3	-	13.3	9.3
60～69歳	182	68.7	1.6	-	7.7	0.5	-	0.5	1.6	-	1.6	0.5	0.5	8.2	8.2
70歳以上	305	72.1	0.7	-	0.3	0.3	0.3	1.6	1.3	0.3	1.0	1.3	-	6.2	14.4

(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が最も多く、7割弱

問48. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。
(複数回答可)

図表 15-2-1 市政情報を得るために活用したことがあるもの



市政情報を得るために活用したことがあるものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(67.6%) が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(32.3%)、「越谷 city メール配信サービス」(10.1%)、「テレビ広報番組『いきいき越谷』」(7.0%)、「越谷市携帯サイト」(5.3%) の順となっている。

前回の調査と比較すると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(67.6%) は平成 30 年調査 (79.0%) と比べ 11.4 ポイント減少している。一方、「越谷市公式ホームページ」(32.3%) は平成 30 年調査 (28.9%) と比べ 3.4 ポイント増加している。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（71.7%）が男性（64.1%）より7.6ポイント、「越谷 city メール配信サービス」は女性（12.6%）が男性（7.6%）より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性70歳以上（82.5%）で8割強、女性50～59歳（80.9%）、女性60～69歳（79.6%）で約8割と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は男性30～39歳（55.7%）で5割半ば、女性40～49歳（52.4%）、女性30～39歳（52.0%）で5割強と多くなっている。

図表 15-2-2 性・年齢別 市政情報を得るために活用したことがあるもの

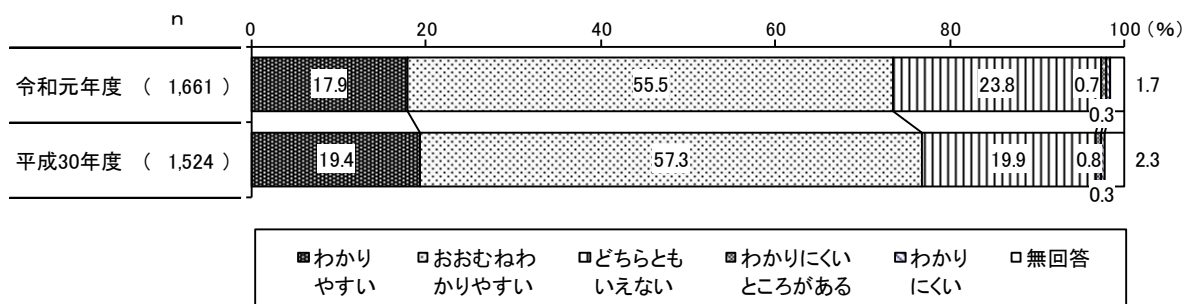
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	ラジオ広報番組「教えて！ダイジ先生」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷 city メール配信サービス	越谷市公式ツイッター	越谷市公式LINE（ライン）	（%） 無回答
全 体	2,457	67.6	7.0	0.2	32.3	5.3	10.1	1.3	1.8	15.0
女性全体	1,278	71.7	6.0	0.1	31.8	6.2	12.6	1.3	1.8	11.7
18～29歳	103	36.9	3.9	－	48.5	10.7	5.8	5.8	4.9	19.4
30～39歳	171	56.7	1.2	－	52.0	11.7	25.7	2.9	4.1	9.9
40～49歳	227	65.6	6.2	－	52.4	11.5	30.0	1.3	2.6	7.9
50～59歳	204	80.9	3.9	－	40.7	6.9	13.2	0.5	2.5	6.4
60～69歳	235	79.6	6.8	－	19.1	2.1	3.4	0.4	－	13.2
70歳以上	332	82.5	9.6	0.3	6.0	0.9	2.1	－	－	15.4
男性全体	1,038	64.1	8.1	0.3	34.8	4.8	7.6	1.3	1.8	16.9
18～29歳	109	33.0	10.1	－	38.5	10.1	5.5	5.5	4.6	29.4
30～39歳	115	37.4	2.6	－	55.7	7.8	12.2	3.5	3.5	21.7
40～49歳	173	66.5	9.8	1.2	46.8	8.1	16.2	1.2	2.3	6.4
50～59歳	150	64.7	5.3	0.7	48.0	5.3	6.7	0.7	2.7	14.0
60～69歳	182	76.4	9.9	－	33.0	2.7	7.7	－	0.5	13.7
70歳以上	305	76.7	8.9	－	12.8	1.0	2.3	0.3	0.3	19.7

(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想

◇『わかりやすい』が7割強

問49. 広報こしがや「お知らせ版」について伺います。「お知らせ版」の感想を選んでください。(○は1つ)

図表 15-3-1 広報こしがや「お知らせ版」の感想

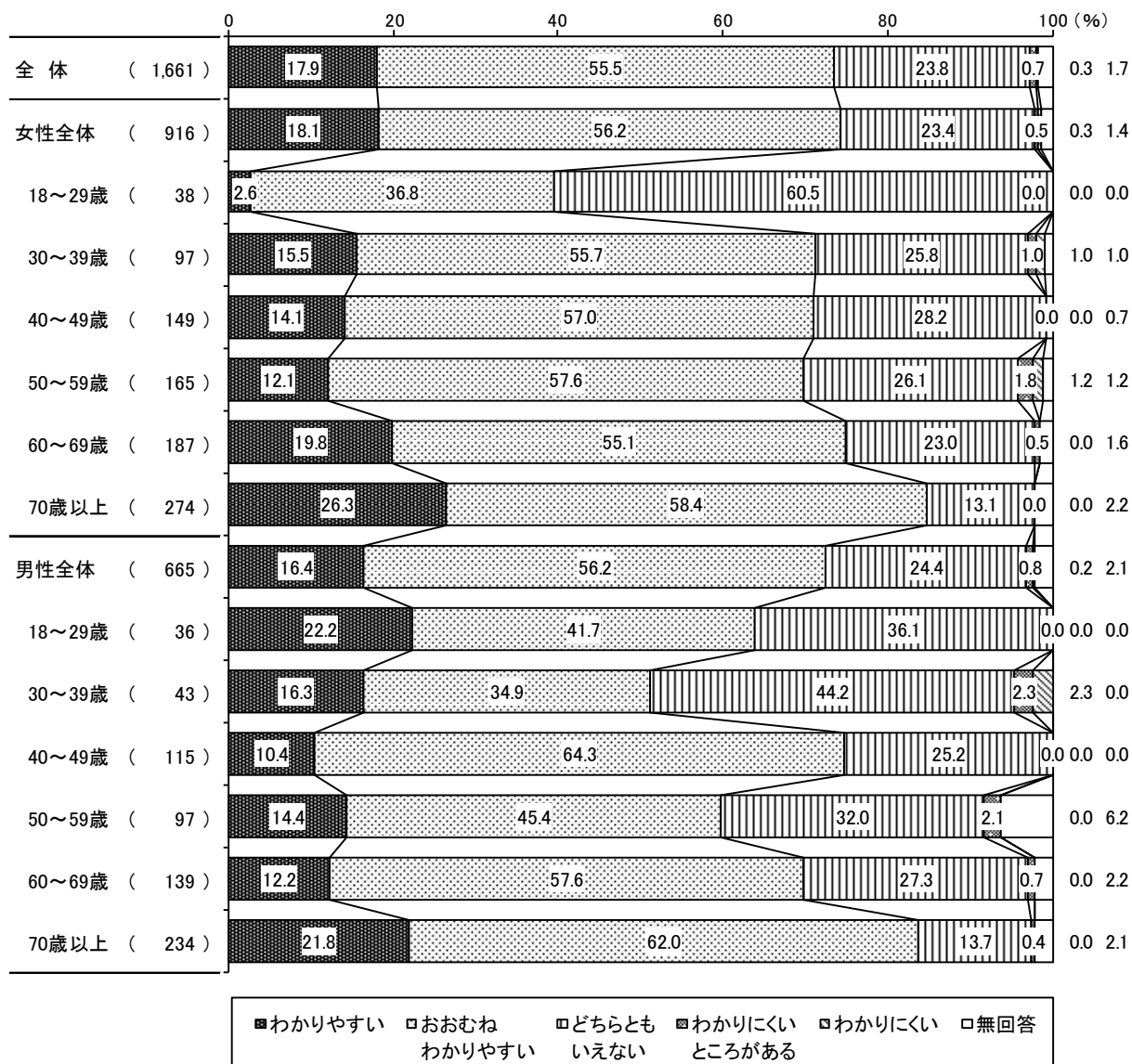


市政情報を得るために「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」を活用したことがあると回答した1,661人に、広報こしがや「お知らせ版」の感想について聞いたところ、「わかりやすい」(17.9%)と「おおむねわかりやすい」(55.5%)を合わせた『わかりやすい』(73.4%)は7割強となっている。

前回の調査と比較すると、『わかりやすい』(73.4%)は平成30年調査(76.7%)と比べ3.3ポイント減少している。

性別でみると、『わかりやすい』は女性(74.3%)が男性(72.6%)より1.7ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『わかりやすい』は女性70歳以上(84.7%)で8割半ば、男性70歳以上(83.8%)
 で8割強と多くなっている。

図表 15-3-2 性・年齢別 広報こしがや「お知らせ版」の感想



(4) 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点

◇「項目別にするとうわかりやすい、記事の配置が読みづらい」「文字が小さい」など

問49-2. 問49で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。
どのような点についてそう感じましたか。

図表 15-4-1 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点

内 容	件数
項目別にするとうわかりやすい、記事の配置が読みづらい	3
文字が小さい	2
探している情報が見つからない、わかりにくい	2
活字が多い、細かくごちゃごちゃ書かれている	2
行政用語が多い	1
その他	3
計	13

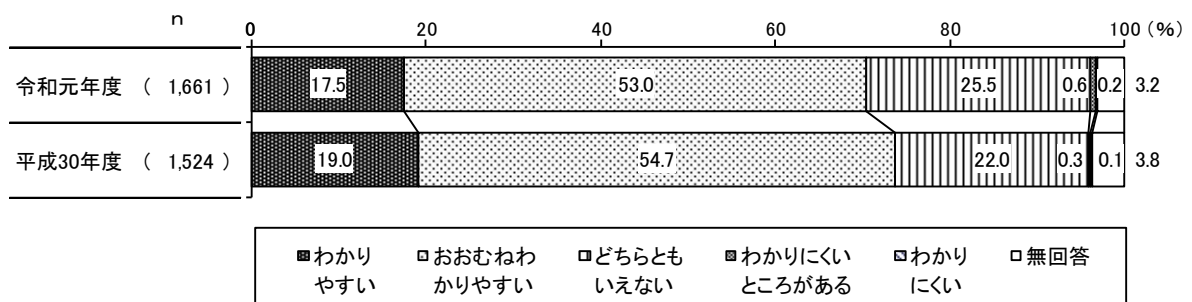
広報こしがや「お知らせ版」が『わかりにくい』と回答した16人に、そう感じた理由を聞いたところ、回答のあった意見は、「項目別にするとうわかりやすい、記事の配置が読みづらい」「文字が小さい」「探している情報が見つからない、わかりにくい」「活字が多い、細かくごちゃごちゃ書かれている」等が挙げられた。

(5) 広報こしがや「季刊版」の感想

◇『わかりやすい』が約7割

問50. 広報こしがや「季刊版」について伺います。「季刊版」の感想を選んでください。
 (○は1つ)

図表 15-5-1 広報こしがや「季刊版」の感想

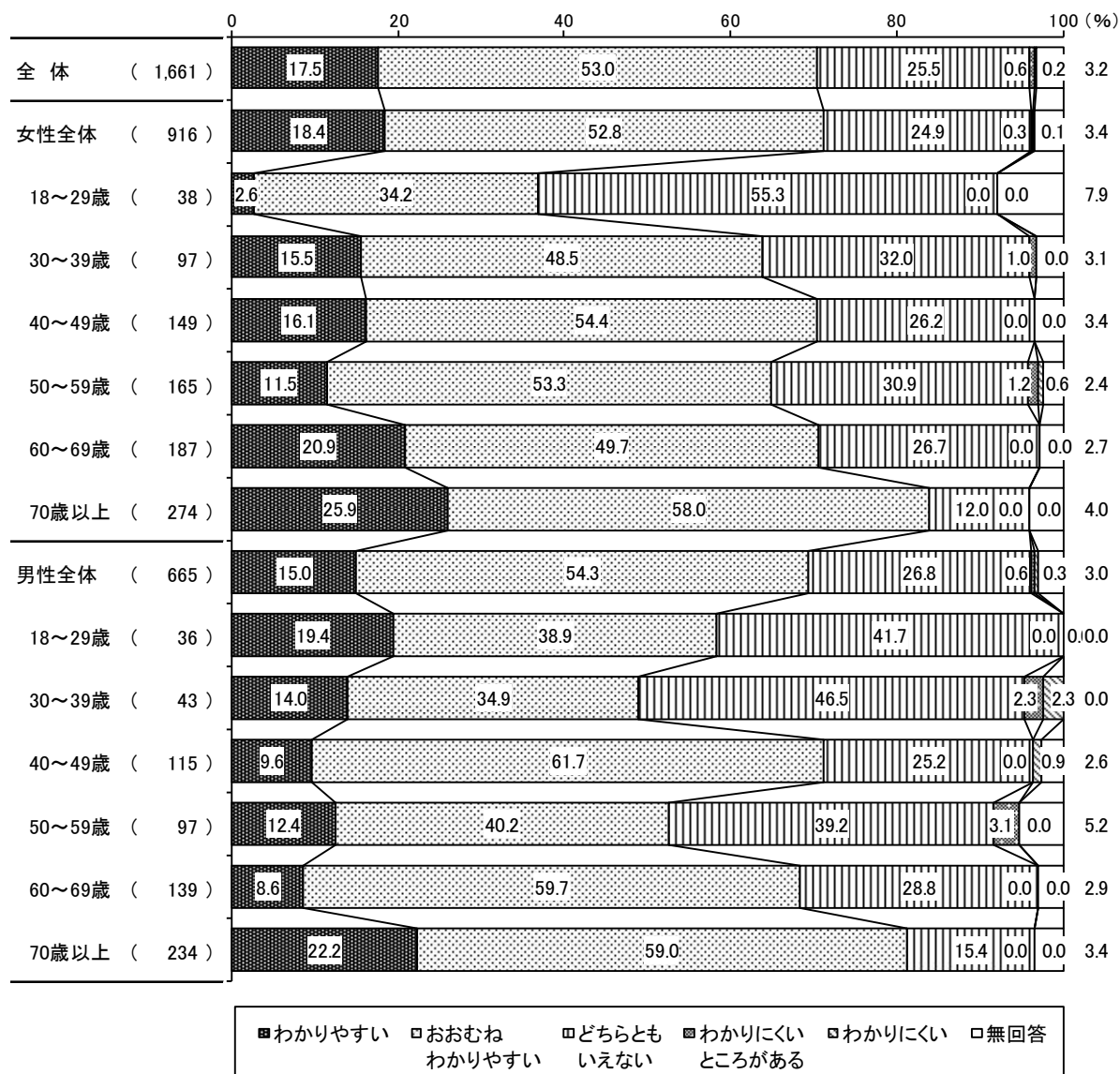


市政情報を得るために「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」を活用したことがあると回答した1,661人に、広報こしがや「季刊版」の感想について聞いたところ、「わかりやすい」(17.5%)と「おおむねわかりやすい」(53.0%)を合わせた『わかりやすい』(70.5%)は約7割となっている。

前回の調査と比較すると、『わかりやすい』(70.5%)は平成30年調査(73.7%)と比べ3.2ポイント減少している。

性別でみると、『わかりやすい』は女性（71.2％）が男性（69.3％）より1.9ポイント高くなっている。
性・年齢別でみると、『わかりやすい』は女性70歳以上（83.9％）で8割強、男性70歳以上（81.2％）で約8割と多くなっている。

図表 15-5-2 性・年齢別 広報こしがや「季刊版」の感想



(6) 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点

◇「文字が小さい」「ごちゃごちゃして読みにくい、情報を詰め込みすぎ、記事の配置が読みづらい」「活字、文字が多い」など

問50-2. 問50で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。

図表 15-6-1 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点

内 容	件数
文字が小さい	3
ごちゃごちゃして読みにくい、情報を詰め込みすぎ、記事の配置が読みづらい	3
活字、文字が多い	2
印象に残らない	1
その他	3
計	12

広報こしがや「季刊版」が『わかりにくい』と回答した14人に、そう感じた理由を聞いたところ、回答のあった意見は「文字が小さい」「ごちゃごちゃして読みにくい、情報を詰め込みすぎ、記事の配置が読みづらい」「活字、文字が多い」等が挙げられた。

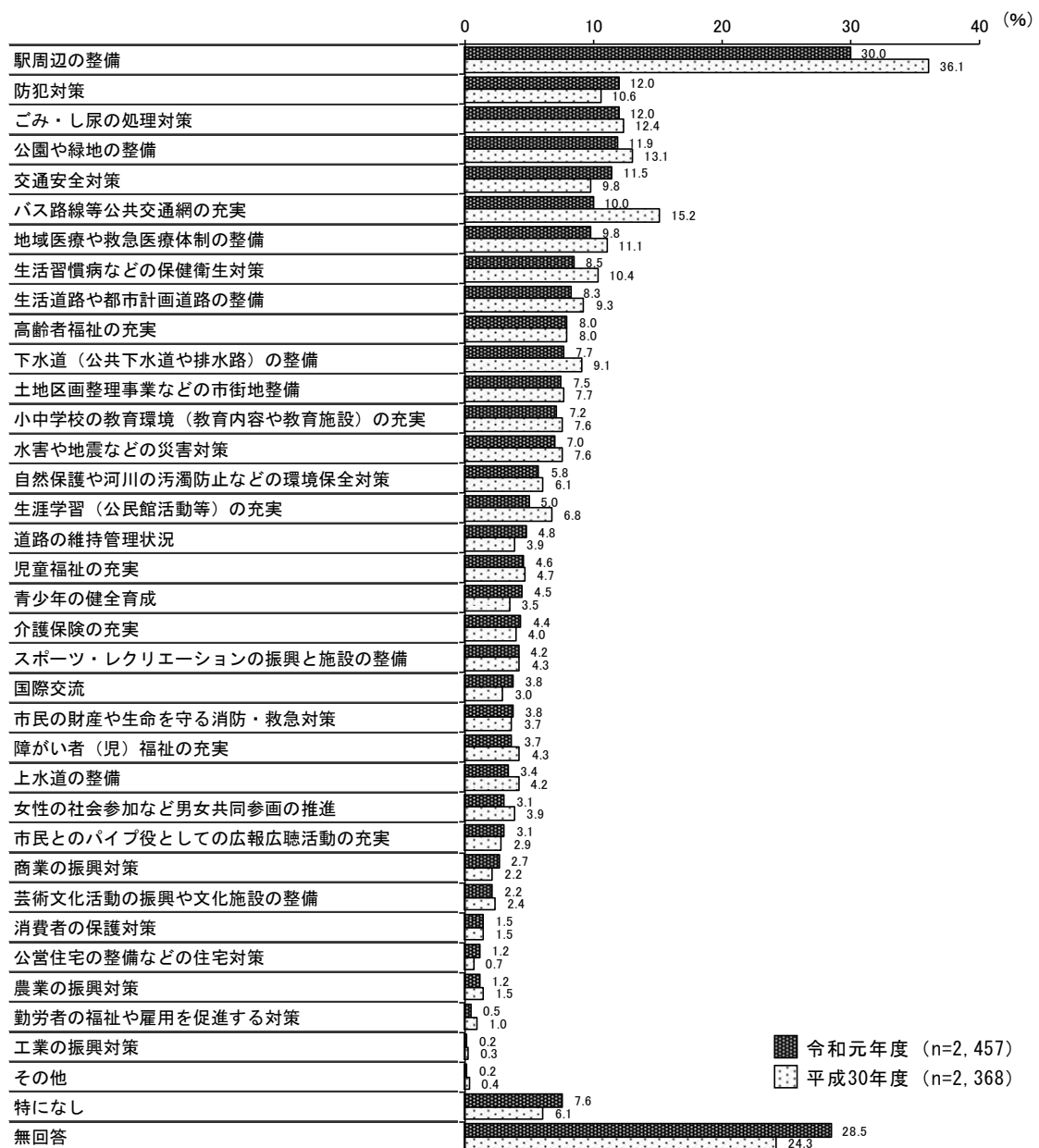
16. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が最も多く、3割

問51. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちに「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 16-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」については、「駅周辺の整備」(30.0%)が最も多く、次いで、「防犯対策」、「ごみ・し尿の処理対策」(ともに12.0%)、「公園や緑地の整備」(11.9%)、「交通安全対策」(11.5%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「駅周辺の整備」(30.0%)は平成30年調査(36.1%)と比べ6.1ポイント、「バス路線等公共交通網の充実」(10.0%)は平成30年調査(15.2%)と比べ5.2ポイント、それぞれ減少している。

性別でみると、女性・男性とも1位が「駅周辺の整備」(女性30.0%、男性31.5%)で、2位は女性が「公園や緑地の整備」(12.8%)、男性が「防犯対策」(13.6%)、3位は女性が「ごみ・し尿の処理対策」(12.1%)、男性が「交通安全対策」(13.3%)となっている。

性・年齢別でみると、「駅周辺の整備」はすべての性・年齢で1位となっており、「駅周辺の整備」は男性40～49歳(39.9%)、男性30～39歳(39.1%)で約4割、女性18～29歳(38.8%)、女性30～39歳(38.0%)で4割弱と多くなっている。

図表 16-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	(%)
全 体 (2,457)	駅周辺の整備 30.0	防犯対策 ごみ・し尿の処理対策 12.0	公園や緑地の整備 11.9	交通安全対策 11.5		
女性全体 (1,278)	駅周辺の整備 30.0	公園や緑地の整備 12.8	ごみ・し尿の処理対策 12.1	防犯対策 11.5	地域医療や救急医療体制の整備 11.3	
18～29歳 (103)	駅周辺の整備 38.8	交通安全対策 13.6	防犯対策 12.6	公園や緑地の整備 青少年の健全育成 9.7		
30～39歳 (171)	駅周辺の整備 38.0	公園や緑地の整備 18.7	交通安全対策 17.0	地域医療や救急医療体制の整備 14.0	防犯対策 13.5	
40～49歳 (227)	駅周辺の整備 34.4	小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設）の充実 20.3	防犯対策 14.5	地域医療や救急医療体制の整備 13.2	公園や緑地の整備 12.8	
50～59歳 (204)	駅周辺の整備 33.8	公園や緑地の整備 14.7	小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設）の充実 11.8	ごみ・し尿の処理対策 10.8	地域医療や救急医療体制の整備 9.8	
60～69歳 (235)	駅周辺の整備 26.4	ごみ・し尿の処理対策 14.9	生活習慣病などの保健衛生対策 13.6	地域医療や救急医療体制の整備 12.8	バス路線等公共交通網の充実 下水道（公共下水道や排水路） の整備 11.5	
70歳以上 (332)	駅周辺の整備 20.2	ごみ・し尿の処理対策 17.8	生活習慣病などの保健衛生対策 16.0	防犯対策 11.7	公園や緑地の整備 11.1	
男性全体 (1,038)	駅周辺の整備 31.5	防犯対策 13.6	交通安全対策 13.3	ごみ・し尿の処理対策 12.4	公園や緑地の整備 11.8	
18～29歳 (109)	駅周辺の整備 34.9	交通安全対策 14.7	生活道路や都市計画道路の整備 12.8	土地区画整理事業などの市街地 整備 11.9	ごみ・し尿の処理対策 公園や緑地の整備 バス路線等公共交通網の充実 道路の維持管理状況 青少年の健全育成 10.1	
30～39歳 (115)	駅周辺の整備 39.1	公園や緑地の整備 22.6	バス路線等公共交通網の充実 生活道路や都市計画道路の整備 17.4	交通安全対策 土地区画整理事業などの市街地 整備 水害や地震などの災害対策 10.4		
40～49歳 (173)	駅周辺の整備 39.9	防犯対策 16.8	交通安全対策 水害や地震などの災害対策 13.9	公園や緑地の整備 13.3		
50～59歳 (150)	駅周辺の整備 32.7	交通安全対策 土地区画整理事業などの市街地 整備 12.7	防犯対策 公園や緑地の整備 10.7			
60～69歳 (182)	駅周辺の整備 32.4	防犯対策 14.3	ごみ・し尿の処理対策 11.0	公園や緑地の整備 11.0	バス路線等公共交通網の充実 10.4	
70歳以上 (305)	駅周辺の整備 22.0	ごみ・し尿の処理対策 20.0	交通安全対策 17.4	防犯対策 16.7	下水道（公共下水道や排水路） の整備 11.5	

居住地別でみると、「駅周辺の整備」はすべての地区で1位となっており、大沢地区（38.8%）で4割弱と多くなっている。2位の中では「ごみ・し尿の処理対策」は荻島地区（18.9%）で2割弱と多く、「交通安全対策」は越ヶ谷地区（18.7%）で2割弱と多くなっている。

図表 16－1－3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

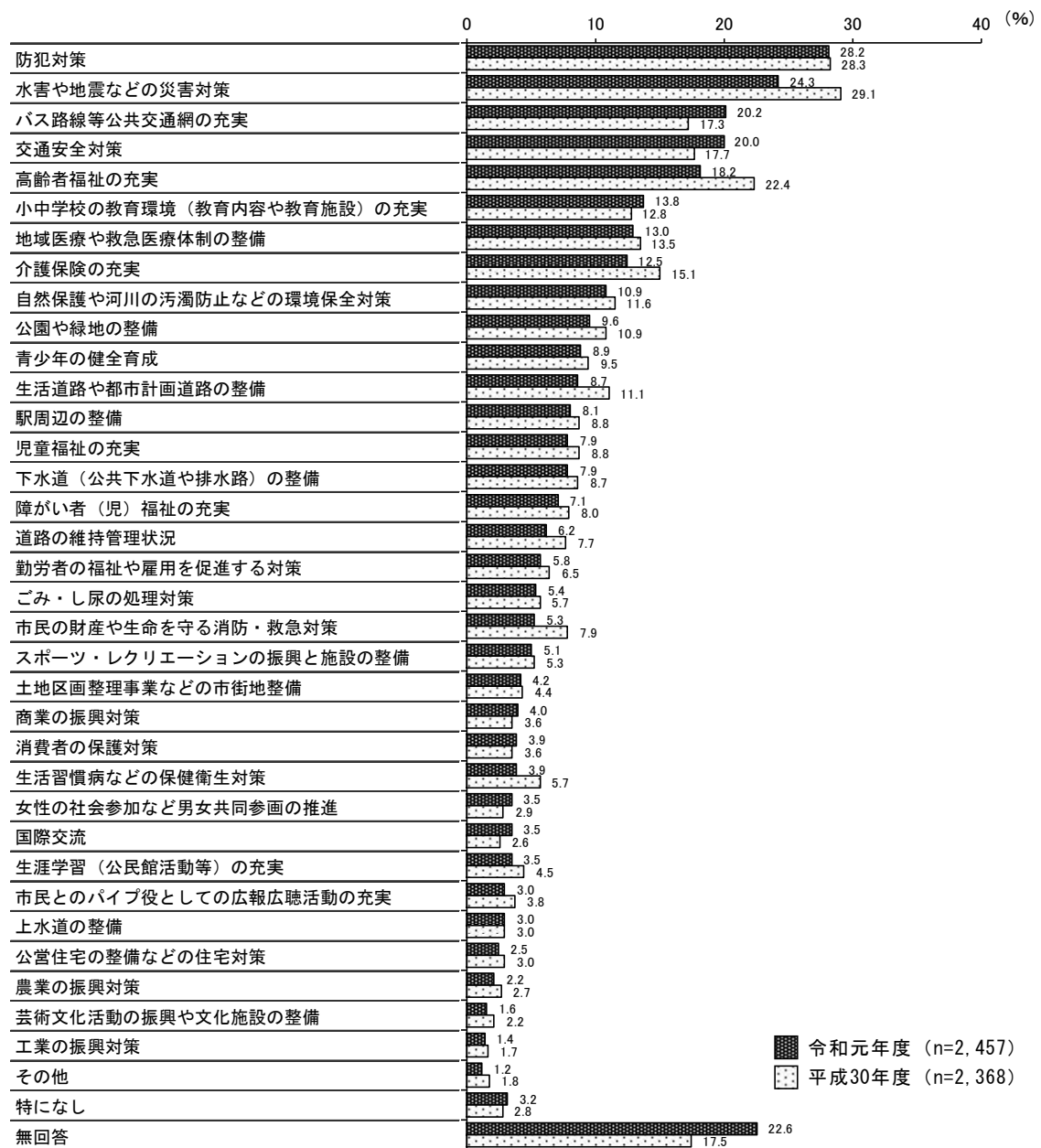
調査数 (人)	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	(%)
全 体 (2,457)	駅周辺の整備 30.0	防犯対策 ごみ・し尿の処理対策 12.0		公園や緑地の整備 11.9	交通安全対策 11.5	
桜井地区 (248)	駅周辺の整備 24.2	ごみ・し尿の処理対策 12.5	防犯対策 10.9	公園や緑地の整備 交通安全対策	9.7	
新方地区 (116)	駅周辺の整備 24.1	下水道（公共下水道や排水路） の整備 13.8	防犯対策 ごみ・し尿の処理対策 12.9		水害や地震などの災害対策 12.1	
増林地区 (171)	駅周辺の整備 35.1	公園や緑地の整備 16.4	バス路線等公共交通網の充実 15.8	高齢者福祉の充実 12.9	交通安全対策 土地区画整理事業などの市街地 整備 小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設）の充実 水害や地震などの災害対策 10.5	
大袋地区 (343)	駅周辺の整備 29.2	土地区画整理事業などの市街地 整備 13.4	交通安全対策 12.2	防犯対策 公園や緑地の整備	11.7	
荻島地区 (95)	駅周辺の整備 31.6	ごみ・し尿の処理対策 18.9	交通安全対策 13.7	生活習慣病などの保健衛生対策 12.6	防犯対策 地域医療や救急医療体制の整備 下水道（公共下水道や排水路） の整備 9.5	
出羽地区 (207)	駅周辺の整備 33.8	ごみ・し尿の処理対策 12.6	公園や緑地の整備 12.1	防犯対策 11.6	小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設）の充実 10.6	
蒲生地区 (311)	駅周辺の整備 27.0	バス路線等公共交通網の充実 15.1	ごみ・し尿の処理対策 12.9	防犯対策 下水道（公共下水道や排水路）の整備	11.9	
川柳地区 (61)	駅周辺の整備 29.5	防犯対策 ごみ・し尿の処理対策 地域医療や救急医療体制の整備 14.8			高齢者福祉の充実 13.1	
大相模地区 (195)	駅周辺の整備 34.9	公園や緑地の整備 交通安全対策 14.4		防犯対策 13.8	地域医療や救急医療体制の整備 11.8	
大沢地区 (147)	駅周辺の整備 38.8	防犯対策 ごみ・し尿の処理対策 14.3		公園や緑地の整備 13.6	地域医療や救急医療体制の整備 10.9	
北越谷地区 (73)	駅周辺の整備 28.8	公園や緑地の整備 交通安全対策 16.4		生活習慣病などの保健衛生対策 13.7	地域医療や救急医療体制の整備 11.0	
越ヶ谷地区 (246)	駅周辺の整備 29.7	交通安全対策 18.7	防犯対策 12.6	公園や緑地の整備 11.8	バス路線等公共交通網の充実 生活習慣病などの保健衛生対策 10.2	
南越谷地区 (214)	駅周辺の整備 30.4	ごみ・し尿の処理対策 15.9	防犯対策 13.6	公園や緑地の整備 バス路線等公共交通網の充実	12.1	

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「防犯対策」が最も多く、3割弱

問51. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 16-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」については、「防犯対策」(28.2%)が最も多く、次いで、「水害や地震などの災害対策」(24.3%)、「バス路線等公共交通網の充実」(20.2%)、「交通安全対策」(20.0%)、「高齢者福祉の充実」(18.2%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「水害や地震などの災害対策」(24.3%)は平成30年調査(29.1%)と比べ4.8ポイント、「高齢者福祉の充実」(18.2%)は平成30年調査(22.4%)と比べ4.2ポイント、それぞれ減少している。

性別でみると、女性・男性とも1位は「防犯対策」(女性28.8%、男性28.4%)で、2位は「水害や地震などの災害対策」(女性25.4%、男性23.8%)、3位は女性が「バス路線等公共交通網の充実」(21.8%)、男性が「交通安全対策」(20.7%)となっている。

性・年齢別でみると、「防犯対策」は男性30～39歳(40.9%)、女性40～49歳(39.2%)で約4割、男性40～49歳(38.2%)、女性30～39歳(38.0%)で4割弱と多くなっている。「交通安全対策」は男性30～39歳(37.4%)で4割弱、女性30～39歳(30.4%)で約3割と多くなっている。

図表 16-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体 (2,457)	防犯対策 28.2	水害や地震などの災害対策 24.3	バス路線等公共交通網の充実 20.2	交通安全対策 20.0	高齢者福祉の充実 18.2
女性全体 (1,278)	防犯対策 28.8	水害や地震などの災害対策 25.4	バス路線等公共交通網の充実 21.8	交通安全対策 20.4	高齢者福祉の充実 19.6
18～29歳 (103)	防犯対策 交通安全対策	水害や地震などの災害対策 27.2	水害や地震などの災害対策 22.3	バス路線等公共交通網の充実 20.4	小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実 17.5
30～39歳 (171)	防犯対策 38.0	交通安全対策 30.4	水害や地震などの災害対策 小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実	バス路線等公共交通網の充実 28.1	バス路線等公共交通網の充実 20.5
40～49歳 (227)	防犯対策 39.2	水害や地震などの災害対策 29.5	バス路線等公共交通網の充実 23.3	交通安全対策 小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実	小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実 22.0
50～59歳 (204)	防犯対策 33.3	水害や地震などの災害対策 27.9	交通安全対策 26.0	バス路線等公共交通網の充実 22.5	高齢者福祉の充実 22.1
60～69歳 (235)	水害や地震などの災害対策 27.7	防犯対策 24.3	高齢者福祉の充実 22.6	バス路線等公共交通網の充実 22.1	交通安全対策 18.7
70歳以上 (332)	高齢者福祉の充実 25.0	バス路線等公共交通網の充実 21.7	水害や地震などの災害対策 19.3	防犯対策 18.1	介護保険の充実 14.8
男性全体 (1,038)	防犯対策 28.4	水害や地震などの災害対策 23.8	交通安全対策 20.7	バス路線等公共交通網の充実 18.1	高齢者福祉の充実 16.5
18～29歳 (109)	防犯対策 水害や地震などの災害対策	交通安全対策 22.9	交通安全対策 20.2	駅周辺の整備 16.5	バス路線等公共交通網の充実 15.6
30～39歳 (115)	防犯対策 40.9	交通安全対策 37.4	小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実 24.3	水害や地震などの災害対策 19.1	児童福祉の充実 14.8
40～49歳 (173)	防犯対策 38.2	水害や地震などの災害対策 28.3	交通安全対策 27.2	小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実 22.5	バス路線等公共交通網の充実 17.9
50～59歳 (150)	水害や地震などの災害対策 28.7	バス路線等公共交通網の充実 23.3	防犯対策 21.3	高齢者福祉の充実 18.7	交通安全対策 14.0
60～69歳 (182)	防犯対策 26.9	高齢者福祉の充実 23.1	水害や地震などの災害対策 22.5	交通安全対策 18.1	介護保険の充実 16.5
70歳以上 (305)	防犯対策 24.6	水害や地震などの災害対策 高齢者福祉の充実	バス路線等公共交通網の充実 22.0	バス路線等公共交通網の充実 19.3	地域医療や救急医療体制の整備 17.0

居住地区別でみると、全体で1位の「防犯対策」は増林地区（29.8%）、大袋地区（30.3%）、出羽地区、蒲生地区（32.5%）川柳地区（29.5%）、大相模地区（29.7%）、大沢地区（29.9%）、南越谷地区（27.1%）で1位となっている。全体で2位の「水害や地震などの災害対策」は桜井地区（29.8%）、荻島地区（28.4%）、北越谷地区（34.2%）、越ヶ谷地区（25.6%）で1位となっている。全体で3位の「バス路線等公共交通網の充実」は新方地区（37.9%）、出羽地区（27.5%）で1位となっている。

図表 16－2－3 居住地区別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	(%)
全 体 (2,457)	防犯対策 28.2	水害や地震などの災害対策 24.3	バス路線等公共交通網の充実 20.2	交通安全対策 20.0	高齢者福祉の充実 18.2	
桜井地区 (248)	水害や地震などの災害対策 29.8	バス路線等公共交通網の充実 27.4	防犯対策 26.6	高齢者福祉の充実 17.7	交通安全対策 14.1	
新方地区 (116)	バス路線等公共交通網の充実 37.9	防犯対策 28.4	水害や地震などの災害対策 27.6	高齢者福祉の充実 20.7	交通安全対策 19.0	
増林地区 (171)	防犯対策 29.8	水害や地震などの災害対策 25.7	高齢者福祉の充実 20.5	バス路線等公共交通網の充実 18.7	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備 17.0	
大袋地区 (343)	防犯対策 30.3	交通安全対策 23.6	水害や地震などの災害対策 22.4	バス路線等公共交通網の充実 19.0	高齢者福祉の充実 16.6	
荻島地区 (95)	水害や地震などの災害対策 28.4	防犯対策 21.1	バス路線等公共交通網の充実 17.9	高齢者福祉の充実 16.8	交通安全対策 12.6	
出羽地区 (207)	防犯対策 バス路線等公共交通網の充実 27.5		水害や地震などの災害対策 24.2	交通安全対策 22.2	高齢者福祉の充実 17.4	
蒲生地区 (311)	防犯対策 32.5	交通安全対策 26.0	水害や地震などの災害対策 22.8	高齢者福祉の充実 16.4	地域医療や救急医療体制の整備 15.4	
川柳地区 (61)	防犯対策 交通安全対策 29.5		バス路線等公共交通網の充実 27.9	小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設）の充実 19.7	自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策 18.0	
大相模地区 (195)	防犯対策 29.7	小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設）の充実 23.6	交通安全対策 22.1	バス路線等公共交通網の充実 20.5	水害や地震などの災害対策 19.5	
大沢地区 (147)	防犯対策 29.9	水害や地震などの災害対策 25.9	バス路線等公共交通網の充実 24.5	交通安全対策 20.4	高齢者福祉の充実 18.4	
北越谷地区 (73)	水害や地震などの災害対策 34.2	防犯対策 32.9	高齢者福祉の充実 24.7	交通安全対策 20.5	小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設）の充実 19.2	
越ヶ谷地区 (246)	水害や地震などの災害対策 25.6	防犯対策 22.4	高齢者福祉の充実 19.9	バス路線等公共交通網の充実 16.3	交通安全対策 15.4	
南越谷地区 (214)	防犯対策 27.1	水害や地震などの災害対策 高齢者福祉の充実 22.0		小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設）の充実 19.6	交通安全対策 17.8	

(3) 自由回答

問52. 問51で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は1,137件（意見等合計1,774件）であった。

これを下記のとおり「第4次越谷市総合振興計画後期基本計画」の項目ごとに整理した。

図表 16-3-1 自由回答

		件数
大綱1. 市民とつくる住みよい自治のまちづくり	市民参加と協働による市政を進める	48
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	24
	健全で開かれた都市経営を進める	81
大綱2. だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	4
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	71
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	81
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	26
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	117
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	12
大綱3. 自然と調和し質の高い都市機能を備えたまちづくり	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	117
	越谷らしい景観をつくる	17
	地域を支える道路・交通環境をつくる	358
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	96
	安全で良好な水環境をつくる	127
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	9
大綱4. 人や環境にやさしく安全・安心な生活を育むまちづくり	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	59
	安全・安心に暮らせるまちにする	226
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	4
大綱5. 安心して働ける環境を育む持続的で躍動するまちづくり	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	5
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	43
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	3
	持続的に農業が行われる環境をつくる	10
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	15
大綱6. いきいきとだれもが学べる心豊かなまちづくり	生きる力を育む学校教育を進める	94
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	15
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	36
その他		76

総計 1,774

大綱	区分	内 容	件数
1	市民参加と協働による市政を進める	市政への市民参加を進める	3
		市民との協働のまちづくりを進める	13
		情報を提供し、市民との共有を図る	32
		計	48
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	相手を思いやる人権意識を高める	2
		人権教育を進める	0
		男女共同参画社会を進める	5
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	17
		平和への意識を高める	0
		計	24
	健全で開かれた都市経営を進める	効率的かつ効果的な行政運営を進める	41
		行財政運営の健全化を進める	39
		都市間の連携強化を進める	1
		計	81

大綱	区分	内 容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	4
		計	4
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	地域医療体制の充実を図る	67
		市民の健康づくりを推進する	3
		保健衛生体制の充実を図る	1
		計	71
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	地域の中で子育てを支える	9
		地域の中で子どもが自ら育つ環境をつくる	19
		次世代を担う子どもたちのために育てやすい環境をつくる	53
		計	81
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	3
		在宅サービスを受ける人、支える人のすべてを支援し、自立できる社会をつくる	6
		地域生活を支え社会参加を促進する	10
		円滑な移動を可能とする人にやさしい環境をつくる	7
		計	26
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	2
		健康づくりと介護予防を進める	3
		介護保険制度の充実を図る	24
		高齢者を支える地域をつくる	88
		計	117
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方へのサポート体制の充実に努める	6
		医療保険制度の充実を図る	1
		安定した生活を送るため年金制度を支援する	5
		計	12

大綱	区分	内 容	件数
3	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	総合的な土地利用を進める	10
		活気ある市街地をつくる	36
		災害に強い都市をつくる	71
		計	117
	越谷らしい景観をつくる	景観に配慮したまちづくりを推進する	17
		協働による景観創造の仕組みをつくる	0
		計	17
	地域を支える道路・交通環境をつくる	道路の整備を図る	126
		道路施設等の適正管理を行う	37
		公共交通網の充実を図る	195
		計	358
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	21
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	50
		水辺を活かした快適な空間をつくる	25
		計	96
	安全で良好な水環境をつくる	雨水災害の対策を進める	77
		水質を保全し快適な生活環境をつくる	42
		安全な水を安定して確保する	8
		計	127
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	4
		住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る	5
		計	9

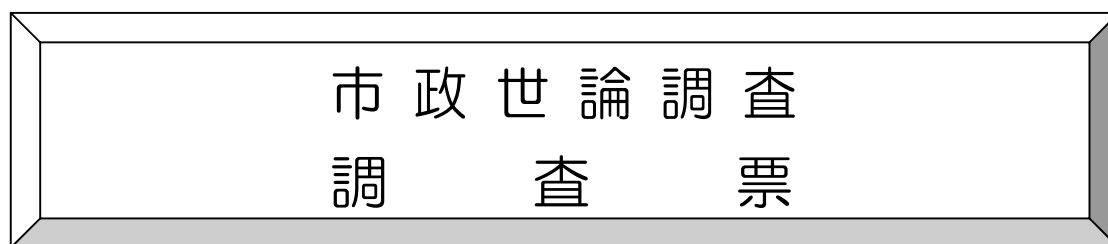
大綱	区分	内 容	件数
4	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	環境に配慮した仕組みをつくる	1
		廃棄物の減量と適正な処理を進める	38
		やすらぎとうるおいのある環境を守り育てる	20
		計	59
	安全・安心に暮らせるまちにする	危機管理対策の充実を図る	0
		災害対策を進める	0
		地域の防犯力を高める	157
		交通事故防止対策を進める	62
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	7
		計	226
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動を展開する	0
		消防力の充実・強化を図る	3
		災害への対応力を強化する	0
		救急体制を充実させる	1
		消防団の充実・強化を図る	0
		計	4

大綱	区分	内 容	件数
5	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	既存産業の活性化を図る	0
		新たな産業を育成する	5
		計	5
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	魅力ある商店街の振興を図る	33
		にぎわいを生み出す観光を進める	10
		計	43
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	魅力あるものづくりを育て継承する	3
		計	3
	持続的に農業が行われる環境をつくる	首都近郊という地理的優位性を活かした都市農業の展開を支援する	3
		豊かな実りを生む農業の基盤を整える	4
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	3
		市民が農業を支える仕組みをつくる	0
		計	10
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	雇用対策の充実を図る	15
		勤労者福利厚生を支援する	0
		計	15

大綱	区分	内 容	件数
6	生きる力を育む学校教育を進める	自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む	7
		自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む	17
		信頼される、質の高い教育環境をつくる	70
		計	94
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	生涯を通じた学習活動を推進する	9
		芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する	6
		計	15
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	3
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る	6
		スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る	27
		計	36

大綱	区分	内 容	件数
その他		アンケートについての意見・要望・感謝	12
		市政への激励	15
		市政へ関心を持とうという自覚の再認識	3
		住みよい街でうれしい・感謝	22
		その他	24
		計	76

第 5 章 調査票



令和元年6月

●ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。（住所、氏名を記入する必要はありません。）
ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。
3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。
4. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。
5. 「その他〔 〕」に○をつけたときは、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて**7月5日(金)**までに、郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です。)

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市長公室 広報広聴課

電話 048-963-9117(直通)

FAX 048-965-0943

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

1. 女性	2. 男性	3. その他
-------	-------	--------

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)

1. 18～19歳	6. 40～44歳	11. 65～69歳
2. 20～24歳	7. 45～49歳	12. 70～74歳
3. 25～29歳	8. 50～54歳	13. 75歳以上
4. 30～34歳	9. 55～59歳	
5. 35～39歳	10. 60～64歳	

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 農業	6. 製造関係自営業	11. 学生
2. 市内会社員	7. サービス関係自営業	12. 家事従業
3. 市外会社員	8. 自由業	13. パートタイマー (アルバイト含む)
4. 小売店自営業	9. 公務員	14. その他 []
5. 建築関係自営業	10. 団体職員	15. 無職 (年金生活を含む)

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 単身世帯 (ひとり暮らし)	4. 三世帯世帯 (親と子と孫など)
2. 一世帯世帯 (夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)	5. その他 []
3. 二世帯世帯 (親子など)	

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)

1. 1年未満	4. 5～10年未満	7. 20～30年未満
2. 1～3年未満	5. 10～15年未満	8. 30～40年未満
3. 3～5年未満	6. 15～20年未満	9. 40年以上

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 持ち家一戸建て	6. 公団公社等賃貸マンション
2. 民間借家一戸建て	7. 社宅・官舎
3. 民間分譲マンション	8. 間借り・下宿・寮・寄宿舍
4. 民間賃貸マンション・アパート	9. 店舗・事務所併用住宅
5. 公団公社等分譲マンション	10. その他 []

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)

※別添の「居住地区該当町表」(「市政世論調査ご協力のお願い」の裏面)をご参照ください

1. 桜井地区	6. 出羽地区	11. 北越谷地区
2. 新方地区	7. 蒲生地区	12. 越ヶ谷地区
3. 増林地区	8. 川柳地区	13. 南越谷地区
4. 大袋地区	9. 大相模地区	
5. 荻島地区	10. 大沢地区	

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問8. あなたが暮らしの中で大切にしていることは何ですか。(複数回答可)

1. 家族とのふれあい
2. 仕事や学業等のやりがい
3. レジャーや趣味など余暇の充実
4. 地域や友人との関わり・交流
5. ボランティアや地域活動等による社会貢献
6. 夢や目標に向けた自己実現
7. その他〔 〕

問9. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

1. 十分満足している
2. 十分とはいえないが、一応満足している
3. ふつう
4. まだまだ不満だ
5. 極めて不満だ
6. わからない

問10. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. ずっと住みたい | 4. 引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住みたい | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば引っ越したい | |

問 10-2. 問 10 で「3」または「4」と答えた方（引越したいと答えた方）に伺います。

引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くにないの |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため | 13. その他〔 〕 |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

問 11. 皆さんに伺います。あなたは越谷市に住み暮らすことを知人等にどのくらい勧めたいですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 大いに勧めたい | 4. どちらかという勧めたくない |
| 2. 勧めたい | 5. 勧めたくない |
| 3. どちらかという勧めたい | 6. 分からない |

越谷市への愛着度と魅力発信についておたずねします。

問12. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 4. 愛着がない |
| 2. 愛着がある | 5. どちらともいえない |
| 3. やや愛着がある | |

問 12-2. 問 12 で「1」から「3」（愛着がある）と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 交通の利便性がよく、都内等に近い | 6. おいしい食事がある |
| 2. 自然（水辺空間、農地等）が多く残されている | 7. 地域の特産品（土産品）がある |
| 3. ショッピング施設や商店街が豊富 | 8. 誇れる産業（企業）がある |
| 4. イベント、祭り、伝統芸能が豊富 | 9. 誇れる著名人がいる |
| 5. 歴史的建造物や誇れる街並みがある | 10. その他〔 〕 |

問 13. 皆さんに伺います。越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

1. イオンレイクタウン	8. 日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館 「こしがや能楽堂」
2. 田んぼアート	9. 日光街道宿場町としての蔵のある街並み
3. 越谷花火大会	10. だるまやせんべい等の伝統的手工芸品
4. 南越谷阿波踊り	11. こしがや鴨ねぎ鍋
5. 5本の1級河川等による水辺空間	12. 宮内庁埼玉鴨場
6. イチゴ狩り	13. その他〔
7. 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物	〕

越谷市の伝統的手工芸品についておたずねします。

問 14. 越谷市には以下のような伝統的手工芸品があることを知っていますか。また、以下の伝統的手工芸品のうち、買ったことがあるものはありますか。

(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)	買ったことがある	知っているが買ったことはない	知らない
ア 越谷手焼きせんべい	1	2	3
イ 越谷だるま	1	2	3
ウ 越谷ひな人形	1	2	3
エ 越谷甲冑	1	2	3
オ 越谷桐箱・桐工芸品	1	2	3

問 15. 今後、越谷市伝統的手工芸品についてどのような取組みを期待しますか。(複数回答可)

1. 各種イベントへの参加	5. 技術の継承（後継者の育成）
2. 見学・体験などの受入れ	6. デザイン性に優れた新商品の開発
3. PRパンフレットの作成	7. 物販店舗の増加
4. WEBサイトのPR	8. その他〔
	〕

市内の公共交通についておたずねします。

問 16. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）を利用していますか。(それぞれ○は1つずつ)

鉄道	バス	タクシー
1. 常に利用している	1. 常に利用している	1. 常に利用している
2. よく利用している	2. よく利用している	2. よく利用している
3. ときどき利用している	3. ときどき利用している	3. ときどき利用している
4. たまに利用している	4. たまに利用している	4. たまに利用している
5. 全く利用しない	5. 全く利用しない	5. 全く利用しない

問 17. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。

(それぞれ○は1つずつ)

鉄道	バス	タクシー
1. とても満足している	1. とても満足している	1. とても満足している
2. やや満足している	2. やや満足している	2. やや満足している
3. やや不満である	3. やや不満である	3. やや不満である
4. とても不満である	4. とても不満である	4. とても不満である

景観（風景）についておたずねします。問 18. あなたは、お住まいの地区の景観（風景）に満足していますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 満足している | 4. とても不満である |
| 2. 十分とはいえないが、概ね満足している | 5. どちらともいえない |
| 3. やや不満である | |

問 19. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。（○は3つまで）

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 目標や基本方針を住民に示す | 5. 景観づくりに協力する際の助成金等 |
| 2. 良好な景観づくりに役立つ公共事業 | 6. 景観整備のための住民の合意づくり支援 |
| 3. 規制を含めた強いリーダーシップの発揮 | 7. その他 [] |
| 4. 景観に関する情報提供・普及啓発 | |

地域医療体制についておたずねします。問 20. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度^{※1}・埼玉県救急電話相談^{※2}（＃7119）」を知っていますか。（ア～ウ それぞれ横に○は1つつ）

	利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない
ア 越谷市夜間急患診療所	1	2	3
イ 休日当番医制度	1	2	3
ウ 埼玉県救急電話相談（＃7119）	1	2	3

※1 休日当番医制度：祝日や年末年始に、病院・診療所・歯科診療所が交代で診療を行っている制度

※2 埼玉県救急電話相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性についての電話相談ができる制度

問 21. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。（複数回答可）

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 広報こしがや「お知らせ版」 | 6. インターネットで調べる |
| 2. 市民ガイドブック | （越谷市・埼玉県公式ホームページを除く） |
| 3. 越谷市公式ホームページ | 7. 埼玉県救急電話相談（＃7119） |
| 4. 越谷市発行のチラシ | 8. 消防署に問い合わせ |
| （「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等） | 9. 医療機関に問い合わせ |
| 5. 埼玉県公式ホームページ | 10. 知人・友人等に聞く |
| （医療機能情報提供システムを含む） | 11. その他 [] |

問 22. あなたは、夜間や休日に発熱や腹痛等、比較的軽度と思われる症状になったとき、どのように対応しますか。（複数回答可）

- | | |
|---------------------------------|------------|
| 1. 「かかりつけ医」を利用する | 7. 救急車を呼ぶ |
| 2. 休日当番医を利用する | 8. その他 [] |
| 3. 越谷市夜間急患診療所を利用する | |
| 4. 埼玉県救急電話相談（＃7119）で受診の必要性を確認する | |
| 5. 受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する | |
| 6. 可能な限り翌日まで我慢する | |

健康保険が行う保健事業についておたずねします。

問 23. あなたご自身の加入保険を教えてください。(〇は1つ)

- | | | |
|----------------------------|---------------------------|----------|
| 1. 越谷市国民健康保険 | 3. 被用者保険 ^{※2} | 5. その他〔 |
| 2. 後期高齢者医療制度 ^{※1} | 4. 国民健康保険組合 ^{※3} | 6. わからない |

※1 後期高齢者医療制度：75歳以上の方もしくは、65～74歳で一定の障がいのある方（本人の申請により、広域連合の認定を受けた方）

※2 被用者保険：全国健康保険協会・組合管掌健康保険・共済組合等

※3 国民健康保険組合：医師国民健康保険組合・税理士国民健康保険組合・土建国民健康保険組合等

問 24. 問 23 で「1. 越谷市国民健康保険」「2. 後期高齢者医療制度」と答えた方に伺います。

越谷市では、年度年齢40歳以上の越谷市国民健康保険加入者及び後期高齢者医療制度加入者を対象に、健康の保持増進を図ることを目的として、無料の健康診査を実施しています。

あなたは、平成30年度の健康診査を受けましたか。(〇は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 受けた |
| 2. 受けていない |
| 3. 越谷市国民健康保険に加入しているが、対象外である |

問 25. 問 24 で「2. 受けていない」と答えた方に伺います。あなたが、健康診査を受けない理由は何ですか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 行く時間がないため | 4. 人間ドックを受診しているため |
| 2. 必要性を感じないため | 5. 知らなかった |
| 3. 既に医療機関に通院していたため | 6. その他〔 |

問 26. 皆さんに伺います。医療保険が行う保健事業で、あなたが必要と思われるものを選んでください。(〇は2つまで)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 人間ドック検診料の補助 | 4. 保養施設の宿泊料の補助 |
| 2. 脳ドック検診料の補助 | 5. スポーツジムなどの利用料の補助 |
| 3. 生活習慣病の予防に関する指導（保健指導） | 6. その他〔 |

人権全般に関する意識についておたずねします。

問 27. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問 28. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問 29. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。

(複数回答可)

1. 女性の人権問題	9. 刑を終えて出所した人々の人権問題
2. 子どもの人権問題	10. 犯罪被害者やその家族の人権問題
3. 高齢者の人権問題	11. インターネット上における人権問題
4. 障がい者の人権問題	12. 北朝鮮当局による拉致問題
5. 同和問題	13. ホームレスの人々の人権問題
6. アイヌ民族の人権問題	14. L G B Tなど性的少数者の人権問題
7. 外国人の人権問題	15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題
8. エイズやハンセン病等感染症患者 の人権問題	16. その他 []

問 30. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

1. ある	2. ない	3. わからない
-------	-------	----------

問 30-2. 問 30 で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(複数回答可)

1. あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた
2. 人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた
3. 職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた
4. プライバシーを侵害された
5. 性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）を受けた
6. 特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為）
7. 配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた
8. その他 []

男女共同参画についておたずねします。

問 31. 次に掲げる「ことば」や「ことがら」を知っていますか。

(ア～ケ それぞれ横に〇は1つずつ)

	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
ア 越谷市男女共同参画推進条例	1	2	3
イ 第3次越谷市男女共同参画計画	1	2	3
ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」	1	2	3
エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員	1	2	3
オ 男女共同参画社会	1	2	3
カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
キ DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3
ク デートDV	1	2	3
ケ L G B T（性的指向や性自認による性的少数者）	1	2	3

問32. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

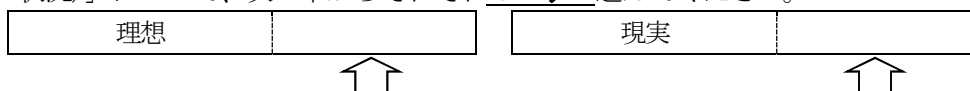
- | | |
|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 4. 反対 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば反対 | |

問33. 男女共同参画社会を推進していくために、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(○は3つまで)

- １．男女共同参画の考え方を市全体に浸透させるための啓発活動を充実すること
- ２．学校や生涯学習の場で、男女平等・相互理解や協力についての学習を充実すること
- ３．子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること
- ４．子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること
- ５．子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること
- ６．労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めること
- ７．民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援すること
- ８．市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用すること
- ９．女性に対する暴力の根絶・防止に向けた取組を強化すること
- １０．その他〔 〕
- １１．特になし

問 34. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実（あなた自身やあなたの家庭の状況）」について、次の中からそれぞれ**1つずつ**選んでください。



1. 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）
2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）
3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）
4. 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらず家事や子育てに専念する（している・していた）
5. 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している・していた）
6. 仕事はもたない（もっていない）
7. その他〔 〕
8. わからない

問35. 仕事をしていく上で、能力に男女差があると思いますか（身体的な差を除く）。（○は1つ）

1. あると思う 2. そうは思わない 3. わからない

生涯学習活動についておたずねします。

問36. 生涯学習とは、自分の意思で自分に合った方法により生涯にわたり行う、スポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などを言います。あなたは、この1年くらいの間に、問36-2に例示するような生涯学習活動を経験しましたか。(〇は1つ)

1. 経験した 2. 経験していない 3. わからない

問 36-2. 問 36 で「1. 経験した」と答えた方に伺います。あなたが経験した生涯学習活動は、次のうちどれですか。（複数回答可）

1. 趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）	7. ボランティア活動に必要な知識・技能
2. 健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）	8. 育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など）
3. 家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）	9. 社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など）
4. パソコン、インターネット	10. 地域活動（異世代間交流、地域防災など）
5. 教養的なもの（文学・歴史・科学など）	11. 自然体験
6. 語学	12. 自立支援
	13. その他〔 〕

問 36-3. 同じく問 36 で「1. 経験した」と答えた方に伺います。あなたは、学んだ知識、経験、技能を、下記の問 36-4 に例示するような活動に生かしていますか。(○は1つ)

1. 生かしている	2. 生かしていない	3. わからない
-----------	------------	----------

問 36-4. 問 36-3 で「1. 生かしている」と答えた方に伺います。あなたが学んだ知識などについて、どのような分野で生かしていますか（生かしましたか）。（複数回答可）

1. 文化・スポーツ活動	5. 青少年健全育成や子育てに関する活動
2. 地域やまちづくりに関する活動	6. 学校支援ボランティアなどに関する活動
3. 学習活動の指導・助言者としての活動	7. その他〔 〕
4. 福祉に関する活動	

問37. 皆さんに伺います。今後、どのような講座・教室を開催してもらいたいですか。(複数回答可)

1. 趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）	7. ボランティア活動に必要な知識・技能
2. 健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）	8. 育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など）
3. 家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）	9. 社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など）
4. パソコン、インターネット	10. 地域活動（異世代間交流、地域防災など）
5. 教養的なもの（文学・歴史・科学など）	11. 自然体験
6. 語学	12. 自立支援
	13. その他〔 〕

スポーツ・レクリエーションの実施状況についておたずねします。

問 38. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか（ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます）。（〇は1つ）

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 週に3回以上 | 4. 3か月に1～2回程度 |
| 2. 週に1～2回程度 | 5. 年に1～3回程度 |
| 3. 月に1～3回程度 | 6. 行っていない |
- ▶ 問 38-4 へ

問 38-2. 問 38 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。（〇は3つまで）

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 気分転換・気晴らし | 7. 試合や大会に参加したいから |
| 2. 運動不足解消 | 8. 学校のサークル活動等で行っているから |
| 3. 美容、肥満解消 | 9. スポーツ教室や講座に参加しているから |
| 4. 家族のふれあい | 10. その他〔 〕 |
| 5. 友人との交流 | 11. 特に理由はない |
| 6. 健康、体力維持・増進 | |

問 38-3. 問 38 で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。（複数回答可）

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 疲れにくくなった | 7. 血圧が下がった |
| 2. 冷え症が改善した | 8. 食欲が出た |
| 3. よく眠れるようになった | 9. 便秘が解消した |
| 4. 運動不足が解消した | 10. 健康への効果は感じられなかった |
| 5. 通院回数が減った | 11. その他〔 〕 |
| 6. 適正体重に（近く）なった | |

問 38-4. 問 38 で「6」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。（〇は3つまで）

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 仕事(家事、育児も含む)や勉強が忙しいから | 6. 年をとったから |
| 2. 費用がかかるから | 7. スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から |
| 3. 身近に適当な場所や施設がないから | 8. その他〔 〕 |
| 4. 健康上の理由から | 9. 特に理由はない |
| 5. 一緒に行く相手、指導者等がないから | |

問 39. **皆さんに伺います。**今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について
次の中から当てはまるものを選んでください。**(複数回答可)**

比較的軽いスポーツ	野外活動	競技的スポーツ
1. 軽い体操	1. スキー・スノーボード	1. 陸上競技
2. 軽い球技 (キャッチボール等)	2. 海水浴	2. 水泳競技
3. ウオーキング	3. スケート	3. 野球・ソフトボール
4. ジョギング	4. 登山	4. サッカー
5. ゲートボール・グラウンド ゴルフ	5. キャンプ (オートキャンプ を含む)	5. バレーボール
6. ボウリング	6. ハイキング	6. バスケットボール
7. プールを利用した運動	7. サイクリング	7. バドミントン
8. ダンス	8. ゴルフ	8. テニス
9. 室内運動器具を使って行う 運動	9. 釣り	9. 卓球
10. その他 []	10. その他 []	10. 柔道、剣道、空手、相撲
11. 特になし	11. 特になし	11. ボクシング、レスリング
		12. 弓道、アーチェリー
		13. その他 []
		14. 特になし

観光農園についておたずねします。

問 40. 越谷市内の観光農園 (イチゴ狩り・ブドウ狩り) を利用したことがありますか。**(〇は1つ)**

1. この1年以内に利用したことがある	3. 利用したことはない
2. 1年以上前に利用したことがある	



問 40-2. 問 40 で「1. この1年以内に利用したことがある」「2. 1年以上前に利用したことがある」と
答えた方に伺います。越谷市内の観光農園を市外に住む親戚や知人に紹介したいと思いませんか。
(〇は1つ)

1. 紹介したい	2. 紹介したくない
----------	------------

問 41. **皆さんに伺います。**越谷市が特に力を入れていると思う農業特産物を教えてください。また、
市外に住む親戚や知人に贈り物を贈る場合、贈りたい農業特産物を教えてください。

(それぞれ複数回答可)

力を入れている		贈りたい	
			
1. 太郎兵衛もち (のし餅)	4. 山東菜 (漬物)	7. チューリップ	
2. くわい	5. イチゴ	8. 小松菜	
3. ねぎ	6. ブドウ	9. その他〔	〕

(○は1つ)

- 問 42-2. 問 42 で「1」から「3」(知っている、聞いたことがある)と答えた方に伺います。越谷市が「市民参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り(聞き)ましたか。
(複数回答可)

- 問 43. 皆さんに伺います。あなたは市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

- 問 43-2. 問 43 で「1」から「3」（知っている、聞いたことがある）と答えた方と答えた方に伺います。
「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り（聞き）ましたか。（複数回答可）

- 問 44. **皆さんに伺います。**「市民参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っていますが、普及・啓発方法としてどのような方法が効果的だと思いますか。
(複数回答可)

- 182

成人式についておたずねします。

問 45. 越谷市では、地域の皆様のご協力を得て成人式を実施しています。成人式の開催について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|--------------|----------|
| 1. 開催した方がよい | 2. 開催する必要はない | 3. わからない |
|-------------|--------------|----------|

問 45-2. 問 45 の回答を選択した理由を教えてください。

--

問 46. 民法の改正により、2022年から成年年齢が20歳から18歳に変わりますが、成人式の対象年齢について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|-----------|------------|---------------------------------|
| 1. 20歳を対象 | 2. 18歳を対象 | 3. どちらでも良い | 4. その他 [] |
|-----------|-----------|------------|---------------------------------|

問 46-2. 問 46 の回答を選択した理由を教えてください。

--

広報についておたずねします。

問47. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 広報こしがや「お知らせ版」や「季刊版」 | 8. 公共施設にあるポスターやチラシ |
| 2. テレビ広報番組「いきいき越谷」 | 9. 直接、市役所に電話をする |
| 3. ラジオ広報番組「教えて！ダイジ先生」 | 10. 友人・知人 |
| 4. 越谷市公式ホームページ | 11. 新聞 |
| 5. 越谷市携帯サイト | 12. その他〔 〕 |
| 6. 越谷 city メール配信サービス | 13. 特に情報は得ていない |
| 7. 地区センターだより | |

問 48. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。(複数回答可)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 広報こしがや「お知らせ版」や「季刊版」 | 5. 越谷市携帯サイト |
| 2. テレビ広報番組「いきいき越谷」 | 6. 越谷 city メール配信サービス |
| 3. ラジオ広報番組「教えて！ダイジ先生」 | 7. 越谷市公式ツイッター |
| 4. 越谷市公式ホームページ | 8. 越谷市公式LINE（ライン） |

問 49. 広報こしがや「お知らせ版」について伺います。「おしらせ版」の感想を選んでください。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. わかりやすい | 4. わかりにくいところがある |
| 2. おおむねわかりやすい | 5. わかりにくい |
| 3. どちらともいえない | |

問 49-2. 問 49 で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。
どのような点についてそう感じましたか。

[illegible]

問 50. 広報こしがや「季刊版」について伺います。「季刊版」の感想を選んでください。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. わかりやすい | 4. わかりにくいところがある |
| 2. おおむねわかりやすい | 5. わかりにくい |
| 3. どちらともいえない | |

問 50-2. 問 50 で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。
どのような点についてそう感じましたか。

越谷市の施策についておたずねします。

問 51. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちに「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の□内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					

1. 青少年の健全育成	21. ごみ・し尿の処理対策
2. 防犯対策	22. 公営住宅の整備などの住宅対策
3. 交通安全対策	23. 水害や地震などの災害対策
4. 消費者の保護対策	24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策
5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進	25. 工業の振興対策
6. 国際交流	26. 商業の振興対策
7. 生活習慣病などの保健衛生対策	27. 農業の振興対策
8. 地域医療や救急医療体制の整備	28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策
9. 児童福祉の充実	29. 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実
10. 障がい者(児)福祉の充実	30. 生涯学習(公民館活動等)の充実
11. 高齢者福祉の充実	31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備
12. 介護保険の充実	32. スポーツ・レクリエーションの振興と施設の整備
13. 駅周辺の整備	33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動の充実
14. 土地区画整理事業などの市街地整備	34. 上水道の整備
15. 生活道路や都市計画道路の整備	35. その他 []
16. 道路の維持管理状況	36. 特になし
17. バス路線等公共交通網の充実	
18. 公園や緑地の整備	
19. 下水道(公共下水道や排水路)の整備	
20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策	

問 52. 問51 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて 7月5日(金) までにご投函ください。

令和元年度 市政世論調査結果報告書

発行年月：令和元年 1 1 月

発 行：越谷市 市長公室 広報広聴課

〒343-8501

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目 2 番 1 号

電話 048-963-9117（直通）